



大阪大学の 学位プログラム

OSAKA UNIVERSITY

目 次

学位プログラムとは何か	1
大阪大学の教育目標及び各ポリシー	2
学 士 課 程	
各学部 学科(専攻・コース等)及び学位プログラム一覧	4
文 学 部	6
人間科学部	12
外国語学部	21
法 学 部	41
経 済 学 部	51
理 学 部	57
医 学 部(医学科)	78
医 学 部(保健学科)	85
歯 学 部	101
薬 学 部	108
工 学 部	118
基礎工学部	171
大学院の課程	
各研究科 専攻(分野・コース等)及び学位プログラム一覧	212
文学研究科	216
人間科学研究科	233
法学研究科	247
経済学研究科	264
理学研究科	275
医学系研究科(医学・医科学専攻)	322
医学系研究科(保健学専攻)	340
歯学研究科	374
薬学研究科	379
工学研究科	388
基礎工学研究科	444
言語文化研究科	494
国際公共政策研究科	520
情報科学研究科	530
生命機能研究科	563
高等司法研究科	568
連合小児発達学研究科	574



学位プログラム(ディグリープログラム)とは何か

『大阪大学の学位プログラム』は、大阪大学において展開されている145(学部37、研究科108)の学位プログラムについて、それぞれの教育目標等とその達成に向けた教育の枠組みを明らかにしたものです。

学位プログラムとは、教育内容が体系的に組み立てられた「学位を授与する教育課程(プログラム)」を意味します。従来の学部・研究科等の教育研究組織を基本としながらも、より実質的な特定の学問分野やその周辺領域の教育内容やカリキュラム、教育の実施体制を含んでいます。

大阪大学では、平成25年12月に全学の教育目標および方針等を定め、続く平成26年5月には学部・研究科の教育目標および方針等を定めました。そしてこの度、全学および学部・研究科の教育目標及び方針等を踏まえて、学位プログラム版の「教育目標」「ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)」、「カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施の方針)」、「アドミッション・ポリシー(入学者受入れ方針)」を平成27年3月に定めたことを受け、大阪大学における教育の質保証のシステムの出発点として、その内容を広く社会に公表することになりました。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

ディプロマ・ポリシーとは、学位授与の判断のための基本的な考え方として、修了要件や、育成する人材に修得を期待する能力(学習成果)などを示したものです。大阪大学では、全学の学士課程・大学院課程のディプロマ・ポリシーに基づき、各学部・研究科のディプロマ・ポリシー、および学位プログラムのディプロマ・ポリシーを定めています。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

カリキュラム・ポリシーとは、教育目標やディプロマ・ポリシー等を達成するために必要な教育課程の編成や授業科目の内容および教育方法について基本的な考え方を示したものです。大阪大学では、全学の学士課程・大学院課程のカリキュラム・ポリシーに基づき、各学部・研究科のカリキュラム・ポリシー、および学位プログラムのカリキュラム・ポリシーを定めています。

アドミッション・ポリシー(入学者受入れの方針)

アドミッション・ポリシーとは、志願者が本学を選択する際に参考とするために、能力や適性を含めた大学が求める学生像、および入学者選抜の実施のための基本的な考え方を示したものです。大阪大学では、全学の学士課程・大学院課程のアドミッション・ポリシーに基づき、各学部・研究科のアドミッション・ポリシー、学位プログラムのアドミッション・ポリシーを定めています。

大阪大学理事・副学長 東 島 清



大阪大学の教育目標及び各ポリシー

大阪大学の教育目標

■ 学士課程

大阪大学は、「物事の本質を見極める学問と教育が大学の使命であり、この使命を果たすことで大学は社会に貢献していく」という理念のもと、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを目標としています。

その目標を実現するため、学部並びに全学的な教育研究組織において、

- 高度な専門性と深い学識
- 教養・デザイン力・国際性

を身につけた知識基盤社会のリーダーとなるべき人材を育成します。

■ 大学院課程

大阪大学は、「物事の本質を見極める学問と教育が大学の使命であり、この使命を果たすことで大学は社会に貢献していく」という理念のもと、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを目標としています。

その目標を実現するため、研究科並びに全学的な教育研究組織において、

- 最先端かつ高度な専門性と深い学識
- 教養・デザイン力・国際性

を身につけた知識基盤社会のリーダーとなるべき人材を育成します。

大阪大学の学位授与の方針（ディスロマ・ポリシー）

■ 学士課程

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所属学部において定める専門分野に関する知識・技能並びに教養・デザイン力・国際性を身につけ、所定の単位を修得し学部規程に定める試験に合格した学生に学位を授与します。

（学習目標）

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ○ 高度な専門性と深い学識 | ○ デザイン力 |
| ・ 専門分野における知識を有している | ・ 問題を発見することができる |
| ・ 物事の本質を見極めることができる | ・ 自由に発想することができる |
| ・ 問題解決のために知識を活用できる | ・ 解決の道筋をつくることのできる |
| ○ 教養 | ○ 国際性 |
| ・ 幅広い知識を有している | ・ 自分の文化を理解できる |
| ・ 広い視野に立ち柔軟に思考する | ・ 異なる文化を理解できる |
| ・ 俯瞰的に思考し、客観的に評価ができる | ・ 文化を超えて交流できる |

■ 大学院課程

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、所属研究科において定める専門分野に関する高度な知識・技能並びに教養・デザイン力・国際性を身につけ、所定の単位を修得し審査及び試験に合格した学生に学位を授与します。

(学習目標)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| ○ 高度な専門性と深い学識 | ○ デザイン力 |
| ・ 専門分野における知識を有している | ・ 問題を発見することができる |
| ・ 物事の本質を見極めることができる | ・ 自由に発想することができる |
| ・ 問題解決のために知識を活用できる | ・ 解決の道筋をつくることができる |
| ○ 教養 | ○ 国際性 |
| ・ 幅広い知識を有している | ・ 自分の文化を理解できる |
| ・ 広い視野に立ち柔軟に思考する | ・ 異なる文化を理解できる |
| ・ 俯瞰的に思考し、客観的に評価ができる | ・ 文化を超えて交流できる |

大阪大学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

■ 学士課程

大阪大学は、学位授与の方針に掲げる知識・技能などを修得させるために、共通教育系科目、専門教育系科目及びその他必要とする科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた授業を開講します。

■ 大学院課程

大阪大学は、学位授与の方針に掲げる高度な知識・技能などを修得させるために、専攻分野に関する科目、大学院横断教育科目及び博士課程教育リーディングプログラム科目を体系的に編成し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

大阪大学の入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

■ 学士課程

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、高等学校等における学修を通して、確かな基礎学力及び主体的に学ぶ態度を身につけ、自ら課題を発見し探求しようとする意欲に溢れる人を受け入れます。

このような学生を適正に選抜するために、多様な選抜方法を実施します。

■ 大学院課程

大阪大学は、教育目標に定める人材を育成するため、学部又は大学院（修士）の教育課程等における学修を通して、確かな基礎学力、専門分野における十分な知識及び主体的に学ぶ態度を身につけ、自ら課題を発見し探求しようとする意欲に溢れる人を受け入れます。

このような学生を適正に選抜するために、研究科・専攻等の募集単位ごとに、多様な選抜方法を実施します。

■各研究科／専攻(分野・コース等)及び学位プログラム一覧■

研究科	課 程	専 攻	分野等	専修等	学位(種類)	学位プログラム
文学研究科	博士前期課程	文化形態論専攻	哲学哲学史専門分野 現代思想文化学専門分野 臨床哲学専門分野 中国哲学専門分野 インド学・仏教学専門分野 日 本 学 専 門 分 野 日本史学専門分野 東洋史学専門分野 西洋史学専門分野 考古学専門分野 人文地理学専門分野		修士(文学)	文 化 形 態 論
		文化表現論専攻	日本文学専門分野 比較文学専門分野 中国文学専門分野 英米文学専門分野 ドイツ文学専門分野 フランス文学専門分野 国 語 学 専 門 分 野 日本語学専門分野 英語学専門分野 美学・文芸学専門分野 音楽学・演劇学専門分野 美術史学専門分野			文 化 表 現 論
	修 士 課 程	文化動態論専攻	共生文明論コース アート・メディア論コース 文学環境論コース 言語生態論コース		修士(文学)	文 化 動 態 論
	博士後期課程	文化形態論専攻	哲学哲学史専門分野 現代思想文化学専門分野 臨床哲学専門分野 中国哲学専門分野 インド学・仏教学専門分野 日 本 学 専 門 分 野 日本史学専門分野 東洋史学専門分野 西洋史学専門分野 考古学専門分野 人文地理学専門分野		博士(文学)	文 化 形 態 論
	博士後期課程	文化表現論専攻	日本文学専門分野 比較文学専門分野 中国文学専門分野 英米文学専門分野 ドイツ文学専門分野 フランス文学専門分野 国 語 学 専 門 分 野 日本語学専門分野 英語学専門分野 美学・文芸学専門分野 音楽学・演劇学専門分野 美術史学専門分野			文 化 表 現 論

■各研究科／専攻(分野・コース等)及び学位プログラム一覧■

研究科	課 程	専 攻	分野等	専修等	学位(種類)	学位プログラム
人間科学研究科	博士前期課程	人間科学専攻	先端人間科学講座		修士(人間科学)	人 間 科 学
			人間行動学講座			
			行動生態学講座			
	博士後期課程	人間科学専攻	社会環境学講座		博士(人間科学)	人 間 科 学
			基礎人間科学講座			
			臨床教育学講座			
法学研究科	博士前期課程	法学・政治学専攻	教育環境学講座		修士(法学)	総 合 法 政 研 究 者 養 成 知 的 財 産 法
			人間開発学講座			
			地域研究講座			
	博士後期課程	法学・政治学専攻	先端人間科学講座		博士(法学)	法 学 ・ 政 治 学
			人間行動学講座			
			行動生態学講座			
経済学研究科	博士前期課程	経済学専攻	社会環境学講座		修士(経済学)	経 済 学
			基礎人間科学講座			
			臨床教育学講座			
	博士後期課程	経営学系専攻	教育環境学講座		修士(経済学、応用経済学)	経 営 学 系
			人間開発学講座			
			地域研究講座			
理学研究科	博士前期課程	数学専攻	人間開 発 学 講 座		修士(理学)	数 学 物 理 学 化 学 生 物 科 学 高 分 子 科 学 宇 宙 地 球 科 学
			地 域 研 究 講 座			
			先端人間科学講座			
			人間行動学講座			
			行動生態学講座			
			社会環境学講座			
	博士後期課程	数学専攻	基礎人間科学講座		博士(理学)	数 学 物 理 学 化 学 生 物 科 学 高 分 子 科 学 宇 宙 地 球 科 学
			臨床教育学講座			
			教育環境学講座			
			人間開発学講座			
			地域研究講座			
			先端人間科学講座			
医学系研究科	修士課程	医科学専攻	人間行動学講座		修士(医科学)	医 科 学 公 衆 衛 生 学 死 因 究 明 学
			行動生態学講座			
			社会環境学講座			
	博士課程	医学専攻	基礎人間科学講座		博士(医学)	医 学
			臨床教育学講座			
			教育環境学講座			
医学系研究科	博士前期課程	保健学専攻	人間開 発 学 講 座		修士(看護学)	統 合 保 健 看 護 科 学 (看 護 学) 統 合 保 健 看 護 科 学 (保 健 学) 医 療 技 術 科 学 (医 用 物 理 工 学) 医 療 技 術 科 学 (生 体 情 報 科 学 ・ 機 能 診 断 科 学)
			地 域 研 究 講 座			
			先端人間科学講座			
			人間行動学講座			
			行動生態学講座			
			社会環境学講座			
	博士後期課程	保健学専攻	基礎人間科学講座		博士(看護学)	統 合 保 健 看 護 科 学 (看 護 学) 統 合 保 健 看 護 科 学 (保 健 学) 医 療 技 術 科 学 (医 用 物 理 工 学) 医 療 技 術 科 学 (生 体 情 報 科 学 ・ 機 能 診 断 科 学)
			臨床教育学講座			
			教育環境学講座			
			人間開発学講座			
			地域研究講座			
			先端人間科学講座			
歯学研究科	博士課程	口腔科学専攻	人間開 発 学 講 座		博士(歯学)	口 腔 科 学

■各研究科／専攻(分野・コース等)及び学位プログラム一覧■

研究科	課 程	専 攻	分野等	専修等	学位(種類)	学位プログラム
薬学研究科	博士前期課程	創成薬学専攻	化学系コース 生物系コース 環境系コース		修士(薬科学)	創成薬学
		医療薬学専攻			博士(薬科学)	創成薬学
	博士課程	創成薬学専攻			博士(薬学)	創成薬学
		医療薬学専攻			博士(薬学)	医療薬学
工学研究科	博士前期課程	機械工学専攻			修士(工学)	機械工学
		知能・機能創成工学専攻				知能・機能創成工学
		応用化学専攻	分子創成化学コース 物質機能化学コース			応用化学
		地球総合工学専攻	船舶海洋工学コース 社会基盤工学コース 建築工学コース			船舶海洋工学 社会基盤工学 建築工学
		ビジネスエンジニアリング専攻	高度アジア人材育成プログラム			ビジネスエンジニアリング
		生命先端工学専攻	物質生命工学コース 生物工学コース フロンティアバイオテクノロジー 英語特別プログラム			生命先端工学
		精密科学・応用物理学専攻	精密科学コース 応用物理学コース 量子エンジニアリングデザイン 研究特別プログラム			精密科学 応用物理学
		マテリアル生産科学専攻	マテリアル科学コース 生産科学コース			マテリアル生産科学
		電気電子情報工学専攻	システム・制御・電力工学コース 先進電磁エネルギー工学コース 情報通信工学コース 量子電子デバイス工学コース 総合コース エラスムス・ド・スコース(MAPNET)			電気電子情報工学
		環境・エネルギー工学専攻				環境・エネルギー工学
		機械工学専攻			博士(工学)	機械工学
		知能・機能創成工学専攻				知能・機能創成工学
	博士後期課程	応用化学専攻	分子創成化学コース 物質機能化学コース			応用化学
		地球総合工学専攻	船舶海洋工学コース 社会基盤工学コース 建築工学コース			船舶海洋工学 社会基盤工学 建築工学
		ビジネスエンジニアリング専攻				ビジネスエンジニアリング
		生命先端工学専攻	物質生命工学コース 生物工学コース フロンティアバイオテクノロジー 英語特別プログラム			生命先端工学
		精密科学・応用物理学専攻	精密科学コース 応用物理学コース 量子エンジニアリングデザイン 研究特別プログラム			精密科学 応用物理学
		マテリアル生産科学専攻	マテリアル科学コース 生産科学コース			マテリアル生産科学
		電気電子情報工学専攻	システム・制御・電力工学コース 先進電磁エネルギー工学コース 情報通信工学コース 量子電子デバイス工学コース 総合コース			電気電子情報工学
		環境・エネルギー工学専攻				環境・エネルギー工学

■各研究科／専攻(分野・コース等)及び学位プログラム一覧■

研究科	課程	専攻	分野等	専修等	学位(種類)	学位プログラム
基礎工学研究科	博士前期課程	物質創成専攻	物性物理学領域 機能物質化学領域 化学工学領域 未来物質領域		修士(工学) 修士(学術)	物性物理学 機能物質化学 化学工学 未来物質科学
			非線形力学領域 機能デザイン領域 生体工学領域			機械科学・生体工学
		システム創成専攻	電子光科学領域 システム科学領域 数理科学領域 社会システム数理領域			電子光科学 システム科学 数理科学 社会システム数理
		物質創成専攻	物性物理学領域 機能物質化学領域 化学工学領域 未来物質領域			物性物理学 機能物質化学 化学工学 未来物質科学
			非線形力学領域 機能デザイン領域 生体工学領域			機械科学・生体工学
	博士後期課程	機能創成専攻	電子光科学領域 システム科学領域 数理科学領域 社会システム数理領域		博士(工学) 博士(理学) 博士(学術)	電子光科学 システム科学 数理科学 社会システム数理
		システム創成専攻	物性物理学領域 機能物質化学領域 化学工学領域 未来物質領域			物性物理学 機能物質化学 化学工学 未来物質科学
			非線形力学領域 機能デザイン領域 生体工学領域			機械科学・生体工学
		物質創成専攻	電子光科学領域 システム科学領域 数理科学領域 社会システム数理領域			電子光科学 システム科学 数理科学 社会システム数理
言語文化研究科	博士前期課程	言語社会専攻	地域言語文化コース 地域言語文化コース	アジア・アフリカ言語文化コース ヨーロッパ・アメリカ言語文化コース	修士(言語文化学)	言語社会
		言語文化専攻				言語文化
		日本語・日本文化専攻	日本語・日本文化実践コース 日本語・日本文化専修コース		修士(日本語・日本文化)	日本語・日本文化
	博士後期課程	言語社会専攻			博士(言語文化学)	言語社会
		言語文化専攻				言語文化
		日本語・日本文化専攻			博士(日本語・日本文化)	日本語・日本文化
国際公共政策研究科	博士前期課程	国際公共政策専攻 比較公共政策専攻			修士(国際公共政策)	国際公共政策学
	博士後期課程	国際公共政策専攻 比較公共政策専攻			博士(国際公共政策)	国際公共政策学
情報科学研究科	博士前期課程	情報基礎数学専攻			修士(情報科学) 修士(工学) 修士(理学)	情報基礎数学
		情報数理学専攻				情報数理学
		コンピュータサイエンス専攻				コンピュータサイエンス
		情報システム工学専攻				情報システム工学
		情報ネットワーク学専攻				情報ネットワーク学
		マルチメディア工学専攻				マルチメディア工学
		バイオ情報工学専攻				バイオ情報工学
	博士後期課程	情報基礎数学専攻			博士(情報科学) 博士(工学) 博士(理学)	情報基礎数学
		情報数理学専攻				情報数理学
		コンピュータサイエンス専攻				コンピュータサイエンス
		情報システム工学専攻				情報システム工学
		情報ネットワーク学専攻				情報ネットワーク学
		マルチメディア工学専攻				マルチメディア工学
		バイオ情報工学専攻				バイオ情報工学
生命機能研究科	博士課程	生命機能専攻			修士(生命機能学) 修士(理学) 修士(工学) 修士(学術) 博士(生命機能学) 博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	生命機能学
高等司法研究科	法科大学院の課程	法務専攻(法学既修者) 法務専攻(法学未修者)			法務博士(専門職)	法務
連合小児発達学 研究科	博士後期課程	小児発達学			博士(小児発達学)	小児発達学

文学研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

文学研究科は、大阪大学の教育目標を承け、また自由と独創を重んじ広く社会に開かれた学問所であった「懷徳堂」の精神を受け継いで、多様な個人や社会集団が生み出してきた事物・思考・習慣など、精神文化と物質文化の両面にわたる人間の営為を探求する人文学研究を行っています。現代世界が大きな転換点を迎えている今日、こうした営為にたいする理論的・歴史的・実践的考究は必要不可欠であり、社会のなかで人文学が果たす役割はますます重要なものとなっているとの認識に基づいて教育を行い、次のような人材の育成を目標とします。

1. 博士前期課程では、深い専門性と豊かな構想力をもって新たな領域で活躍でき、高い言語能力とデザイン力を備えた、研究者・高度専門職業人を育成します。
2. 修士課程では、分野横断的な発想に長け、現代社会が生み出す諸問題の解決に取り組む実践的能力を持ち、高い言語能力とデザイン力を備えた高度専門職業人を育成します。
3. 博士後期課程では、深い専門性と豊かな構想力をもって新たな領域を開拓し、幅広い教養と人文学的知を背景に日本および世界で活動できる、研究者・高度専門職業人を育成します。
4. 海外の多くの大学と交流協定等を利用して国際連携に努め、教育の国際化を進めて、優れたグローバル人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、文学研究科は以下の能力や学識の修得を各課程における学位授与の要件とします。

1. 博士前期課程
 - 専門分野の研究方法に従ってデータや文献などの資料を的確に収集・分析するとともに、文献を正確に読解する能力
 - 国際的に活躍できる高い言語運用能力
 - 明解な論旨で一貫した構成の論文をまとめる確かな論述能力と豊かな文章表現力
 - 多様な文化・社会の事象に対応する深い専門性と幅広い人文学的教養
2. 修士課程
 - 領域横断的な研究方法に従ってデータや文献などの資料を的確に収集・分析するとともに、新しい視点で解釈、編集を行う能力
 - 国際的に活躍できる高い言語運用能力
 - 明解な論旨で一貫した構成の論文をまとめる確かな論述能力と豊かな文章表現力
 - 現代社会の諸問題に対応できる専門性に基づいた幅広い人文学的教養と実践的能力
3. 博士後期課程
 - 自立した研究者に必要な深い学識と高度な研究能力
 - 研究者として国際的に活躍できる高い言語運用能力
 - 研究資料である文献を正確に読解し、的確に分析・解釈する能力
 - 先行研究を広く踏まえつつ、独創的なテーマや研究方法を生み出す豊かな感性と優れた探究能力
 - 明晰で独創的な論文を執筆する論述能力と文章表現力

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、文学研究科は以下の方針でカリキュラムを編成します。

1. 博士前期課程では、所属する専門分野の講義、演習を通して当該分野に必要な専門知識と研究能力、ならびに国際的に発信する言語能力を養います。また、専門分野以外の科目を選択して履修することにより、当該分野の研究状況を広い視野から把握できる総合的な人文学的教養と知識を身につけます。また、年次ごとに研究計画書と研究報告書を作成して、研究を主体的に構想・実行する能力とデザイン力を高め、高度な専門性を備えた修士論文を完成させます。
2. 修士課程では、所属するコースの講義、演習を通して当該コースに必要な研究能力と実践的能力、ならびに国際的に発信する言語能力を養います。また、当該コース以外の科目を選択して履修することにより、現代文化の諸問題に対応できる幅広い人文学的教養と知識を身につけます。また、年次ごとに研究計画書と研究報告書を作成して、研究を主体的に構想・実行する能力とデザイン力を高め、応用的で領域横断的な修士論文を完成させます。
3. 博士後期課程では、所属する専門分野の講義、演習を通して当該分野に必要な深い学識と高度な研究能力、ならびに国際的に発信する言語能力を養います。また年次ごとに研究計画書と研究報告書を作成して、研究を主体的に構想・実行する能力とデザイン力をさらに高めます。また、2年次以降に博士予備論文を執筆して博士論文作成の準備を行います。最終年次には、自立した専門家としての独創性を備えた博士論文を完成させます。

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

文学研究科は、実証的な基礎研究に重点を置く文化形態論専攻と文化表現論専攻、および現代的な課題を研究する分野横断的な文化動態論から成り、多岐に渡る教育・研究を進めています。

文学研究科では、上記の大阪大学のアドミッション・ポリシーにもとづき、かつ研究科のこの特質にしたがって、人文学の修学・研究に対する能力・適性を審査し、選抜します。試験は以下の方法により、人文学研究に意欲的な人を受け入れます。

1. 博士前期課程の一般選抜では、各専門分野における研究に必要な専門的知識、外国語能力、思考力および論述能力を審査する筆記試験と、研究能力、意欲、適性などを判定する口頭試験により選抜します。
2. 修士課程の一般選抜では、各コースにおける研究に必要な専門的知識、外国語能力、思考力および実践的応用力を審査する筆記試験と、問題意識、意欲、適性などを判定する口頭試験により選抜します。
3. 博士後期課程の一般選抜では、博士の学位をめざす上で必要な専門的知識、外国語能力、思考力および論述能力を審査する筆記試験と、研究能力、意欲、適性、研究実績などを判定する口頭試験により選抜します。
4. 社会人については、上記の課程において、社会人としての経験や学問的業績を加味して専門的知識、研究能力および適性を判定する社会人特別選抜を実施します。
5. 留学生については、上記の課程において、修学および研究に必要な日本語能力、専門的知識、研究能力および適性を判定する外国人留学生選抜を実施します。

文学研究科

学位プログラム「文化形態論」

学位：修士(文学)

教育目標

大阪大学および文学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「文化形態論」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「文化形態論」は、古今東西の多様な文化事象を主として「形態」という観点から研究する学問分野によって組織されています。具体的には哲学哲学史、現代思想文化学、臨床哲学、中国哲学、インド学・仏教学、日本学、日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学、人文地理学の11専門分野から構成され、文化の基底をなす原理、制度、歴史などに着目して、史資料理解やフィールド調査を中心に研究・教育をおこなっています。その教育方針は以下のとおりです。

- 1 博士前期課程では、深い専門性と豊かな構想力をもって新たな領域で活躍でき、高い言語能力とデザイン力を備えた、研究者・高度専門職業人を育成します。
- 2 海外の多くの大学と交流協定等を利用して国際連携に努め、教育の国際化を進めて、優れたグローバル人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および文学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「文化形態論」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「文化形態論」は、以下の能力や学識の修得を各課程における学位授与の要件とします。

- 専門分野の研究方法に従ってデータや文献などの資料を的確に収集・分析するとともに、文献を正確に読解する能力
- 国際的に活躍できる高い言語運用能力
- 明解な論旨で一貫した構成の論文をまとめる確かな論述能力と豊かな文章表現力
- 多様な文化・社会の事象に対応する深い専門性と幅広い人文学的教養

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

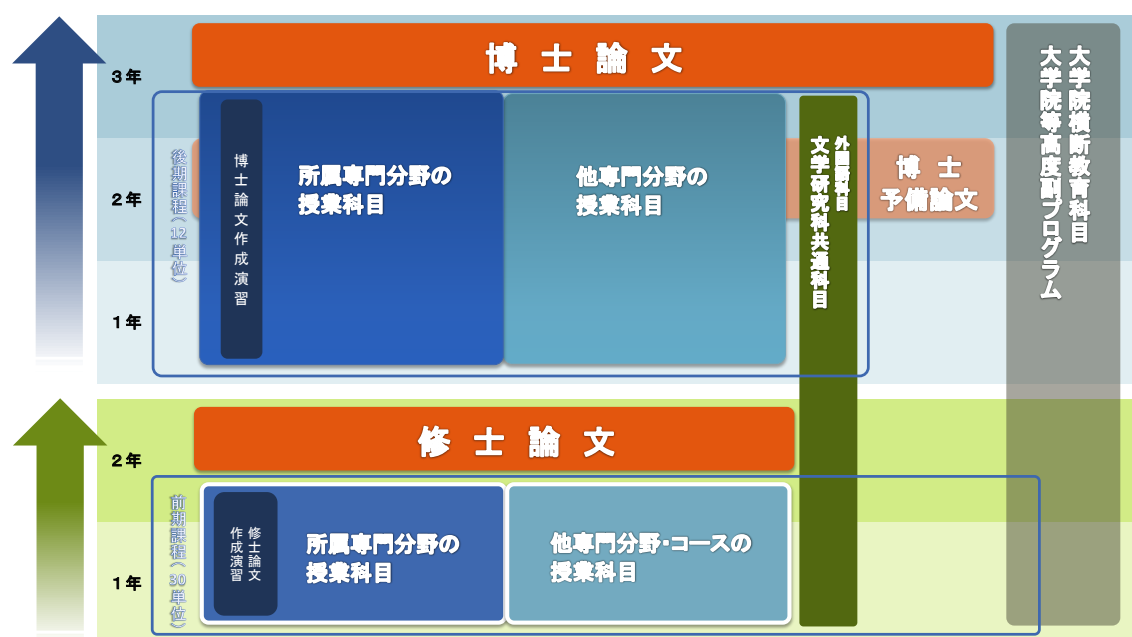
大阪大学および文学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「文化形態論」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「文化形態論」は、哲学哲学史、現代思想文化学、臨床哲学、中国哲学、インド学・仏教学、日本学、日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学、人文地理学の11専門分野にわかれ、それぞれ分野の学問的特性を踏まえつつ、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 1 博士前期課程では、所属する専門分野の講義、演習を通して、当該分野に必要な専門知識と研究能力、ならびに国際的に発信する言語能力を身につけます。また、専門分野以外の科目を選択して履修することにより、当該分野の研究状況を広い視野から把握できる総合的な人文学的教養と知識を身につけます。
- 2 上記の知識や能力について、筆記試験やレポート等、各授業において定める方法によって単位認定を行います。
- 3 博士前期課程では、修士論文作成演習を履修し、また年次ごとに研究計画書と研究報告書を作成して、研究を主体的に構想・実行する能力とデザイン力を養い、高度な専門性を備えた修士論文を完成させます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

大阪大学文学研究科文化形態論専攻・文化表現論専攻における5年間の学び



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および文学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「文化形態論」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「文化形態論」では、各分野での専門的な研究に取り組むために必要な知識、史資料等を理解し論述する能力、および研究課題を主体的に探求する姿勢を考査して、入学者を選抜します。

【入学者選抜の方針】

- 1 博士前期課程の一般選抜では、各専門分野における研究に必要な専門的知識、外国語能力、思考力および論述能力を考査する筆記試験と、研究能力、意欲、適性などを判定する口頭試験により選抜します。
- 2 社会人については、社会人としての経験や学問的業績を加味して専門的知識、研究能力および適性を判定する社会人特別選抜を実施します。
- 3 留学生については、修学および研究に必要な日本語能力、専門的知識、研究能力および適性を判定する外国人留学生選抜を実施します。

文学研究科

学位プログラム「文化表現論」

学位：修士(文学)

教育目標

大阪大学および文学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「文化表現論」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「文化表現論」は、さまざまな文化事象を「表現」という観点から研究する学問分野によって組織されています。具体的には、日本文学、比較文学、中国文学、国語学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、英語学、日本語学、美学・文芸学、音楽学・演劇学、美術史学の12専門分野から構成され、言語・文学・芸術などの表現活動としてあらわれる文化のありかたに着目して、史資料や作品の理解、ならびにフィールド調査を中心に研究・教育をおこなっています。その教育方針は以下のとおりです。

- 1 博士前期課程では、深い専門性と豊かな構想力をもって新たな領域で活躍でき、高い言語能力とデザイン力を備えた、研究者・高度専門職業人を育成します。
- 2 海外の多くの大学と交流協定等を利用して国際連携に努め、教育の国際化を進めて、優れたグローバル人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および文学研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「文化表現論」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「文化表現論」は、以下の能力や学識の修得を各課程における学位授与の要件とします。

[博士前期課程]

- 専門分野の研究方法に従ってデータや文献などの資料を的確に収集・分析するとともに、文献を正確に読解する能力
- 国際的に活躍できる高い言語運用能力
- 明解な論旨で一貫した構成の論文をまとめる確かな論述能力と豊かな文章表現力
- 多様な文化・社会の事象に対応する深い専門性と幅広い人文学的教養

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

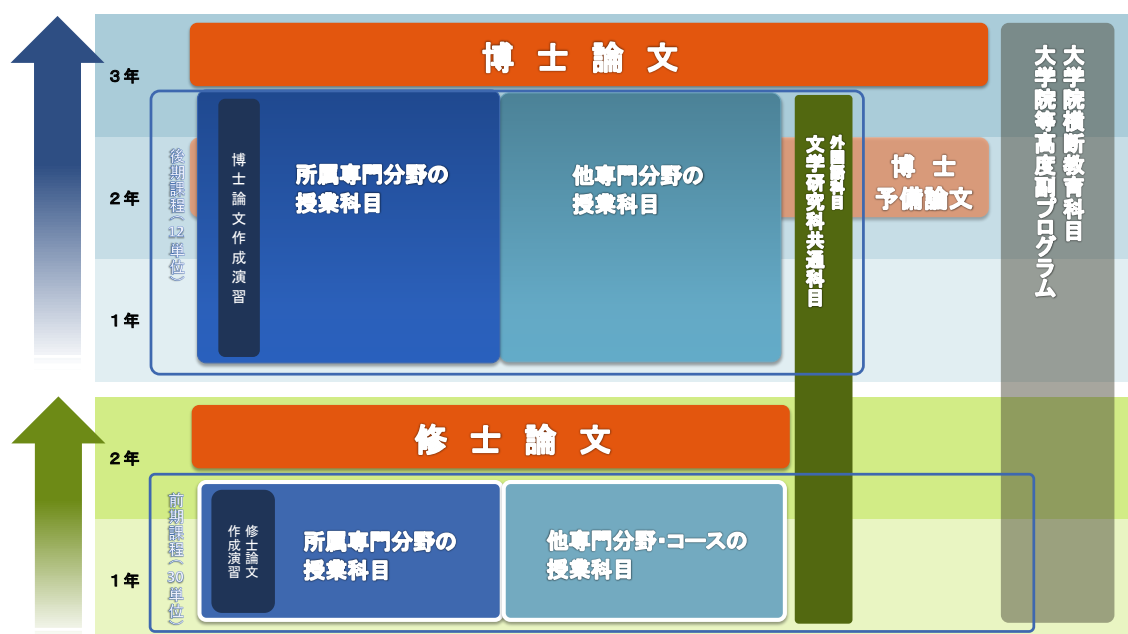
大阪大学および文学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「文化表現論」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「文化表現論」は、日本文学、比較文学、中国文学、国語学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、英語学、日本語学、美学・文芸学、音楽学・演劇学、美術史学の12専門分野にわかれ、それぞれ分野の学問的特性を踏まえつつ、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 1 博士前期課程では、所属する専門分野の講義、演習を通して、当該分野に必要な専門知識と研究能力、ならびに国際的に発信する言語能力を身につけます。また、専門分野以外の科目を選択して履修することにより、当該分野の研究状況を広い視野から把握できる総合的な人文学的教養と知識を身につけます。
- 2 上記の知識や能力について、筆記試験やレポート等、各授業において定める方法によって単位認定を行います。
- 3 博士前期課程では、修士論文作成演習を履修し、また年次ごとに研究計画書と研究報告書を作成して、研究を主体的に構想・実行する能力とデザイン力を養い、高度な専門性を備えた修士論文を完成させます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

大阪大学文学研究科文化形態論専攻・文化表現論専攻における5年間の学び



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および文学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「文化表現論」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「文化表現論」では、各分野での専門的な研究に取り組むために必要な知識、史資料等を理解し論述する能力、および研究課題を主体的に探求する姿勢を考査して、入学者を選抜します。

【入学者選抜の方針】

- 1 博士前期課程の一般選抜では、各専門分野における研究に必要な専門的知識、外国語能力、思考力および論述能力を考査する筆記試験と、研究能力、意欲、適性などを判定する口頭試験により選抜します。
- 2 社会人については、社会人としての経験や学問的業績を加味して専門的知識、研究能力および適性を判定する社会人特別選抜を実施します。
- 3 留学生については、修学および研究に必要な日本語能力、専門的知識、研究能力および適性を判定する外国人留学生選抜を実施します。

文学研究科

学位プログラム「文化動態論」

学位：修士(文学)

教育目標

大阪大学および文学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「文化動態論」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「文化動態論」は、さまざまな文化事象を「動態」という観点から研究するため、領域横断的に組織されています。具体的には、共生文明論、アート・メディア論、文学環境論、言語生態論の4コースから構成され、人文学の伝統的な体系のなかでは十分に把握しきれない現代文化の諸問題を対象にして、史資料や作品の理解、ならびにフィールド調査をふまえた実践性の高い知の創出に取り組んでいます。その教育方針は以下のとおりです。

- 1 領域横断的な発想に長け、現代社会が生み出す諸問題の解決に取り組む実践的能力を持ち、高い言語能力とデザイン力を備えた高度専門職業人を育成します。
- 2 海外の多くの大学と交流協定等を利用して国際連携に努め、教育の国際化を進めて、優れたグローバル人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および文学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「文化動態論」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「文化動態論」は、以下の能力や学識の修得を修士課程における学位授与の要件とします。

- 領域横断的な研究方法に従ってデータや文献などの資料を的確に収集・分析するとともに、新しい視点で解釈、編集やデザインをおこなう能力
- 国際的に活躍できる高い言語運用能力
- 明解な論旨で一貫した構成の論文をまとめる確かな論述能力と豊かな文章表現力
- 現代社会の諸問題に対応できる専門性に基づいた幅広い人文学的教養と実践的能力

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

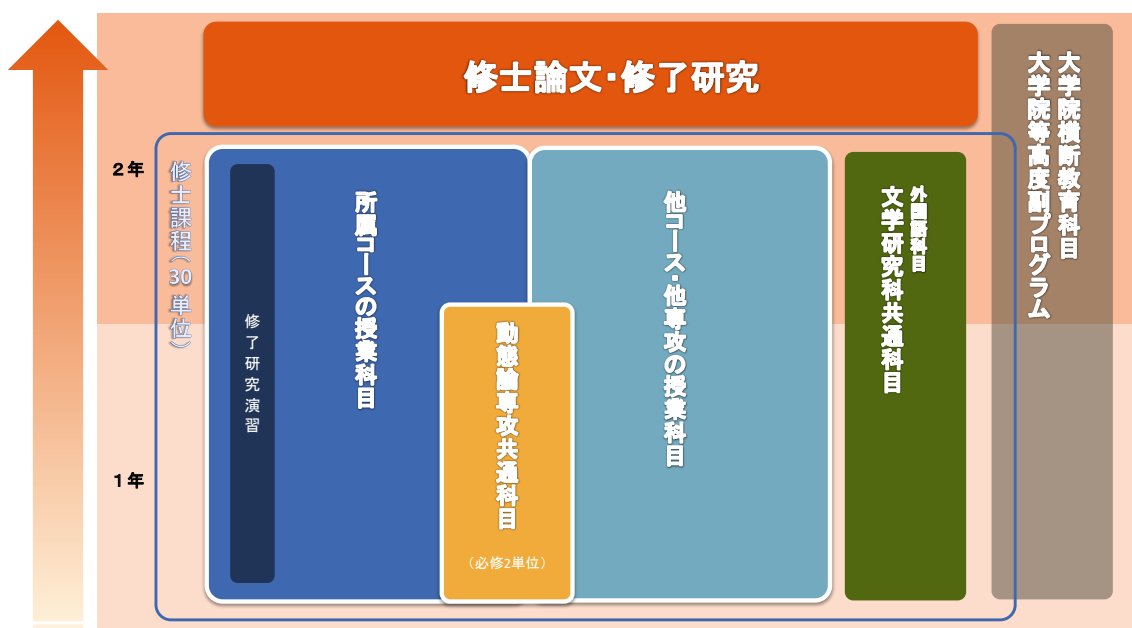
大阪大学および文学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「文化動態論」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「文化動態論」は、共生文明論、アート・メディア論、文学環境論、言語生態論の4コースにわかれ、それぞれのコースの学問的特性を踏まえつつ、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 1 修士課程では、所属するコースの講義、演習を通して当該コースに必要な研究能力と実践的能力、並びに国際的に発信する言語能力を養います。また、専攻共通の講義「人文学と社会」と「人文学と情報」を必ず履修するとともに、所属コース以外の科目を選択して履修することにより、現代文化の諸問題に対応できる幅広い人文学的教養と知識を身につけます。
- 2 上記の知識や能力について、筆記試験やレポート等、各授業において定める方法によって単位認定を行います。
- 3 修士課程では、修士論文作成演習を履修し、また年次ごとに研究計画書と研究報告書を作成して、研究を主体的に構想・実行する能力とデザイン力を養い、応用的で領域横断的な修士論文を完成させます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

大阪大学文学研究科文化動態論専攻における2年間の学び



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および文学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「文化動態論」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「文化動態論」では、各コースでの専門的な研究に取り組むために必要な知識、史資料等を理解し論述する能力、および研究課題を主体的に探求する姿勢を考査して、入学者を選抜します。

【入学者選抜の方針】

- 1 修士課程の一般選抜では、各コースにおける研究に必要な専門的知識、外国語能力、思考力および実践的応用力を考査する筆記試験と、問題意識、意欲、適性などを判定する口頭試験により選抜します。
- 2 社会人については、社会人としての経験や学問的業績を加味して専門的知識、研究能力および適性を判定する社会人特別選抜を実施します。
- 3 留学生については、修学および研究に必要な日本語能力、専門的知識、研究能力および適性を判定する外国人留学生選抜を実施します。

文学研究科

学位プログラム「文化形態論」

学位：博士(文学)

教育目標

大阪大学および文学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「文化形態論」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「文化形態論」は、古今東西の多様な文化事象を主として「形態」という観点から研究する学問分野によって組織されています。具体的には哲学哲学史、現代思想文化学、臨床哲学、中国哲学、インド学・仏教学、日本学、日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学、人文地理学の11専門分野から構成され、文化の基底をなす原理、制度、歴史などに着目して、史資料理解やフィールド調査を中心に研究・教育をおこなっています。その教育方針は以下のとおりです。

- 1 博士後期課程では、深い専門性と豊かな構想力をもって新たな領域を開拓し、幅広い教養と人文学的知を背景に日本および世界で活動できる、研究者・高度専門職業人を育成します。
- 2 海外の多くの大学と交流協定等を利用して国際連携に努め、教育の国際化を進めて、優れたグローバル人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および文学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「文化形態論」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「文化形態論」は、以下の能力や学識の修得を各課程における学位授与の要件とします。

- 自立した研究者に必要な深い学識と高度な研究能力
- 研究者として国際的に活躍できる高い言語運用能力
- 研究資料である文献を正確に読解し、的確に分析・解釈する能力
- 先行研究を広く踏まえつつ、独創的なテーマや研究方法を生み出す豊かな感性と優れた探究能力
- 明晰で独創的な論文を執筆する論述能力と文章表現力

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

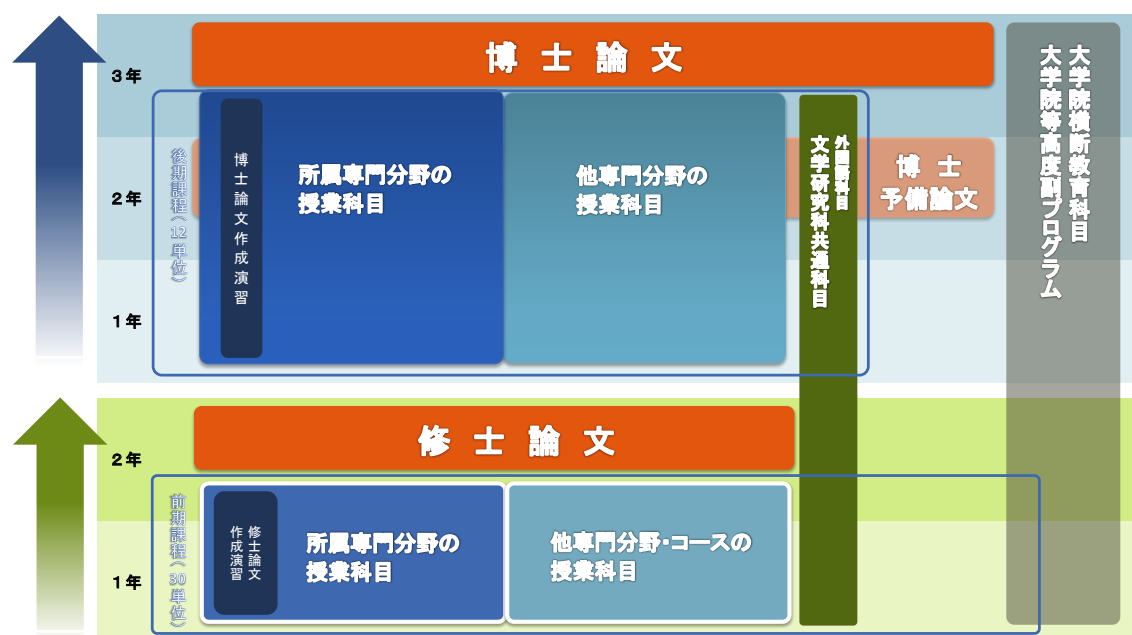
大阪大学および文学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「文化形態論」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「文化形態論」は、哲学哲学史、現代思想文化学、臨床哲学、中国哲学、インド学・仏教学、日本学、日本史学、東洋史学、西洋史学、考古学、人文地理学の11専門分野にわかれ、それぞれ分野の学問的特性を踏まえつつ、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 1 博士後期課程では、所属する専門分野の講義、演習を通して、当該分野に必要な深い学識と高度な研究能力、ならびに国際的に発信する言語能力を養います。
- 2 上記の学識や能力について、筆記試験やレポート等、各授業において定める方法によって単位認定を行います。
- 3 博士後期課程では、博士論文作成演習を履修し、また年次ごとに研究計画書と研究報告書を作成して、研究を主体的に構想・実行する能力とデザイン力をさらに高めます。さらに、2年次以降に博士予備論文を執筆して博士論文作成の準備をおこないます。最終年次には、自立した専門家としての独創性を備えた博士論文を完成させます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

大阪大学文学研究科文化形態論専攻・文化表現論専攻における5年間の学び



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および文学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「文化形態論」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「文化形態論」では、各分野での専門的な研究に取り組むための高度な知識、史資料等を理解し論述する能力、および自立的な研究活動を展開する姿勢を考査して、入学者を選抜します。

【入学者選抜の方針】

- 1 博士後期課程の一般選抜では、博士の学位をめざす上で必要な専門的知識、外国語能力、思考力および論述能力を考査する筆記試験と、研究能力、意欲、適性、研究実績などを判定する口頭試験により選抜します。
- 2 社会人については、社会人としての経験や学問的業績を加味して専門的知識、研究能力および適性を判定する社会人特別選抜を実施します。
- 3 留学生については、修学および研究に必要な日本語能力、専門的知識、研究能力および適性を判定する外国人留学生選抜を実施します。

文学研究科

学位プログラム「文化表現論」

学位：博士(文学)

教育目標

大阪大学および文学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「文化表現論」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「文化表現論」は、さまざまな文化事象を「表現」という観点から研究する学問分野によって組織されています。具体的には、日本文学、比較文学、中国文学、国語学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、英語学、日本語学、美学・文芸学、音楽学・演劇学、美術史学の12専門分野から構成され、言語・文学・芸術などの表現活動としてあらわれる文化のありかたに着目して、史資料や作品の理解、ならびにフィールド調査を中心に研究・教育をおこなっています。その教育方針は以下のとおりです。

- 1 博士後期課程では、深い専門性と豊かな構想力をもって新たな領域を開拓し、幅広い教養と人文学的知を背景に日本および世界で活動できる、研究者・高度専門職業人を育成します。
- 2 海外の多くの大学と交流協定等を利用して国際連携に努め、教育の国際化を進めて、優れたグローバル人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および文学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「文化表現論」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「文化表現論」は、以下の能力や学識の修得を各課程における学位授与の要件とします。

- 自立した研究者に必要な深い学識と高度な研究能力
- 研究者として国際的に活躍できる高い言語運用能力
- 研究資料である文献を正確に読解し、的確に分析・解釈する能力
- 先行研究を広く踏まえつつ、独創的なテーマや研究方法を生み出す豊かな感性と優れた探究能力
- 明晰で独創的な論文を執筆する論述能力と文章表現力

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

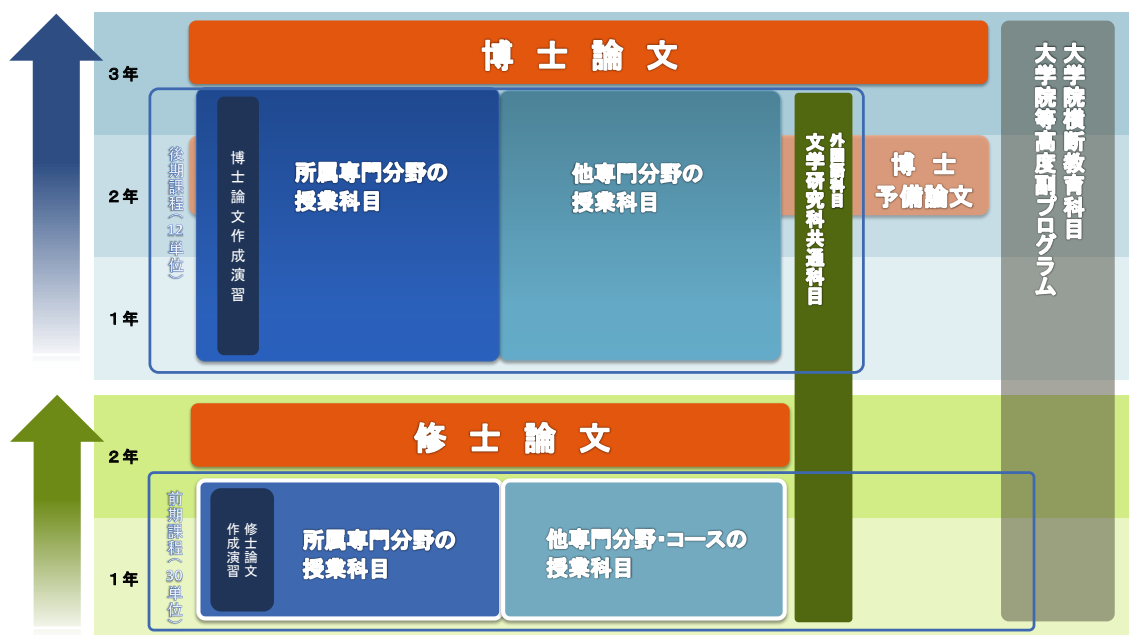
大阪大学および文学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「文化表現論」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「文化表現論」は、日本文学、比較文学、中国文学、国語学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、英語学、日本語学、美学・文芸学、音楽学・演劇学、美術史学の12専門分野にわかれ、それぞれ分野の学問的特性を踏まえつつ、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 1 博士後期課程では、所属する専門分野の講義、演習を通して、当該分野に必要な深い学識と高度な研究能力、ならびに国際的に発信する言語能力を養います。
- 2 上記の学識や能力について、筆記試験やレポート等、各授業において定める方法によって単位認定を行います。
- 3 博士後期課程では、博士論文作成演習を履修し、また年次ごとに研究計画書と研究報告書を作成して、研究を主体的に構想・実行する能力とデザイン力をさらに高めます。さらに、2年次以降に博士予備論文を執筆して博士論文作成の準備をおこないます。最終年次には、自立した専門家としての独創性を備えた博士論文を完成させます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

大阪大学文学研究科文化形態論専攻・文化表現論専攻における5年間の学び



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および文学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「文化表現論」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「文化表現論」では、各分野での専門的な研究に取り組むための高度な知識、史資料等を理解し論述する能力、および自立的な研究活動を展開する姿勢を考査して、入学者を選抜します。

【入学者選抜の方針】

- 1 博士後期課程の一般選抜では、博士の学位をめざす上で必要な専門的知識、外国語能力、思考力および論述能力を考査する筆記試験と、研究能力、意欲、適性、研究実績などを判定する口頭試験により選抜します。
- 2 社会人については、社会人としての経験や学問的業績を加味して専門的知識、研究能力および適性を判定する社会人特別選抜を実施します。
- 3 留学生については、修学および研究に必要な日本語能力、専門的知識、研究能力および適性を判定する外国人留学生選抜を実施します。

人間科学研究科

■ 教育目標・ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、人間科学研究科は1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。平成28年度からはその目的をさらに高いレベルで実現するために、本研究科ならではの学際性を活かして、共生学という学問分野を創設しています。その目的の実現のため、

- 学際性：文系・理系という従来の専門分野の枠にとらわれずに横断的に思考し、多彩な学問領域の方法と成果を統合させ、教育・研究に取り組むこと。
- 実践性：実験・調査・フィールドワークという〈知〉の技法を洗練化し、現場と密接に結びついて研究課題の解明を希求する、問題発見・解決型の教育・研究に取り組むこと。
- 国際性：グローバル社会の中でも、〈知〉を創造するリーダーシップを発揮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをより深化させていくこと。

という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。博士前期課程では、高度な専門性を持つ職業人の養成や、博士後期課程に進学し研究者となるべき基礎の習得を目指しています。博士後期課程では、学位を取得して、研究者や大学教員となるための資質を涵養します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、人間科学研究科では、21世紀の日本及び国際社会に貢献する能力を養うことを目的とし、学際性、実践性、国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を修得した学生に学位を授与します。

- 日本及び国際社会に貢献する学際的で幅広い知識を十分に身につけている。
- 行動学、社会学、人間学、教育学、共生学のいずれかについて高度な知識を体系的に理解している。
- 現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代という未曾有の転換期の学問的・社会的要請に応えようとする意欲を持っている。
- 自ら設定した課題を実験・調査・フィールドワークなどによって解決する実践的能力を持っている。
- 自ら設定した課題についての専門的知識、及びそれを人間科学的手法により分析・考察できる研究スキルを修得している。
- 自身の研究で得た知見を日本及び世界に発信するためのプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を持っている。

人間科学研究科はこれらの学生を、博士前期課程では高度な専門知識を備えた職業人として、博士後期課程では高度な専門知識に加えて、学際的かつ柔軟な視点を持つ専門研究者として学位を認定します。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーを受け、人間科学研究科は、現代という未曾有の転換期に生きる、人間と人間が営む社会がかかえる諸問題を解決するために、グローバルな視点とローカルな知を融合する研究と実践をおこなうカリキュラム構成になっています。

- 「人間科学専攻」の下に設置された4つの学系（行動学系、社会学・人間学系、教育学系、共生学系）を横断する知の獲得が可能となるように、共通科目群を設定するとともに、学系相互の科目群を履修することを推奨するカリキュラム構成となっています。
- 学系の下に設置された8つの大講座（人間行動学、行動生態学、社会環境学、基礎人間科学、臨床教育学、教育環境学、未来共生学、グローバル共生学）においては、それぞれに高度な専門性を発達させるための系統的プログラムが用意されています。
- 科学的・実証的・統計的なアプローチ、並びに人文的・文献調査的・国際コミュニケーション重視の科目を体系化し、総合的に学ぶことを可能にするカリキュラムを提供しています。
- 幅広い学問領域の素養や、大学院学生にふさわしい教養を涵養するための高度副プログラム及び高度教養プログラムの授業を受けることができます。

博士前期課程と博士後期課程の一貫教育を基軸としています。博士前期課程では多様な講義・演習を履修しつつ修士論文を完成させます。博士後期課程では博士論文の完成を目指して、個々の研究課題に取り組むとともに、その取り組みを促進する特別演習・特別研究を履修します。

リーディング大学院(超域イノベーション及び未来共生イノベーター)の2つプログラムの科目にも参加することができます。

アドミッション・ポリシー (入学受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーを受け、人間科学研究科は、人間や社会の全体的把握を目指す、総合科学としての人間科学に、より高い学術的な水準と、深遠な社会的意義を付加するために、1978年に博士前期課程及び博士後期課程の大学院として発足しました。人間科学という学問に求められる社会からの要請は、近年ますます多岐にわたり高度になってきています。このような社会的要請に応えるため、下記のような基礎学力や研究力を有する者を求めています。

- 博士前期課程の一般入試では、各分野で必要な専門知識、英語能力、研究計画・実施能力を筆記試験と口述試験で選抜します。
- 博士前期課程の社会人特別入試では、各分野で必要な専門知識と研究計画・実施能力を筆記試験と口述試験で選抜します。
- 博士後期課程の一般入試では、各分野で必要な高度な専門知識、外国語能力、研究計画・実施能力を筆記試験と論文審査で選抜します。
- 博士後期課程の社会人特別入試では、高度な研究計画・実施能力を、研究計画書及び修士論文、研究論文に基づく論文審査で選抜します。

人間科学研究科では、学際性・実践性・国際性を柱とする教育プログラムを充実させてきました。

博士前期課程では、つねに異領域の学問分野にも関心を向ける好奇心旺盛な態度、内外を問わず多様な実践的なフィールドに積極的に参加する行動力、グローバルな諸課題に積極的に関与しようとする意欲、ならびに高度な語学力を備え、世界に向けて発信できる能力を身につけたいと希求する学生を強く求めています。

博士後期課程では、博士前期課程からの進学者を対象とするだけでなく、人文科学・社会科学そして自然科学の多様な学問を探求する素地を持つ学生を積極的に受け入れます。同時に、高度な語学力、異領域へ強い関心や多彩な職業経験を有した者など、問題意識を明確に持った学生の入学によって、人間科学の幅の広がりや深化を希求しています。

人間科学研究科

学位プログラム「人間科学」

学位：修士(人間科学)

教育目標

大阪大学および人間科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「人間科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「人間科学」では、1978年に博士前期課程および博士後期課程の大学院として人間科学研究科が発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本および国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。これを研究科規程として「人間と人間の営む社会を科学的な視点及び方法で探究し、人間と社会に対する理解を深め、人間が人間らしく生きていける仕組みづくりに貢献できる知性と行動力を備えた人材を育成すること」としてきました。平成28年度からはその目的をさらに高いレベルで実現するために、本研究科ならではの学際性を活かして、共生学という学問分野を創設しています。その目的の実現のため、

- ・学際性：現代的課題を深く追究し解決へとつなげるために、文系・理系という従来の専門分野の枠にとらわれずに横断的に思考し、多彩な学問領域の方法と成果を統合させ、教育・研究に取り組むこと。
- ・実践性：実験・調査・フィールドワークという〈知〉の技法を洗練化するとともに、その研究課題の解明を希求する現場と結びついた問題解決型の教育・研究に取り組むこと。
- ・国際性：複雑化し激動するグローバル社会の中でも、〈知〉を創造するリーダーシップを発揮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをより深化させていくこと。

という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。博士前期課程においては、高度専門職業人の養成と、博士後期課程に進学し将来研究者を目指す人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および人間科学研究科のディプロマ・ポリシーをもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」では、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、さらに共生学という新しい学問分野の展開を目指しつつ、21世紀の日本および国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。その実現のため、学際性、実践性、国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を身につけ、さらに所定の期間在学し、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した学生に修士の学位を授与します。修士論文の審査基準としては研究目的、研究方法、考察等の適切さだけでなく、学術的な独創性や重要性があり、社会的要請に応える可能性を持つことが求められます。

- ・日本および国際社会に貢献する学際的で幅広い知識を十分に身につけている。
- ・行動学、社会学、人間学、教育学、共生学の高度な知識を体系的に理解している。
- ・現代社会やそこに生きる人間に深い関心を持ち、現代という未曾有の転換期の学問的・社会的要請に応え、解決しようとする意欲を持っている。
- ・自ら設定した課題を実験・調査・フィールドワークなどによって解決する実践的能力を持っている。
- ・自ら設定した課題についての専門的知識、およびそれを科学的・実証的・統計的手法、並びに人文学的・文献調査的手法を用いて分析・考察できる研究スキルを修得している。
- ・自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力や技術、コミュニケーション能力を持っている。
- ・グローバルにコミュニケーションする能力を持ち、自身の研究で得た知見を日本および世界に発信する能力と意欲を持っている。

人間科学研究科はこれらの学生を、学際的かつ柔軟な視点を持つ専門研究者のほか、高度な専門知識を備えた職業人として認定し、グローバルな実践性と高度な「現実対話力」を備えた専門家として輩出します。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および人間科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」は、行動学・社会学・人間学・教育学を中心とした学際的研究および共生学の構築によって、グローバルなレベルでの未曾有の転換期の学問的・社会的要請にこたえることを目的とする「人間科学専攻」からなっています。「人間科学専攻」は、横断的・学際的に学問全体を俯瞰できるよう、「コンフリクトの人文科学」「インターンシップ」「キャリアデザイン」などの共通科目群を設定しているほか、相互の科目群を履修することを推奨するカリキュラム構成となっています。

そして本研究科では、科学的・実証的・統計的なアプローチ、並びに人文科学的・文献調査的・国際コミュニケーション重視の科目を体系化し、人間と社会の諸側面について総合的に学ぶことを可能にするカリキュラムを提供しています。さらに、幅広い学問領域の素養や、大学院学生にふさわしい教養を涵養するための高度副プログラムおよび高度教養プログラムの授業を受けることができます。

博士前期課程では、人間行動学・行動生態学・社会環境学・基礎人間科学・臨床教育学・教育環境学・未来共生学・グローバル共生学の8つの大講座が多様な講義・演習をラインナップし、さらにフィールドワーク実習と研究方法の深化を追究する科目群を整備しています。特筆すべきは平成28年度より、それら8つの大講座の学問内容すべての基礎となる、換言すれば人間科学専攻の学際性を保証する、必修科目「人間科学学際研究特講」を博士前期課程のスタートの段階に置いていることです。また「臨床心理士」を養成するコースや「専門社会調査士」を取得するための科目も整備されています。また平成24年度からは、リーディング大学院（博士課程教育リーディングプログラム）の発足に伴い、超域イノベーションおよび未来共生イノベーターの各プログラム科目も併せて履修できる体制を整えています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

人間科学研究科 博士前期課程
全体のマップ



人間科学研究科 行動学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

M2

修士論文【専門性】

特定演習・実習・特定研究【デザイン力・実践性】

基礎心理学特定演習Ⅰ・Ⅱ
応用認知心理学特定演習Ⅰ・Ⅱ
社会心理学特定演習Ⅰ・Ⅱ
臨床心理学・老年行動学特定演習Ⅰ・Ⅱ
環境行動学特定演習Ⅰ・Ⅱ
安全行動学特定演習Ⅰ・Ⅱ
基礎心理学特定研究Ⅰ・Ⅱ
応用認知心理学特定研究Ⅰ・Ⅱ
社会心理学特定研究Ⅰ・Ⅱ
臨床心理学・老年行動学特定研究Ⅰ・Ⅱ
環境行動学特定研究Ⅰ・Ⅱ
人間行動学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
人間行動学方法実習Ⅰ・Ⅱ
比較発達心理学特定演習Ⅰ・Ⅱ
行動生理学特定演習Ⅰ・Ⅱ
行動統計科学特定演習Ⅰ・Ⅱ
生物人類学特定演習Ⅰ・Ⅱ
比較行動学特定研究Ⅰ・Ⅱ
行動生態学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
行動生態学方法実習Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジムの
ナスティ
クス(高度
教養プロ
グラム)

M1

講義科目【専門性】

基礎心理学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
応用認知心理学特講Ⅰ・Ⅱ
社会心理学特講Ⅰ・Ⅱ
臨床心理学・老年行動学特講Ⅰ・Ⅱ
環境行動学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
安全行動学特講Ⅰ・Ⅱ
比較発達心理学特講Ⅰ・Ⅱ
行動生理学特講Ⅰ・Ⅱ
行動統計科学特講Ⅰ・Ⅱ
生物人類学特講Ⅰ・Ⅱ
比較行動学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
行動科学特別講義Ⅰ・Ⅱ

【教養・専門
性・学際性】

講義科目(必修)【専門性・学際性】

人間科学学院研究特講

共通科目・他の学系講義科目および特定演習・高度教養科目・他研究科の授業科目【教養・国際性・学際性】

コンフリクトの文明学特定演習Ⅰ・Ⅱ
コンフリクトの人文学特講Ⅰ・Ⅱ
インターナショナルA/B
地域言語Ⅰ・Ⅱ
人間科学方法実習
人間科学基礎実習
人間科学専門演習Ⅰ・Ⅱ
英語による論文作成・研究発表実習
フィールド調査・評価入門
フィールド調査法特講
社会における科学技術特定演習
多文化医療通訳概論
認知脳科学論
医療通訳論Ⅰ・Ⅱ
認知脳科学論特定演習
エス/グラフィの基礎理論
国際健康開発論特講
キャリアデザイン特講
総合人間科学特講Ⅰ～Ⅳ
人間科学国際特講Ⅰ～Ⅵ
総合人間科学実習Ⅰ・Ⅱ

人間科学研究科 社会学・人間学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

M2

修士論文【専門性】

特定演習・実習・特定研究【デザイン力・実践性】

社会学理論特定演習Ⅰ・Ⅱ
現代社会学特定演習Ⅰ・Ⅱ
社会調査特定演習Ⅰ・Ⅱ
コミュニケーション社会学特定演習Ⅰ・Ⅱ
文化社会学特定演習Ⅰ・Ⅱ
福祉社会学特定演習Ⅰ・Ⅱ
社会学理論特定研究Ⅰ・Ⅱ
現代社会学特定研究Ⅰ・Ⅱ

経験社会学特定研究Ⅰ・Ⅱ
社会データ科学特定研究Ⅰ・Ⅱ
コミュニケーション社会学特定研究Ⅰ・Ⅱ
文化社会学特定研究Ⅰ・Ⅱ
福祉社会学特定研究Ⅰ・Ⅱ
社会環境学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
社会環境学方法実習Ⅰ・Ⅱ

科学哲学特定演習Ⅰ・Ⅱ
現代思想特定演習Ⅰ・Ⅱ
比較文明特定演習Ⅰ・Ⅱ
人類学特定演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
科学技術と文化特定演習
科学哲学特定研究Ⅰ・Ⅱ
現代思想特定研究Ⅰ・Ⅱ
比較文明学特定研究Ⅰ・Ⅱ

人類学特定研究Ⅰ・Ⅱ
科学技術と文化特定研究Ⅰ・Ⅱ
基礎人間科学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
基礎人間科学方法実習Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジグザグ
ナステック
クラス(高度
教養プログラム)

【教養・専門
性・学際性】

M1

講義科目【専門性】

社会学理論特講
社会学説史特講
現代社会学特講
計量社会学特講
経験社会学特講
宗教社会学特講
社会情報学特講
社会データ科学特講

コミュニケーション社会学特講
メディアと社会特講
家族社会学特講
ジェンダー論特講
文化社会学特講
比較社会学特講
社会変動論特講
社会保障政策論特講Ⅰ

社会保障政策論特講Ⅱ
比較福祉論特講Ⅰ
比較福祉論特講Ⅱ
市民活動論特講
ボランティア社会論特講
人間科学基礎理論特講
科学哲学特講
認知システム論特講

言語・情報論特講
現代思想論特講
哲学の人間学特講
表象・記号学特講
現象学的な研究特講
比較文明学特講
文明動態学特講
比較思想史特講

人類学理論特講
グローバル化と文化特講
異文化理解特講
応用人類学特講
政治経済の人類学特講
人類学文献読解特講
科学技術と文化特講
社会学・人間学特別講義Ⅰ・Ⅱ

講義科目(必修)【専門性・学際性】

人間科学学院研究特講

共通科目・他の学系講義科目および特定演習・高度教養科目・他研究科の授業科目【教養・国際性・学際性】

コンフリクトの文明学特定演習Ⅰ・Ⅱ
コンフリクトの人文学特講Ⅰ・Ⅱ
インターンシップA・B
地域言語Ⅰ・Ⅱ
人間科学方法実習
人間科学基礎実習

人間科学専門演習Ⅰ・Ⅱ
英語による論文作成・研究発表実習
フィールド調査・評価入門
フィールド調査法特講
社会における科学技術特定演習
多文化医療通訳概論

認知脳科学論
医療通訳論Ⅰ・Ⅱ
認知脳科学論特定演習
エスノグラフィの基礎理論
国際健康開発論特講
キャリアデザイン特講

総合人間科学特講Ⅰ～Ⅳ
人間科学国際特講Ⅰ～Ⅵ
総合人間科学実習Ⅰ・Ⅱ

人間科学研究科 教育学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

M2

修士論文【専門性】

特定演習・実習・特定研究【デザイン力・実践性】

教育人間学特定演習Ⅰ・Ⅱ
教育工学特定演習Ⅰ・Ⅱ
教育心理学特定演習Ⅰ・Ⅱ
教育コミュニケーション学特定演習Ⅰ・Ⅱ
臨床心理学特定演習Ⅰ・Ⅱ
臨床心理学特定研究Ⅰ・Ⅱ
教育工学特定研究Ⅰ・Ⅱ

教育心理学特定研究Ⅰ・Ⅱ
教育コミュニケーション学特定研究Ⅰ・Ⅱ
臨床心理学特定研究Ⅰ・Ⅱ
認知臨床心理学特定研究Ⅰ・Ⅱ
臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ
臨床心理実習Ⅰ・Ⅱ
臨床心理学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
臨床教育学方法実習Ⅰ・Ⅱ

教育社会学特定演習Ⅰ・Ⅱ
教育制度学特定演習Ⅰ・Ⅱ
生涯教育学特定演習Ⅰ・Ⅱ
教育文化学特定演習Ⅰ・Ⅱ
教育社会学特定研究Ⅰ・Ⅱ
教育制度学特定研究Ⅰ・Ⅱ
生涯教育学特定研究Ⅰ・Ⅱ
教育文化学特定研究Ⅰ・Ⅱ

教育環境学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
教育環境学方法実習Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジグザグ
ナステック
クラス(高度
教養プログラム)

【教養・専門
性・学際性】

M1

講義科目【専門性】

教育人間学特講Ⅰ・Ⅱ
外国教育史特講
教育哲学特講
教育思想史特講
教育工学特講Ⅰ・Ⅱ
教育心理学特講
入格心理学特講

教育コミュニケーション学特講Ⅰ・Ⅱ
臨床心理学特講Ⅰ・Ⅱ
臨床心理面接特講Ⅰ・Ⅱ
心理療法学特講
障がい児(者)心理学特講Ⅰ・Ⅱ
臨床心理学研究法特講
教育社会学特講

高等教育論特講
教育動態学特講
教育制度学特講
学校経営学特講
日本教育史特講
生涯教育学特講
共生教育学特講

ジェンダーと教育特講
教育文化学特講
学校社会学特講
コミュニケーション教育学特講
教育学特別講義Ⅰ・Ⅱ

講義科目(必修)【専門性・学際性】

人間科学学院研究特講

共通科目・他の学系講義科目および特定演習・高度教養科目・他研究科の授業科目【教養・国際性・学際性】

コンフリクトの文明学特定演習Ⅰ・Ⅱ
コンフリクトの人文学特講Ⅰ・Ⅱ
インターンシップA・B
地域言語Ⅰ・Ⅱ
人間科学方法実習
人間科学基礎実習

人間科学専門演習Ⅰ・Ⅱ
英語による論文作成・研究発表実習
フィールド調査・評価入門
フィールド調査法特講
社会における科学技術特定演習
多文化医療通訳概論

認知脳科学論
医療通訳論Ⅰ・Ⅱ
認知脳科学論特定演習
エスノグラフィの基礎理論
国際健康開発論特講
キャリアデザイン特講

総合人間科学特講Ⅰ～Ⅳ
人間科学国際特講Ⅰ～Ⅵ
総合人間科学実習Ⅰ・Ⅱ

人間科学研究科 共生学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

M2

修士論文【専門性】

特定演習・実習・特定研究【デザイン力・実践性】

共生の人間学特定演習Ⅰ・Ⅱ
共生社会論特定演習Ⅰ・Ⅱ
共生行動論特定演習Ⅰ・Ⅱ
共生教育論特定演習Ⅰ・Ⅱ
共生の人間学特定研究Ⅰ・Ⅱ
共生社会論特定研究Ⅰ・Ⅱ

共生行動論特定研究Ⅰ・Ⅱ
共生教育論特定研究Ⅰ・Ⅱ
未来共生学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
未来共生学方法実習Ⅰ・Ⅱ

国際協力学特定演習Ⅰ・Ⅱ
多文化共生学特定演習Ⅰ・Ⅱ
地域創生論特定演習Ⅰ・Ⅱ
コンフリクトと共生特定演習Ⅰ・Ⅱ
国際協力学特定研究Ⅰ・Ⅱ
多文化共生学特定研究Ⅰ・Ⅱ

地域創生論特定研究Ⅰ・Ⅱ
コンフリクトと共生特定研究Ⅰ・Ⅱ
グローバル共生学フィールドワーク実習Ⅰ・Ⅱ
グローバル共生学方法実習Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジミ
ナスティッ
クス(高度
教養プロ
グラム)

M1

講義科目【専門性】

共生の人間学特講Ⅰ・Ⅱ
共生社会論特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
共生行動論特講Ⅰ・Ⅱ
共生教育論特講Ⅰ・Ⅱ

国際協力学特講Ⅰ・Ⅱ
教育と国際開発
多文化共生学特講Ⅰ・Ⅱ
地域創生論特講Ⅰ・Ⅱ

コンフリクトと共生特講Ⅰ・Ⅱ

講義科目(必修)【専門性・学際性】

人間科学学院研究特講

共通科目・他の学系講義科目および特定演習・高度教養科目・他研究科の授業科目【教養・国際性・学際性】

コンフリクトの文明学特定演習Ⅰ・Ⅱ
コンフリクトの人文学特講Ⅰ・Ⅱ
インターンシップA・B
地域言語Ⅰ・Ⅱ
人間科学方法演習
人間科学基礎実習

人間科学専門演習Ⅰ・Ⅱ
英語による論文作成・研究発表演習
フィールド調査・評価入門
フィールド調査法特講
社会における科学技術特定演習
多文化医療通訳概論

認知脳科学論
医療通訳論Ⅰ・Ⅱ
認知脳科学論特定演習
エス/グラフィの基礎理論
国際健康開発論特講
キャリアデザイン特講

総合人間科学特講Ⅰ～Ⅳ
人間科学国際特講Ⅰ～Ⅵ
総合人間科学実習Ⅰ・Ⅱ

【教養・専門
性・学際性】

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および人間科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「人間科学」は、「人間と人間の営む社会を科学的な視点及び方法で探究し、人間と社会に対する理解を深め、人間が人間らしく生きていける仕組みづくりに貢献できる知性と行動力を備えた人材を育成することを目的」としています。そのため、文理融合、その具体的側面としての学際性・実践性・国際性という教育プログラムを充実させてきた私たちは、つねに異領域の学問分野にも関心を向ける好奇心旺盛な態度、内外を問わず多様な実践的なフィールドに積極的に参加する行動力、グローバルな諸課題に積極的に関与しようとする意欲や能力、ならびに高度な語学力を備え、世界に向けて発信できる学生を強く求めています。

人間科学という学問に求められる社会からの要請は、近年ますます多岐にわたり高度になってきています。私たちは、人文科学・社会科学そして自然科学の多様な学問を探究する素地を持つ学生を積極的に受け入れることで、総合科学としての人間科学を発展させていきたいと考えます。

同時に、多彩な職業経験を有し、問題意識を明確に持った学生の入学によって、人間科学の幅の広がりや深化を希求しています。そのためには、下記のような能力を入学前に修得していることが求められます。

- ・ 専門分野に関する深い知識
- ・ 実験や観察、フィールド調査などを行うためのしっかりとした研究方法
- ・ 調査結果や文献などを適切に分析しまとめる能力
- ・ 研究成果を発表するプレゼンテーションの技術や語学力

【入学者選抜の方針】

それぞれの専門分野における基本的学力はもとより、自分の研究や思考を他者に伝えることができる日本語での表現力、ならびに国際コミュニケーション力の土台となる外国語能力を求めます。したがって専門科目の筆記試験、外国語および口述試験で選抜を行います。社会人特別入試では、専門科目の筆記試験と口述試験を行います。

人間科学研究科

学位プログラム「人間科学」

学位：博士(人間科学)

教育目標

大阪大学および人間科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「人間科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「人間科学」では、1978年に博士前期課程および博士後期課程の大学院として人間科学研究科が発足して以来、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、21世紀の日本および国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。これを研究科規程として「人間と人間の営む社会を科学的な視点および方法で探究し、人間と社会に対する理解を深め、人間が人間らしく生きていける仕組みづくりに貢献できる知性と行動力を備えた人材を育成すること」としてきました。平成28年度からはその目的をさらに高いレベルで実現するために、本研究科ならではの学際性を活かして、共生学という学問分野を創設しています。その目的の実現のため、

- ・学際性：現代的課題を深く追究し解決へとつなげるために、文系・理系という従来の専門分野の枠にとらわれずに横断的に思考し、多彩な学問領域の方法と成果を統合させ、教育・研究に取り組むこと。
- ・実践性：実験・調査・フィールドワークという〈知〉の技法を洗練化するとともに、その研究課題の解明を希求する現場と結びついた問題解決型の教育・研究に取り組むこと。
- ・国際性：複雑化し激動するグローバル社会の中でも、〈知〉を創造するリーダーシップを発揮し、教育・研究活動の国際化に取り組み、グローバルスタンダードをより深化させていくこと。

という3つの理念を掲げ、各基本理念に沿った能力を備えた人材の育成を目指しています。博士後期課程においては、グローバルな実践性を備えた専門家および将来研究者を目指す人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および人間科学研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」では、人間と社会の現実を、行動学・社会学・人間学・教育学などのさまざまな学問分野の知見や研究方法を融合させて総合的にとらえ、さらに共生学という新しい学問分野の展開を目指しつつ、21世紀の日本および国際社会に貢献する能力を養うことを目的としています。その実現のため、学際性、実践性、国際性という3つの理念に即した、以下にあげるような能力を身につけ、さらに所定の期間在学し、所定の単位を修得し研究科規程に定める試験に合格し、博士論文を提出した学生に博士の学位を授与します。博士論文の審査基準としては、国際的な学術水準及び学際的視点から見て、十分な独創性や重要性があり、社会的要請

に伝える を持 と す。

- ・ よ に する学 い を に に ている。
- ・ 学、学、人間学、学、学 を に 解している。
- ・ に る人間に い を持 、 という 学 ・
に 応え、解決しようとする意欲を持っている。
- ・ 自ら設定した課題を実験・調査・フィールドワークなどによって解決する実践的能力を持っている。
- ・ 自ら設定した課題についての専門的知識、およびそれを科学的・実証的・統計的手法、ならびに人文的・文献調査的手法を用いて分析・考察できる研究スキルを修得している。
- ・ 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力や技術、コミュニケーション能力を持っている。
- ・ グローバルにコミュニケーション能力を持ち、自身の研究で得た知見を日本および世界に発信する能力と意欲を持っている。

人間科学研究科はこれらの学生を、学際的かつ柔軟な視点を持つ専門研究者のほか、高度な専門知識を備えた職業人として認定し、グローバルな実践性と高度な「現実対話力」を備えた専門家として輩出します。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および人間科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「人間科学」は、行動学・社会学・人間学・教育学を中心とした学際的研究および共生学の構築によって、グローバルなレベルでの未曾有の転換期の学問的・社会的要請に応えることを目的とする「人間科学専攻」からなっています。「人間科学専攻」は、横断的・学際的に学問全体を俯瞰できるよう、「コンフリクトの人文科学」「インターンシップ」「キャリアデザイン」などの共通科目群を設定しているほか、相互の科目群を履修することを推奨するカリキュラム構成となっています。

そして本研究科では、科学的・実証的・統計的なアプローチ、並びに人文的・文献調査的・国際コミュニケーション重視の科目を体系化し、人間と社会の諸側面について総合的に学ぶことを可能にするカリキュラムを提供しています。さらに、幅広い学問領域の素養や、大学院学生にふさわしい教養を涵養するための高度副プログラムおよび高度教養プログラムの授業を受けることができます。

博士後期課程では、人間行動学・行動生態学・社会環境学・基礎人間科学・臨床教育学・教育環境学・未来共生学・グローバル共生学の8つの大講座が多様な講義・演習をラインナップし、さらにフィールドワーク実習と研究方法の深化を追究する科目群を整備しています。また平成24年度からは、リーディング大学院(博士課程教育リーディングプログラム)の発足に伴い、超域イノベーションおよび未来共生イノベーターの各プログラム科目も併せて履修できる体制を整えています。

各学年の4月に研究計画書の提出を行い、翌年の2月に研究概要報告書の提出が求められ、各自の研究を進めていきます。最終学年では11月に論文題目届を行い、12月に博士論文を提出し、翌年の1月から2月にかけて公聴会を実施します。最終試験に合格すると博士の学位が授与されます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

人間科学研究科 博士後期課程
全体のマップ



人間科学研究科 行動学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

D3

博士論文【専門性】

D2

特別演習・特別実習・特別研究【デザイン力・実践性】

基礎心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
応用認知心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
社会心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
臨床死生学・老年行動学特別演習Ⅰ・Ⅱ
環境行動学特別演習Ⅰ・Ⅱ
安全行動学特別演習Ⅰ・Ⅱ
比較発達心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ

行動生理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
行動統計学特別演習Ⅰ・Ⅱ
生物人類学特別演習Ⅰ・Ⅱ
比較行動学特別演習Ⅰ・Ⅱ
人間行動学フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
行動生態学フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
各講座特別研究Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジムナスティックス
(高度教養プログラム)
【教養・専門性・学際性】

D1

共通科目・他の学系授業科目・他研究科の授業科目
【教養・国際性・学際性】

コンフリクトの文明学特別演習Ⅰ・Ⅱ
コンフリクトの人文学特別講義Ⅰ・Ⅱ
認知脳科学論特別演習

社会における科学技術特別演習
総合人間科学特別実習Ⅰ・Ⅱ

人間科学研究科 社会学・人間学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

D3

博士論文【専門性】

D2

特別演習・特別実習・特別研究【デザイン力・実践性】

社会学理論特別演習Ⅰ・Ⅱ
現代社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ
社会調査特別演習Ⅰ・Ⅱ
コミュニケーション社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ
文化社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ
福祉社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ
科学哲学特別演習Ⅰ・Ⅱ

現代思想特別演習Ⅰ・Ⅱ
比較文明学特別演習Ⅰ・Ⅱ
人類学特別演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
科学技術と文化特別演習
社会環境学フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
基礎人間科学フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
各講座特別研究Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジムナスティックス
(高度教養プログラム)
【教養・専門性・学際性】

D1

共通科目・他の学系授業科目・他研究科の授業科目
【教養・国際性・学際性】

コンフリクトの文明学特別演習Ⅰ・Ⅱ
コンフリクトの人文学特別講義Ⅰ・Ⅱ
認知脳科学論特別演習

社会における科学技術特別演習
総合人間科学特別実習Ⅰ・Ⅱ

人間科学研究科 教育学系 カリキュラムマップ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

D3

博士論文【専門性】

D2

特別演習・特別実習・特別研究【デザイン力・実践性】

教育人間学特別演習Ⅰ・Ⅱ
教育工学特別演習Ⅰ・Ⅱ
教育心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
教育コミュニケーション学特別演習Ⅰ・Ⅱ
臨床心理学特別演習Ⅰ・Ⅱ
教育社会学特別演習Ⅰ・Ⅱ
教育制度学特別演習Ⅰ・Ⅱ

生涯教育学特別演習Ⅰ・Ⅱ
教育文化学特別演習Ⅰ・Ⅱ
臨床教育学フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
教育環境学フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
各講座特別研究Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のジムナスティックス
(高度教養プログラム)
【教養・専門性・学際性】

D1

共通科目・他の学系授業科目・他研究科の授業科目
【教養・国際性・学際性】

コンフリクトの文明学特別演習Ⅰ・Ⅱ
コンフリクトの人文学特別講義Ⅰ・Ⅱ
認知脳科学論特別演習

社会における科学技術特別演習
総合人間科学特別実習Ⅰ・Ⅱ

学習目標：専門性と学識、デザイン力、教養、国際性、学際性、実践性

学年

D3

博士論文【専門性】

D2

特別演習・特別実習・特別研究【デザイン力・実践性】

共生の人間学特別演習Ⅰ・Ⅱ
共生社会論特別演習Ⅰ・Ⅱ
共生的行動論特別演習Ⅰ・Ⅱ
共生教育論特別演習Ⅰ・Ⅱ
国際協力学特別演習Ⅰ・Ⅱ
多文化共生学特別演習Ⅰ・Ⅱ
地域創生論特別演習Ⅰ・Ⅱ

コンフリクトと共生特別演習Ⅰ・Ⅱ
未来共生学フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
グローバル共生学フィールドワーク特別実習Ⅰ・Ⅱ
各講座特別研究Ⅰ・Ⅱ

高度副プログラム・
知のシムナスティックス
(高度教養プログラム)
【教養・専門性・学際性】

D1

共通科目・他の学系授業科目・他研究科の授業科目
【教養・国際性・学際性】

コンフリクトの文明学特別演習Ⅰ・Ⅱ
コンフリクトの人文学特別演習Ⅰ・Ⅱ
認知脳科学論特別演習

社会における科学技術特別演習
総合人間科学特別実習Ⅰ・Ⅱ

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および人間科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「人間科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「人間科学」は、「人間と人間の営む社会を科学的な視点及び方法で探究し、人間と社会に対する理解を深め、人間が人間らしく生きていける仕組みづくりに貢献できる知性と行動力を備えた人材を育成することを目的」としています。そのため、文理融合、その具体的側面としての学際性・実践性・国際性という教育プログラムを充実させてきた私たちは、つねに異領域の学問分野にも関心を向ける好奇心旺盛な態度、内外を問わず多様な実践的なフィールドに積極的に参加する行動力、グローバルな諸課題に積極的に関与しようとする意欲や能力、ならびに高度な語学力を備え、世界に向けて発信できる学生を強く求めています。

人間科学という学問に求められる社会からの要請は、近年ますます多岐にわたり高度になってきています。私たちは、人文科学・社会科学そして自然科学の多様な学問を探究する素地を持つ学生を積極的に受け入れることで、総合科学としての人間科学を発展させていきたいと考えます。同時に、多彩な職業経験を有し、問題意識を明確に持った学生の入学によって、人間科学の幅の広がりと深化を希求しています。そのためには、下記のような能力を入学以前に修得していることが求められます。

- ・ 専門分野に関する深い知識
- ・ 実験や観察、フィールド調査などを行うためのしっかりとした研究方法
- ・ 調査結果や文献などを適切に分析しまとめる能力
- ・ 研究成果を発表するプレゼンテーションの技術や語学力

【入学者選抜の方針】

それぞれの専門分野における基本的学力はもとより、自分の研究や思考を他者に伝えることができる日本語での表現力、ならびに国際コミュニケーション力の土台となる外国語能力を求めます。したがって学力試験、論文等の審査、成績証明書等を総合して入学者選抜を行います。社会人特別入試では、提出された研究計画書や修士論文・研究論文に基づく口頭試問により選抜します。

法学研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

この目標の下で大阪大学法学研究科は、法や政治をめぐって長い歴史と伝統の中で培われてきた学問と取り組み、法や政治にかかわる賢慮 (prudence) を追究することを通じて、高度の研究能力、精深な学識、実践的な専門知を涵養し、法的ルールや歴史的に形成された社会構造についての深い造詣に基づき、現代における法や政治に関する考察を加え、日本や世界の社会が今後有すべき諸秩序の構想に貢献できる人材を育成することを目標としています。

そのために、法学研究科は、まず、法や政治にかかわる様々な課題に対して的確な問題設定を行い、適切な分析・対処方法を選び、それを確実に適用していくことのできる能力を養い得る人材を、幅広く受け入れることに努めています。そして、そのような学生の素質をそれぞれ最大限にのばすため、博士前期課程を総合法政プログラム・研究者養成プログラム・知的財産法プログラムの3プログラムから構成し、高度専門職業人、教養・国際性・デザイン力を備えた研究者、知的財産法の専門家などの養成に取り組んでいます。また、博士後期課程において、学生が、専門的な研究活動を自立的に遂行できる高度な研究能力と、その基礎となる学識を修得することによって、大学教員などの研究者や高度専門職業人として活躍できる人材を、今後とも数多く社会に送り出すことを目指しています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学ディプロマ・ポリシーのもとで、法学研究科では、法や政治にかかわる賢慮 (prudence) を追究することを通じて、高度の研究能力、精深な学識、実践的な専門知を涵養し、法的ルールや歴史的に形成された社会構造についての深い造詣に基づき、現代における法や政治に関する考察を加え、日本や世界の社会が今後有すべき諸秩序の構想に貢献できる人材に学位を授与します。

博士前期課程を修了するためには、法学・政治学における研究能力、及び高度の専門性が求められる職業を担うための能力を有し、専攻分野の発展に貢献する研究内容を含む修士論文を作成することが必要です。すなわち、各プログラムそれぞれ所定の必修科目・選択必修科目等を含む科目履修によって所定の単位を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、修士 (法学) の学位を授与します。

博士後期課程では、法学・政治学の分野において、論理的整合性を保ちつつ、高いオリジナリティを有し、未知の事象・事物の発見、新しい理論や政策的・実践的提言の構築・展開、新しい学問的概念の提出、歴史的事実の再評価など、学問的理論やその応用に関する重要な貢献をなすもの、すなわち十分な学術的価値を有する博士論文を作成し提出し、博士論文の学術内容を含む分野に関する十分な全般的知識を有し、独立した研究者として研究を遂行できる学力を有すると認められる学生に博士 (法学) の学位を授与します。具体的には、学生は、研究指導を受け、所定の科目履修によって所定の単位を修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学カリキュラム・ポリシーのもとで、法学研究科の博士前期課程では、総合法政プログラム・研究者養成プログラム・知的財産法プログラムの3プログラムを設け、教養・国際性・デザイン力を備えた研究者、高度専門職業人、及び知的財産法の専門家などの養成を図っています。いずれのプログラムにおいても、各学生には担任教員を充て、科目履修や学習計画等について学修をサポートしコーディネートする体制を整えています。出席点評価、筆記試験又は論文試験などの方法で、科目の特質に応じた単位認定を行います。

総合法政プログラムでは、法と政治をめぐるさまざまな問題について、実際的な問題を念頭におきつつ、多様な開講科目の履修や個別の指導を通じて幅広く学ぶことができます。

研究者養成プログラムでは、国際的な比較を重視しつつ、理論的・体系的に法学・政治学についての理解を深め、将来専門研究者となるための基礎を身につけることができます。

知的財産法プログラムは、知的財産法について、基本的な知識・理解の上に、高度な応用力を身につけ、知的財産の分野で活躍できる人材を養成することを目標としています。

法学研究科の博士後期課程では、教養・国際性・デザイン力を備えた上で、専門的な研究活動を自立的に遂行できる高度な研究能力と、その基礎となる学識を修得させることによって、大学教員などの研究者や高度専門職業人として活躍できる人材を輩出することを目指しています。各学生に指導教員を充て、博士論文作成に向け、研究をサポートしコーディネートする体制を整えています。

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学アドミッション・ポリシーのもとで、法学研究科の博士前期課程では、学生の進路希望や問題関心に応じて3プログラムを設け、それぞれにふさわしい人材を選抜するための入学試験を行います。いずれの試験でも、学力試験の結果と、研究計画書や成績証明書を総合評価して合格判定を行います。

総合法政プログラムでは、筆記試験(専門科目又は外国語)と口述試験による学力試験を行う一般選抜のほか、留学生特別選抜と社会人特別選抜を行っています。留学生特別選抜を受験するためには一定以上の日本語能力などが要件とされます。社会人特別選抜では筆記試験は課されません。

研究者養成プログラムでは、筆記試験(専門科目及び外国語)と口述試験による学力試験を行います。なお、一定の条件の下で、総合法政プログラムと研究者養成プログラムは併願することができます。

知的財産法プログラムでは、筆記試験(知的財産法)と口述試験による学力試験を行います。

法学研究科の博士後期課程の入学試験では、高度な研究能力をもつ研究者や高度専門職業人として活躍できる資質のある人を選抜します。

入学試験は、まず、一般選抜と社会人特別選抜に大別されます。一般選抜には、修士論文等を作成した人を対象として、論文内容の評価、筆記試験(外国語)及び口述試験を行う「論文試験」と、法科大学院など専門職大学院出身者等を対象として、筆記試験(専門科目及び外国語)と口述試験を行う「学科試験」があります。他方、社会人特別選抜では、修士論文等の評価と口述試験により可否を判定します。

法学研究科

学位プログラム「総合法政」

学位：修士（法学）

教育目標

大阪大学および法学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「総合法政」では以下のとおり教育目標を定めています。

法学研究科は、法や政治をめぐる長い歴史と伝統の中で培われてきた学問と取り組み、法や政治にかかわる賢慮 (prudence) を追究することを通じて、高度の研究能力、精深な学識、実践的な専門知を涵養し、法的ルールや歴史的に形成された社会構造についての深い造詣に基づき、現代における法や政治に関する考察を加え、日本や世界の社会が今後有すべき諸秩序の構想に貢献できる人材を育成することを目標としています。

そのために、法学研究科は、まず、法や政治にかかわる様々な課題に対して的確な問題設定を行い、適切な分析・対処方法を選び、それを確実に適用していくことのできる能力を養い得る人材を、幅広く受け入れることに努めています。そして、そのような学生の素質をそれぞれ最大限にのばすため、博士前期課程を総合法政・研究者養成・知的財産法の3プログラムから構成し、高度専門職業人、教養・国際性・デザイン力を備えた研究者、知的財産法の専門家などの養成に取り組んでいます。また、博士後期課程において、学生が、専門的な研究活動を自立的に遂行できる高度な研究能力と、その基礎となる学識を修得することによって、大学教員などの研究者や高度専門職業人として活躍できる人材を、今後とも数多く社会に送りだすことを目指しています。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および法学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「総合法政」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

法学研究科では、法や政治にかかわる賢慮(prudence)を追究することを通じて、高度の研究能力、精深な学識、実践的な専門知を涵養し、法的ルールや歴史的に形成された社会構造についての深い造詣に基づき、現代における法や政治に関する考察を加え、日本や世界の社会が今後有すべき諸秩序の構想に貢献できる人材に学位を授与します。

博士前期課程を修了するためには、法学・政治学における研究能力、及び高度の専門性が求められる職業を担うための能力を有し、専攻分野の発展に貢献する研究内容を含む修士論文を作成することが必要です。すなわち、各プログラムそれぞれ所定の必修科目・選択必修科目等を含む科目履修によって所定の単位を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、修士(法学)の学位授与します。

このようなポリシーに基づき、学位プログラム「総合法政」では、下記の能力を修得した学生に学位を授与します。

(知識・理解)

1. 法学・政治学の分野における高度の専門的知識を身につけている。
2. 自己の専門分野に関する研究能力を身につけている。

(思考・判断)

3. 現代法や公共政策について長期的なパースペクティブや構造的な視点から考察する力を身につけている。
4. 法や政治が生み出している社会のルールや秩序の意義を自ら考える力を身につけている。
5. 情報技術の発展を中心とする新しいテクノロジーと社会の相互作用について自ら考える力を身につけている。
6. 地域から世界に幾層にも広がる、さまざまな「公」と「私」のインターフェイスで生じるガバナンスの問題を自ら考えることができる。

(関心・意欲)

7. 国や地方自治体、民間企業、国際機関など実務の世界で働く際に法や政治に関する最新の学説を活かす意欲がある。
8. 学問としての法学・政治学の基礎を固めることで、法や政治・行政と関わる職場で活躍する意欲がある。

カリキュラム・ポリシー

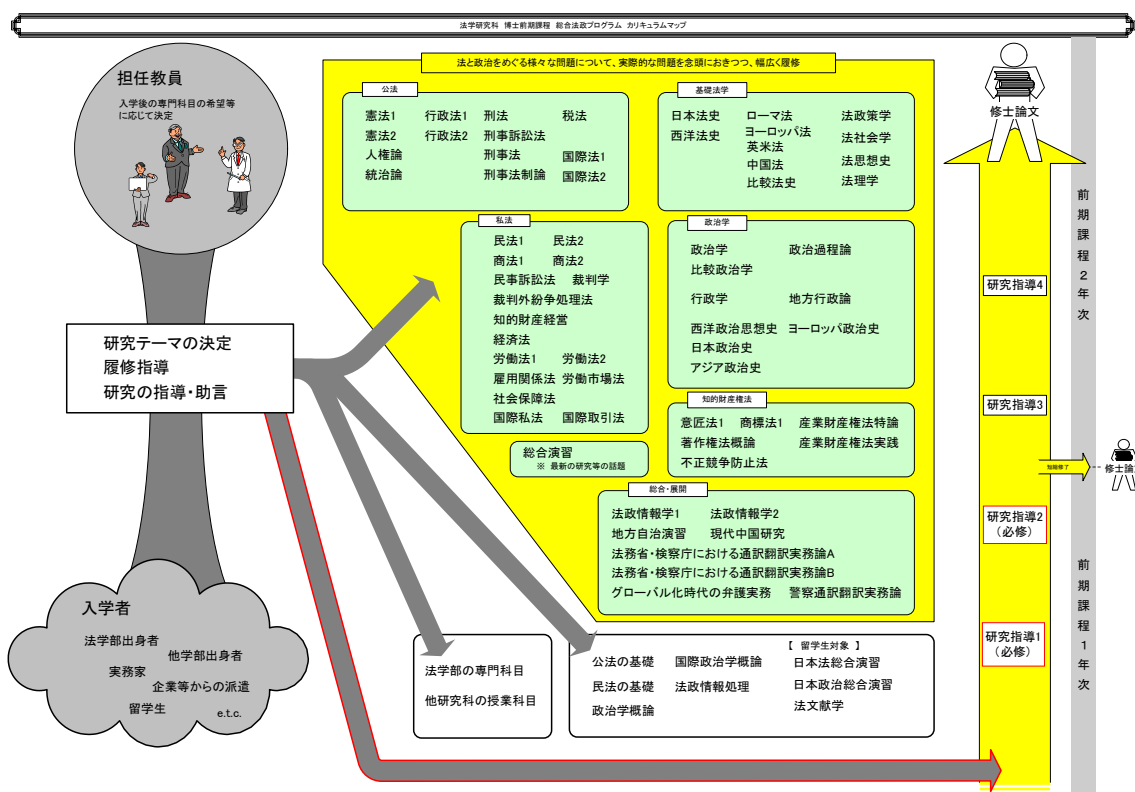
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および法学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「総合法政」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

法学研究科の博士前期課程では、総合法政・研究者養成・知的財産法の3プログラムを設け、教養・国際性・デザイン力を備えた研究者、高度専門職業人、及び知的財産法の専門家などの養成を図っています。いずれのプログラムにおいても、各学生には担任教員を充て、科目履修や学習計画等について学修をサポートしコーディネートする体制を整えています。出席点評価、筆記試験又は論文試験などの方法で、科目の特質に応じた単位認定を行います。

学位プログラム「総合法政」では、法と政治をめぐるさまざまな問題について、実際的な問題を念頭におきつつ、多様な開講科目の履修や個別の指導を通じて幅広く学ぶことができます。その際、法学・政治学に関する基礎的な科目を開講して、法学部以外の学部出身者も法学・政治学の学習にスムーズに入っていけるように配慮しているほか、総合演習としてその時々において特に関心の高いテーマなどについて教育する科目を設けて実社会の需要にも応じています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および法学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「総合法政」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

法学研究科の博士前期課程では、学生の進路希望や問題関心に応じて3プログラムを設け、それぞれにふさわしい人材を選抜するための入学試験を行います。いずれの試験でも、学力試験の結果と、研究計画書や成績証明書等を総合評価して合格判定を行います。

このようなポリシーに基づき、学位プログラム「総合法政」では、下記の能力を修得した受験生を、選抜試験を通して入学させます。

(知識・理解)

1. 大学の学部卒業レベルの法学・政治学の各専門科目についての基礎的な力又は外国語の力を有している。

(思考・判断)

2. 長期的なパースペクティブや構造的な視点から考察する意欲がある。

(技能・表現)

3. 自分の考えを論理的かつ的確に表現し、伝えることができる。

(関心・意欲・態度)

4. 法と政治をめぐるさまざまな問題について、実際的な問題を常に念頭におきつつ、幅広く学びたいという意欲がある。

【入学者選抜の方針】

学位プログラム「総合法政」では、筆記試験(専門科目又は外国語)と口述試験による学力試験を行う一般選抜のほか、留学生特別選抜と社会人特別選抜を行っています。留学生特別選抜を受験するためには一定以上の日本語能力などが要件とされ、また、その筆記試験においては各専門科目を学ぶ素質を問われます。社会人特別選抜では筆記試験は課されません。

法学研究科

学位プログラム「研究者養成」

学位：修士（法学）

教育目標

大阪大学および法学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「研究者養成」では以下のとおり教育目標を定めています。

法学研究科は、法や政治をめぐる長い歴史と伝統の中で培われてきた学問と取り組み、法や政治にかかわる賢慮 (prudence) を追究することを通じて、高度の研究能力、精深な学識、実践的な専門知を涵養し、法的ルールや歴史的に形成された社会構造についての深い造詣に基づき、現代における法や政治に関する考察を加え、日本や世界の社会が今後有すべき諸秩序の構想に貢献できる人材を育成することを目標としています。

そのために、法学研究科は、まず、法や政治にかかわる様々な課題に対して的確な問題設定を行い、適切な分析・対処方法を選び、それを確実に適用していくことのできる能力を養い得る人材を、幅広く受け入れることに努めています。そして、そのような学生の素質をそれぞれ最大限にのばすため、博士前期課程を総合法政・研究者養成・知的財産法の3プログラムから構成し、高度専門職業人、教養・国際性・デザイン力を備えた研究者、知的財産法の専門家などの養成に取り組んでいます。また、博士後期課程において、学生が、専門的な研究活動を自立的に遂行できる高度な研究能力と、その基礎となる学識を修得することによって、大学教員などの研究者や高度専門職業人として活躍できる人材を、今後とも数多く社会に送りだすことを目指しています。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および法学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「研究者養成」では、以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

法学研究科では、法や政治にかかわる賢慮(prudence)を追究することを通じて、高度の研究能力、精深な学識、実践的な専門知を涵養し、法的ルールや歴史的に形成された社会構造についての深い造詣に基づき、現代における法や政治に関する考察を加え、日本や世界の社会が今後有すべき諸秩序の構想に貢献できる人材に学位を授与します。

博士前期課程を修了するためには、法学・政治学における研究能力、及び高度の専門性が求められる職業を担うための能力を有し、専攻分野の発展に貢献する研究内容を含む修士論文を作成することが必要です。すなわち、各プログラムそれぞれ所定の必修科目・選択必修科目等を含む科目履修によって所定の単位を修得し、かつ修士論文の審査及び最終試験に合格した学生に、修士(法学)の学位を授与します。

このようなポリシーに基づき、学位プログラム「研究者養成」では、下記の能力を修得した学生に学位を授与します。

(知識・理解)

1. 法学・政治学の分野において博士後期課程に進学することができるだけの高度の専門的知識を身につけている。
2. 自己の専門分野に関し、博士後期課程で研究を行うだけの能力を身につけている。

(思考・判断)

3. 現代法や公共政策について長期的なパースペクティブや構造的な視点から考察する力を身につけている。
4. 法や政治が生み出している社会のルールや秩序の意義を自ら考える力を身につけている。
5. 情報技術の発展を中心とする新しいテクノロジーと社会の相互作用について自ら考える力を身につけている。
6. 地域から世界に幾層にも広がる、さまざまな「公」と「私」のインターフェイスで生じるガバナンスの問題を自ら考えることができる。

(関心・意欲)

7. 大学をはじめとするさまざまな研究機関において、法学・政治学の研究活動に従事したいという意欲がある。

カリキュラム・ポリシー

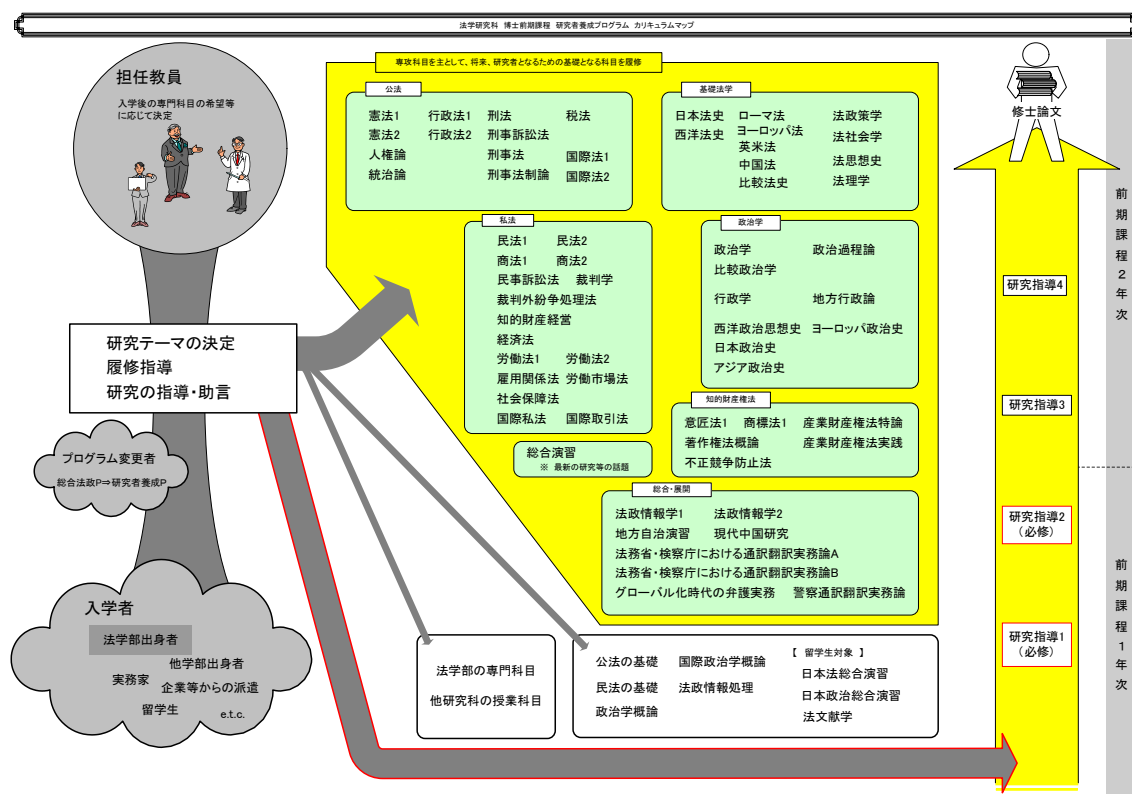
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および法学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「研究者養成」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

法学研究科の博士前期課程では、綜合法政・研究者養成・知的財産法の3プログラムを設け、教養・国際性・デザイン力を備えた研究者、高度専門職業人、及び知的財産法の専門家などの養成を図っています。いずれのプログラムにおいても、各学生には担任教員を充て、科目履修や学習計画等について学修をサポートしコーディネートする体制を整えています。出席点評価、筆記試験又は論文試験などの方法で、科目の特質に応じた単位認定を行います。

学位プログラム「研究者養成」では、法学・政治学の分野で将来専門研究者となるための基礎を身につけるため、系統的に各専門分野の核となる科目を履修します。その際、外国法との比較や歴史的な観点からの研究を重視しつつ、今日的・実地的な問題への関心も喚起し、多角的でしかも深遠な理論の構築を目指します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および法学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「研究者養成」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

法学研究科の博士前期課程では、学生の進路希望や問題関心に応じて3プログラムを設け、それぞれにふさわしい人材を選抜するための入学試験を行います。いずれの試験でも、学力試験の結果と、研究計画書や成績証明書等を総合評価して合格判定を行います。

このようなポリシーに基づき、学位プログラム「研究者養成」では、下記の能力を修得した受験生を、選抜試験を通して入学させます。

(知識・理解)

1. 大学の学部卒業レベルの法学・政治学の各専門科目について専門的研究を遂行していく力を有しており、かつ外国語の力を有している。

(思考・判断)

2. 長期的なパースペクティブや構造的な視点から考察する意欲がある。

(技能・表現)

3. 自分の考えを論理的かつ的確に表現し、伝えることができる。

(関心・意欲・態度)

4. 博士後期課程への進学を前提として、国際的な比較を重視しつつ、理論的、体系的に、法学・政治学についての理解を深めたいという意欲がある。

【入学者選抜の方針】

学位プログラム「研究者養成」では、筆記試験(専門科目及び外国語)と口述試験による学力試験を行います。

法学研究科

学位プログラム「知的財産法」

学位：修士（法学）

教育目標

大阪大学および法学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「知的財産法」では以下のとおり教育目標を定めています。

法学研究科は、法や政治をめぐって長い歴史と伝統の中で培われてきた学問と取り組み、法や政治にかかわる賢慮(prudence)を追究することを通じて、高度の研究能力、精深な学識、実践的な専門知を涵養し、法的ルールや歴史的に形成された社会構造についての深い造詣に基づき、現代における法や政治に関する考察を加え、日本や世界の社会が今後有するべき諸秩序の構想に貢献できる人材を育成することを目標としています。

そのために、法学研究科は、まず、法や政治にかかわる様々な課題に対して的確な問題設定を行い、適切な分析・対処方法を選び、それを確実に適用していくことのできる能力を養い得る人材を、幅広く受け入れることに努めています。そして、そのような学生の素質をそれぞれ最大限にのばすため、博士前期課程を総合法政・研究者養成・知的財産法の3プログラムから構成し、高度専門職業人、教養・国際性・デザイン力を備えた研究者、知的財産法の専門家などの養成に取り組んでいます。また、博士後期課程において、学生が、専門的な研究活動を自立的に遂行できる高度な研究能力と、その基礎となる学識を修得することによって、大学教員などの研究者や高度専門職業人として活躍できる人材を、数多く社会に送りだすことを目指しています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学および法学研究科のディプロマ・ポリシー（学習目標を含む）のもとに、学位プログラム「知的財産法」では、以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

（知識・理解）

1. 特許法や著作権法等の知的財産法に関する専門的な知識を身につけている。
2. 知的財産法について修得した知識について、説明をすることができる。

（思考・判断）

3. 知的財産法に関して理解を深め、修得した知識をグローバルに使いこなすことができる。
4. 知的財産法のなかの自身の関心のあるテーマについて、意見・提案を論理的に説明・表現することができる。

（関心・意欲・態度）

5. 知的財産法に関するテーマについて、積極的に議論に参加し、国際的に研究を発展させる意欲がある。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および法学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「知的財産法」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

法学研究科の博士前期課程では、総合法政・研究者養成・知的財産法の3プログラムを設け、教養・国際性・デザイン力を備えた研究者、高度専門職業人、及び知的財産法の専門家などの養成を図っています。いずれのプログラムにおいても、各学生には担任教員を充て、科目履修や学習計画等について学修をサポートしコーディネートする体制を整えています。平常点評価、筆記試験又は論文試験などの方法で、科目の特質に応じた単位認定を行います。

学位プログラム「知的財産法」では、知的財産法に関する専門的な知識・理解を、理論的及び実務的な観点から、開講科目の履修や個別の指導を通じて幅広く修得することができます。同プログラムでは、昼に開講する総合コースのほか、社会人として知的財産に関わる仕事をしている人等が学習できるよう夜間に特別コースを開講して、幅広い方に知的財産法を学んでもらえるカリキュラムを提供しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

法学研究科知的財産法プログラムカリキュラムマップ

	基幹科目	基礎科目	応用科目	展開科目	
養成される能力	特許法や著作権法等の知的財産法に関する専門的な知識を身につける。	知的財産法について修得した知識について説明をすることができる。	知的財産法に関する特定のテーマについて、議論を深化させることができる。 知的財産法に関して理解を深め、それを使いこなすことができる。	知的財産法のなかの自身の関心のあるテーマについて、意見・提案を論理的に説明・表現することができる。	
2年			産業財産権法分析2 産業財産権法応用1 国際知的財産法	産業財産権法展開 産業財産権関係契約法 産業財産権法演習3 産業財産権法演習4 知的財産法演習 総合演習(特許関係訴訟)	研究指導1～4
1年2学期		特許法2 意匠法2 商標法2 産業財産権関係条約1 産業財産権関係条約2	産業財産権法分析1 産業財産権法実践 産業財産権法演習2		
1年1学期	特許法1 意匠法1 商標法1 著作権法概論 不正競争防止法		産業財産権法特論 産業財産権法基盤 産業財産権法演習1 著作権法分析		

青字 特許法1、意匠法1、商標法1を履修済みであることを履修要件とする。

緑字 特許法1、商標法1を履修済みであることを履修要件とする。

矢印 矢印の始点の科目を履修済みであることを終点の科目の履修要件とする。

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および法学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「知的財産法」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

法学研究科の博士前期課程では、学生の進路希望や問題関心に応じて3プログラムを設け、それぞれにふさわしい人材を選抜するための入学試験を行います。いずれの試験でも、学力試験の結果と、研究計画書や成績証明書等を総合評価して合格判定を行います。

このようなポリシーに基づき、学位プログラム「知的財産法」では、下記の能力を修得した受験生を、選抜試験を通して入学させます。

(知識・理解)

1. 特許法及び著作権法を中心とする知的財産法について、法学部卒業レベルの知識を有している。

(思考・判断)

2. 長期的なパースペクティブや構造的な視点から考察する意欲がある。

(技能・表現)

3. 自分の考えを論理的かつ的確に表現し、伝えることができる。

(関心・意欲・態度)

4. 知的財産法をめぐるさまざまな問題について、実際的な問題を常に念頭におきつつ、幅広く学びたいという意欲がある。

【入学者選抜の方針】

学位プログラム「知的財産法」では、筆記試験(特許法・著作権法を中心とする)と口述試験による学力試験を行います。

法学研究科

学位プログラム「法学・政治学」

学位：博士（法学）

教育目標

大阪大学および法学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「法学・政治学」では以下のとおり教育目標を定めています。

法学研究科は、法や政治をめぐる長い歴史と伝統の中で培われてきた学問と取り組み、法や政治にかかわる賢慮 (prudence) を追究することを通じて、高度の研究能力、精深な学識、実践的な専門知を涵養し、法的ルールや歴史的に形成された社会構造についての深い造詣に基づき、現代における法や政治に関する考察を加え、日本や世界の社会が今後有すべき諸秩序の構想に貢献できる人材を育成することを目標としています。

そのために、法学研究科は、まず、法や政治にかかわる様々な課題に対して的確な問題設定を行い、適切な分析・対処方法を選び、それを確実に適用していくことのできる能力を養い得る人材を、幅広く受け入れることに努めています。そして、そのような学生の素質をそれぞれ最大限にのばすため、博士前期課程を総合法政・研究者養成・知的財産法の3プログラムから構成し、高度専門職業人、教養・国際性・デザイン力を備えた研究者、知的財産法の専門家などの養成に取り組んでいます。また、博士後期課程においては、学生が、専門的な研究活動を自立的に遂行できる高度な研究能力と、その基礎となる学識を修得することによって、大学教員などの研究者や高度専門職業人として活躍できる人材を、今後とも数多く社会に送りだすことを目指しています。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および法学研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「法学・政治学」では以下のとおりディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)を定めています。

法学研究科では、法や政治にかかわる賢慮(prudence)を追究することを通じて、高度の研究能力、精深な学識、実践的な専門知を涵養し、法的ルールや歴史的に形成された社会構造についての深い造詣に基づき、現代における法や政治に関する考察を加え、日本や世界の社会が今後有すべき諸秩序の構想に貢献できる人材に学位を授与します。

博士後期課程では、法学・政治学の分野において、論理的整合性を保ちつつ、高いオリジナリティを有し、未知の事象・事物の発見、新しい理論や政策的・実践的提言の構築・展開、新しい学問的概念の提出、歴史的事実の再評価など、学問的理論やその応用に関する重要な貢献をなすもの、すなわち十分な学術的価値を有する博士論文を作成し提出し、博士論文の学術内容を含む分野に関する十分な全般的知識を有し、独立した研究者として研究を遂行できる学力を有すると認められる学生に博士(法学)の学位を授与します。具体的には、学生は、研究指導を受け、所定の科目履修によって所定の単位を修得し、かつ博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

このようなポリシーに基づき、法学研究科博士後期課程では、下記の能力を修得した学生に学位を授与します。

(知識・理解)

1. 法学・政治学の分野において、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力を身につけている。
2. 高度の研究能力の基礎となる豊かな学識を身につけている。

(思考・判断)

3. 現代法や公共政策について長期的なパースペクティブや構造的な視点から考察する力を身につけている。
4. 法や政治が生み出さう社会のルールや秩序の意義を自ら考える力を身につけている。
5. 情報技術の発展を中心とする新しいテクノロジーと社会の相互作用について自ら考える力を身につけている。
6. 地域から世界に幾層にも広がる、さまざまな「公」と「私」のインターフェイスで生じるガバナンスの問題を自ら考えることができる。

(関心・意欲)

7. 大学をはじめとするさまざまな機関において、法学・政治学の研究活動や、法学・政治学の知見をふまえた実践的活動に従事する際に、博士後期課程で身につけた高度の研究能力と豊かな学識を十分に活用したいという意欲がある。

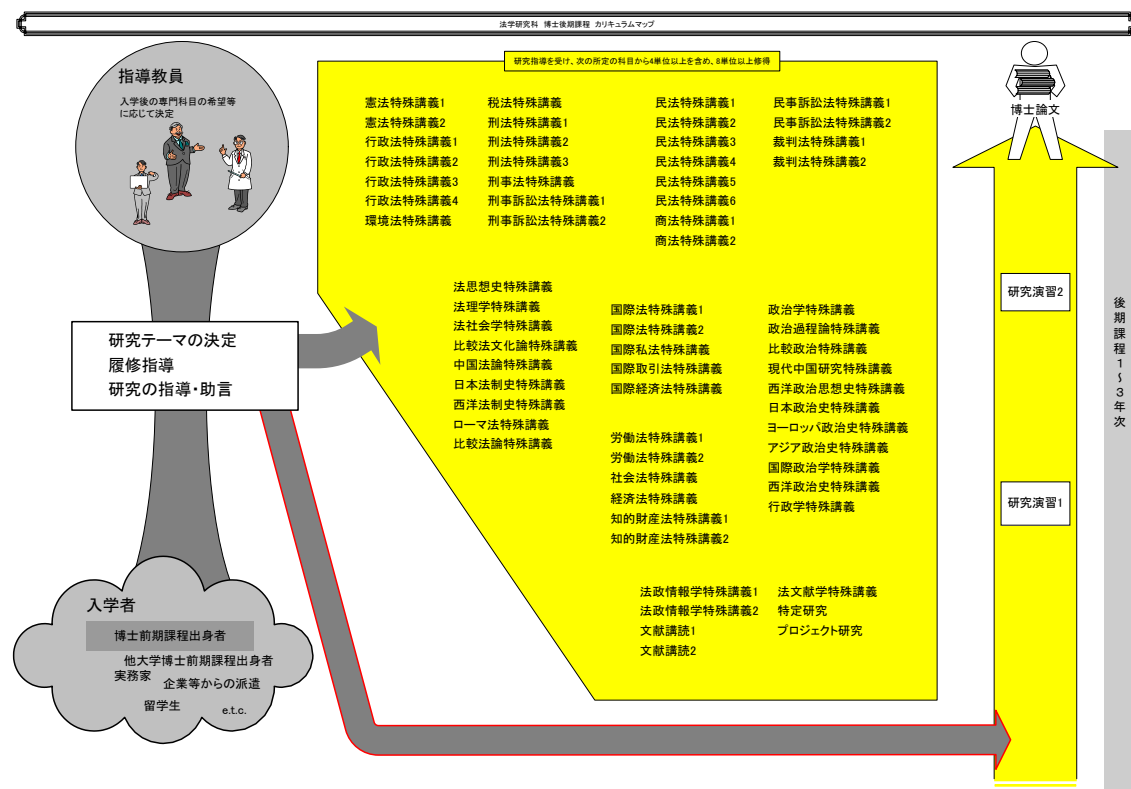
カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および法学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「法学・政治学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学カリキュラム・ポリシーのもとで、学位プログラム「法学・政治学」では、教養・国際性・デザイン力を備えた上で、専門的な研究活動を自立的に遂行できる高度な研究能力と、その基礎となる学識を修得させることによって、大学教員などの研究者や高度専門職業人として活躍できる人材を輩出することを目指しています。各学生に指導教員を充て、博士論文作成に向け、研究をサポートしコーディネートする体制を整えています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および法学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「法学・政治学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「法学・政治学」では、高度な研究能力をもつ研究者や高度専門職業人として活躍できる資質のある人を入学試験で選抜します。

このようなポリシーに基づき、学位プログラム「法学・政治学」では、下記の能力を修得した受験生を、選抜試験を通して入学させます。

(知識・理解)

1. 修士の学位若しくは専門職学位又はこれらに相当するレベルの高度の専門的知識を身につけている。
2. 法学・政治学の分野において自己の専門分野に関し博士後期課程で研究を行うことのできる能力を身につけている。

(思考・判断)

3. 長期的なパースペクティブや構造的な視点から考察する意欲がある。

(技能・表現)

4. 自分の考えを論理的かつ的確に表現し、伝えることができる。

(関心・意欲・態度)

5. 法学・政治学の分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養いたいという意欲がある。

【入学者選抜の方針】

入学試験は、まず、一般選抜と社会人特別選抜に大別されます。一般選抜には、修士論文等を作成した人を対象として、論文内容の評価、筆記試験(外国語)及び口述試験を行う「論文試験」と、法科大学院など専門職大学院出身者等を対象として、筆記試験(専門科目及び外国語)と口述試験を行う「学科試験」があります。他方、社会人特別選抜では、修士論文等の評価と口述試験により合否を判定します。

経済学研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミSSION・ポリシー ■

教育目標

創立以来、日本における経済学研究の発展を担ってきた経済学研究科は、その強みを活かし、また大阪大学の教育目標にしたがい、世界に通用する最先端の経済学や経営学を体系的に習得すること、専門知識を実践に応用する上で必要とされる人間社会あるいは自然界に関する幅広い教養を身につけること、さらには、未解決の問題に対して糸口を見つけ、解決までの道筋を自らのアイデアで作りに上げていくデザイン力を身につけることを目標に、体系的なカリキュラムと徹底した少人数教育の体制を整えています。経済学専攻と経営学系専攻から構成されます。

経済学専攻の博士前期課程には、経済学コース、応用経済コース、歴史コースの3コース、経営学系専攻には、経営研究コース、MOTコース、ビジネス・コース、グローバル・マネジメントコースの4コースがあり、学生のニーズに応じた多様なカリキュラムを用意しています。研究者と高度な知識をもった職業人の養成をめざしています。グローバル化の時代に対応できるよう、いくつかの科目は英語で行われます。

経済学専攻と経営学系専攻の両方に、博士前期課程で身につけた知識と思考力をさらに高めることを目的として、博士後期課程が用意されています。博士後期課程では、指導教員のもとで博士論文を作成していくことになります。世界に通用する研究者の養成を主な目的としますが、職業人の知識の高度化もめざします。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

経済学研究科は、大阪大学のディプロマ・ポリシーに則り、博士前期課程教育を通じて以下の基準を満たす学生に、修得した専門分野に応じて、修士(経済学)、修士(応用経済学)、または修士(経営学)の学位を授けます。

- (1) 世界に通用する経済学や経営学の先端知識を体系的に習得している
- (2) 論理的に思考する能力をもっている
- (3) 専門知識にもとづいて現実の経済・経営問題を理解する方法を習得している
- (4) 人間社会および自然界に関する高度な教養を身につけている
- (5) 未解決の問題に対して、解決までの道筋を自らのアイデアで作りに上げていくデザイン力を備えている
- (6) 自国の経済問題だけでなくグローバルな諸問題にも関心をもっている
- (7) 日本人および外国人と心を開いて対話するコミュニケーション能力がある
- (8) 自分の考えや意見を論理的に、そして説得力をもって話したり書いたりする能力を身につけている

また、博士後期課程教育を通じて、上記の基準を満たす能力をさらに高めることができた認められる学生、または同等の学力を確認することができた者に対して、博士(経済学)、博士(応用経済学)、または博士(経営学)の学位を授けます。

修士および博士の学位には、最先端の研究者として、あるいは高度な知識をもった職業人として、将来、大きな成果をあげてほしいという期待が込められています。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学の研究科カリキュラム・ポリシーのもとに、経済学研究科では、教育目標にしたがった多様で体系的なカリキュラムを用意しています。

経済学専攻博士前期課程においては、経済学コースと応用経済コースではミクロ経済学、マクロ経済学、エコノメトリックス等、歴史コースでは経済史、経営史等、当該分野に必要な基礎知識を学んだ上で最先端の高度な専門知識の習得へと進み、得られた知識や思考法を用いて教員の指導のもとで学位論文や特定の課題についての研究を完成するという体系的なカリキュラムになっています。

経営学系専攻の博士前期課程も、多様で体系的なカリキュラムを提供しています。研究者養成を主目的とする経営研究コースでは、まず、それぞれの研究分野に必要な基礎知識を学習した上で、より専門的な知識や思考法を習得し、それらを用いて教員指導のもと学位論文を作成していくカリキュラムとなっており、特に教員の研究指導が重視されています。MOTコース、ビジネス・コース、グローバル・マネジメントコースでは、多様な人材を育てるために、基礎的な知識を学んだ上で、専門知識への習得へ進み、教員指導のもと学位論文や特定の課題についての研究を完成していく体系的なカリキュラムとなっています。博士前期課程の多くの科目では、試験、課題や報告の内容、参加の姿勢などによって総合的に評価され、学位論文や課題研究につながる研究指導では、報告や議論の内容などによって評価されます。

博士後期課程では、経済学専攻、経営学系専攻とも、指導教員のもとで学位論文を作成することに重点が置かれます。最先端の専門論文や専門書を読み、独創性のある研究成果を学会等で発表し、海外や国内の査読付き学術誌に論文を投稿し、学位論文の完成につなげていきます。博士後期課程の多くの科目や研究指導も、博士前期課程と同様の方法によって評価されます。

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもと、経済学研究科は、世界最先端の経済学・経営学の知識を体系的に習得するための忍耐力と論理的思考能力、専門知識を実践に応用する上で必要とされる教養に対する旺盛な知的好奇心、未解決の問題に対して糸口を見つけ解決への道筋を自らのアイデアで作り上げていくデザイン力、さらには、英語力を含むコミュニケーション能力の素養をもった人材を求め、多様な方法によって選抜します。

- (1) 博士前期課程の選抜においては、経済学および経営学に関する知識、数学や統計学等の分析手法の習得度、そして英語力を筆記試験によって判定します。また、入学願書とともに提出される研究計画書にもとづいた口頭試問を行うことによって、志望する分野において必要とされる基礎的な能力を備えているか、修士論文作成に対する意欲と展望をもっているか、さらには、論理的思考能力、知的好奇心、デザイン力、そしてコミュニケーション能力をもっているか否かを判定します。
- (2) 博士後期課程については、最先端の知識をもった研究者の育成が中心となるため、選抜に際しては、博士前期課程で身に付けた知識や分析手法の習得度、論理的思考能力、研究成果を海外へ発信するための英語力について、口頭試問によって判定します。さらに、入学願書とともに提出される修士論文(あるいは、それに代わる研究論文)と研究計画書を評価することによって、博士論文作成に向けた研究テーマの学術的発展性と学生の研究遂行能力を判定します。

経済学研究科

学位プログラム「経済学」

学位：修士(経済学)、修士(応用経済学)
博士(経済学)、博士(応用経済学)

教育目標

大阪大学および経済学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「経済学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「経済学」は、創立以来日本における経済学研究の発展を担ってきた経済学研究科において、「経済」の本来の意味である「経世済民」——世を経(おさ)め、民を済(すく)う——の精神にもとづいて、人類の幸福の向上に努めようとする「温かい心」(warm heart)をもった人材、そして日本や世界で生起するさまざまな経済・社会現象に関する法則を理論的、実証的、歴史的にとらえる「冷静な頭脳」(cool head)をもった人材の育成をめざします。

学位プログラム「経済学」では、高い研究水準の強みを活かし、最先端の経済学を体系的に習得すること、専門知識を実践に应用する上で必要とされる人間社会や自然界に関する幅広い教養を身につけること、未解決の問題に対して糸口を見つけ、解決までの道筋を自らのアイデアで作り上げていくデザイン力を身につけることを目標に、体系的なカリキュラムと徹底した少人数教育の体制を整えています。グローバル化の時代に対応できるよう、いくつかの科目は英語で行われます。

博士前期課程には、経済学コース、応用経済コース、および歴史コースの3コースがあります。経済学コースは、研究者の養成を主な目的とし、マクロ経済学、ミクロ経済学、エコノメトリックスを共通の知的基盤として、最新の知識を習得します。応用経済コースは、高度な知識をもった職業人の養成を主な目的とし、政策やビジネスへの応用という視点から先端知識を学びます。歴史コースは、さまざまな国や時代の事実を丹念に学ぶことによって経済の本質を探究するコースで、多様な実学を理解し得る人材の育成をめざします。

博士前期課程で身につけた知識と思考力をさらに高めるために、博士後期課程が用意されています。博士後期課程は特にコースを定めず、教員の指導のもとに専門論文を作成し、学会等で研究発表し、最終的には博士論文を完成します。世界に通用する研究者の養成を主な目的としますが、職業人の知識の高度化もめざします。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および経済学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「経済学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「経済学」では、博士前期課程教育を通じて以下の基準を満たす学生に、修得した専門分野に応じて、修士(経済学)または修士(応用経済学)の学位を授けます。

- (1) 世界に通用する経済学の先端知識を体系的に習得している
- (2) 論理的に思考する能力をもっている

- (3) 専門知識にもとづいて現実の経済問題を理解する方法を習得している
- (4) 人間社会および自然界に関する高度な教養を身につけている
- (5) 未解決の問題に対して、解決までの道筋を自らのアイデアで作り上げていくデザイン力を備えている
- (6) 自国の経済問題だけでなくグローバルな諸問題にも関心をもっている
- (7) 日本人および外国人と心を開いて対話するコミュニケーション能力がある
- (8) 自分の考えや意見を論理的に、そして説得力をもって話したり書いたりする能力を身につけている

学位授与の前提となる各授業科目の単位認定については、授業への参加状況、試験の結果、レポートや論文の水準など、科目に応じた評価方法にもとづいて、厳正かつ公平に行います。修士論文の審査についても、複数の審査委員によって厳正に行います。

また、博士後期課程教育を通じて、上記の基準を満たす能力をさらに高めることができた認められる学生、または同等の学力を確認することができた者に対して、修得した専門分野に応じて、博士（経済学）または博士（応用経済学）の学位を授けます。博士論文の審査については、複数の審査委員によって厳正に行います。

修士および博士の学位には、最先端の研究者として、あるいは高度な知識をもった職業人として、将来、大きな成果をあげてほしいという期待が込められています。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および経済学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「経済学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

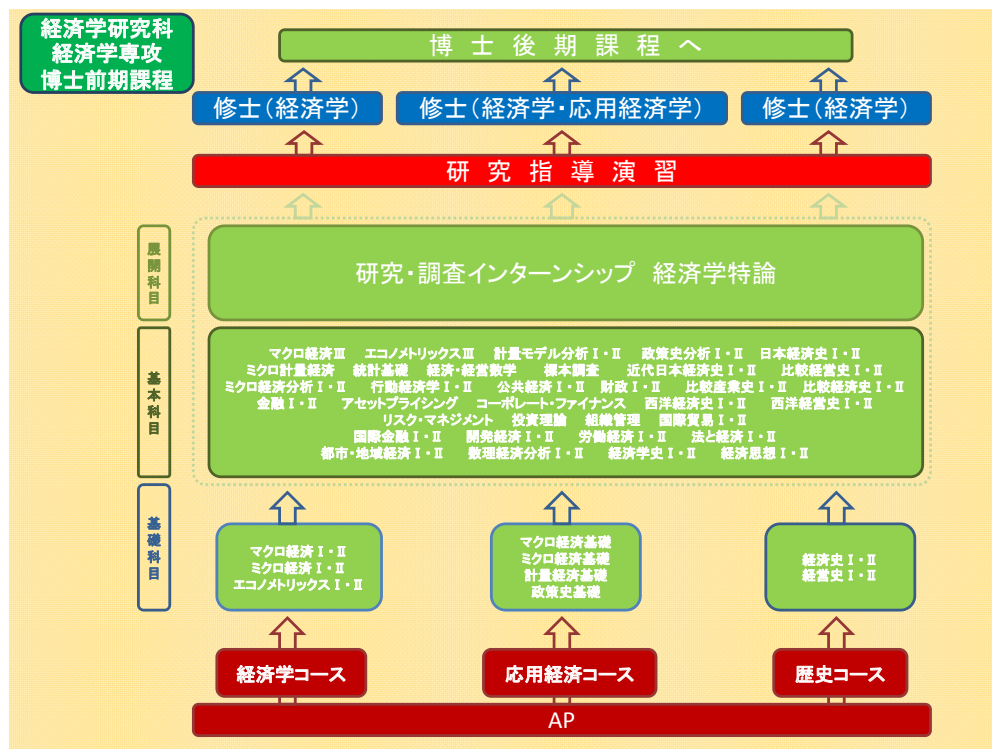
学位プログラム「経済学」は以下のように多様で体系的なカリキュラムを用意しています。

博士前期課程では、経済学コース、応用経済コース、歴史コースを設置しています。経済学コースは研究者養成を主な目的とし、応用経済コースでは、主として高度な知識をもった職業人の養成をめざし、歴史コースでは多様な実学を理解し得る人材の育成をめざします。研究者養成、高度職業人という違いはありますが、人類の幸福の向上に努めようとする「温かい心」と、経済・社会現象に関する法則を理論的、実証的、歴史的にとらえようとする「冷静な頭脳」をもった人材の育成をめざすことに変わりはありません。経済学コースと応用経済コースでは、まず、ミクロ経済学、マクロ経済学、エコノメトリックス等、歴史コースでは、経済史、経営史等それぞれの分野の研究に必要な基礎知識を学び、その上で、最先端の高度な専門知識を習得し、最後に、得られた知識や思考法を用いて、教員の指導のもとで学位論文や特定の課題についての研究を完成していくという、体系的なカリキュラムとなっています。グローバル化に対応し、英語による授業も行っています。経営学系専攻科目や大学院横断教育科目等を履修することによって、高度な教養力も身につけることもできます。学位論文や課題研究を通じて、問題を発見し、最先端の知識を用いて解決していくデザイン力、および指導教員や学友との対話を通じて知見を深めていくコミュニケーション能力を養うことがめざされます。講義科目の多くでは、試験をもとに課題への取組などを考慮し総合的に評価され、一定の評価を受けた場合、単位が認定されます。

博士後期課程では、前期課程で身に付けた知識と思考力をさらに発展させ、教員の指導のもとで学術雑誌に掲載可能な質の高い研究論文を作成し、それらを学位論文としてまとめていくことに重点が置かれます。授業科目の多くでは、課題への取り組みなどを総合的に評価したうえで、一定の評価を受けた場合に単位が認定されます。研究成果を積極的に海外へ発信することを推奨しており、論文を英

語で執筆して国際学会で報告することや、博士前期課程・後期課程を通じて海外の大学院で勉強するための、サポート体制も充実しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および経済学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「経済学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

【入学者選抜の方針】

学位プログラム「経済学」は、世界最先端の経済学の知識を体系的に習得するための忍耐力と論理的思考能力、専門知識を実践に応用する上で必要とされる教養に対する旺盛な知的好奇心、未解決の問題に対して糸口を見つけ解決への道筋を自らのアイデアで作り上げていくデザイン力、さらには、英語力を含むコミュニケーション能力の素養をもった人材を求め、多様な方法によって選抜します。

博士前期課程の選抜においては、経済学に関する知識、数学や統計学等の分析手法の習得度、そして英語力を筆記試験によって判定します。また、入学願書とともに提出される研究計画書にもとづいた口頭試問を行うことによって、志望する分野において必要とされる基礎的な能力を備えているか、修士論文作成に対する意欲と展望をもっているか、さらには、論理的思考能力、知的好奇心、デザイン力、そしてコミュニケーション能力をもっているか否かを判定します。

博士後期課程については、最先端の知識をもった研究者の育成が中心となるため、選抜に際しては、博士前期課程で身に付けた知識や分析手法の習得度、論理的思考能力、研究成果を海外へ発信するための英語力について、口頭試問によって判定します。さらに、入学願書とともに提出される修士論文(あるいは、それに代わる研究論文)と研究計画書を評価することによって、博士論文作成に向けた研究テーマの学術的発展性と学生の研究遂行能力を判定します。

経済学研究科

学位プログラム「経営学系」

学位：修士（経営学）、修士（経済学）
博士（経営学）、博士（経済学）

教育目標

大阪大学および経済学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「経営学系」は以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「経営学系」では、複雑化・グローバル化したビジネス世界の中で、高度な経営学系の知識とスキルを習得し、研究者や専門職業人として、国際的に活躍できる人材を育成します。個別教員の徹底した指導の下、基礎から最先端の知識まで体系的に習得することのできるカリキュラムを提供します。

博士前期課程は、経営研究コース、MOTコース、ビジネス・コース、グローバル・マネジメントコースの4コースを置いています。経営研究コースは、研究者の育成を主な目的としています。MOTコースは、工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻との連携のもと、技術の知識をもった経営者と経営の知識をもった技術者の養成をめざします。連携科目を習得した修士（工学）の取得者は、1年間で修士（経営学）あるいは修士（経済学）を取得することが可能です。ビジネス・コースは、高度な専門知識をもった職業人の養成を第一の目的とします。グローバル・マネジメントコースは、言語・文化・グローバル経済・地域などの総合的な視野をもって都市や地域あるいは技術開発の問題に取り組む人材の育成をめざします。

博士前期課程で身につけた知識と思考力をさらに高めるために、博士後期課程が用意されています。博士後期課程では、教員の指導のもとに専門論文を作成し、学会等で研究発表し、最終的には博士論文を完成します。世界に通用する研究者の養成を主な目的としますが、それぞれの専門分野で指導的な立場となれる高度な職業人の育成もめざします。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学および経済学研究科のディプロマ・ポリシー（学習目標を含む）のもとに、学位プログラム「経営学系」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「経営学系」は、大阪大学のディプロマ・ポリシーに則り、博士前期課程教育を通じて以下の基準を満たす学生に、修得した専門分野に応じて、修士（経営学）または修士（経済学）の学位を授けます。

- (1) 世界に通用する経営学系の専門分野に関する先端知識を習得している
- (2) 論理的に思考する能力をもっている
- (3) 専門知識にもとづいて現実の経営・経済に係る問題を理解する方法を習得している
- (4) 人間社会および自然界に関する高度な教養を身につけている
- (5) 未解決の問題に対して、解決までの道筋を自らのアイデアで作り上げていくデザイン力を備えている

- (6) 自国の経営・経済に係る問題だけでなくグローバルな諸問題にも関心をもっている
 - (7) 日本人および外国人と心を開いて対話するコミュニケーション能力がある
 - (8) 自分の考えや意見を論理的に、そして説得力をもって話したり書いたりする能力を身につけている
- 学位授与の前提となる各授業科目の単位認定については、授業への参加状況、試験の結果、レポートや論文の水準など、科目に応じた評価方法にもとづいて、厳正かつ公平に行います。修士論文の審査についても、複数の審査委員によって厳正に行います。

また、博士後期課程の教育を通じて、上記の基準を満たす能力をさらに高めることができたと思われる学生、または同等の学力を確認することができた者に対して、修得した専門分野に応じて、博士(経営学)または博士(経済学)の学位を授けます。博士論文の審査については、複数の審査委員によって厳正に行います。

修士および博士の学位には、最先端の研究者として、あるいは高度な知識をもった職業人として、将来、大きな成果をあげてほしいという期待が込められています。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

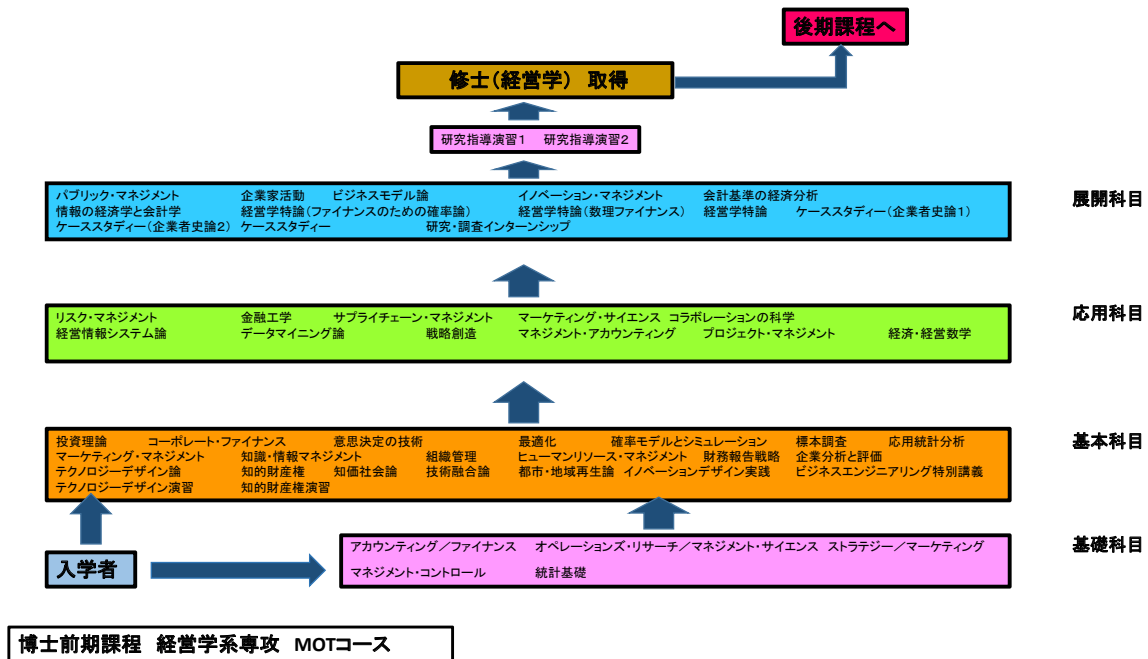
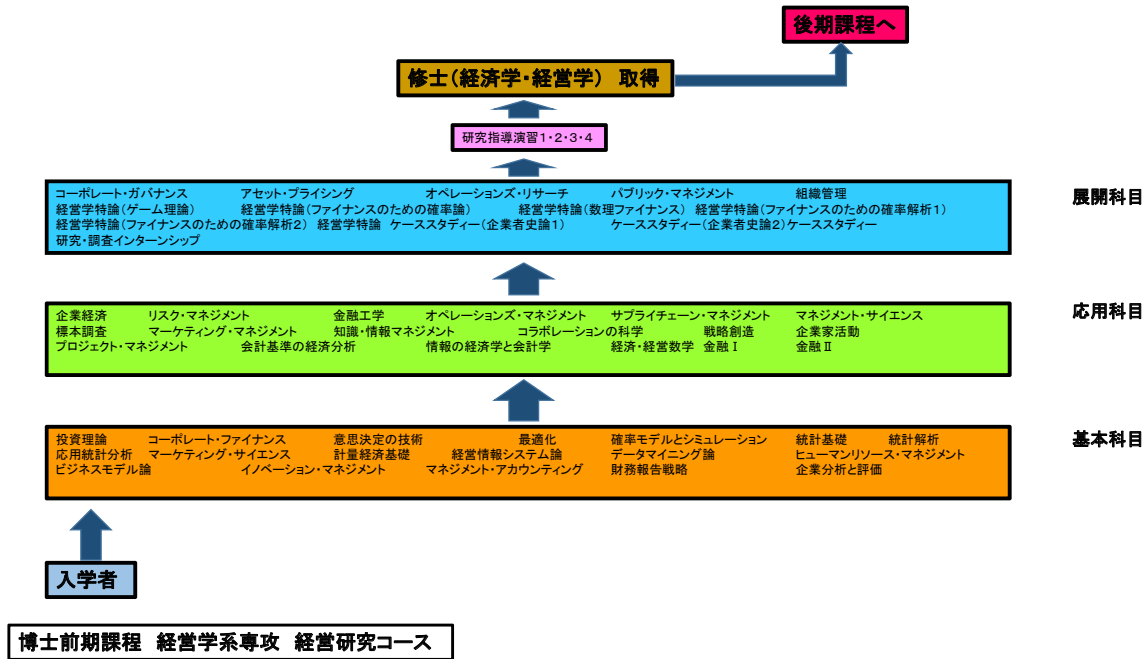
大阪大学および経済学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「経営学系」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

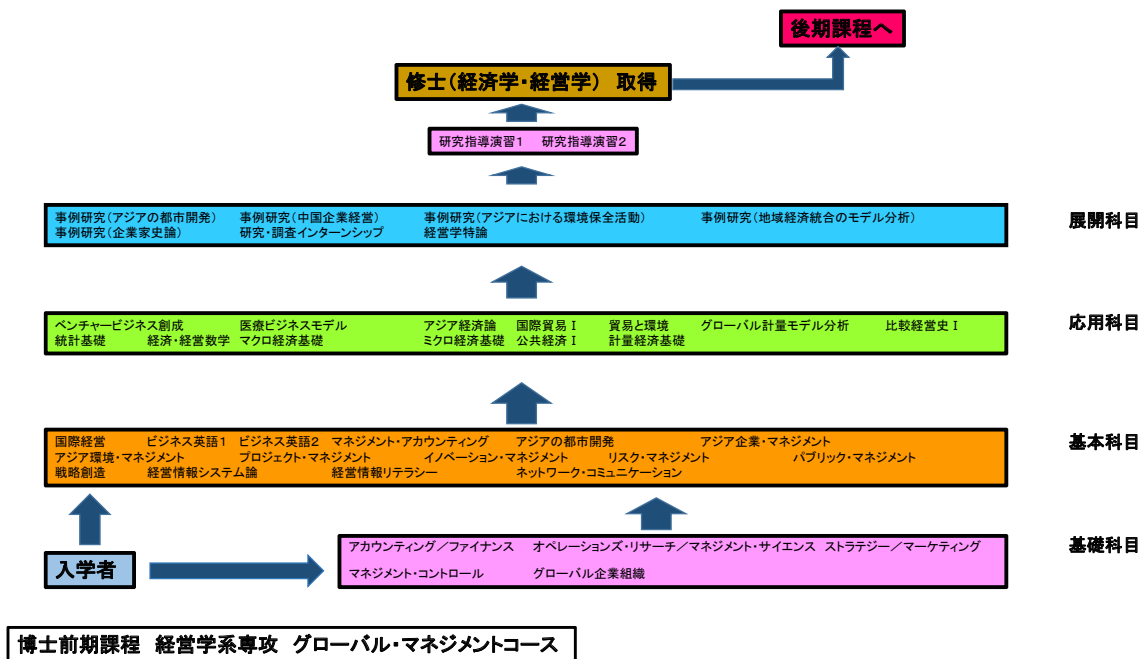
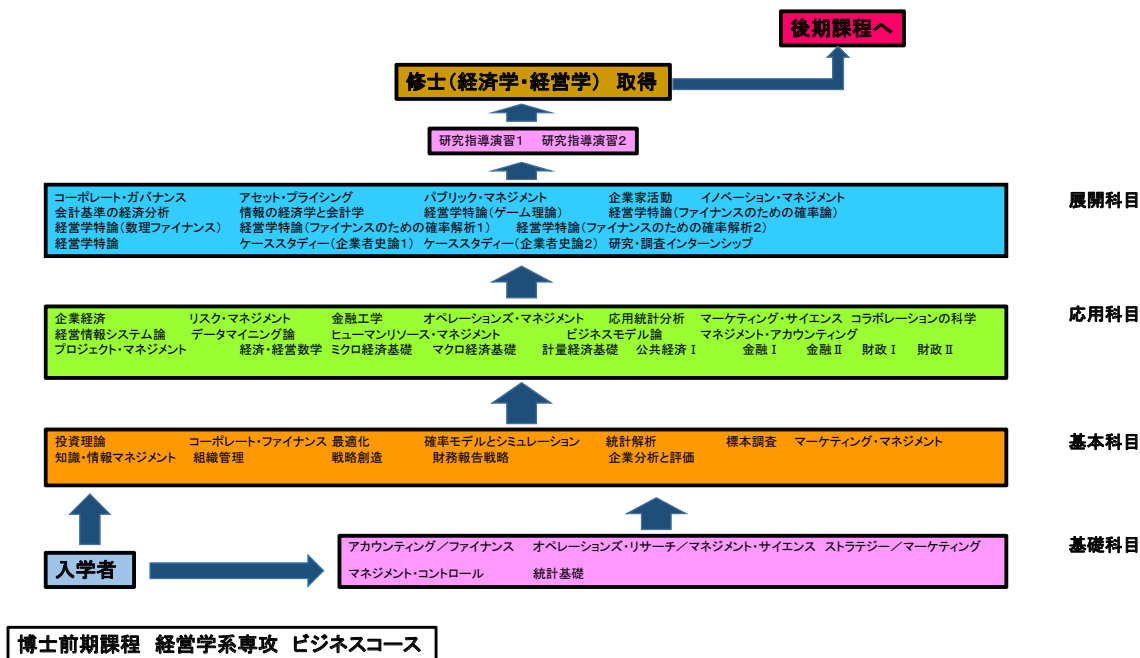
学位プログラム「経営学系」では、教育目標にしたがった多様で体系的なカリキュラムを用意しています。

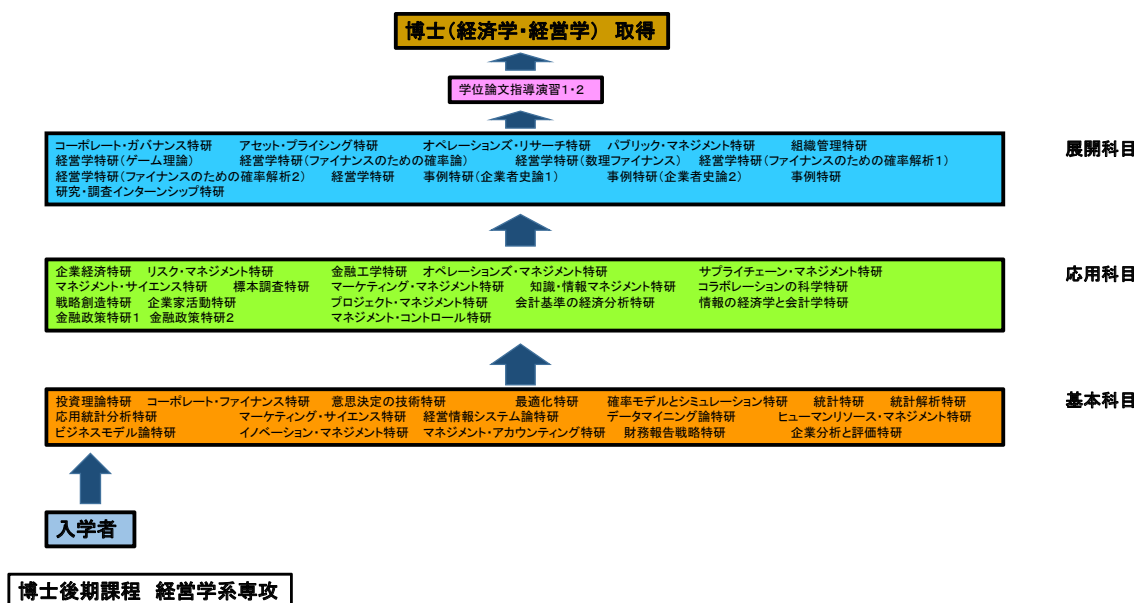
経営学系専攻の博士前期課程では、経営学、会計学、経営科学、マーケティング、ファイナンス等の分野の科目、および分析力を担保するための情報と統計に関する科目を提供しています。このようにバラエティーに富んだ科目の提供と同時に、論文指導演習を通じた研究指導を行っています。これは、高い専門性を持ち、同時に様々なビジネス・シーン等に対応できる人材を育成するためのものです。修了後の進路に応じて、経営研究コース、MOTコース、ビジネス・コース、グローバル・マネジメントコースの4コースを用意しています。経営研究コースでは、特定の分野についての深い知識を持ち、自主的に研究を行える人材を養成します。MOTコースでは、工学研究科と連携したカリキュラムを提供し、技術の知識をもった経営者および経営の知識をもった技術者を養成します。ビジネス・コースでは、ビジネス分野において求められる高度な専門知識を備えた職業人を養成します。グローバル・マネジメントコースでは、経営、経済、言語・文化、都市・地域などに係る科目を提供し総合的な教育を行い、グローバルな視点をもって都市や地域の問題や技術開発に取り組む人材を育成をします。このような多様な科目とコースの構成に加え、国外の協定校との交換留学などにより国際性を高めるとともに、全学の分野横断的な教育プログラムに科目を提供し、幅広い視点をもつデザイン力のある人材の育成をめざします。講義科目の多くでは、試験をもとに課題への取組などを考慮し総合的に評価され、60点以上の評価を受けた場合、単位が認定されます。

博士後期課程では、前期課程で身に付けた知識と思考力をさらに発展させ、教員の指導のもとで学術雑誌に掲載可能な質の高い研究論文を作成し、それらを学位論文としてまとめていくことに重点が置かれます。授業科目の多くでは、課題への取り組みなどを総合的に評価したうえで、60点以上の評価を受けた場合に単位が認定されます。研究成果を積極的に海外へ発信することを推奨しており、論文を英語で執筆して国際学会で報告することや、博士前期課程・後期課程を通じて海外の大学院で勉強するための、サポート体制も充実しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】







アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

【入学者選抜の方針】

大阪大学および経済学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「経営学系」は以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「経営学系」では、バラエティーに富みかつ最先端の経営学系の知識を習得するための忍耐力と論理的思考能力、専門知識を実践に応用する上で必要とされる教養に対する旺盛な知的好奇心、未解決の問題に対して糸口を見つけ解決への道筋を自らのアイデアで作り上げていくデザイン力、さらには、英語力を含むコミュニケーション能力の素養をもった人材を求め、多様な方法によって選抜します。

博士前期課程の選抜においては、コースや専門とする分野に応じて、経営学や会計学に関する基礎的な知識、数学や統計学等の分析手法の習得度、そして英語力を筆記試験によって判定します。また、入学願書とともに提出される研究計画書にもとづいた口頭試問を行うことによって、志望する分野において必要とされる基礎的な能力を備えているか、修士論文作成に対する意欲と展望をもっているか、さらには、論理的思考能力、知的好奇心、デザイン力、そしてコミュニケーション能力をもっているかを判定します。

博士後期課程については、最先端の知識をもった研究者の育成が中心となるため、選抜に際しては、博士前期課程で身に付けた知識や分析手法の習得度、論理的思考能力、研究成果を海外へ発信するための英語力について、口頭試問によって判定します。さらに、入学願書とともに提出される修士論文(あるいは、それに代わる研究論文)と研究計画書を評価することによって、博士論文作成に向けた研究テーマの学術的発展性と学生の研究遂行能力を判定します。

理 学 研 究 科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、理学研究科では主に理学を通じた高度な教育を行います。理学は真理探究を目的としたすべての自然科学の基盤であり、今日の科学技術を支える礎です。また、社会発展のための基盤であると同時に、人類全体の文化的・知的な財産にもなっています。自然科学の美しさや深遠さの魅力を追求して、それらを研究成果として結実させるためには、より高度な学問的素養を身につけ、広い視野と科学的思考力を持ち、またそれを実践する方法論を修得しなければなりません。このような人材こそが、将来はグローバルに分野を超えて活躍できると考えています。大阪大学大学院理学研究科では、上に述べたような自然科学の特徴を踏まえて、基礎科学の最先端研究を通じた教育を行い、特定の分野だけに偏らない幅広い自然科学の素養に基づく柔軟な発想から、自然に対して鋭い直感力と的確な判断力を養うとともに、阪大のルーツである懐徳堂と適塾を生んだ大阪の風土を引き継いで基礎研究を重視し、それらが先進的な研究に結びつくことも教育の視野に入れています。そして大学院での課程修了後には大学・公的機関・企業等での研究職・技術開発職・教育職などの広い分野でリーダーとして国際的に貢献できる人材を育成することを目標としています。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもと、理学研究科では理学部を創設し初代の大阪大学総長となった長岡半太郎先生の言葉である「勿嘗糟粕(そうはくをなめるなかれ)」の精神に則り、自然科学の探求において形だけをまねず、真理追求の中で理学の本質を学び、理学研究科の提供する科目構成で得られる能力を身につけた学生に学位を授与します。

- ・ 博士前期課程修了者は、広い分野で活躍できる研究能力と基礎学力、及び研究成果を発表する能力を身につけています。
- ・ 博士後期課程修了者は、自立して研究を行える高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識、および英語による学術論文の作成と発表能力を身に付けています。
- ・ 学生の希望するキャリアに応じて、①専門分野の最先端までの専門知識、②英語のコミュニケーション能力と研究発表能力、③基礎研究を企業等での応用研究に生かす能力、④高等学校教員として課題研究等の指導能力を身につけています。
- ・ 「超域イノベーション博士課程プログラム」修了者は、特定分野の高い専門性から全体を俯瞰し、その専門性を別分野でも活かす能力を身につけています。
- ・ 「生体統御ネットワーク医学教育プログラム」修了者は、生体システムを統合的に理解し、生命現象を俯瞰的に捉える能力を身につけています。
- ・ 「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」修了者は、既成概念や手法に捉われず、自ら新しい物質科学研究・事業のトレンドを生む能力を身につけています。
- ・ 大学院副専攻プログラム、高度副プログラム、高度教養プログラムの修了者は、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野で対象を考える能力を身につけています。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもと、理学研究科では6専攻のいずれかに所属し、各専攻の専門分野における知識・能力を身につけ、自ら実践して研究を遂行できる能力を身に付けるために下記のカリキュラムを履修し、試験・レポート等に合格したのち単位を与えられます。

- ・各専攻が開講する専門科目を履修し、専門分野の最先端までの知識を身につけます。
- ・博士前期課程では、教員の指導の下で最先端の研究を行い、実践的な研究方法を身につけます。また、各研究室・研究グループのセミナーに参加して研究の進捗状況を報告、得られた結果について討論し、教員の指導の下に修士論文を作成します。
- ・博士後期課程では、教員の助言を受け、最先端の研究を立案・実施し、学位論文を作成します。また、各研究室・研究グループの特別セミナーに参加して研究の進捗状況を報告、得られた結果について討論し、最終的に博士論文を作成します。
- ・各々の進路に合わせた大学院教育プログラムを履修し、大学での研究者・教育者、独立法人研究所等での研究者、企業等での研究者、高校等での高度専門型理系教育指導者等に必要な能力・技能の取得、またグローバルに活躍できる能力を身に付けます。
- ・所定の審査を受けた後に「リーディングプログラム」や「大学院オナーコース」でのプログラム履修し、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーの能力を身につけます。
- ・専攻共通科目・副専攻プログラム・高度副プログラム・高度教養プログラムにより、より広い分野の知識や応用能力、豊かな学識を身につけます。

アドミッション・ポリシー

（入学者受入の方針）

上記に加えて、理学研究科では教育目標に定める人材として相応しい、下記のような人を多様な方法で受け入れるために、社会人や留学生などの受入も対象として、各専攻の実施する筆記試験や口頭試問による複数の入試を行っています。

- ・大学の理系学部における教育課程を修了、もしくは同等の能力を身につけている人。
- ・自然科学に知的好奇心を持ち、真理探究に喜びを感じる人。
- ・博士前期課程では、理系学部における教養および専門教育を修了した程度の基礎学力とコミュニケーション能力を身につけている人。
- ・博士後期課程では、修士の学位を取得した程度の研究遂行能力を有し、博士の学位を取得して社会で活躍することを目指す人。

理 学 研 究 科

学位プログラム「数学」

学位：修士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「数学」は以下のとおり教育目標を定めています。

数学はその長い歴史の中で、数や図形の世界を個々の問題として解き明かそうとする試みや、自然をより深く認識しようとする努力の中から発展してきました。その試行錯誤の中から、様々な思考の過程に現れる共通の仕組みを抽象化し、その世界に潜む原理や美を求めるといった抽象数学の側面や、自然現象を記述しその解明を通し再び自然認識の世界へ光を返すという数理科学的側面が生まれてきました。近年では、コンピューターの目覚ましい発展にも支えられ、物理学、生物学、化学などの従来の自然科学の枠を越え、工学、経済学、人文・社会科学、情報科学など広範な分野にまで、数学の活躍の場が広がってきています。また、これら様々な分野との交流を通して、これまでにない新しい数学理論も生まれています。

学位プログラム「数学」では、以上のような背景と大阪大学が掲げる「物事の本質を見極める学問と教育が大学の使命であり、この使命を果たすことで大学は社会に貢献していく」という理念にもとづき、高度で専門的な数学の教育を通して、次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを目標としています。

とくに、最先端の高度な数学の本質を厳密に理解し修得する過程を通して、複雑な事象を数学的にとらえ、一般化、抽象化、体系化して処理する能力と、論理的思考能力と表現力に磨きをかけることできます。これらの素養は社会のあらゆる場面に現れる難解な諸問題の発見と解決に必要なものです。この意味で本課程では数学とその関連分野の研究者、教育者、技術者のみならず多様な領域で、幅広い視野と国際性をもって主導的な立場で活躍する人材を育成します。

以上に加えて、博士課程後期に進学してさらに高度な専門的知識、技能を習得し、研究を行うために必要な素養を培います。

また、本課程は数学の専修免許取得のための教員養成課程としての役割を果たします。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「数学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「数学」では、数学とその関連分野の教育を通して、研究者、教育者、技術者として、様々な分野で活躍するために基本となる、学力、研究能力、および研究成果発表能力を習得させることを目標としています。同時に、博士後期課程に進学してさらに高度な専門的知識、技能、研究を行うために必要な素養を培います。

具体的には：

- 研究指導、セミナー、講義によって課程の修了までに習得すべき知識・思考力、技能、意欲・関心・態度は以下の通りです。
 1. 数学における専門分野について、基礎理論から最先端のトピックスに至までの知識を有し、研究を推進するための基本的な技能を習得している。
 2. 数学における専門分野と関連するいくつかの分野について高度な知識を有し、それらを他者に説明する能力を有している。
 3. 数学またはその周辺分野の英文学術論文を読み、その内容について解説することができる。
 4. 数学の学習・研究で培われた思考力、着想力、洞察力、忍耐力を様々な方面で活用する態度を身につけている。
 5. 中学校教員免許(数学)、あるいは、高等学校教員免許(数学)を取得している場合には、高度の専門知識をわかりやすく解説し、課題研究を指導することができる。
 6. 各専攻共通科目を履修したものについては、特定の分野だけに偏らない幅広い自然科学の素養に基づく柔軟性とコミュニケーション能力を獲得している。
 7. 大学院副専攻プログラム、高度副プログラム、高度教養プログラムの修了者は、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野で対象を考える能力を身につけている。
- さらに、修士論文については次のいずれかの要件を満たすことが求められます。
 1. 論文筆者により得られた新しい数学的結果を含むもの。
 2. 数学的に意義のある計算結果(計算機実験も含む)や定理の新しい証明などで、論文筆者自身による部分を含むもの。
 3. ある分野において既に知られている重要な数学的事実について、論文筆者自身の観点からまとめたもの。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

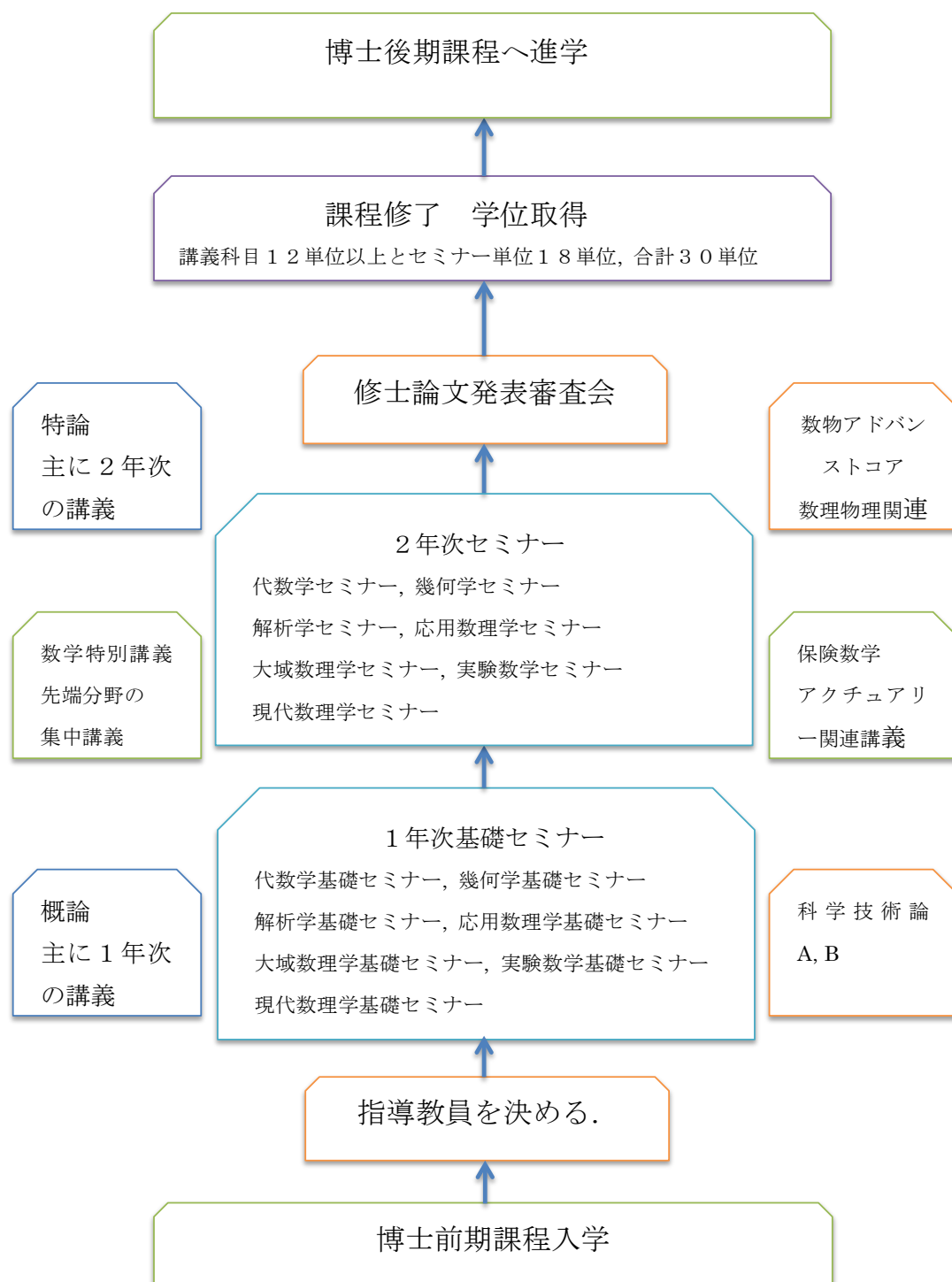
大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「数学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

前期課程においては、指導教員のもとで研究指導を受けるほか、これと平行して数学専攻の定める履修方法に基づき、講義により行われる授業科目の単位12単位以上とセミナーの単位18単位合わせて30単位以上を修得する必要があります。さらに修了にあたっては、修士論文を提出して審査を受けなければなりません。以下、具体的に書きます。

1. 指導教員：入学時に学生の希望もできるだけ取り入れて指導教員を決定します。指導教員は学習・研究指導の継続性の観点からも、特別の事情がない限り、本課程を修了するまで変更されません。指導教員は修士論文指導も含め、研究指導を行うに加え、セミナーを担当します。
2. セミナー：1年次の基礎セミナー(9単位)、および、2年次のセミナー(9単位)が必修となっています。(以下、1年次基礎セミナーと2年次セミナーを総称して単にセミナーと記すことにします。)2年次の最後に提出する修士論文は、これらのセミナーにおける学習を土台とし、執筆することになります。したがって、少なくとも2年次のセミナーはこの修士論文の準備と密接に関連しています。
3. 講義：講義については2年間で計12単位の修得を要します。
 - (1) 講義には概論と特論があり、概論は主に1年次、特論は主に2年次の学生の履修を念頭においていますが、各人の興味、知識、能力に応じて、2年次で概論を、1年次で特論を履修することは差し支えありません。
 - (2) 講義内容については科目名だけで判断せずに、シラバスを熟読して各自の興味にあったものを選ぶことができます。
4. 非常勤講師による集中講義は、多くの場合、現在活発に研究されている分野への入門的講義を短期間で行います。単位にこだわらず、積極的に聴講することを薦めます。集中講義は数学特別講義として開講され、それぞれ1単位です。年次は無関係に履修が可能です。
5. 修士論文：修了に当たっては、修士論文を提出し、その審査を受けなければなりません。
6. 各専攻共通科目、研究科横断プログラム等：
 - (1) 指導教員と相談して許可を得ることが必要ですが、各専攻共通科目、他専攻、他研究科の授業科目・セミナーを履修し、修了要件単位として認定を受けることができます。また、数学専攻の博士後期課程配当科目を履修し、修了要件単位として認定を受ける場合も、指導教員の許可を必要とします。
 - (2) 各専攻共通科目のうち、基礎工学研究科との合同開講科目の科学技術論A・Bは、各専攻とも2単位に限りませんが、修了要件単位として認定されます。これについては、指導教員の許可は不要です。
 - (3) 上記(1)に準拠した手続きを行うことによって、本学の研究科を横断して開設されるプログラムの科目を履修することができます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

大阪大学大学院理学研究科数学専攻博士前期課程
カリキュラム マップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「数学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「数学」では、大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーにもとづいて、本課程の教育目標に定める人材を育成するため、学士課程教育又は大学院教育課程等における学修を通して、確かな基礎学力、専門分野における十分な知識及び主体的に学ぶ態度を身につけ、自ら課題を発見し探求しようとする意欲に溢れる人を受け入れます。

とくに、理系学部における教養および専門教育を修了した程度の基礎学力とコミュニケーション能力を身に付けた人で、

- 数学および数理現象に強い好奇心を持ち、真理探究に喜びを感じる人
- 自発的に数学の学習・研究に取り組むことのできる意欲をもっている人
- 数学とその関連分野における高度の専門的知識と技能を身につけ、それを背景にして将来社会に幅広く貢献したいと思っている人

を求めています。

【入学者選抜の方針】

上記のような人を多様な方法で受け入れるために、社会人や留学生などの受入も対象として、筆記試験や口頭試問による複数の入試を行っています。

理学研究科

学位プログラム「物理学」

学位：修士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「物理学」は以下のとおり教育目標を定めています。

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「物理学」では物理学を通じた高度な教育を行います。物理学は自然の原理探究を目的としたすべての自然科学の基盤であり、今日の科学技術を支える礎です。また、社会発展のための基盤であると同時に、即時的な応用を必ずしも目的としない人類全体の文化的・知的な財産にもなっています。この性格ゆえに、物理学は今日のように社会的環境が大きく変化している時にも、柔軟に物事の本質を考えるための基礎を提供します。物理学の美しさや深遠さの魅力を追求して、それらを研究成果として結実させるためには、より高度な学問的素養を身につけ、広い視野と科学的思考力を持ち、またそれを実践する方法論を修得しなければなりません。このような人材こそが、将来、グローバルに分野を超えて活躍できると考えています。物理学専攻では、上に述べたような物理学の特徴を踏まえて、物理学の先端研究を通じた教育を行い、幅広い自然科学の素養に基づく柔軟な発想から、自然に対して鋭い直感力と的確な判断力を養うとともに、実際の研究に触れて研究手法を理解し、それらを最先端の研究に結びつけることも教育の視野に入れています。

博士前期課程修了後には公的機関・企業等での研究職・技術開発職・教育職などの広い分野で貢献できる人材を育成することを目標としています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「物理学」は以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「物理学」では素粒子・原子核・物性理論・素粒子・原子核実験・物性実験の各分野に分かれ、真理追求の中で物理学の本質を学び、主に物理学専攻が提供する科目構成から得られる能力を身につけた学生に学位を授与します。

- ・ 課程修了者は、物理学を中心とした基礎学力、英語で書かれた学術論文を理解する能力、広い分野で活躍できる問題解決能力と学会発表等を通じて研究成果を発表する能力を身につけています。
- ・ 理論系課程修了者は、その分野の最先端を理解する能力を身につけています。実験系課程修了者

は、その分野に新たな貢献を行う能力を身につけています。

さらに、学生が履修したプログラムに応じて、次のような能力を身につけています。

- ・ 学生の希望するキャリアに応じて、①専門分野の最先端までの専門知識、②英語のコミュニケーション能力と研究発表能力、③基礎研究を企業等での応用研究に生かす能力、④高等学校教員として課題研究等の指導能力を身につけています。
- ・ 大学院副専攻プログラム、高度副プログラム、高度教養プログラムの修了者は、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野で対象を考える能力を身につけています。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

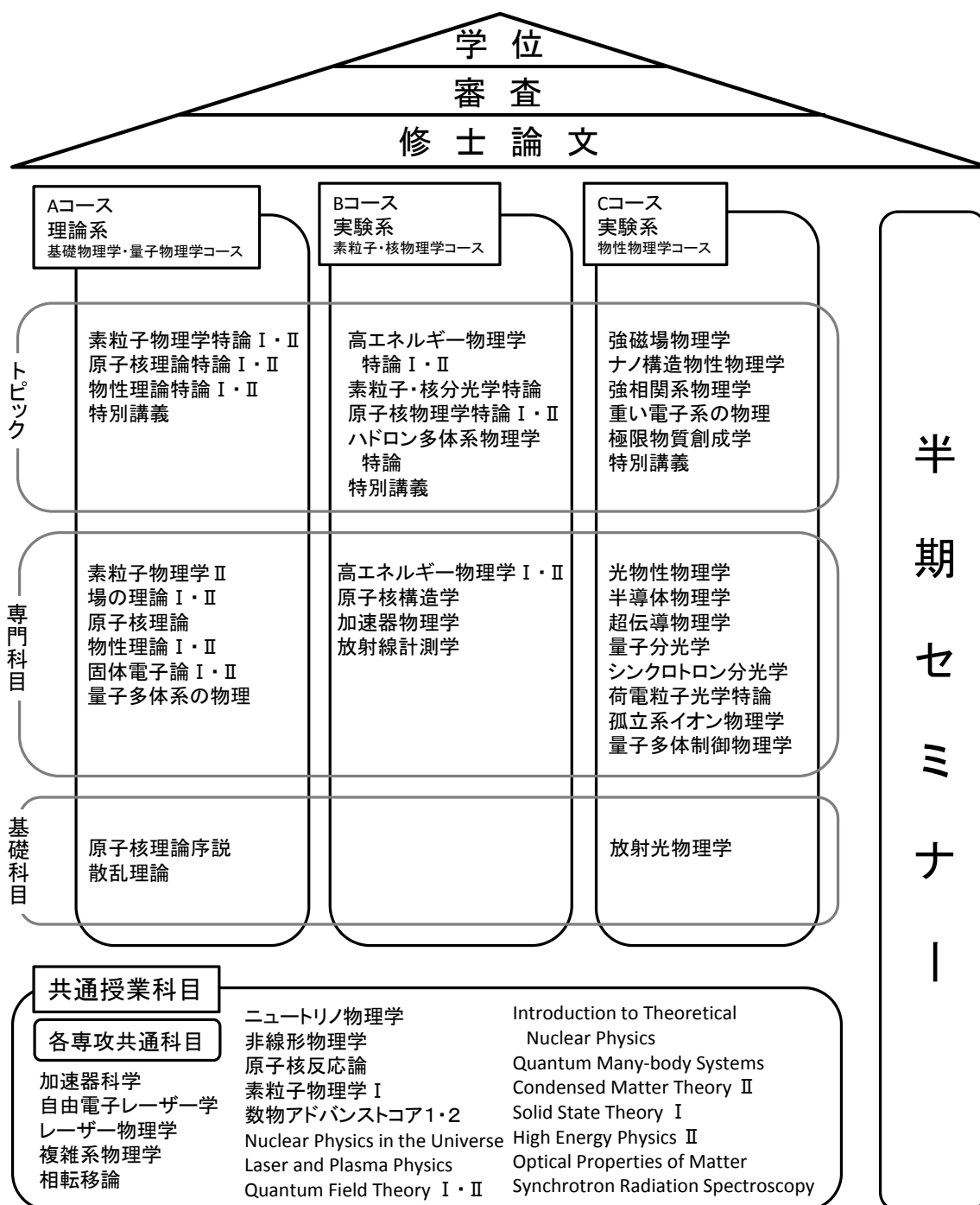
大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「物理学」は以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「物理学」では素粒子・原子核・物性理論、素粒子・原子核実験、物性実験の3分野のいずれかに所属し、各分野の専門分野における知識・能力を身につけるため下記のカリキュラムを履修し、試験・レポート等に合格したのち単位を与えられます。

- ・ 各分野で開講される専門科目を履修し、専門分野の最先端までの知識を身につけます。
- ・ 共通科目から適切な科目を履修し、各分野に共通な基盤的知識を身につけます。
- ・ 博士前期課程では、①理論系学生は、教員の指導の下で研究方法を学び、その分野の最先端までの理解をすることができます。さらに進んで独自の研究を行うことも奨励します。②実験系学生は、教員の指導の下で実践的な研究方法を身につけ、各学生が工夫を施し自ら実験を行い、その分野で新たな貢献を行うことができます。いずれの場合においても、各研究室・研究グループのセミナーに参加して研究の進捗状況を報告、得られた結果について討論し、教員の指導の下に修士論文を作成します。
- ・ 各々の進路に合わせた大学院教育プログラムを履修し、独立法人研究所等での研究者、企業等での研究者、高校等での高度専門型理系教育指導者等に必要な能力・技能の取得、またグローバルに活躍できる能力を身に付けます。
- ・ 専攻共通科目・副専攻プログラム・高度副プログラム・高度教養プログラムにより、より広い分野の知識や応用能力、豊かな学識を身につけます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

学位プログラム「物理学」博士前期課程カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーにおいて、学位プログラム「物理学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「物理学」では大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーを受けて、物理学専攻の教育目標に定める人材として相応しい、下記のような人を多様な方法で受け入れるために、筆記試験や口頭試問による複数の入試を行っています。

- ・ 大学の理系学部における教育課程修了程度の物理学の基礎学力(力学、電磁気学、量子力学、統計力学等)を持ち、教員や学生同士の議論を通じて物理現象より深く考察できる人。
- ・ 知的好奇心を持ち、真理探究に喜びを感じる人。
- ・ 物理学をより深く学ぼうとする人。

これらの入試の対象には、社会人や留学生なども含みます。

理 学 研 究 科

学位プログラム「化学」

学位：修士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「化学」は以下のとおり教育目標を定めています。

化学は「物質の反応、構造、性質を探究する学問」です。その対象は、単一分子のレベルから液晶、結晶などの分子集合体、巨大な生体分子やポリマーなど様々な大きさに及んでいます。また、溶液、固体、相界面、外場や光の照射下、生体膜の特異な空間など、分子、原子が機能する場や環境も広い範囲に渡ります。一方、分子やその集合体、集積体の合成手法や配列の制御、原子分子レベルでの置換や配置の制御法を考えても、温度・圧力や溶液の状態、固体の表面環境、熔融状態など多岐にわたっています。物質を対象にした自然科学である化学の研究は、我々人類の理解がまだまだ及んでいない挑戦すべき問題にあふれており、未来へ大きく開かれた学問領域とすることができます。こうした問題の理学的解明は、人類の新たな知的基盤を創出するだけでなく、次代の社会、産業、ひいては将来の物質文明を支えていくものとなるでしょう。化学専攻では、大阪大学および、理学研究科の教育目標を受けて、このような物質の成り立ちや、分子、原子レベルでの構造、ミクロおよびマクロな機能に対して理学的な観点で考察、思考することができ、自然科学の発展を担うとともに、持続可能な社会を実現するために新しい英知を問題解決に結び付けることができる研究者人材の育成をおこないます。

化学専攻博士前期課程では、化学の様々な概念と、その役割を正しく理解できるよう、無機化学、物理化学、有機化学に関するバランスのとれた専門知識を得ることを目的とした基盤的な講義、実習とともに、専門領域における化学研究を進めていくための先端的な講義や集中講義、各種セミナーをおこないます。また入学時に、化学のほぼ全領域にわたる研究分野の中から学生が自分の研究領域を決め、研究活動を進められるよう指導します。いずれの専門分野であっても、現代社会の課題や問題を正しく理解するとともに、それを理学として根源的なレベルで探求し、発展させ、新たな知見につなげる創造的活動を実践できる人材の育成を目的とした教育をおこないます。さらに、上記の様々な要素が相互に複合的に関連しあった新しい問題の発掘を通して、化学とそれを取りまく分野との境界領域、分野を超えた融合領域の開拓を中心になってリードできる人材育成も意識しています。

講義、実習、研究活動を通して、化学専攻では、特に、「創造性」、「思考力」、「展開力」、「情報の的確な収集能力とその分析力」、研究成果や考えをまとめ海外を含めた様々な立場の人と議論、発信できる「コミュニケーション力」、「国際性」および、その基盤となる「教養」の育成を重視します。このような能力を伸ばすため、分野を超えた複数の指導教員体制を作っているのも化学専攻の特徴です。また、講義、演習、研究活動に加え、理学研究科、さらに全学で進める各種の教育プログラム、キャリア支援、海外活動支援、日本化学会をはじめとする各種学会とも協調した学生の支援も進めています。本専攻を修了した人材が、将来、大学・公的機関・企業等での研究職・技術開発職・教育職などの広い分野でグローバルに活躍できるとともに、リーダーとしてもグローバルに貢献できる人材を育成することを目標としています。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「化学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「化学」では「勿嘗糟粕(そうはくをなめるなかれ)」の精神に則り、自然科学の探求において形だけをまねず、真理追求の中で理学としての化学の本質を学び、長期的視点で社会基盤を支えていく高い意識と研究能力をもち、次世代のグローバルリーダーになる人材を育成します。博士前期課程では化学専攻の提供する講義、実習、セミナー科目、ならびに物理化学、無機化学、有機化学、学際領域の個々の専門研究活動によって得られる以下の能力を身につけた学生に学位を授与します。

- 物質に関わる自然現象の多様な側面とその階層構造に対する広い化学的教養を身につけており、社会や産業を支える根源となる本質的な物質理学としての化学の学術的意義と、その応用に対して見極め、理解をしている。
- 有機化学、無機化学、物理化学についてのバランスのとれた教養と専門レベルでの知識、考え方を習得しており、それらを基盤として化学的な視点で新しい課題を発見し研究を展開する能力をもっている。
- 物質に関わる自然現象において、その物質の性質を調べる一般的な研究手法を身につけている。
- 文献調査、課題発見、実験、データの解析、モデル構築とその科学的な理解、そして新たな問題の提示をする科学研究の進め方を理解している。
- 知識の習得だけでなく、得られた知識や思考方法を使って、能動的なレベルで実験結果を俯瞰的に分析し、かつ科学的な解釈と考察ができる。
- 研究成果をまとめ、それをわかりやすく発表できるプレゼンテーション力と、質疑応答に対応できるコミュニケーション能力が身に付いている。
- 英語による論文講読、科学的なレベルでコミュニケーションができる。
- 専門分野での自分の研究の位置づけ、他の仕事との関係を考えることができるとともに、科学研究における国際的協力関係構築の必要性について理解し、共同作業ならびに分野を越えて交流をすることができる。

カリキュラム・ポリシー

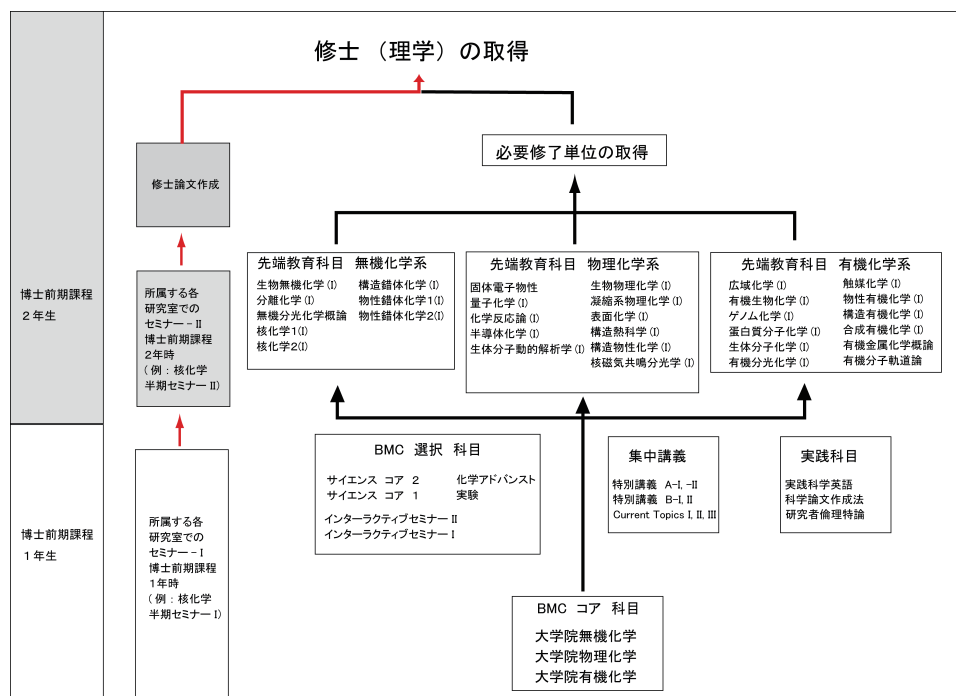
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「化学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「化学」では、化学研究を行うために必要な知識・考え方・技術を学び、自ら実践して研究を遂行できる能力を身につけます。そのために下記のカリキュラムを履修し、試験・レポート等に合格したのち単位が与えられます。専攻で定める所定の単位を修得し、論文審査、研究業績発表による最終試験に合格した者には修士の学位が授与されます。

- 先端教育科目(有機科学系、物理化学系、無機化学系科目)ならびに他専攻の科目を履修することで、各研究分野の最先端を学びます。
- 生物科学(Biological Sciences)、高分子科学(Macromolecular Science)、化学(Chemistry)の3専攻が共同でプログラムを実践するBMC科目を履修することで、分野横断型の考え方、創造性を学びます。
- BMCコア科目として大学院有機化学、大学院物理化学、大学院無機化学を学びます。
- BMC選択科目として、アドバンスト実験を履修し、最先端の計測装置を実際に使用して、それら測定法、原理、データ解析方法などを実践的に学びます。
- BMC選択科目のインターラクティブセミナーでは、所属研究室とは異なる研究室のセミナーに参加し、他研究室の研究の進め方を学ぶとともに、自らも研究発表をすることで、他分野の研究室のメンバーとの討論、さらには他分野の研究者にいかにより自らの研究内容を正しく伝えるか、その方法を学びます。
- BMC選択科目のサイエンスコアでは、研究に対する、主体性、判断力、コミュニケーション能力を高めることを学びます。また、個々のリサーチプロポーザルや論文勉強会の実施により、プレゼンテーション能力、問題設定・課題探求能力、創造力と自立力を養います。
- 学外の研究者による集中講義を履修し、最前線の化学研究について幅広く学びます。
- 生物科学、高分子科学、化学を統合(integrated)したBMC科目の集中講義として、iDNA学、i化学生物学、i生体高分子学を学びます。
- 博士前期課程の修了要件外の科目として、実践化学英語、科学論文作成法、研究者倫理特論を履修し、英語で発表・執筆するやり方を学ぶとともに、さらには研究者として知っておくべき倫理を学びます。教員の指導の下で最先端の研究を行い、実践的な研究方法を身につけます。また、各研究室・研究グループのセミナーに参加して研究の進捗状況を報告し、さらには得られた結果について討論し、教員の指導の下に修士論文の書き方を学びます。
- 各々の進路に合わせた大学院教育プログラムを履修し、大学での研究者・教育者、独立法人研究所等での研究者、企業等での研究者、高校等での高度専門型理系教育指導者等に必要な能力・技能の取得、またグローバルに活躍できる能力を身に付けます。
- 各種の大学院教育プログラムによって垣根を越えた幅広い研究分野の統合能力、研究の社会的意義の把握能力、異分野間のコミュニケーション能力を習得します。
- 所定の審査を受けた後に「リーディングプログラム」や「大学院オーナーコース」でのプログラムを履修し、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーの能力を身につけます。
- 専攻共通科目・副専攻プログラム・高度副プログラム・高度教養プログラムにより、より広い分野の知識や応用能力、豊かな学識を身につけます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー (入学受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「化学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学選抜の方針】

化学専攻博士前期課程では、学部での講義、演習、学生実験、さらに卒業研究等による研究活動で身につけた素養を基礎に、自らの専門分野を定め、化学をより深く習得し、物質に関わる様々な現象を広い視野をもって探求できる研究者の育成を行います。そのため、学部での化学のカリキュラム内容を十分に理解・習得し、自然科学に深く興味をもち、そしてその原理を理解したいという知的欲求心を持つ、以下のような人を選抜して受け入れます。入試選抜は、筆記試験、面接試験でおこなっています。また、国際入試等、留学生特別選抜により留学生も幅広く受け入れます。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

- 大学の化学系学科で標準的に学習する物理化学、無機化学、有機化学の必修科目、選択科目を通して化学の専門家になるための基礎力を有している人。
- 研究活動に必要な科学英語の基礎力を有している人。
- 自然に対して知的好奇心を持ち、化学的視点で真理探究に喜びを感じる人。
- 知識を積み上げるだけでなく、その背後にある必然性、論理的な関係について興味をもち新たなことを探求する意欲のある人。
- 自らの考えを伝えるとともに、他者の意見を理解するコミュニケーション能力を身につけている人。
- 世界的に通用する視点で研究を進めることに意欲のある人
- 共同研究などで相互の役割を理解し、協力して研究進めることができる協調性を有している人。

理 学 研 究 科

学位プログラム「生物科学」

学位：修士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「生物科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

生命の活動は人類の想像を絶するほど多様かつ複雑で巧妙なしくみにより支えられています。学位プログラム「生物科学」では生命の本質を理解するため、世界の研究者と切磋琢磨しながら、様々なしくみの要素同定と機能解析およびそれらが相互に作用する機構の解明を目指して世界最先端の研究を実践しています。このような研究活動に従事することを通して、大学院生が自立的に研究する能力を獲得することや、国際的な場で活躍する能力を高めることを目標としています。そのために、原子レベルから分子・細胞・個体レベルまでの幅広い分野において第一線で活躍する研究者が、基礎から最新の研究成果までを解説する講義を担当するとともに、研究活動や成果発表においてはきめ細かい指導を行います。教員側からの日々のアドバイスを享受することにより、院生は学問的素養を身につけることや科学的思考力と方法論を修得することができます。このような資質を身につけた人は、柔軟な発想をもつと共に自然に対して鋭い直感力と的確な判断を行えるようになり、修了後には大学・公的機関・企業等での研究・技術開発・教育など広い分野で国際的に貢献できる人材として活躍することが期待できます。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「生物科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「生物科学」では理学研究科のディプロマ・ポリシーに沿う条件である「真理を追求する中で理学の本質を学び、社会の広い分野で活躍できる学生に学位を授与する」方針に基づいて修士学位を授与します。学習の目的として、次のような具体的目標を設定しています。

- ・現代の生物科学における学問水準にみあった基礎知識の修得および各専門分野での研究に必要な基礎知識を修得します。
- ・世界の研究者により発信される最新成果を理解し、既知の知見に統合する能力を身につけます。
- ・研究にあたっては、過去の知見に基づき未知の領域の理解を進めるための方策を練ることにより実現可能な研究計画を立案することを学びます。

- ・実験にあたっては生物試料の調製、各種反応の条件検討、測定機器の操作、実験結果の再現性確認、実験結果の解釈等、研究活動に不可欠な基本的素養を学びます。
- ・研究計画と研究活動の集積をつきあわせることによる達成度の検証や実験活動の修正等、長期間に渡る活動の自己評価や自己改善の方法を学びます。
- ・学会や論文作成等により成果を研究社会に発表する能力を学びます。

カリキュラム・ポリシー

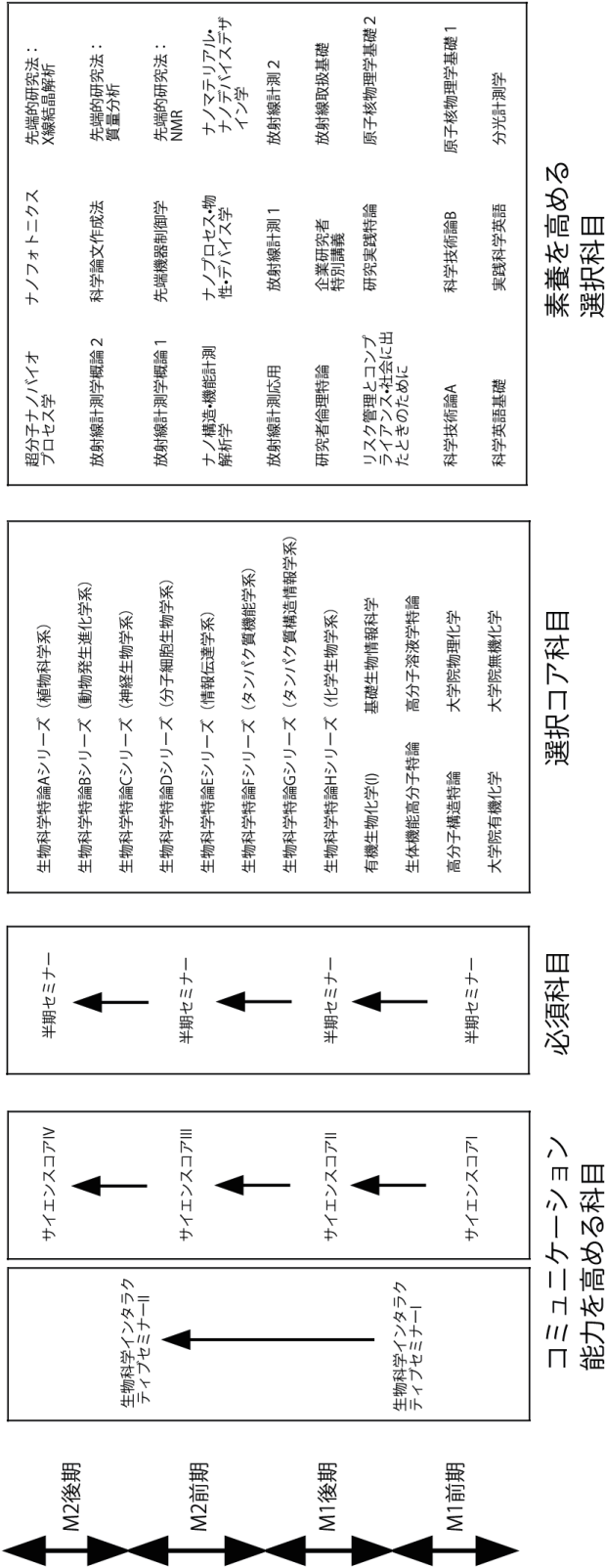
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「生物科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

専門分野における知識・能力を身に付け、自ら実践して研究を遂行できる能力を身に付けるために、下記のカリキュラムが履修できます。

- ・専門分野における最先端までの知識を身につけるため、専攻が開講する生物科学特論を履修します。
- ・専門分野での研究の基盤として、生物情報に関する科目や化学・高分子科学に関する科目も履修できます。
- ・英語で実施される授業科目も履修できます。
- ・サイエンスコア科目の履修により、コミュニケーション能力の向上や専門外の研究も学ぶ学生同士の相互教育を発展させます。
- ・各研究室・研究グループで実施されるセミナーでは英語で記載された最先端の学術論文を読みこなし、知識の更新と統合を行います。
- ・教員の指導の下で最先端の研究を行い、実践的な研究方法を身につけます。また、各研究室・研究グループで実施されるセミナーに参加して、研究の進捗状況を報告し、得られた結果について討論し、教員の指導のもと修士論文を作成します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「生物科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「生物科学」の研究においては、世界中の研究者が長年に渡って積み上げて来た研究成果を礎として新たな領域に踏み込みます。基本的に自然科学の研究成果は英語で記載された専門学術論文に掲載されています。したがって、新しく研究に従事しようとするものは多くの学術論文を読みこなし、内容を咀嚼しなければなりません。そのためには、英語の理解力、複雑な事実関係を統合する能力、論理的解釈・洞察能力、等が必要となります。これらの能力を養うためには、学部での専門教育を修了した程度の基礎学力を身につけておくことが必要です。また、実際に研究に従事するにあたっては、生物試料の調製や実験条件の検討、実験結果の再現性確認等、長期間に渡る地道な作業が必要となります。そのため、研究に対する意欲・関心の高さが重要な判定要素となります。また、生物試料の調製や実験の条件検討には操作の正確さが求められますが、それ以外にも生物試料の不安定さから生じる実験結果の乱れを取り除くためには、自分の研究方法を改善するための想像力も要求されます。さらに、これらの資質については自己を客観的に分析する力が求められます。

【入学者選抜の方針】

一般入試では基礎学力の修得度を計るための専門筆記試験と英語筆記試験に重きを置きますが、研究意欲等を計るために面接も実施します。

学部での優れた成績を志願条件とする特別入試(自己推薦入試、奨励入試)では、研究に必要な資質を重視した面接を実施します。

理学研究科

学位プログラム「高分子科学」

学位：修士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「高分子科学」は以下のとおり教育目標を定めています。

高分子物質は、現在の日常生活にはなくてはならないものです。したがって、高分子科学は現代社会の基盤となる知識であり、これまでに獲得された高分子科学の知識の継承と高分子科学のさらなる発展は、人類が快適に生活する上で不可欠です。当高分子科学専攻の目標は、この人類にとって必要不可欠な高分子科学の振興・発展にあります。

高分子科学は1930年頃に生まれ、化学、物理学、生物科学、および数学の知識を利用しながら急速に発展してきました。本学位プログラムでは、我が国の中で唯一、理学系研究科の中に設置された高分子科学に関する専攻において、化学・物理学・生物科学・数学の基礎知識の上に立って、高分子科学を発展させ、また高分子科学を応用した技術開発を行える人材を育成します。さらに、高分子科学の成果を社会に伝える教育者の育成も行います。

以上の高分子科学に関する高度な専門性と深い学識の修得に加えて、理学研究科の教育目標にあるような、基礎科学の最先端研究を通じた教育を行い、特定の分野だけに偏らない幅広い自然科学の素養に基づく柔軟な発想から、自然に対して鋭い直感力と的確な判断力を養うとともに、懷徳堂と適塾を生んだ大阪の風土を引き継いで基礎研究を重視し、それらが応用研究に結びつくことも教育の視野に入れています。そして本学位プログラム修了後には、大学・公的研究機関・企業等での研究職・技術開発職・教育職などの広い分野でリーダーとして社会に貢献できる人材を育成することを目標としています。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「高分子科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

本学位プログラムでは、自然科学の探求において形だけをまねるのではなく、真理を追求する中で理学の本質を学び、下記のような能力を有する学生に学位を授与します。

- ・高分子科学の分野での研究者として活躍できる研究能力を身につけている。
- ・高分子の合成、物性、機能、構造、さらには生命現象との関わりまでの広い領域を基礎から理解している。

- ・ 企業等で行われている応用研究にも興味を持ち、高分子科学の知識を実用的な技術開発に応用できる能力を身につけている。
- ・ 研究者としての教養である研究者倫理や科学論文作成能力を身につけている。
- ・ 国内外の関係する研究者に対してコミュニケーションを行う能力と研究発表を行う能力を身につけている。
- ・ 高等学校等の教員として課題研究などを指導する能力を身につけている。
- ・ 大学院副専攻プログラム、高度副プログラム、高度教養プログラムの修了者は、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野で対象を考える能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

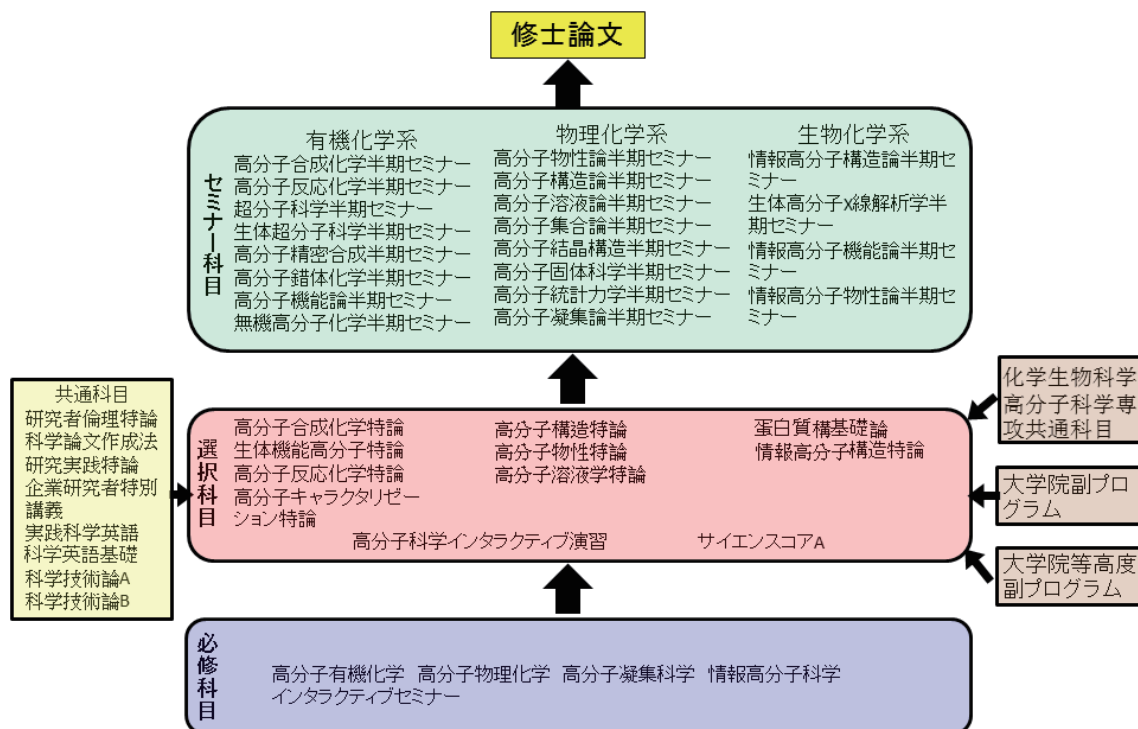
大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「高分子科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

高分子科学における知識・能力を身に付け、自ら実践して研究を遂行できる能力を身につけるために、下記のカリキュラムが履修できます。

- ・ 高分子科学の基礎を修得するために、開講されている必修科目を履修します。
- ・ 高分子科学の各分野での最先端までの知識を身につけるため、開講されている選択科目を履修します。
- ・ 教員の指導の下で最先端の研究を行い、実践的な研究方法を身につけます。また、各研究室で実施されるセミナーに参加して、研究の進捗状況を報告し、得られた結果について討論し、教員の指導の下に修士論文を作成します。
- ・ 研究者として必要な研究者倫理、科学論文作成能力、コミュニケーション能力、研究発表能力を身につけるため、および研究者・教育者としてのキャリアパスを明確にするための共通科目を履修します。
- ・ 広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーを養成するための「リーディングプログラム」や「大学院オーナーコース」でのプログラムを、所定の審査を受けた後に履修できます。
- ・ より広い分野の知識や応用能力、豊かな学識を身に付けるために、専攻共通科目、副専攻プログラム、高度副プログラム、高度教養プログラムを受講することができます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

理学研究科高分子科学専攻カリキュラムマップ(博士前期課程)



アドミッション・ポリシー

(入学受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「高分子科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

- ・ 研究に必要な文献が読める程度の科学英語を身につけていること。
- ・ 高分子科学の基礎を学ぶために必要な化学、特に有機化学と物理化学の知識を有すること。
- ・ 高分子科学の分野での研究者として活躍するために必要なコミュニケーション能力を有すること。
- ・ 自然科学とくに高分子科学に関する知的好奇心を持ち、真理探究に喜びを感じる人。

【入学選抜の方針】

- ・ 科学英語の知識を問う試験を課す。
- ・ 基礎的な有機化学と物理化学の知識を問う筆記試験を課す。
- ・ より高度な有機化学、より高度な物理化学、高分子有機化学、高分子物理化学、生化学、生物物理化学の中から選択する筆記試験を課す。
- ・ 基礎的な有機化学と物理化学の知識、高分子科学に対する興味、およびコミュニケーション能力を問う口頭試問を課す。

理学研究科

学位プログラム「宇宙地球科学」

学位：修士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「宇宙地球科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

宇宙の宇は四方上下・空間の広がり、宇宙の宙は往古来今・時間の流れを表します。宇宙を冠する私たちの専攻は広大な時空間を舞台に繰り広げられる森羅万象を、宇宙・地球・物質・生命の四つをキーワードに研究しています。もちろんこれら四つのキーワードは独立しているわけではなく、「宇宙のなかの地球と惑星」、「地球に生まれた生命」「世界を作る物質」というようにお互いに深く関係しあっています。宇宙地球科学専攻は、宇宙・惑星・地球を舞台に起こる様々な自然現象や、生命までを含む多様な物質の極限状態を、物理学を基礎として解明し、伝統的な天文学や地球惑星科学とは異なった視点からの宇宙地球科学の構築を目指すべく設立された、全国にも類を見ない大変ユニークな専攻です。本専攻がカバーする領域には、理論宇宙物理学、X線天文学、赤外線天文学、生命宇宙地球科学、惑星科学、地球化学、地球物理学、固体地球科学、物性理論などが含まれています。本専攻においては基礎物理学を重視しており、とくに、宇宙・惑星・天体の表面や内部・生体系等に見られるさまざまな極限状態におこる諸現象を、現代物理学の成果を基礎にして解明することを大きな目標にしています。

学位プログラム「宇宙地球科学」における教育と実験的及び理論的研究は、理学研究科の物理学専攻との緊密な連携のもとに行います。しかしながら、本プログラムでは物理学科出身者に限ることなく、天文学・地球科学・化学・生物学・数理科学・情報科学・工学など、多様なバックグラウンドを持った人材を広く求めています。そして、従来の学問の因習的な縦割りにとらわれることなく、学際領域の開拓と新たな総合科学としての宇宙地球科学の構築を目指しています。これらの研究から得られる成果は、宇宙・地球・生命・物質の相互関連を明らかにするにとどまらず、地球環境問題、生命の起源や将来の人類の生活や生存環境にも、新たな展望を拓くに違いありません。これらの目標を実現するために、宇宙地球科学専攻は、研究分野に対しても可変的な、複数の研究グループから構成されています。そして、人間の活動と自然の調和が強く求められている現在、基礎科学の素養を持ちつつ、宇宙・地球の全容を把握できる人材の輩出を目指すと共に、各分野において先進的かつグローバルなリーダーを育成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「宇宙地球科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

プログラムの前期課程では、学際的な特徴をもつ宇宙地球科学の本質を学び、下記のような能力を身につけた学生に学位を授与します。

「学習目標」

- ・宇宙地球科学を含む広い分野で活躍できる研究能力と専門性を身につけています。
- ・多様な宇宙・地球惑星科学的現象を理解できる能力を身につけています。
- ・英語を含む文献を読み、その分野の研究内容を理解する能力、研究成果をまとめて日本語や英語で論理的かつ明確に発表する能力を身につけています。
- ・宇宙地球科学の学際的な研究から得られる成果により、宇宙や生命の起源などの根元的な問題の重要性を理解し、地球環境問題や将来の人類の生活に対応した研究を行う能力を身につけています。

望遠鏡を使う天体観測や、野外での地球諸現象の観測など、宇宙地球科学では、観測、機器開発、さらにデータ解析も重要な研究手段です。宇宙地球科学のそれぞれの分野で、研究を計画して遂行するデザイン力を身につけています。

(理 論) 宇宙における基礎物理の検証、天体現象の説明、相互作用系などの物性において、新しい研究を遂行する能力を身につけています。

(実 験 分 析) 最先端の分析装置の原理を理解して使い、優れた分析結果を出す能力を身につけています。

(観 測) 最先端の観測装置の原理を理解して使い、優れた観測結果を出す能力を身につけています。

(機 器 開 発) 目的に沿った実験・観測システムの開発・改良を行う能力を身につけています。

(データ解析) シミュレーション、実験、観測などで取得されたデータを、適切に処理し、結果を科学的に解釈することのできる能力を身につけています。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「宇宙地球科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

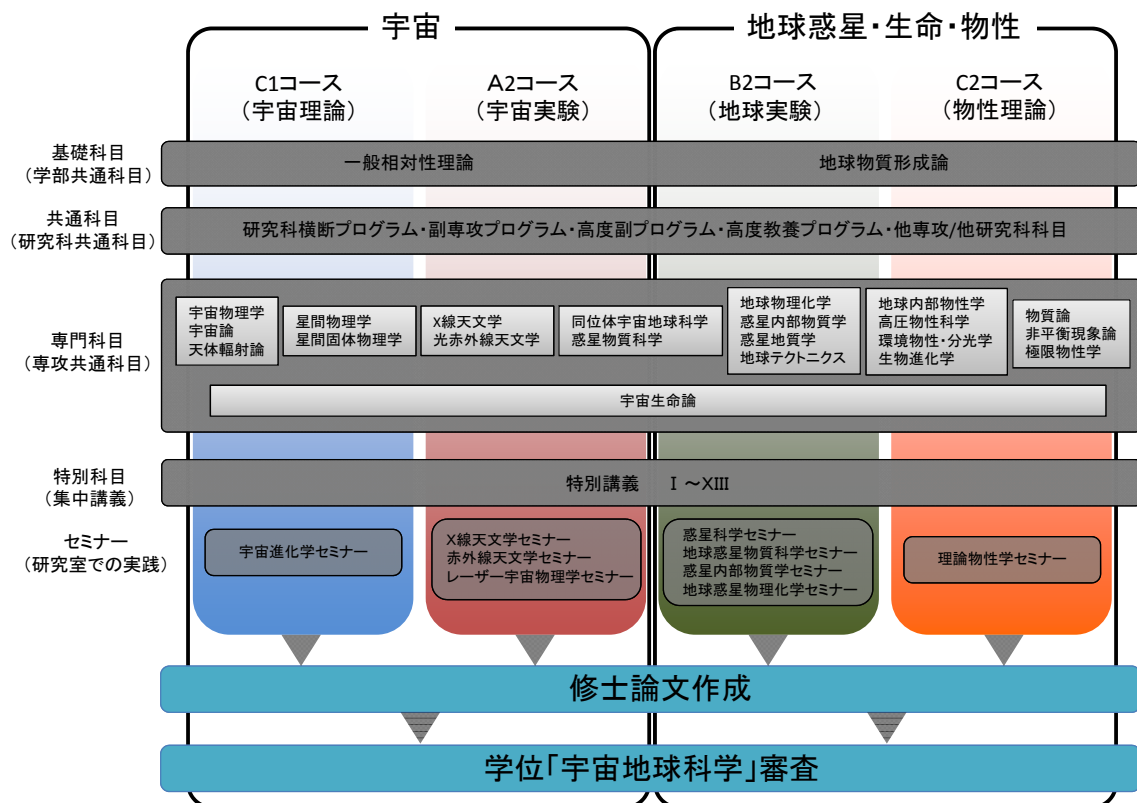
プログラムの前期課程では、宇宙理論コース(C1)、宇宙実験コース(A2)、地球実験コース(B2)、物性理論コース(C2)のいずれかのコースに所属し、各分野で必要となる専門的知識や能力を身につけるために、下記のカリキュラムを履修し、試験・レポート等に合格したのち単位を与えられます。

- ・副専攻プログラム・高度副プログラム・高度教養プログラムを履修し、幅広い分野における理学的素養や教養知識を身につけます。

- ・専攻共通科目を履修し、各分野の基盤的な専門知識と応用能力を身につけます。
- ・特別講義を履修し、より専門的な内容や幅広い最先端の研究の知識を身につけます。
- ・各分野のセミナー科目を履修し、教員の指導の下に各研究室・研究グループでの実践的研究に参加して、自らの研究内容や結果について討論を行い、自分の考えを論理立てて明確に発表をおこなう能力を身につけ、修士論文を作成します。
- ・各々の進路に合わせた各種の大学院教育プログラムを履修し、大学での研究者・教育者、独立法人研究所等での研究者、企業等での研究者、高校等での高度専門型理系教育指導者等に必要能力・技能の取得、またグローバルに活躍できる能力を身に付けます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

宇宙地球科学専攻・博士前期課程カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「宇宙地球科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「宇宙地球科学」では、大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーにもとづき、プログラムの前期課程(修士課程)で以下のような人材を求めます。

- ・大学の理系学部における教育課程を修了、もしくは同等の教養・基礎学力・コミュニケーション能力を身につけている人。
- ・宇宙物理学・天文学・地球科学に強い興味・関心を持ち、真理探究のための基礎的な勉強と研究活動に意欲的な人。

【入学者選抜の方針】

学位プログラム「宇宙地球科学」では、宇宙・地球・物質・生命という多様な対象を、基礎科学の立場から、とりわけ基礎物理を重視して研究しています。プログラムのこのような特徴を活かすため、博士前期課程(修士課程)の募集・入学試験は以下のように2期に分けておこなわれています。8月下旬に行われる第1次募集(定員28名)では物理学専攻と合同で試験を行い、基礎物理を重視した共通の筆記試験および口頭試問で選考を行います。第2次募集(定員若干名)では主として天文学・地球科学・化学・生物学・数理科学・情報科学・工学等、多様なバックグラウンドを持った意欲ある学生を対象とした試験(英語と宇宙地球科学に関する小論文からなる筆記試験、および口頭試問)を行います。これまで受けてきた教育の内容も大事ですが、何より研究対象に興味を持ち、研究への熱意を持っている人材を広く求めています。社会人や留学生などの受入も積極的に考慮します。

理学研究科

学位プログラム「数学」

学位：博士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「数学」は以下のとおり教育目標を定めています。

数学はその長い歴史の中で、数や図形の世界を個々の問題として解き明かそうとする試みや、自然をより深く認識しようとする努力の中から発展してきました。その試行錯誤の中から、様々な思考の過程に現れる共通の仕組みを抽象化し、その世界に潜む原理や美を求めるといった抽象数学の側面や、自然現象を記述しその解明を通し再び自然認識の世界へ光を返すという数理科学的側面が生まれてきました。近年では、コンピューターの目覚ましい発展にも支えられ、物理学、生物学、化学などの従来の自然科学の枠を越え、工学、経済学、人文・社会科学、情報科学など広範な分野にまで、数学の活躍の場が広がってきています。また、これら様々な分野との交流を通して、これまでにない新しい数理論も生まれています。

学位プログラム「数学」では、以上のような背景と大阪大学が掲げる理念「物事の本質を見極める学問と教育が大学の使命であり、この使命を果たすことで大学は社会に貢献していく」に基づき、最先端の高度で専門的な数学の教育を通して、次代の社会を支え、人類の理想の実現をはかる有能な人材を社会に輩出することを目標としています。とくに、数学およびその関連分野を含む様々な分野において、最先端の高度な専門的知識と幅広い視野をもって、研究者、教育者、技術者として主導的な立場で国際的に活躍するために必要な知識、技能、研究遂行能力、および研究成果発表能力を備えた人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「数学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「数学」では、数学とその関連分野の教育を通して、高度な専門的知識が求められる様々な分野において、主導的な立場の研究者、教育者、技術者として活躍するために必要な、研究能力、研究指導力、コミュニケーション能力を習得させることを目標としています。

具体的には：

- 研究指導、特別セミナー、特別講義によって課程の修了までに習得すべき知識・思考力、技能、意欲・関心・態度は以下の通りです。
- 1. 数学における専門分野について、最先端の知識と技能を有し、研究を主体的に推進することができる。
- 2. 数学における専門分野と関連するいくつかの分野について高度な専門知識を有し、他者に指導的立場で説明する能力を有している。

3. 数学またはその周辺分野の英文学術論文の講読と国内外の研究者との交流によって国際性が育まれている。
 4. 数学の研究で培われた思考力、着想力、洞察力、忍耐力を様々な方面で活用する積極的な態度を身につけている。
 5. 高等学校教員免許(数学)、あるいは、高等学校教員免許(数学)を取得している場合には、高度の専門知識をわかりやすく解説し、高度な課題研究を指導することができる。
 6. 専門的な研究に主体性をもって取り組むことにより研究者の一員としての自覚を持っている。
 7. 育の一端に触れることにより高等教育を担当する教育者としての能力を身につけている。
- さらに、博士論文については理学研究科においては全専攻共通に次の要件を満たすことが求められています。
1. 博士の学位を受ける者は、当該専攻分野に関する高い学識を備え、かつ高度な専門的研究能力を有すること。
 2. 博士学位論文は、当該専攻分野において高度な学術的価値を有する研究結果を含み、論理的かつ明瞭に記述されていること。論文に含まれる研究結果が複数の研究者の共同による場合は、学位を受ける者の貢献が顕著であると認められること。
 3. 博士学位論文に記述された内容については、各専攻の論文発表会において学術研究に相応しい発表及び討論がなされること。なお、原則として論文発表会は公開とする。
 4. 博士学位論文の主要部分は、既に学術論文として公表されているか、若しくは学位を授与された日から1年以内に公表される予定であること。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「数学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

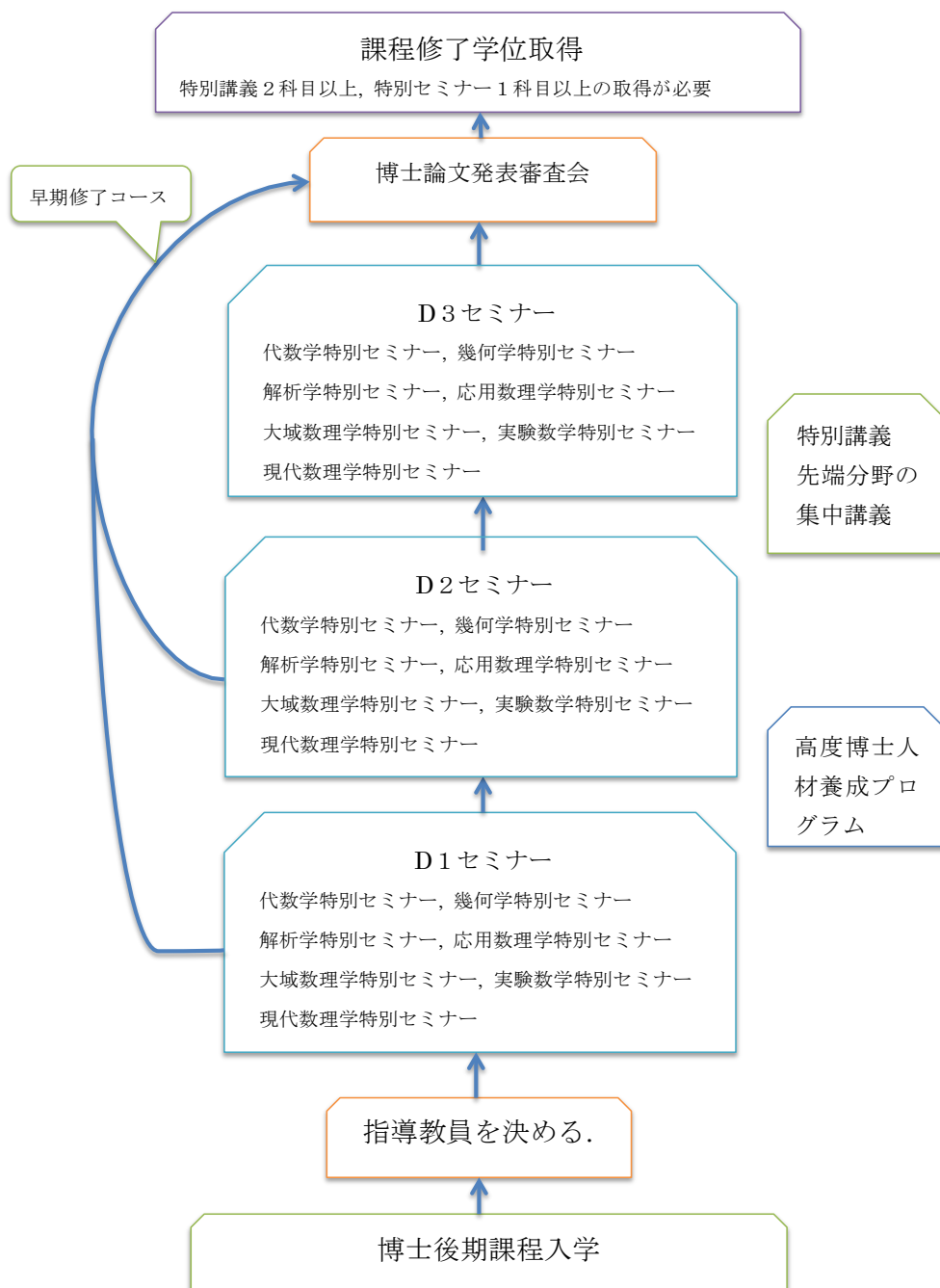
後期課程においては、指導教員のもとで研究指導を受けるほか、これと平行して数学専攻の定める履修方法に基づき、特別講義2科目以上、および、特別セミナー1科目以上を履修し、その単位を修得すること必要があります。さらに修了にあたっては、博士論文を提出して審査を受けなければなりません。以下、具体的に書きます。

1. 指導教員：入学時に学生の専門分野と希望を十分考慮して指導教員を決定します。指導教員は研究指導の継続性の観点からも、特別の事情がない限り、本課程を修了するまで変更されません。指導教員は博士論文指導も含め、研究指導を行うに加え、特別セミナーを担当します。
2. 博士論文：後期課程3年間の主な目的は、博士論文の完成です。修了に当たっては、博士論文を提出し、その審査を受けなければなりません。この博士論文作成への過程として、特別セミナーがあります。
3. 特別セミナー：修了までに特別セミナー1科目以上を修得する必要があります。原則として必ず各学年のセミナーを修得することを推奨しています。特別セミナーの指導形態は前期課程のセミナーよりも自由度があり、学生の主体性が重んじられています。指導教員のもとで文献を読み、与えられた又は自ら設定した研究課題について、各自学習・研究したこと、考えたことを指導教員に発表し、これに対するコメントや指示を受けて、これを再び自身の研究に生かすという繰り返しとなります。

4. 講義：後期課程3年間の主な目的は、先にも述べたように博士論文の完成です。特別セミナーや主体的な研究が重んじられているため、講義の履修義務は3年間で2科目の特別講義の修得という最低限の条件にとどめられています。しかし、興味ある講義については、単位にとらわれず、集中講義はもちろんのこと、前期課程の講義、他専攻の講義などにも、積極的に出席することが望まれます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

大阪大学大学院理学研究科数学専攻博士後期課程 カリキュラム マップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「数学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

本課程では、大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーにもとづいて、本課程の教育目標に定める人材を育成するため、大学院教育課程等における学修を通して、確かな基礎学力、専門分野における十分な知識及び主体的に学ぶ態度を身につけ、自ら課題を発見し探求しようとする意欲に溢れる人を受け入れます。とくに、修士の学位を取得した程度の研究遂行能力を有し、博士の学位の取得を目指している人で

○数学および数理現象に強い好奇心を持ち、真理探究に喜びを感じる人

○数学とその関連分野における高度の専門的知識と技能を身につけ、それを背景にして将来社会に幅広く貢献したいと思っている人

を求めています。

【入学者選抜の方針】

上記のような入を多様な方法で受け入れるために、社会人や留学生を対象としたものも含め複数の方式による入試を実施しています。いずれの場合も、入学希望者の学力及び専門的知識と研究遂行能力に加え、希望する指導教員とのマッチングに十分配慮しています。

理学研究科

学位プログラム「物理学」

学位：博士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「物理学」は以下のとおり教育目標を定めています。

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「物理学」では物理学を通じた高度な教育を行います。物理学は自然の原理探究を目的としたすべての自然科学の基盤であり、今日の科学技術を支える礎です。また、社会発展のための基盤であると同時に、即時的な応用を必ずしも目的としない人類全体の文化的・知的な財産にもなっています。この性格ゆえに、物理学は今日のように社会的環境が大きく変化している時にも、柔軟に物事の本質を考えるための基礎を提供します。物理学の美しさや深遠さの魅力を追求して、それらを研究成果として結実させるためには、より高度な学問的素養を身につけ、広い視野と科学的思考力を持ち、またそれを実践する方法論を修得しなければなりません。このような人材こそが、将来、グローバルに分野を超えて活躍できると考えています。物理学専攻では、上に述べたような物理学の特徴を踏まえて、物理学の先端研究を通じた教育を行い、幅広い自然科学の素養に基づく柔軟な発想から、自然に対して鋭い直感力と的確な判断力を養うとともに、特に博士後期課程においては、学生個人個人の研究スタイルを確立させ、それらを最先端の研究に結びつけることを教育の視野に入れていきます。

博士後期課程修了後には大学・公的機関・企業等での研究職・技術開発職・教育職などの広い分野でリーダーとして国際的に貢献できる人材を育成することを目標としています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「物理学」は以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「物理学」は真理追求の中で物理学の本質を学び、主に物理学の研究を通じて得られる、次に挙げる能力を身につけた学生に学位を授与します。

- ・ 課程修了者は、物理学専攻博士前期課程修了者が身につけている能力に加えて、次のような能力を身につけています。

1. 課程修了者は、自立して研究を行うために必要な、問題への着眼力、問題を明確にするための分析力、問題解決の方法を考案する発想力、問題を解決するための実行力、その結果を英語で発表するための発信力を身につけています。
2. 英語で学術論文を読み書きする能力を身につけています。必要な場合には、外国人研究者と共同研究を進めるためのコミュニケーションを英語で行うことができます。

・さらに、学生が履修したプログラムに応じて、次のような能力を身につけています。

1. 学生の希望するキャリアに応じて、①基礎研究を企業等での応用研究に生かす能力、②高等学校教員として課題研究等の指導能力、を身につけています。
2. 大学院副専攻プログラム、高度副プログラム、高度教養プログラムの修了者は、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野で対象を考える能力を身につけています。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「物理学」は以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「物理学」では、各分野の専門分野における知識・能力を身につけ、自ら実践して研究を遂行できる能力を身につけるために下記のカリキュラムを履修し、試験・レポート等に合格したのち単位を与えられます。

- ・各分野で開講される専門科目を履修し、専門分野の最先端までの知識を身につけます。
- ・博士後期課程では、教員の助言を受け、最先端の研究を立案・実施し、学位論文を作成します。また、各研究室・研究グループの特別セミナーに参加して研究の進捗状況を報告、得られた結果について討論し、最終的に博士論文を作成します。
- ・各々の進路に合わせた大学院教育プログラムを履修し、大学での研究者、独立法人研究所等での研究者、企業等での研究者、高校等での高度専門型理系教育指導者等に必要な能力・技能の取得、またグローバルに活躍できる能力を身に付けます。
- ・専攻共通科目・副専攻プログラム・高度副プログラム・高度教養プログラムにより、より広い分野の知識や応用能力、豊かな学識を身につけます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

学位プログラム「物理学」博士後期課程カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーにおいて、学位プログラム「物理学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「物理学」では大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーを受け、物理学専攻の教育目標に定める人材として相応しい、下記のような人を多様な方法で受け入れるために、筆記試験や口頭試問による複数の入試を行っています。

- ・物理学の博士前期課程を修了、もしくは同等の物理学の基礎学力と、コミュニケーション能力を身につけている人。
 - ・知的好奇心を持ち、真理探究に喜びを感じる人。
 - ・修士の学位を取得した程度の研究遂行能力を有し、自発的に研究を立案し、根本原理に立ち戻って考察を行い、物理学の諸分野を深く探究することを志す人
- これらの入試の対象には、社会人や留学生なども含みます。

理学研究科

学位プログラム「化学」

学位：博士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「化学」は以下のとおり教育目標を定めています。

化学は物質に根ざした自然科学であり、物質の「創成」、「変換」、「循環」を通して社会、産業、さらに文化に大いなる発展をもたらし、ひいては人類の未来へ向けた英知をつくりだしていく学問といえます。20世紀から今世紀にわたる物質科学の発展は、人間の生活を豊かにし、大きな社会構造の変化をもたらしてきました。一方で、天然資源や化石燃料の枯渇、環境問題、薬害問題、医学に関わってくる様々な問題など、将来に向けた大きな課題が多々生じています。こうした問題の解決にも、化学の果たすべき役割、化学研究への期待と責任は益々大きくなっています。社会のさらなる発展、地球環境、天然資源、生物資源の維持、さらに次世紀にむけた新たな物質観、新概念の創出は、今後の自然科学に関わるものに課せられた重要な課題です。そのためには、自然を支配している原理や、物質の中の根本原理を理解し、そこに根ざした新たな開拓を行う化学の創造的な「力」と、強い意志をもったグローバルリーダーが必要になってきます。

化学専攻博士後期課程では、専門分野での研究をより深いレベルに進め、新たな知の創出活動を通して、大学や公的機関の研究者、企業研究者として第一線で活躍できるような高度な研究能力と、科学研究と社会との関係性を考え化学の専門家として次代を担う高い意識をもつ研究者を養成します。研究面では、設定した研究課題に対して、自らの力で実験や研究をデザインし、実践していく能力を身につけるとともに、得られたデータの分析やその中にある科学的な意義を明らかにして、創造的な研究成果をあげることを目指します。そのために、それぞれの専門領域での広範な知識や考え方を習得するとともに、新しい概念を生み出すための「発想力」「思考力」さらには、系統的・論理的に思考するための「論理展開能力」を養います。さらに、近い分野の研究者と議論しながら自らの研究をより広げる能力、分野の異なる人との議論を通して様々な視点からの考え方を理解し自らの研究にフィードバックを図る力など多角的な視点からの研究展開力を養います。一方で、得られた成果を国内外に広く発信するための英語、日本語での論文作成能力や、研究発表ができる「コミュニケーション能力」を身につけます。専門分野を牽引できるような学術的能力と同時に研究室の枠をこえた専攻内での活動、各種研究・教育補助活動、学会活動等を通して社会のリーダーとして活躍できるような指導力を身につけます。同時に、学術研究活動の意義と責任を意識するために必要な、研究費やデータ管理、論文発表等の倫理についての研修・教育や「研究資金獲得のための研究プロポーザル作成」等についてのトレーニングも行います。また、専攻では、博士の学位を取得後の自らの方向性を意識し、研究科や専攻の各種プログラム、コースを受講できるような教育体制もつくります。化学専攻博士後期課程を修了した人材が、独立した研究者として、化学が関係する様々な分野、さらには学際分野でのグローバルなリーダーとして活躍できること目指します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「化学」は以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

博士後期課程では、研究活動を主体的に進め新しい研究成果をあげることを通して、高い専門性と研究能力をもち社会を牽引できる化学の専門家の育成を行います。化学専攻後期課程の講義、セミナー単位を取得し、博士学位論文の審査に合格した人材は以下のような能力を身につけています。

- 物質に関わる自然現象を専門的なレベルで考察し、その多様な側面を科学的に理解することができる。
- 社会や産業を支える根源となる物質理学としての化学の学術的意義と、その応用に対して理解し、それを研究に反映する能力を有している。
- 自然科学の様々な専門領域とその役割、相互の関係を正しく把握し、その中で自らの役割を発揮することができる。また、化学を超えて他分野との境界領域、他分野との学際領域の開拓にも意欲的に取り組むことができる。
- 専門領域での研究を通して創造的な成果をあげ、新しい知の創出を行う高い能力を有している
- それぞれの専門分野で、化学の専門家としての広範な知識や考え方を習得するとともに、未開の問題を解決し、新しい概念を生み出すための「発想力」「思考力」「論理展開能力」を有している。
- 自らの力でオリジナルな研究テーマを決め、そのための、研究計画の立案、実験のデザイン、研究成果のまとめと発表をする能力がある。
- 研究論文や研究データを分析し、新しい成果を過去の成果との関係、位置づけをする能力がある。
- 研究・教育を国際的なレベルで進めるグローバルなコミュニケーション能力を有している。
- 科学研究を進める上での社会的なルール、データや研究資料の取り扱いに関する倫理について正しい理解と実践ができる。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「化学」は以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

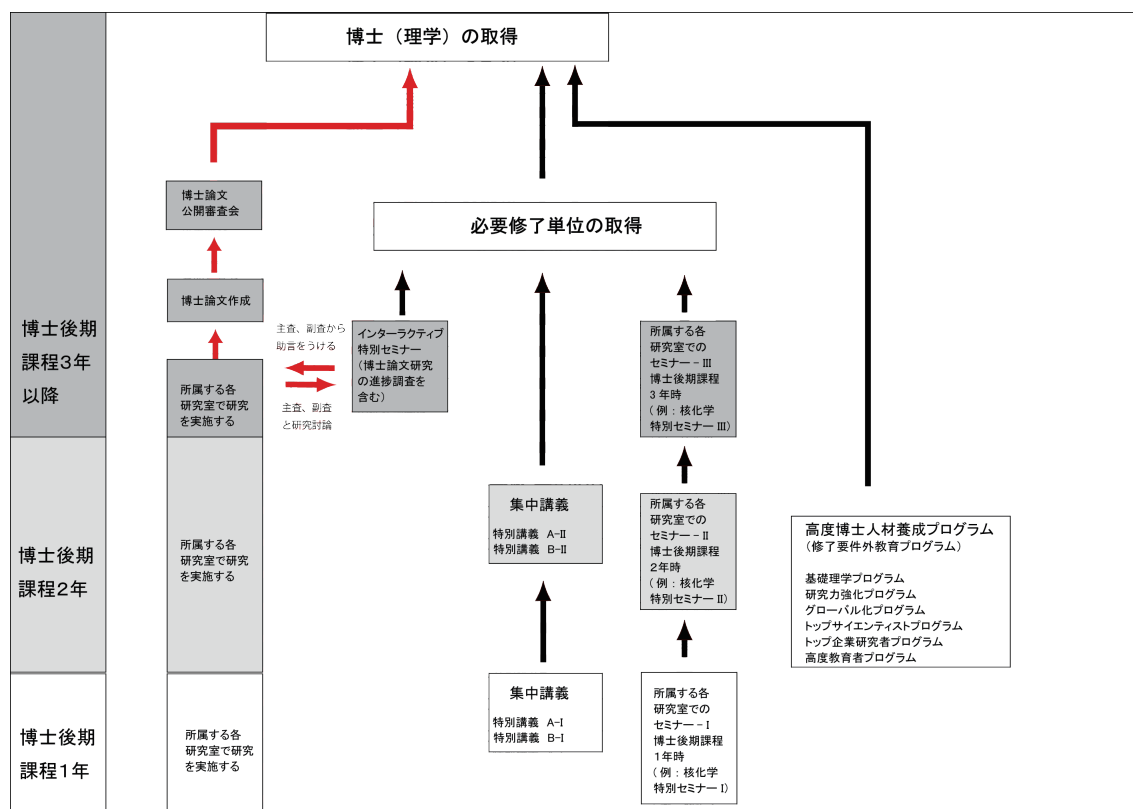
大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、化学専攻博士後期課程では、研究活動を主体的に進め、新しい研究成果をあげることを通して、高い専門性と研究能力を身につけます。そのために下記のカリキュラムを履修し、試験・レポート等に合格したのち単位が与えられます。専攻が定める所定の単位を取得し、博士論文の進行度調査、予備審査、本審査(最終試験)に合格した者に対して、博士(理学)を認定します。

- 教員の指導の下で最先端の研究をおこない、実践的な研究方法を身につけます。また、各研究室・研究グループのセミナーに参加して研究の進捗状況を報告し、さらには得られた結果について討論し、教員の指導の下に博士論文の書き方を学びます。
- インタラクティブ特別セミナーでは、所属研究室とは異なる研究室の教員らの前で研究発表をおこない、そして討論します。他分野の研究者との討論の結果をいかに自らの研究にフィードバック

クさせるか、その方法を学びます。

- 学外の研究者による集中講義を履修し、最前線の化学研究についてより深く学びます。
- 各々の進路に合わせた大学院理学研究科共通の高度博士人材養成プログラム（基礎理学、研究力強化、グローバル化、トップサイエンティスト、トップ企業研究者、高度教育者の6つのプログラムを用意しています）を履修し、大学での研究者・教育者、独立法人研究所等での研究者、企業等での研究者、高校等での高度専門型理系教育指導者等に必要な能力・技能の取得、またグローバルに活躍できる能力を身に付けます。
- 高度博士人材養成プログラムでは、学位論文作成演習、実践科学英語、海外短期留学、特論（S）高度理学特別講義、企業研究者特別講義、科学技術とコミュニケーション、企業インターンシップなどの科目・講義を履修し、垣根を越えた幅広い研究分野の統合能力、研究の社会的意義の把握能力、異分野間のコミュニケーション能力を習得します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーにおいて、学位プログラム「化学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学者選抜の方針】

学位プログラム「化学」では、化学の専門領域での研究活動を主体的に進め、新しい研究成果をあげることを通して、高い専門性と研究能力をもち様々な分野で化学の専門家として社会を牽引できる人材の育成をおこないます。そのため、博士前期課程もしくは修士課程における研究を通して、専門的な知識と思考力、研究意欲、探求心を自らのなかに培った以下の人を選抜して受け入れます。入試選抜は、化学専攻が課した書類選考、自身で行った研究の成果および入学後の研究計画についての試験を通しておこないます。また、国際入試等、留学生特別選抜などにより留学生も幅広く受け入れます。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

- 理科系の大学院の博士前期課程もしくは修士課程において化学・物質科学、その関連分野での教育課程を修了しているか、もしくはそれと同等の能力を身につけている人。
 - 自然科学研究に必須な分析力、思考力、論理構築力を持ち、自らの考えで研究をデザインし実施することができるとともに、他者の意見を理解し、議論できるコミュニケーション能力を身につけている人。
 - 報告書、レポート、英語論文を読んだり、自ら作成した経験を有し、また、英語で研究成果を発表するための語学教育を受けている人、ならびに意欲のある人。
 - 自然に対する知的探究心と、化学の専門家としての視点で真理や原理の探究、新物質新現象の探究を行う意欲と熱意をもつ人。
 - 研究成果を適切にまとめ、それを学会、研究会、セミナー等で発表した経験と実績がある人
 - グローバルな研究活動に意欲がある人。
- 共同研究などで相互の役割と責任を理解し、協力して研究推進、研究議論、成果の取りまとめができる能力を有している人。

理 学 研 究 科

学位プログラム「生物科学」

学位：博士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「生物科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

生命の活動は人類の想像を絶するほど多様かつ複雑で巧妙なしくみにより支えられています。生物科学専攻では生命の本質を理解するため、世界の研究者と切磋琢磨しながら、様々なしくみの要素同定と機能解析およびそれらが相互に作用する機構の解明を目指して世界最先端の研究を実践しています。このような研究活動に従事することを通して、大学院生が自立的に研究する能力を獲得することや、国際的な場で活躍する能力を高めることを目標としています。そのために、原子レベルから分子・細胞・個体レベルまでの幅広い分野において第一線で活躍する研究者が、基礎から最新の研究成果までを解説する講義を担当するとともに、研究活動や成果発表においてはきめ細かい指導を行います。教員側からの日々のアドバイスを享受することにより、院生は学問的素養を身につけることや科学的思考力と方法論を修得することができます。このような資質を身につけた人は、柔軟な発想をもつと共に自然に対して鋭い直感力と的確な判断を行えるようになり、自立的な研究者としての能力を身につけることができます。修了後には大学・公的機関・企業等での研究・技術開発・教育など広い分野で国際的に貢献できる人材として活躍することが期待できます。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「生物科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「生物科学」では理学研究科のディプロマ・ポリシーに沿う条件である「真理を追求する中で理学の本質を学び、社会の広い分野で活躍できる学生に学位を授与する」方針に基づいて博士学位を授与します。学習の目的として、次のような具体的目標を設定しています。

- ・現代の生物科学における学問水準にみあった基礎知識の修得および各専門分野での研究に必要な基礎知識を修得します。
- ・世界の研究者により発信される最新成果を理解し、既知の知見に統合する高度な能力を身につけます。
- ・研究にあたっては、過去の知見に基づき未知の領域の理解を進めるための方策を練ることにより実現可能な研究計画を自ら立案することを学びます。

- ・実験にあたっては生物試料の調製、各種反応の条件検討、測定機器の操作、実験結果の再現性確認、実験結果の解釈等、研究活動に不可欠な基本的素養を学びます。
- ・研究計画と研究活動の集積をつきあわせることによる達成度の検証や実験活動の修正等、長期間に渡る活動の自己評価や自己改善の方法を学びます。
- ・学会や論文作成等により成果を研究社会に発表する高度な能力を学びます。

カリキュラム・ポリシー

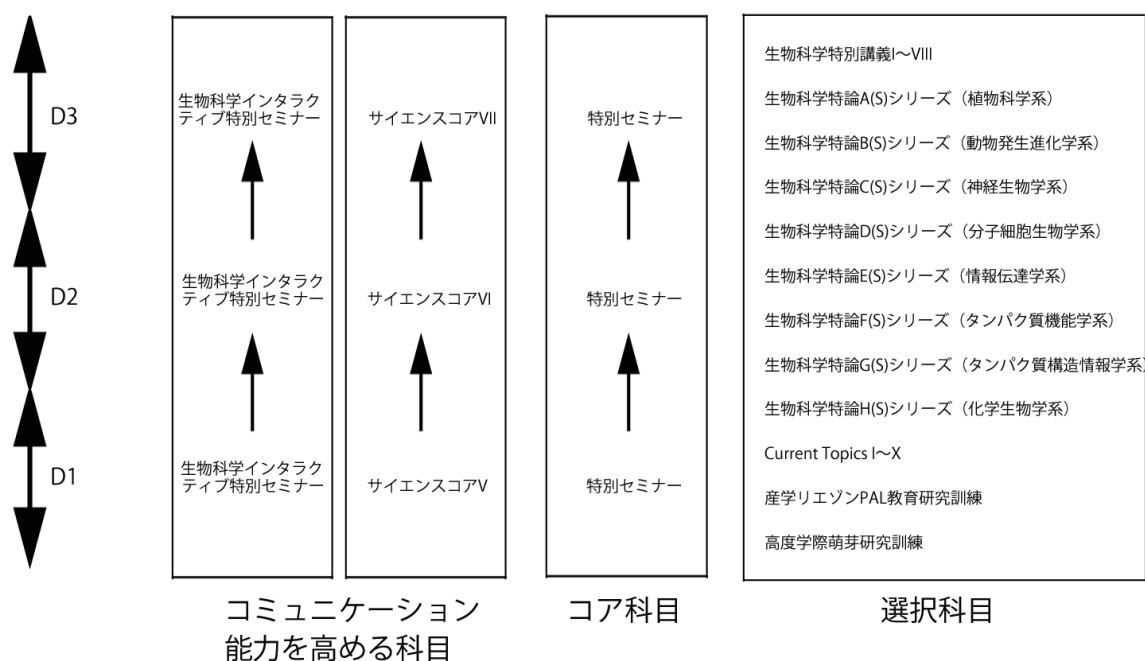
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「生物科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

専門分野における知識・能力を身に付け、自ら実践して研究を遂行できる能力を身に付けるために、下記のカリキュラムが履修できます。

- ・生物科学特別講義により専門分野、非専門分野によらず最先端の知識を得ることができます。
- ・英語で実施される授業科目も履修できます。
- ・サイエンスコア科目の履修により、コミュニケーション能力の向上や専門外の研究も学ぶ学生同士の相互教育を発展させます。
- ・各研究室・研究グループで実施されるセミナーでは英語で記載された最先端の学術論文を読みこなし、知識の更新と統合を行います。
- ・教員の指導の下で最先端の研究を行い、実践的な研究方法を発展させます。また、各研究室・研究グループで実施されるセミナーに参加して、研究の進捗状況を報告し、得られた結果について討論し、教員の指導のもと博士論文を作成します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「生物科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「生物科学」の研究においては、世界中の研究者が長年に渡って積み上げてきた研究成果を礎として新たな領域に踏み込みます。基本的に自然科学の研究成果は英語で記載された専門学術論文に掲載されています。したがって、最先端の研究に従事しようとするものは多くの学術論文を読みこなし、内容を咀嚼しなければなりません。そのためには、英語の理解力、複雑な事実関係を統合する能力、論理的解釈・洞察能力、等を発展させなければなりません。これらの能力を発展させるためには、修士での専門教育を修了した程度の研究経験と知識が必要です。また、実際に研究に従事するにあたっては、生物試料の調製や実験条件の検討、実験結果の再現性確認等、長期間に渡る地道な作業が必要となります。そのため、研究に対する意欲・関心の高さが重要な判定要素となります。また、生物試料の調製や実験の条件検討には操作の正確さが求められますが、それ以外にも生物試料の不安定さから生じる実験結果の乱れを取り除くためには、自分の研究方法を改善するための想像力も要求されます。さらに、これらの資質については自己を客観的に分析する力が求められます。

【入学者選抜の方針】

筆記試験により英語能力を計ります。さらに、専門分野での知識や研究経験を計るための研究プレゼンテーションや、研究意欲等を計るための面接も実施します。

理学研究科

学位プログラム「高分子科学」

学位：博士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「高分子科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

高分子物質は、現在の日常生活にはなくてはならないものです。したがって、高分子科学は現代社会の基盤となる知識であり、これまでに獲得された高分子科学の知識の継承と高分子科学のさらなる発展は、人類が快適に生活する上で不可欠です。当高分子科学専攻の目標は、この人類にとって必要不可欠な高分子科学の振興・発展にあります。

高分子科学は1930年頃に生まれ、化学、物理学、生物科学、および数学の知識を利用しながら急速に発展してきました。本学位プログラムでは、我が国の中で唯一、理学系研究科の中に設置された高分子科学に関する専攻において、化学・物理学・生物科学・数学の基礎知識の上に立って、高分子科学を発展させ、また高分子科学を応用した技術開発を行える人材を育成します。さらに、高分子科学の成果を社会に伝える教育者の育成も行います。

以上の高分子科学に関する高度な専門性と深い学識の修得に加えて、理学研究科の教育目標にあるような、基礎科学の最先端研究を通じた教育を行い、特定の分野だけに偏らない幅広い自然科学の素養に基づく柔軟な発想から、自然に対して鋭い直感力と的確な判断力を養うとともに、懷徳堂と適塾を生んだ大阪の風土を引き継いで基礎研究を重視し、それらが応用研究に結びつくことも教育の視野に入れています。そして本学位プログラム修了後には、大学・公的研究機関・企業等での研究職・技術開発職・教育職などの広い分野でリーダーとして社会に貢献できる人材を育成することを目標としています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「高分子科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

本学位プログラムでは、自然科学の探求において形だけをまねるのではなく、真理を追求する中で理学の本質を学び、下記のような能力を有する学生に学位を授与します。

- ・高分子科学の分野で自立して研究を行える高度な研究能力を身につけている。
- ・高分子の合成、物性、機能、構造、さらには生命現象との関わりまでの広い領域の学識を有している。

- ・ 企業等で行われている応用研究にも興味を持ち、高分子科学の知識を実用的な技術開発に応用できる能力を身につけている。
- ・ 研究者としての教養である研究者倫理や科学論文作成能力を身につけている。
- ・ 高等学校等の教員として課題研究などを指導する能力を身につけている。
- ・ 「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」修了者は、既存の概念や手法に捉われず、自ら新しい物質科学研究・事業のトレンドを生む能力を身につけている。
- ・ 大学院副専攻プログラム、高度副プログラム、高度教養プログラムの修了者は、学際的・俯瞰的な視点や複眼的視野で対象を考える能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

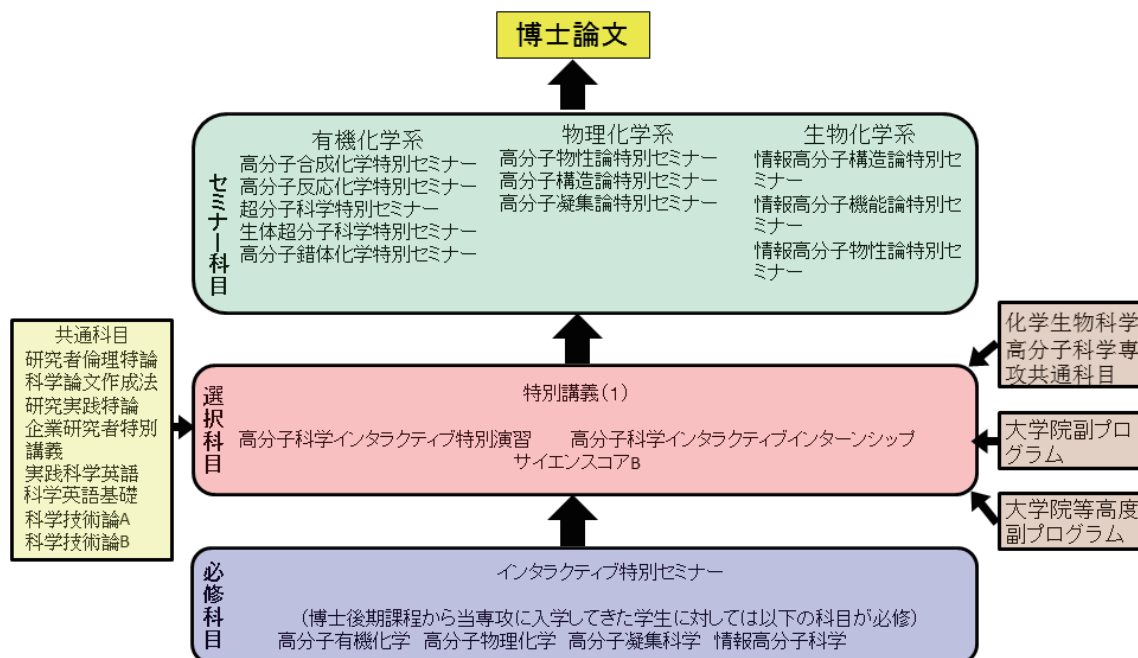
大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「高分子科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

高分子科学における知識・能力を身に付け、自立して研究を行える高度な研究能力を身につけるために、下記のカリキュラムが履修できます。

- ・ 修士課程で高分子科学の基礎を修得していない学生に対しては、本専攻の博士前期課程配当の必修科目を履修します。
- ・ 高分子科学の各分野での最先端までの知識を身につけるため、開講されている選択科目を履修します。
- ・ 教員の指導の下で最先端の研究テーマを立案・実施し、実践的な研究方法を身につけます。また、各研究室で実施されるセミナーに参加して、研究の進捗状況を報告し、得られた結果について討論し、教員の指導の下に博士論文を作成します。
- ・ 研究者として必要な研究者倫理、科学論文作成能力、コミュニケーション能力、研究発表能力を身につけるため、および研究者・教育者としてのキャリアパスを明確にするための共通科目を履修します。
- ・ 広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーを養成するための「リーディングプログラム」や「大学院オーナーコース」でのプログラムを、所定の審査を受けた後に履修できます。
- ・ より広い分野の知識や応用能力、豊かな学識を身に付けるために、専攻共通科目、副専攻プログラム、高度副プログラム、高度教養プログラムを受講することができます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

理学研究科高分子科学専攻カリキュラムマップ(博士後期課程)



※ 博士前期課程と共通の講義科目

アドミッション・ポリシー (入学受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「高分子科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

- ・ 自ら実践して、高分子科学あるいは関連する専門分野に関する研究を遂行できる能力を有すること。
- ・ 高分子科学の分野での研究者として活躍するために必要なコミュニケーション能力と研究発表能力を有すること。
- ・ 自然科学とくに高分子科学に関する知的好奇心を持ち、真理探究に喜びを感じる人。

【入学選抜の方針】

- ・ 修士論文あるいはそれに代わる研究成果物による書面審査。
- ・ 修士論文の研究成果あるいはそれに代わる研究成果の発表とそれに関する質疑応答を課す。
- ・ 高分子科学に対する興味、およびコミュニケーション能力を問う口頭試問を課す。

理学研究科

学位プログラム「宇宙地球科学」

学位：博士(理学)

教育目標

大阪大学および理学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「宇宙地球科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

宇宙の宇は四方上下・空間の広がり、宇宙の宙は往古来今・時間の流れを表します。宇宙を冠する私たちの専攻は広大な時空間を舞台に繰り広げられる森羅万象を、宇宙・地球・物質・生命の四つをキーワードに研究しています。もちろんこれら四つのキーワードは独立しているわけではなく、「宇宙のなかの地球と惑星」、「地球に生まれた生命」「世界を作る物質」というようにお互いに深く関係しあっています。宇宙地球科学専攻は、宇宙・惑星・地球を舞台に起こる様々な自然現象や、生命までを含む多様な物質の極限状態を、物理学を基礎として解明し、伝統的な天文学や地球惑星科学とは異なった視点からの宇宙地球科学の構築を目指すべく設立された、全国にも類を見ない大変ユニークな専攻です。本専攻がカバーする領域には、理論宇宙物理学、X線天文学、赤外線天文学、生命宇宙地球科学、惑星科学、地球化学、地球物理学、固体地球科学、物性理論などが含まれています。本専攻においては基礎物理学を重視しており、とくに、宇宙・惑星・天体の表面や内部・生体系等に見られるさまざまな極限状態におこる諸現象を、現代物理学の成果を基礎にして解明することを大きな目標にしています。

学位プログラム「宇宙地球科学」における教育と実験的及び理論的研究は、理学研究科の物理学専攻との緊密な連携のもとに行います。しかしながら、本プログラムでは物理学科出身者に限ることなく、天文学・地球科学・化学・生物学・数理科学・情報科学・工学など、多様なバックグラウンドを持った人材を広く求めています。そして、従来の学問の因習的な縦割りにとらわれることなく、学際領域の開拓と新たな総合科学としての宇宙地球科学の構築を目指しています。これらの研究から得られる成果は、宇宙・地球・生命・物質の相互関連を明らかにするにとどまらず、地球環境問題、生命の起源や将来の人類の生活や生存環境にも、新たな展望を拓くに違いありません。これらの目標を実現するために、宇宙地球科学専攻は、研究分野に対しても可変的な、複数の研究グループから構成されています。そして、人間の活動と自然の調和が強く求められている現在、基礎科学の素養を持ちつつ、宇宙・地球の全容を把握できる人材の輩出を目指すと共に、各分野において先進的かつグローバルなリーダーを育成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および理学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「宇宙地球科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

プログラムの後期課程では、学際的な特徴をもつ宇宙地球科学の本質を学び、下記のような能力を身につけた学生に学位を授与します。

「学習目標」

- ・宇宙地球科学を含む広い分野で活躍できる研究能力と高い専門性を身につけています。
- ・多様な宇宙、地球惑星科学的現象を複眼的視野で理解し、新たな課題を発見する能力を身につけています。
- ・英語を含む文献を読み、その分野の研究内容を理解する能力、研究成果をまとめて日本語や英語で論理的かつ明確に発表を行い、論文としてまとめる能力を身につけています。
- ・宇宙地球科学の学際的な研究から得られる成果により、宇宙や生命の起源などの根元的な問題を深く探求できるとともに、地球環境問題や将来の人類の生活への新たな展望を切り開く研究を自ら行う能力を身につけています。

望遠鏡を使う天体観測や、野外での地球諸現象の観測など、宇宙地球科学では、観測、機器開発、さらにデータ解析も重要な研究手段です。宇宙地球科学のそれぞれの分野で、国際的に独自性が高い研究を自ら既成概念に捉われず計画して、遂行するデザイン力を身につけています。

- (理論) 宇宙における基礎物理の検証、天体現象の説明、相互作用系などの物性において、独自性のある理論的研究を自ら計画して成果を出す能力を身につけています。
- (実験分析) 独自性のある研究を自ら計画して、最先端の分析装置の原理を良く理解して使い、優れた分析結果を出す能力を身につけています。
- (観測) 独自性のある研究を自ら計画して、最先端の観測装置の原理を良く理解して使い、優れた観測結果を出す能力を身につけています。
- (機器開発) 独自性のある研究を自ら計画して、目的に沿った実験、観測システムの開発・改良を行う能力を身につけています。
- (データ解析) 独自性のある研究を自ら計画して、シミュレーション、実験、観測などで取得されたデータを、適切に処理し、結果を科学的に解釈することのできる能力を身につけています。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

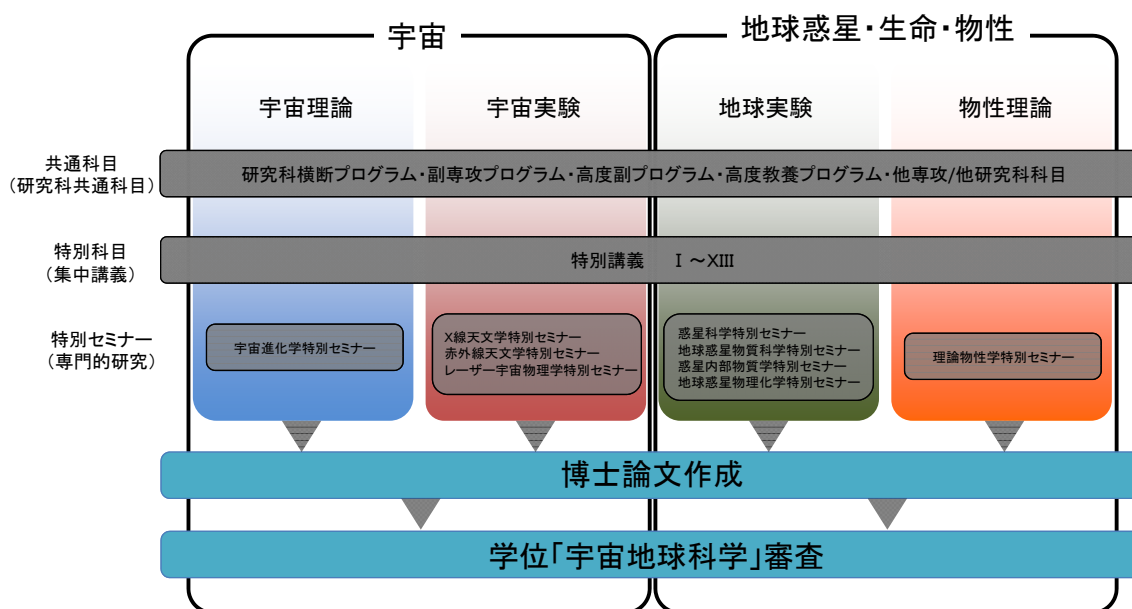
大阪大学および理学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「宇宙地球科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

プログラムの後期課程では、各研究グループのいずれかに所属し、各分野の高度な専門的知識や能力を身につけ、自ら実践して研究を遂行できる能力を身につけるために下記のカリキュラムを履修し、試験・レポート等に合格したのち単位を与えられます。

- ・副専攻プログラム・高度副プログラム・高度教養プログラムを履修し、幅広い分野における高度な理学の学識や教養知識を身につけます。
- ・特別講義を履修し、最先端の研究の方法や広い知識を身につけます。
- ・各分野の特別セミナー科目を履修し、各研究室・研究グループでの教員の助言のもと、自ら研究計画を立案してそれを実施し、研究の進捗状況や得られた結果について討論を行い、自分の考えを論理立てて明確に発表する能力を身につけ、最終的に博士論文を作成します。
- ・各々の進路に合わせた各種の大学院教育プログラムを履修し、大学での研究者・教育者、独立法人研究所等での研究者、企業等での研究者、高校等での高度専門型理系教育指導者等に必要能力・技能の取得、またグローバルに活躍できる能力を身に付けます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

宇宙地球科学専攻・博士後期課程カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「宇宙地球科学」は以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「宇宙地球科学」では、大阪大学および理学研究科のアドミッション・ポリシーにもとづき、プログラムの後期課程(博士課程)で以下のような人材を求めます。

- ・大学院修士課程を修了、もしくは同等の基礎学力・コミュニケーション能力・研究遂行能力を身につけている人。
- ・宇宙物理学・天文学・地球科学に強い興味・関心を持ち、真理探究に喜びを感じて、オリジナリティーあふれる研究活動に意欲的な人。
- ・博士の学位を取得して学術界や一般社会で活躍することを目指す人。

【入学者選抜の方針】

学位プログラム「宇宙地球科学」では、宇宙・地球・物質・生命という多様な対象を、基礎科学の立場から、とりわけ基礎物理を重視して研究しています。博士後期課程(博士課程)の4月入学の募集定員は13名で、入学試験は事前の学力試験の他、2月に行われる修士論文発表で審査します。10月入学の募集人員は若干名で、同様の審査が実施されます。

医学系研究科(修士:医科学専攻 博士:医学専攻)

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、大学は学問と教育の府であり、アカデミズムの追求こそが大学人の使命であるという理念のもと、大阪大学大学院医学系研究科では、世界の医学界をリードするという志のもとに、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力、及びその基礎となる豊かな学識を広い視野に立って養い、高度な倫理観と深い教養に裏づけられた創造性豊かな人材を輩出し、最先端の医学・医療・生命科学の推進および人類の健康・福祉への貢献をめざします。

この目標を実現するため、医学系研究科では次のとおり人材の育成に取り組んでいます。

修士課程

最新の医科学や公衆衛生学の知識を身につけ、自然科学や社会科学の方法論で、医学や医学を取り巻く多様な諸問題の対処や解決できる人材の育成に取り組んでいます。

博士課程

世界の医学、医療、および生命科学の発展に貢献できる人材、健康で質の高い生活を保障する地域医療の担い手となる人材、次世代をリードする優秀な人材の育成に取り組んでいます。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、医学系研究科では教育目標に定める人材を育成するため、所定期間在学し、必要な単位を修得のうえ、審査及び試験に合格し、次のとおり優れた知識と能力を身につけている学生に学位を授与します。

修士課程

- ・ 医学研究に必要な高度な倫理観を身につけている。
- ・ 幅広い医学の基礎知識及び最新の医科学や公衆衛生学の知識を身につけている。
- ・ 医科学・公衆衛生学の知識を自然科学や社会科学方法論により活用できる能力を身につけている。

博士課程

- ・ 医学研究に必要な高度な倫理観を身につけている。
- ・ 最先端の医学・医療・生命科学の知識を身につけている。
- ・ 生命現象を統合的に理解する能力を身につけている。
- ・ 医学と他の学問分野を横断的に理解できる能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーをうけ、医学系研究科では、ディプロマ・ポリシーに定める高度な知識・能力を習得するため、次のとおり教育課程を編成しています。

修士課程

- ・ 医学研究に必要な高度な倫理観と、安全管理能力を身につけることを目的とした授業を配置します。

- ・医学以外の学部出身者が、幅広い医学の基礎知識を身につけ、最先端の医学研究に触れることを目的として概論科目を配置します。
- ・専門分野における専門的知識と理解を身につけること、専門分野以外の研究に触れる機会を与え、複眼的な視野を身につけることを目的として、選択必修科目・選択科目を配置します。
- ・医科学・公衆衛生学の知識を、自然科学や社会科学方法論に活用可能な能力へと高めるために、医科学・公衆衛生学についての研究を行い、その結果を修士論文としてまとめられるよう研究指導を行います。
- ・成績評価、学位論文の審査は厳格に行われ、その評価は、知識・技能、それらを発展・活用できる能力の習得度によって評価します。

博士課程

- ・医学研究に必要な高度な倫理観と安全管理能力を身につけるための授業を、必修として配置します。
- ・指導教授による専門分野に主眼をおいた知識と技術の習得を目的とした授業科目を配置します。
- ・副指導教授による複眼的な視野を身につけることを目的とした授業科目を配置します。
- ・学生が希望するテーマに基づき、個別指導によって、基盤的な専門知識と技能、一流の研究者として自立して研究を企画・遂行できる能力を習得できるよう研究指導を行います。
- ・基礎医学研究を臨床応用に繋げ、多様なニーズに応えることを目的として、多くの教育プログラムを推進しています。
- ・成績評価及び学位論文の審査は、厳格に行われ、その評価は、知識・技能、研究を企画・遂行できる能力の習得度によって評価します。

アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーをうけ、医学系研究科では、教育目標に定める人材を育成するため、次の知識の内容と水準を満たし、世界の医学、医療、および生命科学の発展への貢献を目指す人、健康で質の高い生活を保障する地域医療の担い手を目指す人、次世代を担う優秀な人材の育成に尽力したいと望む人を求めています。

修士課程

- ・欧文論文の読解ができる英語の能力を有している。
- ・自然科学諸分野の大学の教養レベルの知識を習得していることに加え、学部レベル以上の専門基礎知識を有している。
- ・医学研究に必要な優れた目的意識と倫理感を備えている。

博士課程

- ・欧文論文読解と作成のための英語能力を有している。
- ・医学・生命科学の研究遂行に必要な学部レベルの知識を習得していることに加え、修士課程レベル以上の専門分野の基礎知識を有している。
- ・医学研究に必要な優れた目的意識と倫理感を備えている。

医学系研究科

学位プログラム「医科学」

学位：修士(医科学)

教育目標

大阪大学および医学系研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「医科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

医学は、人間が健全な生活を営むための基盤を提供する学問であり、近代医学は、生物学や物理学、化学、工学など自然科学の進歩の成果を結集して発展しています。

現在の医学・生物学分野の進歩、発展のスピードは目ざましく、製薬やバイオテクノロジー関連の企業を始めとして、高度な医学知識と医学研究の最前線の知識・技能を有する人材が広く社会で求められています。

医学の研究や医療技術の開発研究は医師だけが行うのではなく、医学以外の自然科学系の学問を専攻した研究者と医師とがチームを組んで行う必要があり、現代の医科学を大きく推進させるためには、高度に専門化した知識と技術の結集が必須となっています。

医学系研究科修士課程医科学専攻(医科学コース)では、このような社会的要請に応えるため、世界の医学界をリードし、人類の健康・福祉に貢献するという志のもとに、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識を広い視野に立って養い、最先端の医学・医療・生命科学の推進、及び、人類の健康・福祉に貢献できる高度な倫理観と、深い教養に裏づけられた創造性豊かな人材の育成をめざし、次のような人材を輩出することを教育目標としています。

- 最先端の医学・医療・生命科学の推進および人類の健康・福祉に貢献できる人材。
- 国際的な視野を持ち、世界で起こる医療に関する諸問題を、医科学の知識と自然科学や社会科学の方法論によりアプローチし解決できる人材。
- 研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力、及び、その基礎となる豊かな学識を広い視野に立って養い、高度な倫理観と深い教養に裏づけられた創造性豊かな人材。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および医学系研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「医科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

医学系研究科修士課程医科学専攻(医科学コース)では、教育目標に定める人材を育成するため、2年以上在学して30単位修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文審査及び試験に合格し、次のとおり医学研究に必要な高度な倫理観と、優れた知識・能力、国際性を身につけている学生に修士(医科学)の学位を授与します。

(学習目標)

○高度な専門性と深い学識

- ・幅広い医学の基礎知識と、最先端の医学研究に裏付けられた医科学の深い知識を有している。
- ・医科学の知識と自然科学や社会科学の方法論を、医療に関する諸問題解決のために活用できる能力を身につけている。

○教養・態度

- ・医科学の研究に必要な優れた目的意識と高度な倫理感を備え、医科学の研究に真摯に取り組む姿勢を身につけている。
- ・物事を多角的、且つ、広い視野で見ることができ、柔軟に思考できる能力を身につけている。

○デザイン力

- ・身につけた知識や技術を基に自由に発想し、表現できる能力を身につけている。

○コミュニケーション能力

- ・自らの成果を、国内外に発信するために必要なコミュニケーション能力を身につけている。

○国際性

- ・自国と他国の文化や習慣等を理解した上で、世界の医学を取り巻く諸問題を理解できる。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学系研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「医科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医科学」では、学位授与の方針に掲げる高度な知識・技能を修得させるために、教育課程を体系的に編成、実施しています。

また、授業科目における成績評価は、厳格に行われ、その評価は、知識・技能、それらを発展・活用できる能力の習得度によって評価します。

- 医学研究においては、高度な倫理観を持つことが必須であり、さらに、安全に研究を遂行する知識や能力を身につけることは非常に重要です。医科学専攻では、入学後すぐに、医学研究に必要な高度な倫理観と、安全に研究を行うための知識を身につけることを目的として「機器セミナー」を必修科目として配置しています。
- 1年次1学期の約3カ月の間は、医学以外の学部出身者が、幅広い医学の基礎知識を身につけ、最先端の医学研究に触れることを目的として、概論科目を必修科目として配置しています。概論科目は、医学部の出身者においても、身につけている医学の基礎知識を整理すると同時に、最先端の医学研究に触れることによって、知識をさらに深めることを目的としています。
- 1年次2学期には、希望する研究室に配置され、指導教員による研究指導が始まります。1年次の研究指導では、物事を多角的、且つ、広い視野をもって柔軟に思考できる能力、コミュニケーション能力、医科学の知識を活用できる能力を身につけます。
- 1年次の2学期から、広い視野をもって柔軟に思考できる能力を身につけることを目的として、医学に関連する様々な選択科目を配置しています。

○2年次では、専門分野における専門的知識と理解を身につけることを目的として、特論科目を選択必修科目として配置しています。さらに、専門分野以外の研究に触れることにより、物事を多角的、且つ、広い視野をもって柔軟に思考できる能力を身につけることを目的として、特論科目の中に系別セミナーを配置しています。

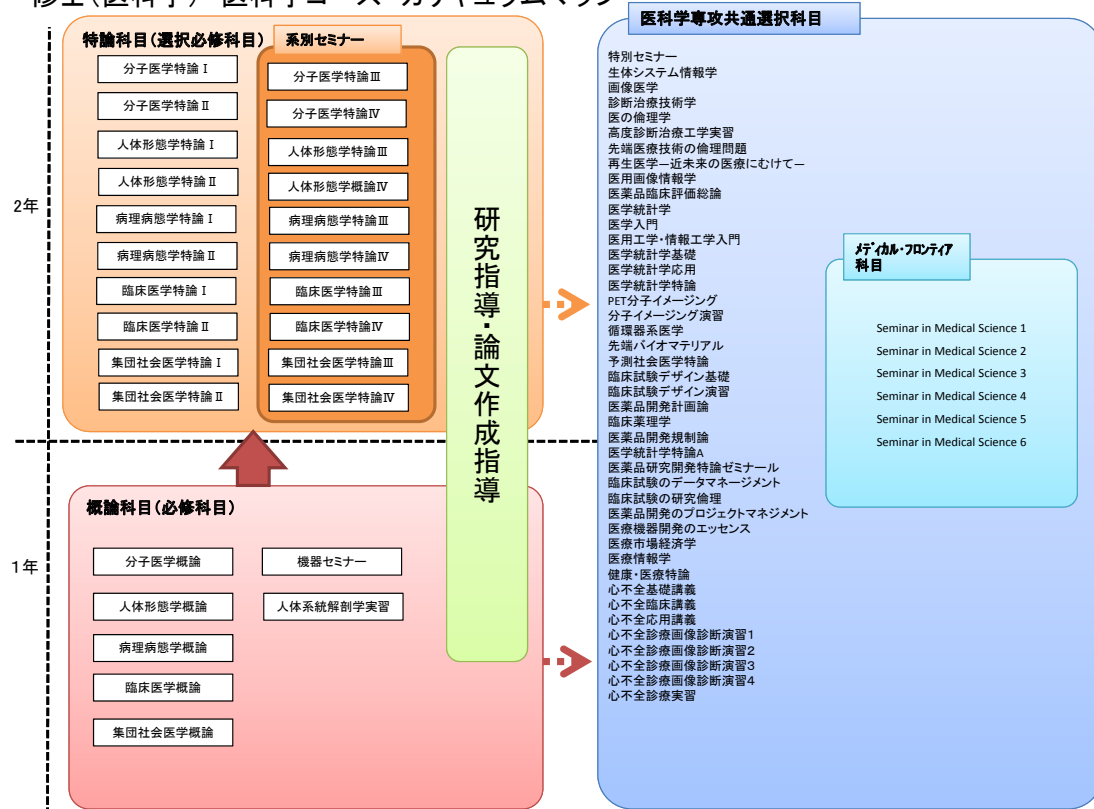
○2年次の研究指導は、医科学に関する知識を、自然科学や社会科学方法論に活用可能な能力へと高めるために、医科学についての研究を行い、その結果を修士論文としてまとめられるよう研究指導を行います。

○修士学位論文の審査については、次に定める事項に基づき、公正且つ厳格に行います。

- ・ 論文内容
- ・ 研究発表能力
- ・ 質疑応答能力

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

修士(医科学) 医科学コース カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「医科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医科学」では、教育目標に定める人材を育成するため、次の能力・態度・知識等の内容と水準を満たし、日本や世界の医学、医療、および生命科学の発展への貢献を目指す人、健康で質の高い生活を保障する地域医療の担い手を目指す人、次世代を担う優秀な人材の育成に尽力したいと望む人を受け入れます。

このような学生を適正に選抜するために入学選抜の方針に基づき選抜試験を実施します。

○入学前に修得しているべき能力・態度・知識等

- ・ 欧文論文の読解ができる英語の能力を有している。
- ・ 自然科学諸分野の大学の教養レベルの知識を習得していることに加え、学部レベル以上の専門基礎知識を有している。
- ・ 医学研究に必要な優れた目的意識と倫理感を備えている。
- ・ 医学研究に真摯に取り組む態度を備えている。
- ・ 積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を備えている。

○入学者選抜の方針

- ・ 入学前に修得しているべき能力・知識等を有しているかを確認するため、英語及び筆答試験を実施します。
- ・ 英語の試験は、TOEFL、IELTS等のスコアを基に、本研究科が定める換算式によって換算し、欧文論文が読解できる英語の能力があるかを判断します。
- ・ 筆答試験は、小論文により行い、自然科学諸分野の基礎的な知識と、学部レベル以上の専門知識を有しているかを確認するとともに、自分の考えを的確に表現し、伝えることができるかを判断します。
- ・ 英語の能力及び筆答試験により、習得しているべき能力・知識を有していると判断された者に対して、面接試験を実施します。
- ・ 面接試験では、医学研究に必要な目的意識と倫理観及び態度を備えているか、対話を通して、自分の考えを的確に表現し、伝えることができるかを判断します。

医学系研究科

学位プログラム「公衆衛生学」

学位：修士（公衆衛生学）

教育目標

大阪大学および医学系研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「公衆衛生学」では以下のとおり教育目標を定めています。

公衆衛生学は、社会の人々の健康を増進し、疾病の負担を軽減し、健康水準の格差を是正し、地域、国、地球レベルの健康への脅威に対処するため組織的な活動を実践・評価する学問です。

履修対象は、医師だけでなく、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、栄養士、理学・作業療法士、検査技師、自然科学、人文社会科学等の幅広い範囲の職種や学士の人々になります。

21世紀に入り、国内はもとより世界的に複雑化する健康医療問題の解決のためには、従来の健康・医療に関する知識・技能のみで対応することは困難であり、疫学、社会科学、環境科学、経済・経営学、法律学、倫理学、政策学など多面的かつ広い視点からアプローチする必要があります。そのため、健康、医療の諸問題に柔軟に対処できる知識、技能、倫理観、デザイン力、コミュニケーション力、国際性、そしてそれらに裏づけられた研究能力の涵養が求められています。

学位プログラム「公衆衛生学」では、医学系研究科の教育目標を受けて、世界の公衆衛生学界をリードし、人類の健康・福祉に貢献するという志のもとに、自立して研究活動や実践活動を行うに必要な知識、技能とその基礎となる豊かな学識を広い視野に立って養い、最先端の公衆衛生学の推進、及び、人類の健康・福祉に貢献できる高度な倫理観と、深い教養に裏づけられた創造性豊かな人材の育成をめざします。

そのため、公衆衛生学分野の研究者のみならず、公衆衛生行政機関、公衆衛生関連の企業・シンクタンク、国際機関等で働く人材の育成や、行政機関の医師、歯科医師、薬剤師、保健師、栄養士等の専門職の格段の能力向上に貢献できる、次のような人材を輩出することを教育目標としています。

- 公衆衛生学の研究や実践活動を自立して行うに必要な能力、及び、その基礎となる豊かな学識、高度な倫理観、深い教養に裏づけられた創造性豊かな人材。
- 国際的な視野を持ち、国内外の健康に関する諸問題に、公衆衛生学の知識と自然科学や社会科学の方法論を活用して対処できる人材。
- 最先端の公衆衛生学を生涯学習し、人類の健康・福祉に貢献できる人材。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学および医学系研究科のディプロマ・ポリシー（学習目標を含む）のもとに、学位プログラム「公衆衛生学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「公衆衛生学」では、教育目標に定める人材を育成するため、2年以上在学して30単位修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文審査及び試験に合格し、次のとおり医学研究に

必要な高度な倫理観と、優れた知識・能力、国際性を身につけている学生に修士（公衆衛生学）の学位を授与します。

（学習目標）

○高度な専門性と深い学識

- ・幅広い医学の基礎知識と、最先端の医学研究に裏付けられた公衆衛生学の深い知識を有している。
- ・公衆衛生学の知識を自然科学や社会科学の方法論により、健康に関する諸問題解決のために活用できる能力を身につけている。

○教養・態度

- ・公衆衛生学の研究に必要な優れた目的意識と高度な倫理感を備え、公衆衛生学の研究に真摯に取り組む姿勢を身につけている。
- ・物事を多角的、且つ、広い視野で見ることができ、柔軟に思考できる能力を身につけている。

○デザイン力

- ・身につけた知識や技術を基に自由に発想し、表現できる能力を身につけている。

○コミュニケーション能力

- ・自らの成果を、国内外に発信するために必要なコミュニケーション能力を身につけている。

○国際性

- ・自国と他国の文化、制度、社会経済状況、習慣等を理解した上で、世界の健康に関する諸問題を理解できる。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および医学系研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「公衆衛生学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「公衆衛生学」では、学位授与の方針に掲げる高度な知識・技能を修得させるために、教育課程を体系的に編成、実施しています。

また、授業科目における成績評価は、厳格に行われ、その評価は、知識・技能、それらを発展・活用できる能力の習得度によって評価します。

○医学研究においては、高度な倫理観を持つことが必須であり、さらに、安全に研究を遂行する知識や能力を身につけることが求められます。医科学専攻では、入学後すぐに、医学研究に必要な高度な倫理観と、安全に研究を行うための知識を身につけることを目的として「機器セミナー」を必修科目として配置しています。

○1年次1学期の約3カ月の間は、医学以外の学部出身者が、幅広い医学の基礎知識を身につけ、最先端の医学研究に触れることを目的として、概論科目を必修科目として配置しています。概論科目は、医学部の出身者においても、身につけている医学の基礎知識を整理すると同時に、最先端の医学研究に触れることによって、知識をさらに深めることを目的としています。

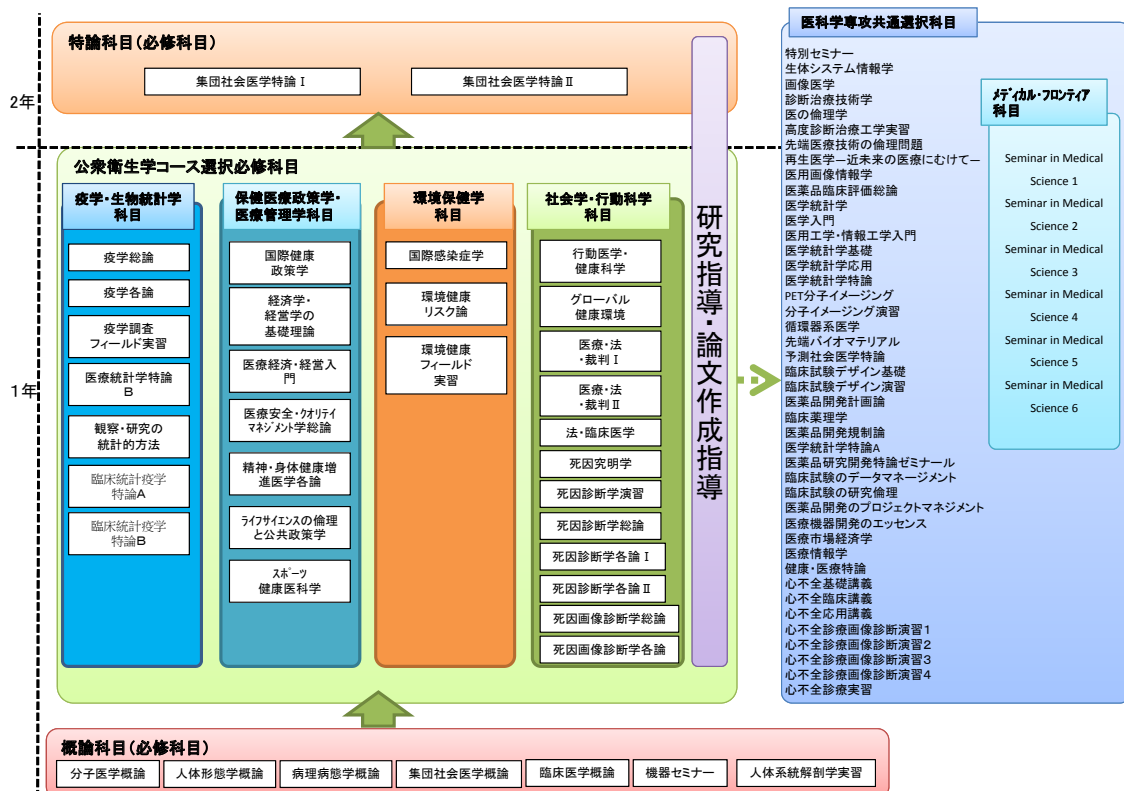
○概論科目が終了後、疫学、環境科学、社会科学、経済・経営学、法学、倫理学、政策学、法医学など、多

面的かつ広い視点からアプローチするために必要な公衆衛生学の知識を身につけることを目的として、選択必修科目を配置しています。

- 1年次2学期には、希望する社会医学の講座に配属され、指導教員による研究指導が始まります。公衆衛生学についての研究テーマの絞り込みを行う過程で、コミュニケーション能力や、概論科目・選択必修科目等で得た知識を活用する能力を身につけます。
- 1年次の2学期から、広い視野をもって柔軟に思考できる能力を身につけることを目的として、医学に関連する様々な選択科目を配置しています。
- 2年次では、専門分野における知識と理解を深めることを目的として、特論科目を必修科目として配置しています。
- 2年次の研究指導は、公衆衛生学に関する知識を、自然科学や社会科学方法論を活用できる能力へと高めるために、公衆衛生学についての研究を行い、その結果を修士論文としてまとめられるよう研究指導を行います。
- 修士学位論文の審査については、次に定める事項に基づき、公正且つ厳格に行います。
 - ・ 論文内容
 - ・ 研究発表能力
 - ・ 質疑応答能力

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

修士(公衆衛生学) 公衆衛生学コース カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「公衆衛生学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「公衆衛生学」では、教育目標に定める人材を育成するため、次の能力・態度・知識等の内容と水準を満たし、日本や世界の公衆衛生学への貢献を目指す人、次世代の公衆衛生を担う優秀な人材の育成に尽力したいと望む人を受け入れます。

このような学生を適正に選抜するために入学選抜の方針に基づき選抜試験を実施します。

○入学前に修得しているべき能力・態度・知識等

- ・ 欧文論文の読解ができる英語の能力を有している。
- ・ 自然科学諸分野の大学の教養レベルの知識を習得していることに加え、学部レベル以上の専門基礎知識を有している。
- ・ 医学研究に必要な優れた目的意識と倫理感を備えている。
- ・ 医学研究に真摯に取り組む態度を備えている。
- ・ 積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を備えている。

○入学者選抜の方針

- ・ 入学前に修得しているべき能力・知識等を有しているかを確認するため、英語及び筆答試験を実施します。
- ・ 英語の試験は、TOEFL、IELTS等のスコアを基に、本研究科が定める換算式によって換算し、欧文論文が読解できる英語の能力があるかを判断します。
- ・ 筆答試験は、小論文により行い、自然科学諸分野の基礎的な知識と、学部レベル以上の専門知識を有しているかを確認するとともに、自分の考えを的確に表現し、伝えることができるかを判断します。
- ・ 英語の能力及び筆答試験により、習得しているべき能力・知識を有していると判断された者に対して、面接試験を実施します。
- ・ 面接試験では、医学研究に必要な目的意識と倫理観及び態度を備えているか、対話を通して、自分の考えを的確に表現し、伝えることができるかを判断します。

医学系研究科

学位プログラム「死因究明学」

学位：修士(公衆衛生学)

教育目標

大阪大学および医学系研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「死因究明学」では以下のとおり教育目標を定めています。

死因究明学とは、新しく創造する分野で、大阪大学が初めて設置致しました。死因についてその診断をはじめとして死亡機序の解明に始まり、死因統計からの医療のアウトカム評価まで視野に入れた学問分野です。

わが国が世界に先んじて迎える多死社会や今後の大規模災害発生の可能性を踏まえ、死因の究明を推進する重要性はますます高まっています。しかしながら、死因究明の任にあたる専門家は極めて少なく、実際には臨床医が従事しているのが現状です。また、死因究明に携わる人々は、医師のみならず、個人識別で重要な役割を果たす歯科医師、薬毒物分析を担う薬剤師、CTやMRI等の画像検査を担う放射線技師、各種検査を担う臨床検査技師等の医療関係者、公衆衛生に従事する保健師、看護師、ご遺体に接する警察官や科捜研研究員、死に関係する訴訟等を担う裁判官、検察官、弁護士の法曹関係者、死因調査をする保険調査員、保健行政の関係者等、多くの方が死因について系統だった知識の教授がなされていませんでした。もちろん、死因究明に関わる学問領域として、病理学、法医学等がありますが、いずれもそれぞれの専門分野の業務量が膨大になり、死因究明全体の向上が難しい状態となっています。

そのような背景と死因究明の重要性から、死因究明制度を抜本的に見直す「死因・身元調査法」と「死因究明等推進法」が、平成24年に成立しました。

医学系研究科修士課程医科学専攻では、そのような社会の状況から、死因究明学という学問領域に貢献するため、平成27年度に「死因究明学コース」を設置しました。

医学系研究科修士課程医科学専攻(死因究明学コース)では、世界の死因究明学をリードし、人類の健康・福祉に貢献するという志のもとに、死因究明実務を行い、新しい学問領域である死因究明学の推進、及び、人類の健康・福祉に貢献できる高度な倫理観と、深い教養に裏づけられた創造性豊かな死因究明を担う人材の育成をめざします。

そのため、次のような人材を輩出することを教育目標としています。

- 死因究明学の研究や実務を自立して行うに必要な能力および、その基礎となる豊かな学識、高度な倫理観、深い教養に裏づけられた創造性豊かな人材。
- 国際的な視野を持ち、世界で起こる死に関する諸問題を、死因究明学の知識と自然科学や社会科学の方法論により対応できる人材。
- 最先端の死因究明学を生涯学習し、人類の健康・福祉に貢献できる人材。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および医学系研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「死因究明学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「死因究明学」では、教育目標に定める人材を育成するため、2年以上在学して30単位修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文審査及び試験に合格し、次のとおり医学研究に必要な高度な倫理観と、優れた知識・能力、国際性を身につけている学生に修士(公衆衛生学)の学位を授与します。

(学習目標)

○高度な専門性と深い学識

- ・幅広い医学の基礎知識と、最先端の医学研究に裏付けられた死因究明学の深い知識を有している。
- ・死因究明学の知識を自然科学や社会科学の方法論により、死因に関する諸問題解決のために活用できる能力を身につけている。

○教養・態度

- ・死因究明学の研究に必要な優れた目的意識と高度な倫理感を備え、死因究明学の研究に真摯に取り組む姿勢を身につけている。
- ・物事を多角的、且つ、広い視野で見ることができ、柔軟に思考できる能力を身につけている。

○デザイン力

- ・身につけた知識や技術を自由に発想し、表現できる能力を身につけている。

○コミュニケーション能力

- ・自らの成果を、国内外に発信するために必要なコミュニケーション能力を身につけている。

○国際性

- ・自国と他国の文化、制度、社会経済状況、習慣等を理解した上で、世界の死亡に関する諸問題を理解できる。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学系研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「死因究明学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「死因究明学」では、学位授与の方針に掲げる高度な知識・技能を修得させるために、教育課程を体系的に編成、実施しています。

また、授業科目における成績評価は、厳格に行われ、その評価は、知識・技能、それらを発展・活用できる能力の習得度によって評価します。

- 医学研究においては、高度な倫理観を持つことが必須であり、さらに、安全に研究を遂行する知識や能力を身につけることは非常に重要です。医科学専攻では、入学後すぐに、医学研究に必要な高度な倫理観と、安全に研究を行うための知識を身につけることを目的として「機器セミナー」を必修科目として配置しています。

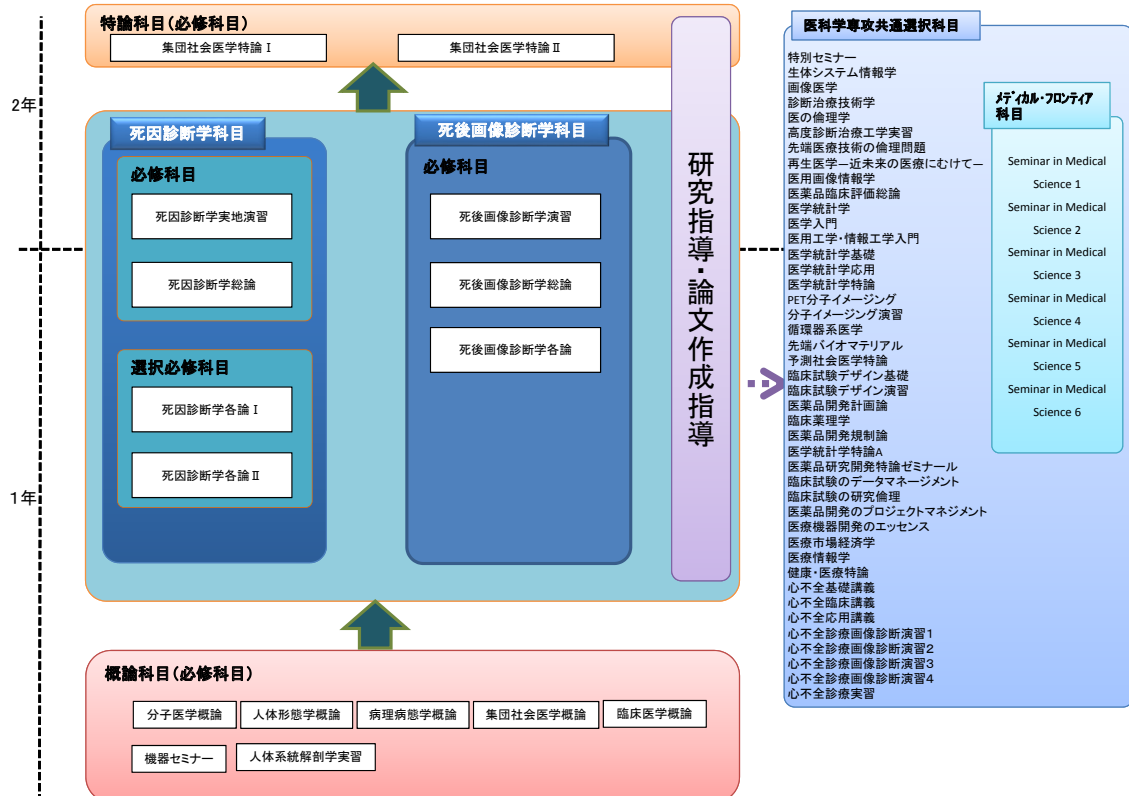
- 1年次1学期の約3カ月の間は、医学以外の学部出身者が、幅広い医学の基礎知識を身につけ、最先端の医学研究に触れることを目的として、概論科目を必修科目として配置しています。概論科目

は、医学部の出身者においても、身につけている医学の基礎知識を整理すると同時に、最先端の医学研究に触れることによって、知識をさらに深めることを目的としています。

- 概論科目が終了後、死因究明に必要な死因診断の基礎知識を身につけることを目的として、死因診断学科目を必修（一部は選択必修）科目として配置し、併せて、死亡時画像診断の基礎知識を身につける死後画像診断学科目を必修科目として配置しています。
- 1年次2学期には、希望する社会医学の講座に配属され、指導教員による研究指導が始まります。1年次の研究指導では、物事を多角的、且つ、広い視野をもって柔軟に思考できる能力、コミュニケーション能力、死因診断学の知識を活用できる能力を身につけます。
- 1年次の2学期から、広い視野をもって柔軟に思考できる能力を身につけることを目的として、医学に関連する様々な選択科目を配置しています。
- 2年次では、専門分野における専門的知識と理解と実践を身につけることを目的として、特論科目と死因診断学実地演習、死後画像診断学演習を必修科目として配置しています。
- 2年次の研究指導は、死因究明に関する知識の活用能力を高めるために、死因究明学についての研究を行い、その結果を修士論文としてまとめられるよう研究指導を行います。
- 修士学位論文の審査については、次に定める事項に基づき、公正且つ厳格に行います。
 - ・ 論文内容
 - ・ 研究発表能力
 - ・ 質疑応答能力

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

修士(公衆衛生学) 死因究明学コース カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「死因究明学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「死因究明学」では、教育目標に定める人材を育成するため、次の能力・態度・知識等の内容と水準を満たし、日本や世界の医学、医療、および生命科学の発展への貢献を目指す人、健康で質の高い生活を保障する地域医療の担い手を目指す人、次世代を担う優秀な人材の育成に尽力したいと望む人を受け入れます。

このような学生を適正に選抜するために入学選抜の方針に基づき選抜試験を実施します。

○入学前に修得しているべき能力・態度・知識等

- ・ 欧文論文の読解ができる英語の能力を有している。
- ・ 自然科学諸分野の大学の教養レベルの知識を習得していることに加え、学部レベル以上の専門基礎知識を有している。
- ・ 医学研究に必要な優れた目的意識と倫理感を備えている。
- ・ 医学研究に真摯に取り組む態度を備えている。
- ・ 積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を備えている。

○入学者選抜の方針

- ・ 入学前に修得しているべき能力・知識等を有しているかを確認するため、英語及び筆答試験を実施します。
- ・ 英語の試験は、TOEFL、IELTS等のスコアを基に、本研究科が定める換算式によって換算し、欧文論文が読解できる英語の能力があるかを判断します。
- ・ 筆答試験は、小論文により行い、自然科学諸分野の基礎的な知識と、学部レベル以上の専門知識を有しているかを確認するとともに、自分の考えを的確に表現し、伝えることができるかを判断します。
- ・ 英語の能力及び筆答試験により、習得しているべき能力・知識を有していると判断された者に対して、面接試験を実施します。
- ・ 面接試験では、医学研究に必要な目的意識と倫理観及び態度を備えているか、対話を通して、自分の考えを的確に表現し、伝えることができるかを判断します。

医学系研究科

学位プログラム「医学」

学位：博士(医学)

教育目標

大阪大学および医学系研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「医学」では以下のとおり教育目標を定めています。

近年の医学及び生命科学研究の著しい進展と技術革新に伴い、様々な研究分野間の協力をなくしては、大きな研究の発展が望めないようになっていきます。また、特定の分野のみの視点から研究を行うのではなく、研究分野間で包括的な理解がないと新しい研究・医療が確立しがたい状況になっていきます。

そのような状況の中、医学系研究科医学専攻は、世界をリードする独創的な「知」を創出し、それを原動力として、人類社会に貢献するため、各研究室が独自の研究テーマで研究を推進しつつ、基礎医学、臨床医学、社会医学などの垣根を越えた知の交流を進め、相互に架け橋となって大きな活力を生み出しています。さらに、基盤的医学・生命科学研究を充実させるとともに、臨床的応用研究への展開を常に考え、基礎医学からトランスレーショナルリサーチ、先進医療の開発へとシームレスにつながる研究、異分野交流、産学連携、国際共同研究を積極的に推進し、新たな「知」の創出に結びつける研究、教育活動を行っています。

医学系研究科博士課程医学専攻では、世界の医学界をリードし、人類の健康・福祉に貢献するという志のもとに、研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度な研究能力とその基礎となる豊かな学識を広い視野に立って養い、最先端の医学・医療・生命科学の推進、及び、人類の健康・福祉に貢献できる高度な倫理観と、深い教養に裏づけられた創造性豊かな人材の育成をめざし、次のような人材を輩出することを教育目標としています。

- 世界の医学、医療、および生命科学の発展に貢献できる人材。
- 健康で質の高い生活を保障する地域医療の担い手となる人材。
- 次世代をリードする優秀な人材。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および医学系研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「医学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医学」では、教育目標に定める人材を育成するため、4年以上在学して30単位修得し、必要な研究指導を受けた上で、博士論文審査及び試験に合格し、次のとおり医学研究に必要な高度な倫理観と、優れた知識・能力、国際性を身につけている学生に博士(医学)の学位を授与します。

また、優れた業績を上げた者については、在学期間を短縮して修了することができます。

(学習目標)

○高度な専門性と深い学識

- ・幅広い医学の基礎知識と、最先端の医学研究に裏付けられた深い医学・医療・生命科学の知識を身につけている。
- ・生命現象を統合的に理解する能力を身につけている。
- ・医学と他の学問分野を横断的に理解できる能力を身につけている。

○教養・態度

- ・医学の研究に必要な優れた目的意識と高度な倫理感を備え、医学の研究に真摯に取り組む姿勢を身につけている。
- ・物事を多角的、且つ、広い視野で見ることができ、柔軟に思考できる能力を身につけている。

○デザイン力

- ・医学の知識を、医療に関する諸問題解決のために活用できる能力を身につけている。
- ・身につけた知識や技術を自由に発想し、表現できる能力を身につけている。

○コミュニケーション能力

- ・自らの成果を、国内外に発信するために必要なコミュニケーション能力を身につけている。

○国際性

- ・自国と他国の文化や習慣等を理解した上で、世界の医学を取り巻く諸問題を理解し、国際的視野に立って医学・医療の発展に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学系研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「医学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

医学系研究科博士課程医学専攻では、学位授与の方針に掲げる高度な知識・技能を修得させるために、教育課程を体系的に編成、実施しています。

また、授業科目における成績評価は、厳格に行われ、その評価は、知識・技能、それらを発展・活用できる能力の習得度によって評価します。

○医学研究においては、高度な倫理観を持つことが必須であり、さらに、安全に研究を遂行する知識や能力を身につけることは非常に重要です。医学専攻では、医学研究に必要な高度な倫理観と、安全に研究を行うための知識を身につけることを目的とした講義を、授業科目Aの共通講義として配置しています。

○1年次では、身につけている医学の基礎知識を整理すると同時に、最先端の医学研究に触れることによって、医学の基礎知識をさらに深めることを目的として、指導教授が担当する授業科目Aの科目を必修科目として配置しています。

○1年次の研究指導では、研究計画の立案及び研究の進め方についての基礎的な能力と、医学の知識・技術等を身につけることを目的として、指導教員が学生個々の研究の方向性や計画を確認しながら研究指導を行います。また、1年次の終わりに、学生の研究テーマの推進と、将来のキャリアパ

スを考慮の上、他分野から副指導教授を決定します。

○2年次では、他分野の基礎知識と技術の修得、広い視野をもって柔軟に思考できる能力を身につけることを目的として、副指導教授が担当する特別セミナーを必修科目として配置しています。

○2年次の研究指導では、指導教授が、学生が身につけた知識や技術を基に自由に発想する能力と、それを表現できる能力を涵養し、研究を発展させる研究指導を行うとともに、副指導教授が、研究を多角的、且つ、広い視野で見ることが出来る能力を身につける研究指導を行います。

○3年次では、医学の知識を医療に関する諸問題解決のために活用できる能力と、世界の医学を取り巻く諸問題を理解する能力を身につけることを目的として、指導教授が担当する授業科目Bを配置しています。

○3年次及び4年次の研究指導では、指導教授及び副指導教授が、国内外に発信するために必要なコミュニケーション能力を身につけ、研究成果を博士学位論文としてまとめることができるよう研究指導を行います。

○優れた業績を修めた学生については、3年次及び4年次の1学期に早期で修了できます。

○博士学位論文の審査については、次に定める事項に基づき、公正且つ厳格に行います。

- ・ 論文内容
- ・ 研究発表内容
- ・ 質疑応答能力

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

博士(医学)カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「医学」は以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

医学系研究科博士課程医学専攻では、教育目標に定める人材を育成するため、次の知識の内容と水準を満たし、世界の医学、医療、および生命科学の発展への貢献を目指す人、健康で質の高い生活を保障する地域医療の担い手を目指す人、次世代を担う優秀な人材の育成に尽力したいと望む人を求めています。

このような学生を適正に選抜するために入学選抜の方針に基づき選抜試験を実施します。

○入学前に修得しているべき能力・態度・知識等

- ・ 欧文論文読解と作成のための英語能力を有している。
- ・ 医学・生命科学の研究遂行に必要な学部レベルの知識を習得していることに加え、修士課程レベル以上の専門分野の基礎知識を有している。
- ・ 医学研究に必要な優れた目的意識と倫理感を備えている
- ・ 医学研究に真摯に取り組む態度を備えている。
- ・ 積極的に他者と関わり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を備えている。

○入学者選抜の方針

- ・ 入学前に修得しているべき能力・知識等を有しているかを確認するため、英語及び筆答試験等を実施します。
- ・ 英語の試験は、筆答試験により行い、欧文論文が読解でき、自らの考えを表現する英語の能力があるかを判断します。ただし、10月入学の外国人留学生を対象とした試験においては、本研究科が定めるTOEFL等の得点基準により、英語の能力を判断します。
- ・ 専門科目の試験は、入学を希望する研究分野により適切な方法により実施し、医学・生命科学の研究に必要な学部レベルの知識を有しているか、修士課程レベル以上の専門分野の知識を有しているかを判断します。
- ・ 面接試験では、医学研究に必要な目的意識と倫理観及び態度を備えているか、対話を通して、自分の考えを的確に表現し、伝えることができるかを判断します。

医学系研究科(保健学専攻)

■ 教育目標・ディプロマ・ポリシー・カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、医学系研究科保健学専攻博士前期課程では、日進月歩の現代医療のニーズに応えられる医療技術と知識を持ち、サイエンスの進歩に適応できる柔軟な思考力と高度で幅広い知識や実行力を備えた保健医療者を養成します。さらに博士後期課程では、知的リーダーシップを発揮できる保健学・看護学・医療技術学の高度医療者・研究者の育成を図ります。高度な専門性と知性は机上の学問からだけではなく、様々な実験やフィールドワークの繰り返しから身に付きます。そのためには自分の限界に挑戦し、先駆的な研究手法を身につけようとする姿勢が重要です。さらに臨床、研究の両面においてチームワークを形成することが必要です。先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むためには、他分野との融合による研究を積極的に推進し、一方で萌芽研究やシーズ研究を大切にすることが重要です。保健学専攻博士課程では、入学までに養って来た教養と深い専門知識を十分に活かして発展させるとともに、後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる能力を育成します。また、新しい研究分野を開拓できるデザイン力や、今後の国際社会におけるリーダーシップの育成にも務めます。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

保健学専攻では、医療科学の一翼を担っています。臨床での課題や多職種チーム医療との融合を目指した実践性の高い領域、生態環境や医療システムモデルの検討など社会デザイン性の高い領域、次世代の保健医療福祉の基盤となる先端科学の領域等、社会的にも重要な多彩な研究分野があります。

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、医学系研究科保健学専攻の博士前期課程では、以下の学生に学位を授与します。

1. 医療科学の領域で研究を遂行できる基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養、高い倫理性を備えている。
2. 研究テーマは学問の府たる大学としての自主性、独創性がある。研究の視点として理論と実証の両面を備えている。
3. 課題に対する新たな評価法を提案でき、問題解決能力を身につけ、基盤技術の構築を目指している。
4. 国際専門誌の読解力と、自身の研究の社会への説明能力を有している。

博士後期課程では、以下の学生に学位を授与します。

1. 医療科学の領域における問題発見・設定能力があり、自ら研究をデザインでき、研究の完結が可能である。
2. 研究課題には世界的新規性があり、臨床応用への展開、他分野と融合した新しい医療科学の創生や、未来医療を開拓することができる。
3. 高い倫理性と強い責任感を備え、社会的視点を持ち、国際学会・国際専門誌でも研究を公表できる。
4. 医療科学における国際連携の中でリーダーシップを発揮でき、後進の指導や社会的な活動などを通じて医療科学の社会的発展を推進することが望まれる。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、

- (1) 医学系研究科保健学専攻の博士前期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、医療現場における課題を患者の立場および社会的な立場から理解するとともに、多彩な視点から問題解決をデザインできる力を養います。本研究科をはじめ、専門領域において世界最先端の連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座から提供される医学、工学、人文科学にわたる専門的な科目、他学部・他研究科の科目も履修できます。国内外の医療機関、研究機関での研修も単位として認められます。修士論文の作成は、研究遂行力、発表能力の鍛錬だけでなく、科学者であるとともに保健医療人にとって必要な、高い倫理性と強い責任感、課題遂行力の涵養を目指しています。
- (2) 博士後期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、高い倫理性と強い責任感を持ち、保健学、看護学、医療技術科学領域において独創的な研究をデザインし遂行する能力、研究チームリーダーとして研究組織を牽引できる力を養います。先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むためには、他分野との融合研究を積極的に推進し、一方で萌芽的研究や小さなシーズ研究を大切にす柔軟な思考と吸収力、広い視野が必要です。他学部・他研究科の科目の履修をはじめ、専門領域において連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座における研究、さらに海外の大学での研究も可能です。また、リサーチアシスタントやシニアティーチングアシスタント制度により、学生や後進に対して研究指導できる能力を育成します。

アドミッション・ポリシー

(入学受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、保健学専攻博士前期課程では、これからの日本、そして世界における保健・医療・福祉のさまざまな課題を、リサーチマインドをもって探求、解決に努力する、臨床実践者、臨床科学技術者、研究者、教育者を目指す人を求めています。医学分野だけでなく多様なバックグラウンドをもつ学生が共に学ぶことにより、画期的な発想が生まれ、高い専門性と豊かな人間性が培えると考えます。医療専門職としてチーム医療や地域医療でリーダーシップをとることができる人材や、保健医療科学の研究者として研究開発を行う人材には、広い視野と柔軟な理解力が必要であり、基本的な英語力は必須です。急速に高齢化が進むわが国で、人々の健康の増進に貢献したいという情熱のある人、新たな技術の開発に向けた研究を行う気概のある人を求めています。

博士後期課程では、保健医療科学の分野で、グローバルな知識を持ち、国際的なリーダーシップを発揮できる研究者の育成を目的としています。そのためには、豊かな語学力とともに、新たな分野を萌芽的な段階の研究から切り開いていく能力、自らの専門分野にとどまらず他領域との融合による新たな展開を図る能力など、高度のデザイン力が必要とされます。また、保健・医療・福祉の研究では高い倫理観を持つことも大切です。医療界のみならず産業界からも期待され、将来の保健医療福祉分野において国際的な貢献を目指す、多角的な視野を持つ人を求めています。

医学系研究科

学位プログラム「統合保健看護科学（看護学）」

学位：修士（看護学）

教育目標

大阪大学および医学系研究科保健学専攻の教育目標を受けて、学位プログラム「統合保健看護科学（看護学）」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学分野（看護学）」の修士課程では、日進月歩の現代医療のニーズに応えられる医療技術と知識を持ち、サイエンスの進歩に適応できる柔軟な思考力と、高度で幅広い知識や実行力を備えた保健医療者を養成します。そのための教育目標を下記の四領域に分けて示します。

●最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・机上の学びからだけでなく、様々な実験やフィールドワークの繰り返しを通じて最先端かつ高度な専門的知識を身につけます。
- ・自分の限界に挑戦し、先駆的な研究手法を身につけます。

●教養

- ・培ってきた教養と深い専門知識をさらに発展させて、後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる能力を育成します。

●デザイン力

- ・先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むために、他分野との融合による研究を積極的に推進し、一方で萌芽研究やシーズ研究を大切にします。
- ・臨床、研究の両面においてよいチームワークを形成する能力を養います。

●国際性

- ・高度な専門知識・技術と語学力を基盤として国際社会におけるリーダーシップが取れる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」の博士前期課程では、高度な専門性と深い学識、教養、デザイン力、国際性をもった看護学の教育・研究者、指導者の養成をめざす基本理念の下、以下の学生に「修士(看護学)」の学位を授与します。

(学習目標)

●高度な専門性と深い学識

- ・看護学の高度な専門的知識を持ち、医療や社会における健康問題の中から、看護学の重要で独創的な問題を抽出できる。
- ・医療および看護学における広く深淵な学識を持ち、看護の健康課題の解決に応用できる。

●教養

- ・高い倫理観と人間性を持ち、医療現場でのチームワークを形成し、後進の育成ができる。
- ・社会に貢献する(＝社会のために働く)責務を自覚し、専門職として主体的かつ継続的に学習できる。

●デザイン力

- ・看護学における新たな問題を設定し、問題解決のための研究方法をデザインできる。
- ・得られた情報を客観的に整理・分析し、科学的根拠の下に論理的に考察し、発表できる。

●国際性

- ・国際誌の読解力を持ち、英語を用いて必要な情報を収集できる。
- ・看護学の専門的知識と語学力を基盤とし、国際連携や国際社会への貢献ができる。

カリキュラム・ポリシー

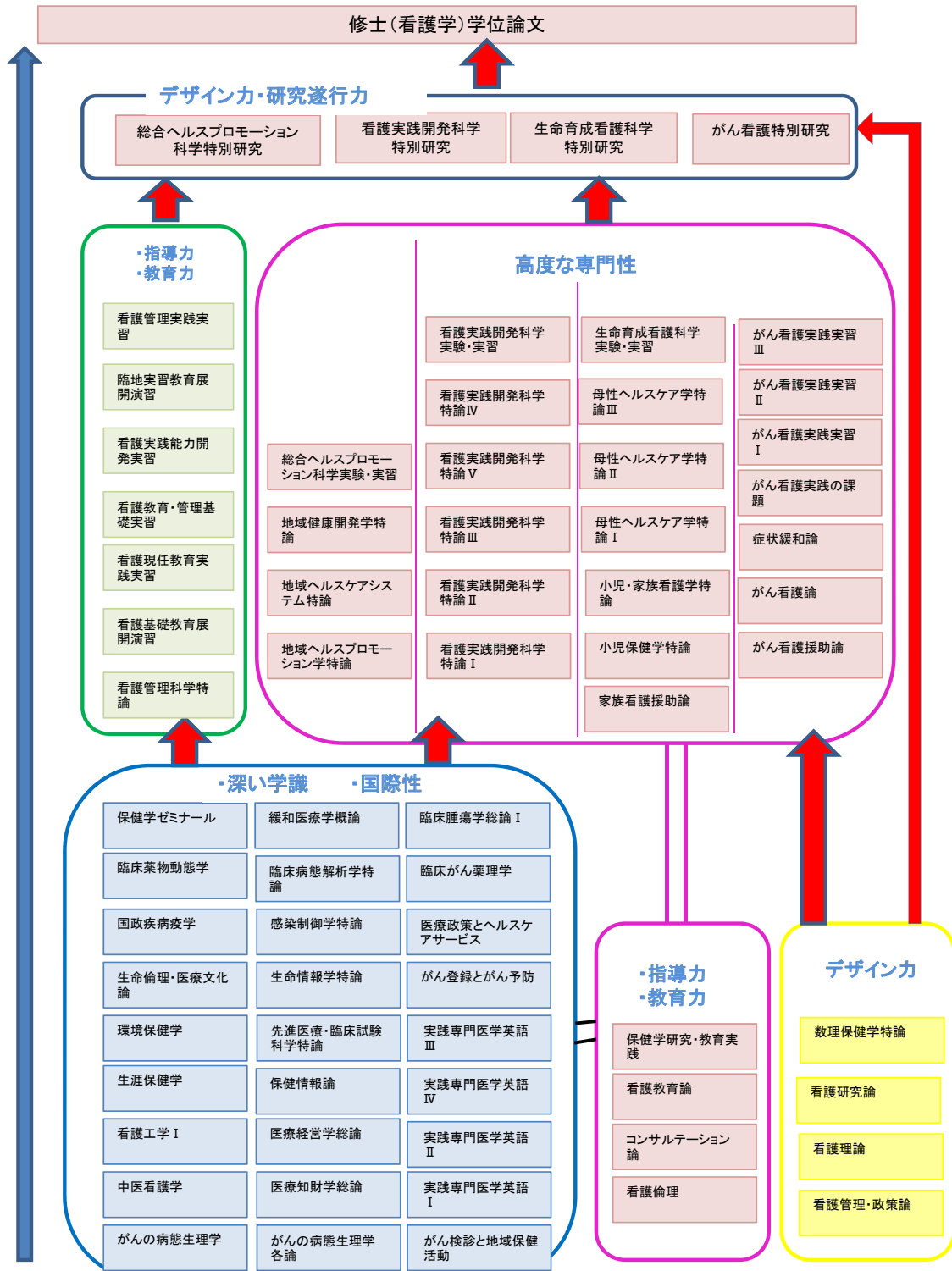
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」の博士前期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、医療現場における課題を患者の立場および社会的な立場から理解するとともに、多彩な視点から問題解決をデザインできる力を養います。本研究科をはじめ、専門領域において世界最先端の連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座から提供される医学、工学、人文科学にわたる専門的な科目、他学部・他研究科の科目も履修できます。国内外の医療機関、研究機関での研修も単位として認められます。修士論文の作成は、研究遂行力、発表能力の鍛錬だけでなく、科学者であるとともに保健医療人にとって必要な、高い倫理性と強い責任感、課題遂行力、国際性の涵養を目指しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

医学系研究科保健学専攻 博士前期 統合保健看護科学(看護学)



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」の博士前期課程(看護学)では、教育目標に定める人材を育成するため、下記的能力を備えた受験生を選抜試験により入学させます。

1. 入学後の修学の基盤となる専門知識、技術能力、語学力を有している人
2. 社会情勢の変化に対応し、人々の健康の増進に貢献したいという情熱のある人
3. 看護学分野の様々な課題を探求し、解決に努力する専門職、研究者、教育者を目指す人
4. 看護学分野の新たな技術の開発に向けた研究を行う気概のある人
5. 将来の看護学分野において、国際的な貢献を目指す、広い視野と柔軟な理解力を持つ人

このような受験生を選抜するために、個別学力検査及び面接の結果、並びに成績証明書等の内容から総合的に判断します。

また、一般選抜だけでなく社会人特別選抜やがん看護高度実践看護師コースの入試を行っています。

医学系研究科

学位プログラム「統合保健看護科学（保健学）」

学位：修士（保健学）

教育目標

大阪大学および医学系研究科保健学専攻の教育目標を受けて、学位プログラム「統合保健看護科学（保健学）」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学（保健学）」の修士課程では、日進月歩の現代医療のニーズに応えられる医療技術と知識を持ち、サイエンスの進歩に適応できる柔軟な思考力と、高度で幅広い知識や実行力を備えた保健医療者を養成します。そのための教育目標を下記の四領域に分けて示します。

- 最先端かつ高度な専門性と深い学識
 - ・机上の学びからだけでなく、様々な実験やフィールドワークの繰り返しを通じて最先端かつ高度な専門的知識を身につけます。
 - ・自分の限界に挑戦し、先駆的な研究手法を身につけます。
- 教養
 - ・培ってきた教養と深い専門知識をさらに発展させて、後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる能力を育成します。
- デザイン力
 - ・先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むために、他分野との融合による研究を積極的に推進し、一方で萌芽研究やシーズ研究を大切にします。
 - ・臨床、研究の両面においてよいチームワークを形成する能力を養います。
- 国際性
 - ・高度な専門知識・技術と語学力を基盤として国際社会におけるリーダーシップが取れる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシー（学習目標を含む）のもとに、学位プログラム「統合保健看護科学（保健学）」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学（保健学）」では、医療科学の一翼を担っています。臨床での課題や多職種チーム医療との融合を目指した実践性の高い領域、生態環境や医療システムモデルの検討など社会デザイン性の高い領域、次世代の保健医療福祉の基盤となる先端科学の領域等、社会的に

も重要な多彩な研究分野があります。

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(保健学)」の博士前期課程では、以下の学生に「修士(保健学)」の学位を授与します。

(学習目標)

●高度な専門性と深い学識

- ・医療科学領域において独創的な問題発見・設定能力を持つ。
- ・研究課題には、最先端かつ高度な専門性、社会的にも国際的にも臨床展開への貢献できること、他分野と融合した新しい医療科学の創生や未来医療を開拓できること、などが求められる。
- ・研究遂行に必要な深い学識と忍耐力を備えている。
- ・社会的な活動などを通じて医療科学の学問的及び社会的発展を推進できる。

●教養

- ・高い倫理性と強い責任感を備え、社会的な視点を持つ。
- ・医療科学領域における国際連携、或いは多様な社会的連携において、研究参加者として期待される研究能力を発揮できる。

●デザイン力

- ・柔軟にソリューションを探索できるデザイン力を持つ。
- ・研究完遂のために必要な組織構成・維持について知識と経験を持つ。

●国際性

- ・研究成果を継続的に国際学会など広く世界に発表できる力を有している。

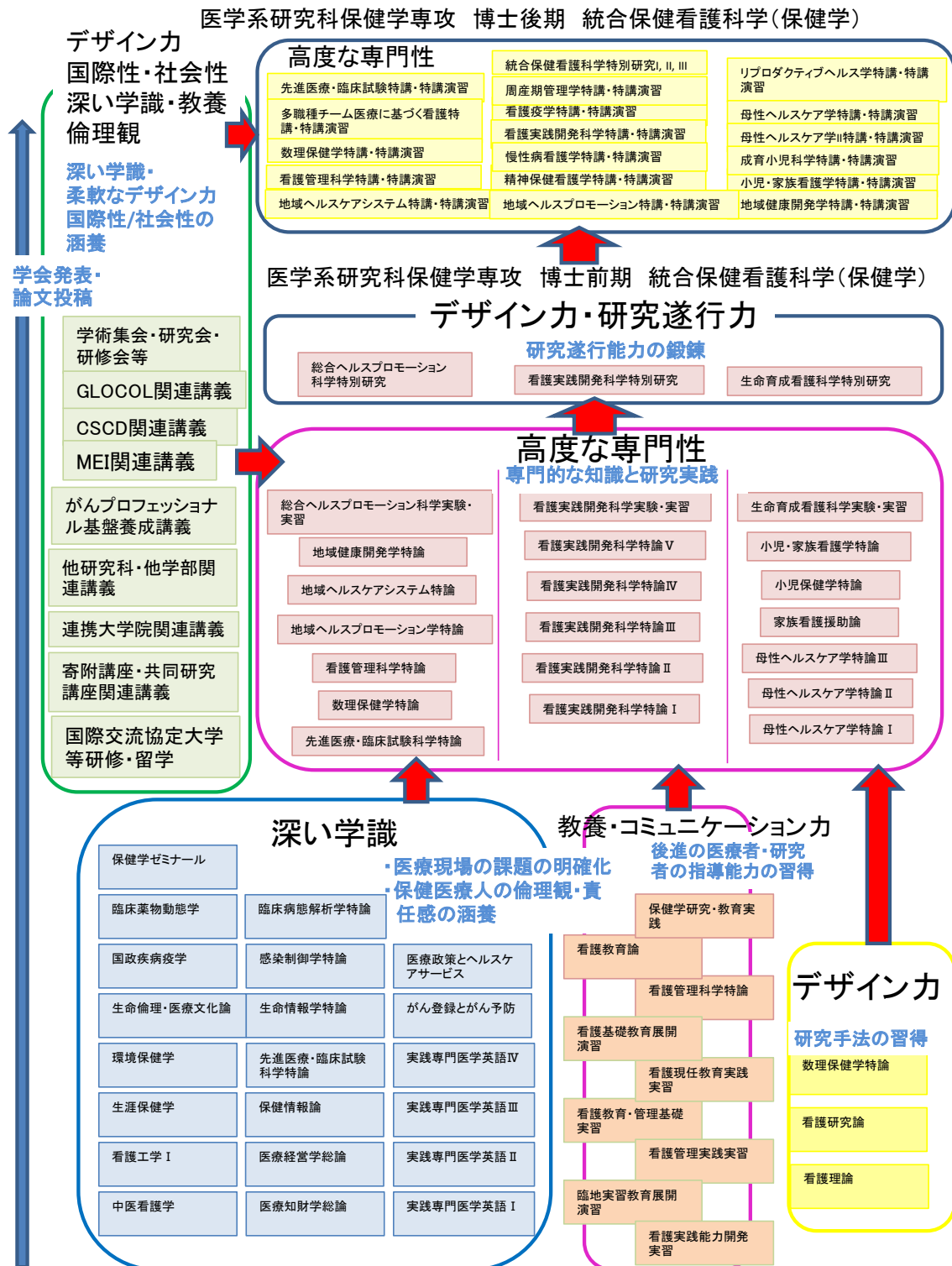
カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(保健学)」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学(保健学)」の博士前期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、医療現場における課題を患者の立場および社会的な立場から理解するとともに、多彩な視点から問題解決をデザインできる力を養います。本研究科をはじめ、専門領域において世界最先端の連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座から提供される医学、工学、人文科学にわたる専門的な科目、他学部・他研究科の科目も履修できます。国内外の医療機関、研究機関での研修も単位として認められます。修士論文の作成は、研究遂行力、発表能力の鍛錬だけでなく、科学者であるとともに保健医療人にとって必要な、高い倫理性と強い責任感、課題遂行力の涵養を目指しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(保健学)」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学(保健学)」の博士前期課程(保健学)では、教育目標に定める人材を育成するため、下記の能力を備えた受験生を選抜試験により入学させます。

また、画期的な発想を促進し、高い専門性と豊かな人間性を培えるよう、医学分野だけでなく多様なバックグラウンドを持つ人を受け入れます。

1. 入学後の修学の基盤となる専門知識、技術能力、語学力を有している人
2. 社会情勢の変化に対応し、人々の健康の増進に貢献したいという情熱のある人
3. 保健学分野の様々な課題を探究し、解決に努力する専門職、研究者、教育者を目指す人
4. 保健学分野の新たな技術の開発に向けた研究を行う気概のある人
5. 将来の保健学分野において、国際的な貢献を目指す、広い視野と柔軟な理解力を持つ人

このような受験生を選抜するために、個別学力検査及び面接の結果、並びに成績証明書等の内容から総合的に判断しています。

また、一般選抜だけでなく社会人特別選抜を行っています。

医学系研究科

学位プログラム「医療技術科学（医用物理工学）」

学位：修士（保健学）

教育目標

大阪大学および医学系研究科保健学専攻の教育目標を受けて、学位プログラム「医療技術科学（医用物理工学）」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「医療技術科学（医用物理工学）」の修士課程では、日進月歩の現代医療のニーズに応えられる医療技術と知識を持ち、サイエンスの進歩に適応できる柔軟な思考力と、高度で幅広い知識や実行力を備えた保健医療者を養成します。そのための教育目標を下記の四領域に分けて示します。

- 最先端かつ高度な専門性と深い学識
 - ・机上の学びからだけでなく、様々な実験やフィールドワークの繰り返しを通じて最先端かつ高度な専門的知識を身につけます。
 - ・自分の限界に挑戦し、先駆的な研究手法を身につけます。
- 教養
 - ・培ってきた教養と深い専門知識をさらに発展させて、後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる能力を育成します。
- デザイン力
 - ・先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むために、他分野との融合による研究を積極的に推進し、一方で萌芽研究やシーズ研究を大切にします。
 - ・臨床、研究の両面においてよいチームワークを形成する能力を養います。
- 国際性
 - ・高度な専門知識・技術と語学力を基盤として国際社会におけるリーダーシップが取れる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシー（学習目標を含む）のもとに、学位プログラム「医療技術科学（医用物理工学）」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療技術科学（医用物理工学）」の博士前期課程では、以下の基準を満たした学生に「修士（保健学）」の学位を授与します。

高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を有し、医療科学の一翼を担うという強い意志の下に、放射線技術での臨床の課題や多職種チーム医療との融合を目指した実践性の高い領域、放射線技術を含む医療システムモデルの検討などデザイン性の高い領域においての研究を展開できる。

(学習目標)

●高度な専門性と深い学識

- ・放射線技術科学の専門的知識および技能を持ち、研究を遂行できる。
- ・専門的知識体系を人類の文化、社会、自然に関連づけて理解できる。
- ・放射線技術科学領域における方向性を示し、目標の実現のためチームワークをとることができる。

●教養

- ・放射線技術科学の専門職として高い倫理観と豊かな人間性を持つ。
- ・一般教養を身につけ、柔軟で横断的な知識を身につけている。

●デザイン力

- ・問題解決のための実践的な方法をデザインできる。
- ・得られた情報を客観的に整理、分析し、科学的根拠の下に総合的に考察できる。
- ・問題を探究するための総合的な応用力を身につけている。

●国際性

- ・専門的知識を総合的に活用しながら問題をグローバルな視点で位置づけできる。
- ・国際社会の一員としての意識を持ち、放射線技術科学の知識・技術と語学力を基盤として、グローバル社会の発展のために積極的に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー

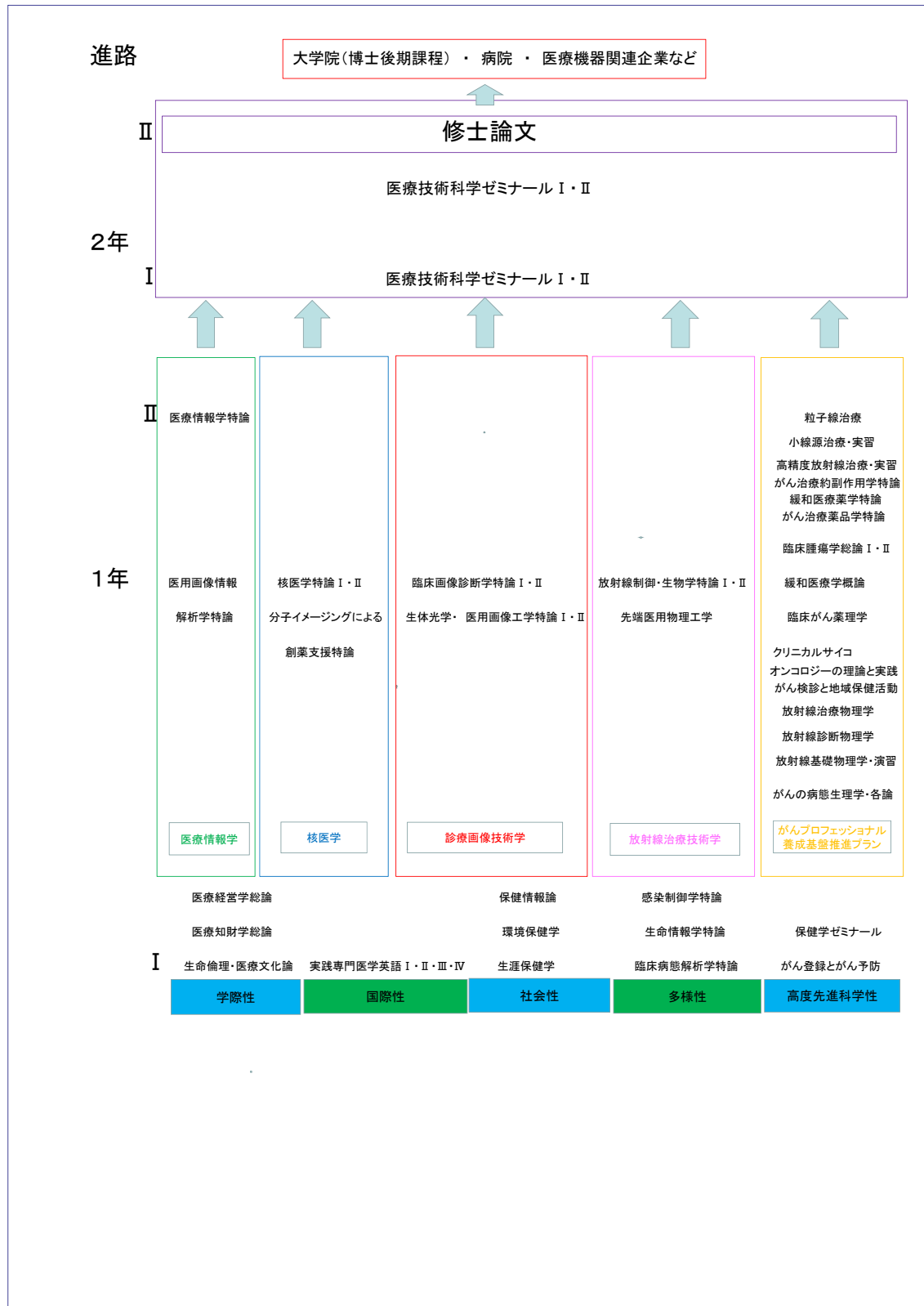
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(医用物理工学)」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療技術工学(医用物理工学)」の博士前期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、医療現場における課題を患者の立場および社会的な立場から理解するとともに、多彩な視点から問題解決をデザインできる力を養います。本研究科をはじめ、専門領域において世界最先端の連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座から提供される医学、工学、人文科学にわたる専門的な科目、他学部・他研究科の科目も履修できます。国内外の医療機関、研究機関での研修も単位として認められます。修士論文の作成は、研究遂行力、発表能力の鍛錬だけでなく、科学者であるとともに保健医療人にとって必要な、高い倫理性と強い責任感、課題遂行力の涵養を目指しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

医学系研究科保健学専攻 博士前期課程
医療技術科学(医用物理工学)



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(医用物理工学)」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療技術科学(医用物理工学)」の博士前期課程では、これからの日本、そして世界における保健・医療・福祉のさまざまな課題を、リサーチマインドをもって探求、解決に努力する、臨床実践者、臨床科学技術者、研究者、教育者を目指す人を求めています。医学分野だけでなく多様なバックグラウンドをもつ学生が共に学ぶことにより、画期的な発想が生まれ、高い専門性と豊かな人間性が培えると考えます。医療専門職としてチーム医療や地域医療でリーダーシップをとることができる人材や、保健医療科学の研究者として研究開発を行う人材には、広い視野と柔軟な理解力が必要であり、基本的な英語力は必須です。急速に高齢化が進むわが国で、人々の健康の増進に貢献したいという情熱のある人、新たな技術の開発に向けた研究を行う気概のある人を求めています。

このような受験生を選抜するために、個別学力検査及び面接の結果、並びに成績証明書等の内容から総合的に判断しています。

また、一般選抜だけでなく社会人特別選抜を行っています。

医学系研究科

学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」

学位：修士(保健学)

教育目標

大阪大学および医学系研究科保健学専攻の教育目標を受けて、学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」の修士課程では、日進月歩の現代医療のニーズに応えられる医療技術と知識を持ち、サイエンスの進歩に適応できる柔軟な思考力と、高度で幅広い知識や実行力を備えた保健医療者を養成します。そのための教育目標を下記の四領域に分けて示します。

●最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・机上の学びからだけでなく、様々な実験やフィールドワークの繰り返しを通じて最先端かつ高度な専門的知識を身につけます。
- ・自分の限界に挑戦し、先駆的な研究手法を身につけます。

●教養

- ・培ってきた教養と深い専門知識をさらに発展させて、後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる能力を育成します。

●デザイン力

- ・先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むために、他分野との融合による研究を積極的に推進し、一方で萌芽研究やシーズ研究を大切にします。
- ・臨床、研究の両面においてよいチームワークを形成する能力を養います。

●国際性

- ・高度な専門知識・技術と語学力を基盤として国際社会におけるリーダーシップが取れる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

保健学専攻では、医療科学の一翼を担っています。臨床での課題や多職種チーム医療との融合を目指す実践性の高い領域、生態環境や医療システムモデルの検討など社会デザイン性の高い領域、次世代の保健医療福祉の基盤となる先端科学の領域等、社会的にも重要な多彩な研究分野があります。

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」の博士前期課程では、以下の学生に「修士(保健学)」の学位を授与します。

(学習目標)

●高度な専門性と深い学識

- ・医療科学の領域で研究を遂行できる基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養、高い倫理性を備えている。

●教養

- ・医療専門職としてふさわしい高い倫理観と人間性を身につけ、常に医療のプロフェッショナルであるという自覚のもとに、社会の発展のために積極的に貢献できる。

●デザイン力

- ・学問の府たる大学としての自主性、独創性があり、研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを設定できる。
- ・課題に対する新たな評価法を提案でき、問題解決能力を身につけ、基盤技術の構築を目指している。

●国際性

- ・国際専門誌の読解力と、自身の研究の社会への説明能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」の博士前期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、医療現場における課題を患者の立場および社会的な立場から理解するとともに、多彩な視点から問題解決をデザインできる力を養います。本研究科をはじめ、専門領域において世界最先端の連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座から提供される医学、工学、人文科学にわたる専門的な科目、他学部・他研究科の科目も履修できます。国内外の医療機関、研究機関での研修も単位として認められます。修士論文の作成は、研究遂行力、発表能力の鍛錬だけでなく、科学者であるとともに保健医療人にとって必要な、高い倫理性と強い責任感、課題遂行力の涵養を目指しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

医学系研究科保健学専攻 医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)

	最先端かつ高度な 専門性と深い学識	教養	デザイン力	国際性
博士後期課程	<div>先進医療・臨床試験科学特講演習</div> <div>生体分子解析学特講演習</div> <div>神経病態解析学特講演習</div> <div>環境生体機能学特講演習</div> <div>神経分子生物学特講演習</div> <div>病態検査診断学特講演習</div> <div>組織細胞病態解析学特講演習</div> <div>分子細胞制御学特講演習</div> <div>分子病態診断学特講演習</div> <div>超音波診断学特講演習</div> <div>医療技術科学特別研究Ⅱ</div> <div>医療技術科学特別研究Ⅰ</div>	<div>分子病態診断学特講</div> <div>病態検査診断学特講</div> <div>生体分子解析学特講</div> <div>分子細胞制御学特講</div> <div>神経分子生物学特講</div> <div>神経病態解析学特講</div> <div>環境生体機能学特講</div> <div>先進医療・臨床試験科学特講</div> <div>組織細胞病態解析学特講</div> <div>超音波診断学特講</div>	<div>放射線腫瘍学特講</div> <div>バイオシグナル論特講</div> <div>バイオシグナル論特講演習</div> <div>医用光エレクトロニクス特講</div> <div>医用光エレクトロニクス特講演習</div> <div>トレーサー情報解析学特講</div> <div>トレーサー情報解析学特講演習</div> <div>理論画像診断学特講</div> <div>理論画像診断学特講演習</div> <div>医用放射線工学特講</div> <div>放射線腫瘍学特講演習</div> <div>医用放射線工学特講演習</div> <div>応用画像処理工学特講</div>	<div>医療技術科学特別研究Ⅲ</div>
博士前期課程	<div>生体システム学特論</div> <div>神経情報学特論</div> <div>免疫機能解析学特論</div> <div>分子代謝病態学特論</div> <div>病原微生物学特論</div> <div>医療情報学特論</div> <div>臨床薬物動態学</div> <div>細胞病態学</div> <div>生命情報学特論</div> <div>医用画像情報解析学特論</div> <div>感染制御学特論</div> <div>臨床画像診断学特論Ⅱ</div> <div>臨床画像診断学特論Ⅰ</div> <div>分子腫瘍医学特論</div> <div>臨床病態解析学特論</div>	<div>環境保健学</div> <div>医療経営学総論</div> <div>がん登録とがん予防</div> <div>生涯保健学</div> <div>先進医療・臨床試験科学特論</div> <div>保健学研究・教育実践</div> <div>医療技術科学ゼミナールⅠ</div> <div>医療技術科学ゼミナールⅡ</div>	<div>応用画像処理工学特講演習</div> <div>核医学特論Ⅱ</div> <div>核医学特論Ⅰ</div> <div>生命倫理・医療文化論</div> <div>医療知財学総論</div> <div>先端創薬支援技術実習</div> <div>放射線制御・生物学特論Ⅱ</div> <div>放射線制御・生物学特論Ⅰ</div> <div>看護工学Ⅰ</div> <div>生体光学・医用画像工学特論Ⅱ</div> <div>生体光学・医用画像工学特論Ⅰ</div> <div>高感度生体情報分析による創薬支援特論</div> <div>分子イメージングによる創薬支援特論</div> <div>保健情報論</div> <div>先端医用物理工学特論</div>	<div>実践専門医学英語Ⅳ</div> <div>実践専門医学英語Ⅲ</div> <div>中医看護学</div> <div>保健学ゼミナール</div> <div>国際疾病疫学</div> <div>実践専門医学英語Ⅱ</div> <div>実践専門医学英語Ⅰ</div>

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」の博士前期課程では、これからの日本、そして世界における保健・医療・福祉のさまざまな課題を、リサーチマインドをもって探求、解決に努力する臨床実践者、臨床科学技術者、さらに、将来的に研究者、教育者を目指す人を求めています。

医学分野だけでなく多様なバックグラウンドをもつ学生が共に学ぶことにより、画期的な発想が生まれ、高い専門性と豊かな人間性が培えます。医療専門職としてチーム医療や地域医療でリーダーシップをとることができる人材や、保健医療科学の研究者として研究開発を行う人材には、広い視野と柔軟な理解力が必要であり、基本的な英語力は必須です。急速に高齢化が進むわが国で、人々の健康の増進に貢献したいという情熱のある人、新たな技術の開発に向けた研究を行う気概のある人を求めています。

このような受験生を選抜するために、個別学力検査及び面接の結果、並びに成績証明書等の内容から総合的に判断しています。

また、一般選抜だけでなく社会人特別選抜を行っています。

医学系研究科

学位プログラム「統合保健看護科学（看護学）」

学位：博士（看護学）

教育目標

大阪大学および医学系研究科保健学専攻の教育目標を受けて、学位プログラム「統合保健看護科学（看護学）」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学（看護学）」の博士課程では、柔軟な思考力と高度で幅広い知識に加え知的リーダーシップを発揮できる看護学の高度医療者・研究者の育成を図ります。そのための教育目標を下記の四領域に分けて示します。

●最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・机上の学びからだけでなく、様々な実験やフィールドワークの繰り返しを通じて最先端かつ高度な専門的知識を身につけます。
- ・自分の限界に挑戦し、先駆的な研究手法を身につけます。

●教養

- ・培ってきた教養と深い専門知識をさらに発展させて、後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる能力を育成します。

●デザイン力

- ・先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むために、他分野との融合による研究を積極的に推進し、一方で萌芽研究やシーズ研究を大切にします。
- ・臨床、研究の両面においてよいチームワークを形成する能力を養います。

●国際性

- ・高度な専門知識・技術と語学力を基盤として国際社会におけるリーダーシップが取れる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」の博士後期課程では、高度な専門性と深い学識、教養、デザイン力、国際性をもった看護学の教育・研究者の養成をめざす基本理念の下、以下の学生に「博士(看護学)」の学位を授与します。

(学習目標)

●高度な専門性と深い学識

- ・看護学の高度な専門的知識を持ち、医療や看護学において研究に値する重要で独創的な問題を抽出できる。
- ・医療および看護学における深淵な学識を持ち、看護学の研究を主体的に遂行できる。

●教養

- ・高い倫理観と人間性を持ち、後進の医療者や研究者の研究指導ができる。
- ・社会に貢献する責務を自覚し、専門職として主体的かつ継続的に学習できる。
- ・看護学の知識体系を人類の文化、社会、自然に関連付けて考察できる。

●デザイン力

- ・看護学における独創的な問題を設定し、問題解決のための研究計画をデザインできる。
- ・得られた情報を客観的に整理・分析し、科学的根拠の下に論理的に考察し、発表できる。

●国際性

- ・英語コミュニケーション能力をもち、国際学会・国際専門誌で研究を公表できる。
- ・看護学の専門的知識と語学力を基盤とし、国際連携や国際社会への貢献ができる。

カリキュラム・ポリシー

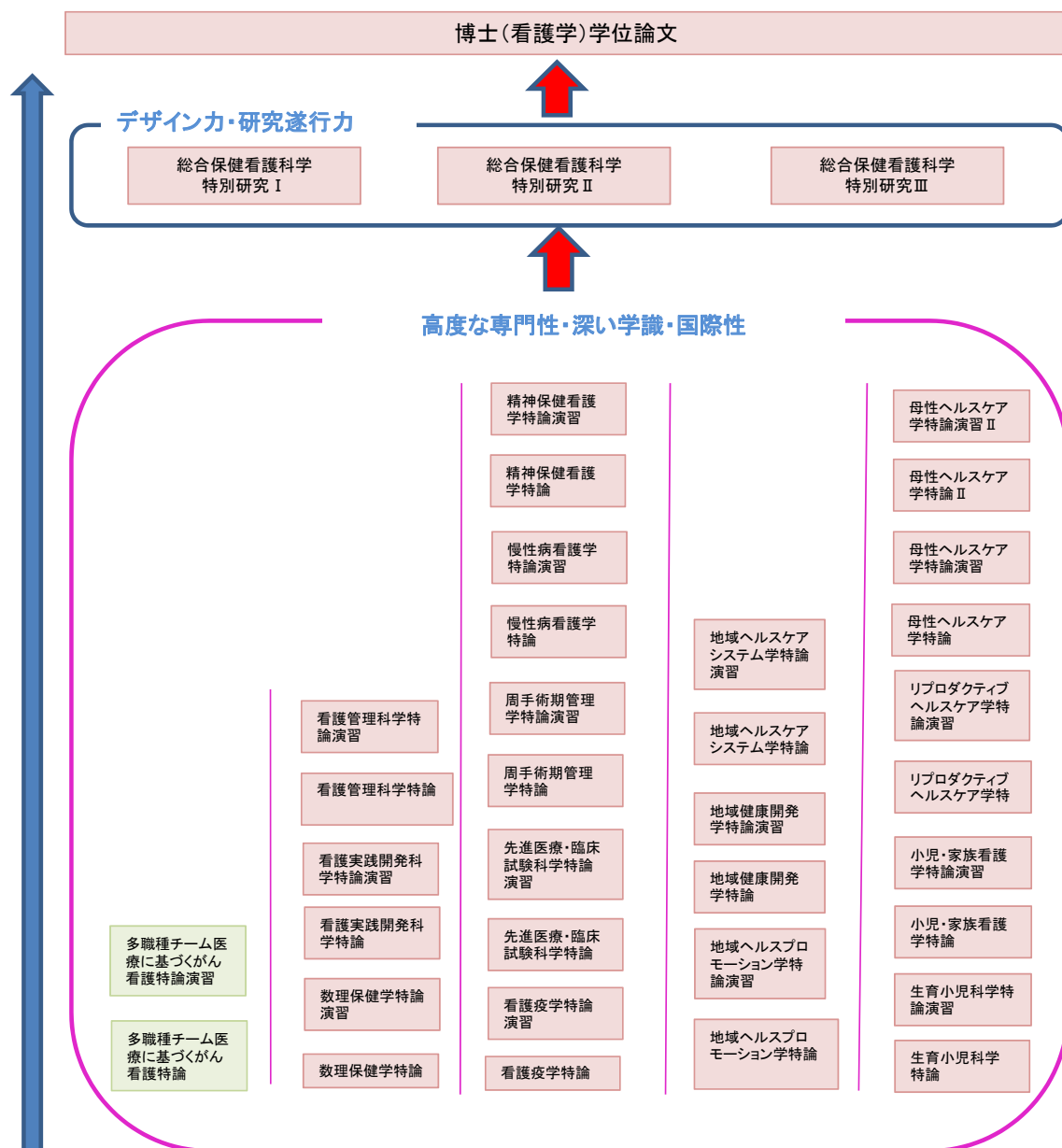
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」の博士後期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、高い倫理性と強い責任感を持ち、看護学領域において独創的な研究をデザインし遂行する能力、研究チームリーダーとして研究組織を牽引できる力を養い、国際社会においてリーダーシップがとれる人材を育成します。先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むためには、他分野との融合研究を積極的に推進し、一方で萌芽的研究や小さなシーズ研究を大切にする柔軟な思考と吸収力、広い視野が必要です。他学部・他研究科の科目の履修をはじめ、専門領域において連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座における研究、さらに海外の大学での研究も可能です。また、リサーチアシスタントやシニアティーチングアシスタント制度により、学生や後進に対して研究指導できる能力を育成します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

医学系研究科保健学専攻 博士後期 統合保健看護科学(看護学)



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学(看護学)」の博士後期課程では、教育目標に定める人材を育成するため、下記の能力を備えた受験生を選抜試験により入学させます。

1. 入学後の修学の基盤となる高度な専門知識、技術能力、語学力を有している人
2. 新たな分野を萌芽的な段階の研究から切り開いていく志のある人
3. 高い倫理観を持ち、後進の専門職や研究者の育成に貢献したいという志のある人
4. 自らの専門分野にとどまらず他領域と融合による新たな発展を目指す人
5. 将来の看護学分野において、国際的な貢献を目指す人

このような受験生を選抜するために、個別学力検査及び面接の結果、並びに成績証明書等の内容から総合的に判断しています。

また、一般選抜だけでなく社会人特別選抜を行っています。

医学系研究科

学位プログラム「統合保健看護科学（保健学）」

学位：博士（保健学）

教育目標

大阪大学および医学系研究科保健学専攻の教育目標を受けて、学位プログラム「統合保健看護科学（保健学）」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学（保健学）」の博士課程では、柔軟な思考力と高度で幅広い知識に加え知的リーダーシップを発揮できる保健学の高度医療者・研究者の育成を図ります。そのための教育目標を下記の下記の四領域に分けて示します。

- 最先端かつ高度な専門性と深い学識
 - ・机上の学びからだけでなく、様々な実験やフィールドワークの繰り返しを通じて最先端かつ高度な専門的知識を身につけます。
 - ・自分の限界に挑戦し、先駆的な研究手法を身につけます。
- 教養
 - ・培ってきた教養と深い専門知識をさらに発展させて、後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる能力を育成します。
- デザイン力
 - ・先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むために、他分野との融合による研究を積極的に推進し、一方で萌芽研究やシーズ研究を大切にします。
 - ・臨床、研究の両面においてよいチームワークを形成する能力を養います。
- 国際性
 - ・高度な専門知識・技術と語学力を基盤として国際社会におけるリーダーシップが取れる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシー（学習目標を含む）のもとに、学位プログラム「統合保健看護科学（保健学）」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

保健学専攻では、医療科学の一翼を担っています。臨床での課題や多職種チーム医療との融合を目指した実践性の高い領域、生態環境や医療システムモデルの検討など社会デザイン性の高い領域、次

世代の保健医療福祉の基盤となる先端科学の領域等、社会的にも重要な多彩な研究分野があります。

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(保健学)」の博士後期課程では、以下の学生に「博士(保健学)」の学位を授与します。

(学習目標)

●高度な専門性と深い学識

- ・医療科学領域において独創的な問題発見・設定能力を持つ。
- ・研究課題には、最先端かつ高度な専門性、社会的にも国際的にも臨床展開への貢献できる、他分野と融合した新しい医療科学の創生や未来医療を開拓できること、などが求められる。
- ・研究遂行に必要な深い学識と忍耐力を備えている。
- ・後進の指導や社会的な活動などを通じて医療科学の学問的及び社会的発展を推進できる。

●教養

- ・高い倫理性と強い責任感を備え、社会的な視点を持つ。
- ・医療科学領域における国際連携、或いは多様な社会的連携において、分担又は代表研究者として期待される研究能力を発揮できる。

●デザイン力

- ・柔軟にソリューションを探索できるデザイン力を持つ。
- ・研究完遂のために必要な組織構成・維持について知識と経験を持つ。

●国際性

- ・研究成果を継続的に国際学会など広く世界に発表できる力を有している。

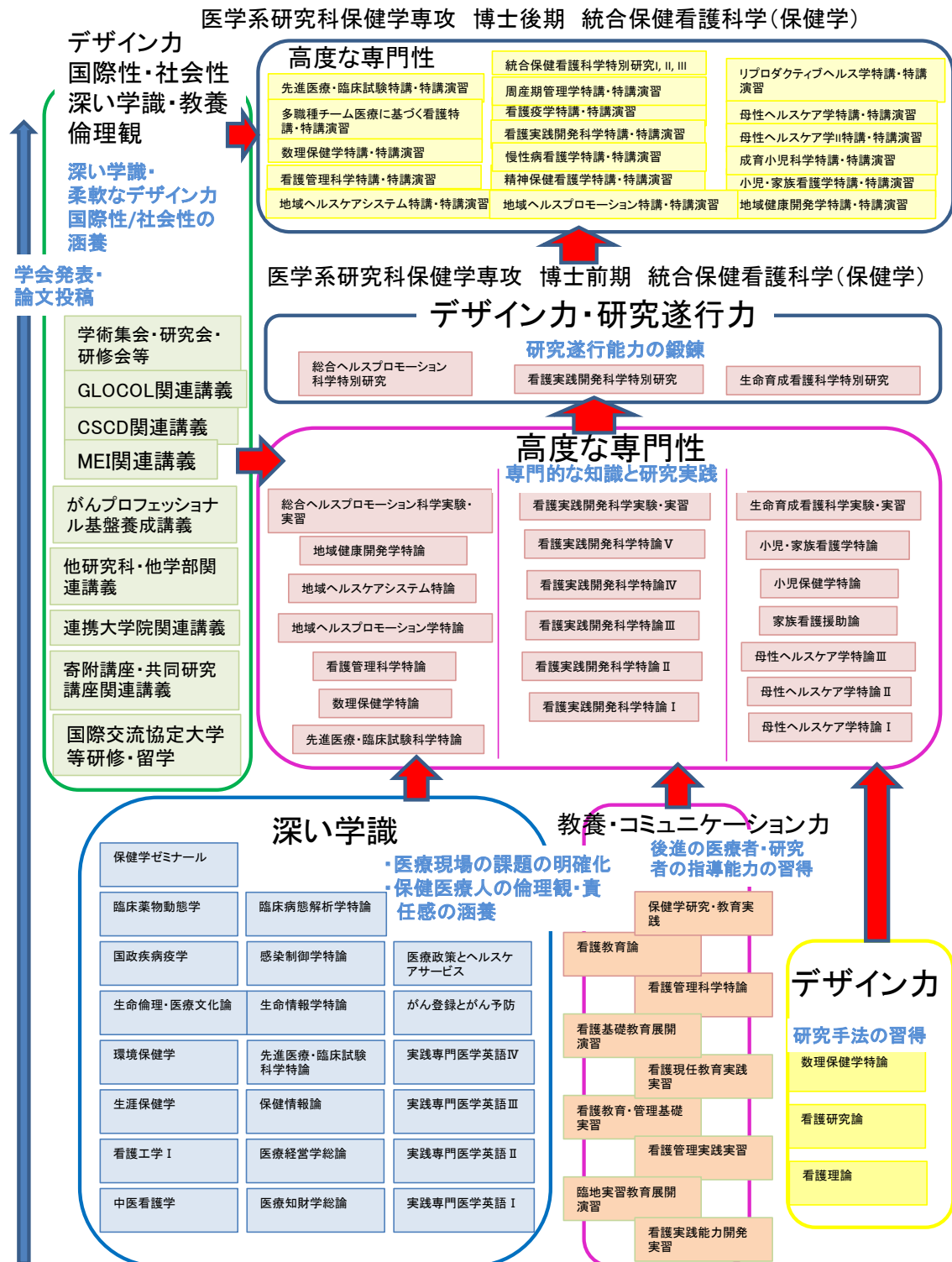
カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(保健学)」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学(保健学)」の博士後期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、高い倫理性と強い責任感を持ち、保健学領域において独創的な研究をデザインし遂行する能力、研究チームリーダーとして研究組織を牽引できる力を養います。先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むためには、他分野との融合研究を積極的に推進し、一方で萌芽的研究や小さなシーズ研究を大切にする柔軟な思考と吸収力、広い視野が必要です。他学部・他研究科の科目の履修をはじめ、専門領域において連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座における研究、さらに海外の大学での研究も可能です。また、リサーチアシスタントやシニアティーチングアシスタント制度により、学生や後進に対して研究指導できる能力を育成します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「統合保健看護科学(保健学)」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「統合保健看護科学(保健学)」の博士後期課程では、教育目標に定める人材を育成するため、下記の能力を備えた受験生を選抜試験により入学させます。

1. 入学後の修学の基盤となる高度な専門知識、技術能力、語学力を有している人
2. 新たな分野を萌芽的な段階の研究から切り開いていく志のある人
3. 高い倫理観を持ち、後進の専門職や研究者の育成に貢献したいという志のある人
4. 自らの専門分野にとどまらず他領域と融合による新たな発展を目指す人
5. 将来の保健学分野において、国際的な貢献を目指す人

このような受験生を選抜するために、個別学力検査及び面接の結果、並びに成績証明書等の内容から総合的に判断しています。

また、一般選抜だけでなく社会人特別選抜を行っています。

医学系研究科

学位プログラム「医療技術科学（医用物理工学）」

学位：博士（保健学）

教育目標

大阪大学および医学系研究科保健学専攻の教育目標を受けて、学位プログラム「医療技術科学（医用物理工学）」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「医療技術科学（医用物理工学）」の博士課程では、柔軟な思考力と高度で幅広い知識に加え知的リーダーシップを発揮できる保健学の高度医療者・研究者の育成を図ります。そのための教育目標を下記の四領域に分けて示します。

- 最先端かつ高度な専門性と深い学識
 - ・机上の学びからだけでなく、様々な実験やフィールドワークの繰り返しを通じて最先端かつ高度な専門的知識を身につけます。
 - ・自分の限界に挑戦し、先駆的な研究手法を身につけます。
- 教養
 - ・培ってきた教養と深い専門知識をさらに発展させて、後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる能力を育成します。
- デザイン力
 - ・先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むために、他分野との融合による研究を積極的に推進し、一方で萌芽研究やシーズ研究を大切にします。
 - ・臨床、研究の両面においてよいチームワークを形成する能力を養います。
- 国際性
 - ・高度な専門知識・技術と語学力を基盤として国際社会におけるリーダーシップが取れる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシー（学習目標を含む）のもとに、学位プログラム「医療技術科学（医用物理工学）」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療技術科学（応用物理工学）」の博士後期課程では以下の基準を満たした学生に「博士（保健学）」の学位を授与します。

高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を持った最先端の放射線技術科学の研究を独創的に遂行できる。

次世代の保健医療福祉の基盤となる放射線技術科学の先端領域、医療全体、社会的にも重要で多彩な研究分野を新たに展開できる。

(学習目標)

●高度な専門性と深い学識

- ・放射線技術科学の先端的知識および技能をもち、独創的な研究を展開できる。
- ・放射線技術科学領域における新たな方向性を示し、目標の実現のためリーダーシップをとることができる。
- ・後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる。

●教養

- ・放射線技術科学の研究職として高い倫理観と豊かな人間性を持つ。
- ・医療科学研究のプロフェッショナルであるという自覚のもとに行動できる。
- ・専門的知識体系を人類の文化、社会、自然に関連づけて理解できる。

●デザイン力

- ・放射線技術科学における新たな問題を主体的に設定し、独創的に解決できる。
- ・萌芽研究やシーズ研究を積極的に推進できる。

●国際性

- ・他分野との融合による研究をグローバルな視点で位置づけできる。
- ・国際社会の一員としての意識を持ち、放射線技術科学の研究力を基盤として、グローバル社会でリーダーシップを発揮できる。

カリキュラム・ポリシー

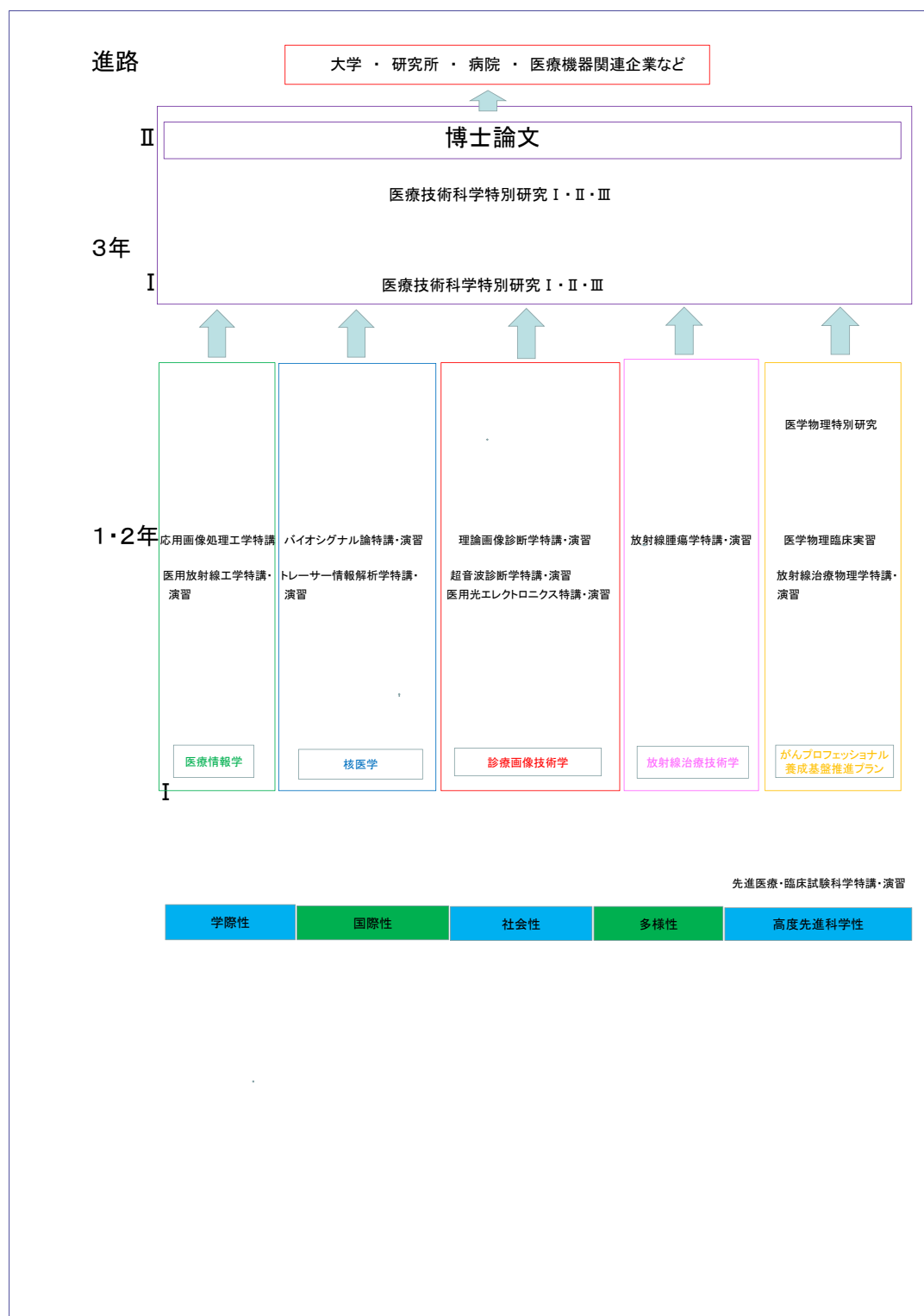
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(医用物理工学)」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療技術科学(医用物理工学)」の博士後期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、高い倫理性と強い責任感を持ち、医療技術科学領域において独創的な研究をデザインし遂行する能力、研究チームリーダーとして研究組織を牽引できる力を養います。先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むためには、他分野との融合研究を積極的に推進し、一方で萌芽的研究や小さなシーズ研究を大切にする柔軟な思考と吸収力、広い視野が必要です。他学部・他研究科の科目の履修をはじめ、専門領域において連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座における研究、さらに海外の大学での研究も可能です。また、リサーチアシスタントやシニアティーチングアシスタント制度により、学生や後進に対して研究指導できる能力を育成します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

医学系研究科保健学専攻博士後期課程
医療技術科学(医用物理工学)



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(医用物理工学)」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療技術科学(医用物理工学)」の博士後期課程では、保健医療科学の分野で、グローバルな知識を持ち、国際的なリーダーシップを発揮できる研究者の育成を目的としています。そのためには、豊かな語学力とともに、新たな分野を萌芽的な段階の研究から切り開いていく能力、自らの専門分野にとどまらず他領域との融合による新たな展開を図る能力など、高度のデザイン力が必要とされます。また、保健・医療・福祉の研究では高い倫理観を持つことも大切です。医療界のみならず産業界からも期待され、将来の保健医療福祉分野において国際的な貢献を目指す、多角的な視野を持つ人を求めています。

このような受験生を選抜するために、個別学力検査及び面接の結果、並びに成績証明書等の内容から総合的に判断しています。

また、一般選抜だけでなく社会人特別選抜を行っています。

医学系研究科

学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」

学位：博士(保健学)

教育目標

大阪大学および医学系研究科保健学専攻の教育目標を受けて、学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」の博士課程では、柔軟な思考力と高度で幅広い知識に加え知的リーダーシップを発揮できる保健学の高度医療者・研究者の育成を図ります。そのための教育目標を下記の四領域に分けて示します。

- 最先端かつ高度な専門性と深い学識
 - ・机上の学びからだけでなく、様々な実験やフィールドワークの繰り返しを通じて最先端かつ高度な専門的知識を身につけます。
 - ・自分の限界に挑戦し、先駆的な研究手法を身につけます。
- 教養
 - ・培ってきた教養と深い専門知識をさらに発展させて、後進の医療者や研究者に対する研究指導ができる能力を育成します。
- デザイン力
 - ・先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むために、他分野との融合による研究を積極的に推進し、一方で萌芽研究やシーズ研究を大切にします。
 - ・臨床、研究の両面においてよいチームワークを形成する能力を養います。
- 国際性
 - ・高度な専門知識・技術と語学力を基盤として国際社会におけるリーダーシップが取れる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

保健学専攻では、医療科学の一翼を担っています。臨床での課題や多職種チーム医療との融合を目指した実践性の高い領域、生態環境や医療システムモデルの検討など社会デザイン性の高い領域、次世代の保健医療福祉の基盤となる先端科学の領域等、社会的にも重要な多彩な研究分野があります。

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」の博士後期課程では、以下の学生に「博士(保健学)」の学位を授与します。

(学習目標)

●高度な専門性と深い学識

- ・医療科学の領域で特に高度な研究を遂行できる学力、非常に高度な専門性、深い学識・教養、高い倫理性を備えている。

●教養

- ・医療科学における国際連携の中でリーダーシップを発揮でき、後進の指導や社会的な活動などを通じて医療科学の社会的発展を推進できる。

●デザイン力

- ・医療科学の領域における問題発見・設定能力があり、自ら研究をデザインでき、研究の完結が可能である。
- ・世界的新規性のある研究課題を設定し、臨床応用への展開、他分野と融合した新しい医療科学の創生や、未来医療を開拓できる。

●国際性

- ・高い倫理性と強い責任感を備え、社会的視点を持ち、国際学会・国際専門誌でも研究を公表できる。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」の博士後期課程では、多様なバックグラウンドを持つ学生が、高い倫理性と強い責任感を持ち、医療技術科学領域において独創的な研究をデザインし遂行する能力、研究チームリーダーとして研究組織を牽引できる力を養います。先端研究の単なる応用ではなく、独創性の高い研究を育むためには、他分野との融合研究を積極的に推進し、一方で萌芽的研究や小さなシーズ研究を大切にする柔軟な思考と吸収力、広い視野が必要です。他学部・他研究科の科目の履修をはじめ、専門領域において連携大学院講座・寄附講座・共同研究講座における研究、さらに海外の大学での研究も可能です。また、リサーチアシスタントやシニアティーチングアシスタント制度により、学生や後進に対して研究指導できる能力を育成します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

医学系研究科保健学専攻 医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)

	最先端かつ高度な 専門性と深い学識	教養	デザイン力	国際性
博士後期課程	<div>先進医療・臨床試験科学特講演習</div> <div>生体分子解析学特講演習</div> <div>神経病態解析学特講演習</div> <div>環境生体機能学特講演習</div> <div>神経分子生物学特講演習</div> <div>病態検査診断学特講演習</div> <div>組織細胞病態解析学特講演習</div> <div>分子細胞制御学特講演習</div> <div>分子病態診断学特講演習</div> <div>超音波診断学特講演習</div> <div>医療技術科学特別研究Ⅱ</div> <div>医療技術科学特別研究Ⅰ</div>	<div>分子病態診断学特講</div> <div>病態検査診断学特講</div> <div>生体分子解析学特講</div> <div>分子細胞制御学特講</div> <div>神経分子生物学特講</div> <div>神経病態解析学特講</div> <div>環境生体機能学特講</div> <div>先進医療・臨床試験科学特講</div> <div>組織細胞病態解析学特講</div> <div>超音波診断学特講</div>	<div>放射線腫瘍学特講</div> <div>バイオシグナル論特講</div> <div>バイオシグナル論特講演習</div> <div>医用光エレクトロニクス特講</div> <div>医用光エレクトロニクス特講演習</div> <div>トレーサー情報解析学特講</div> <div>トレーサー情報解析学特講演習</div> <div>理論画像診断学特講</div> <div>理論画像診断学特講演習</div> <div>医用放射線工学特講</div> <div>放射線腫瘍学特講演習</div> <div>医用放射線工学特講演習</div> <div>応用画像処理工学特講</div>	<div>医療技術科学特別研究Ⅲ</div>
博士前期課程	<div>生体システム学特論</div> <div>神経情報学特論</div> <div>免疫機能解析学特論</div> <div>分子代謝病態学特論</div> <div>病原微生物学特論</div> <div>医療情報学特論</div> <div>臨床薬物動態学</div> <div>細胞病態学</div> <div>生命情報学特論</div> <div>医用画像情報解析学特論</div> <div>感染制御学特論</div> <div>臨床画像診断学特論Ⅱ</div> <div>臨床画像診断学特論Ⅰ</div> <div>分子腫瘍医学特論</div> <div>臨床病態解析学特論</div>	<div>環境保健学</div> <div>医療経営学総論</div> <div>がん登録とがん予防</div> <div>生涯保健学</div> <div>先進医療・臨床試験科学特論</div> <div>保健学研究・教育実践</div> <div>医療技術科学ゼミナールⅠ</div> <div>医療技術科学ゼミナールⅡ</div>	<div>応用画像処理工学特講演習</div> <div>核医学特論Ⅱ</div> <div>核医学特論Ⅰ</div> <div>生命倫理・医療文化論</div> <div>医療知財学総論</div> <div>先端創薬支援技術実習</div> <div>放射線制御・生物学特論Ⅱ</div> <div>放射線制御・生物学特論Ⅰ</div> <div>看護工学Ⅰ</div> <div>生体光学・医用画像工学特論Ⅱ</div> <div>生体光学・医用画像工学特論Ⅰ</div> <div>高感度生体情報分析による創薬支援特論</div> <div>分子イメージングによる創薬支援特論</div> <div>保健情報論</div> <div>先端医用物理工学特論</div>	<div>実践専門医学英語Ⅳ</div> <div>実践専門医学英語Ⅲ</div> <div>中医看護学</div> <div>保健学ゼミナール</div> <div>国際疾病疫学</div> <div>実践専門医学英語Ⅱ</div> <div>実践専門医学英語Ⅰ</div>

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および医学系研究科保健学専攻のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療技術科学(生体情報科学・機能診断科学)」の博士後期課程では、保健医療科学の分野で、グローバルな知識を持ち、国際的なリーダーシップを発揮できる研究者の育成を目的としています。

そのためには、豊かな語学力とともに、新たな分野を萌芽的な段階の研究から切り開いていく能力、自らの専門分野にとどまらず他領域との融合による新たな展開を図るなど、高度のデザイン力とプレゼンテーション能力が必要とされます。

保健・医療・福祉の研究では高い倫理観を持つことも大切です。医療界のみならず産業界からも期待され、将来の保健医療福祉分野において国際的な貢献を目指す、多角的な視野を持つ人を求めています。

このような受験生を選抜するために、個別学力検査及び面接の結果、並びに成績証明書等の内容から総合的に判断しています。

また、一般選抜だけでなく社会人特別選抜を行っています。

歯学研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標のもとに、歯学研究科では、歯科医学が口と全身との関わりも含めた幅広い分野へと拡大している現状を踏まえ、口・顎・顔面領域を通して人のからだ全体を科学の目で見ることができ、次世代の歯学研究・歯科医療をけん引する「オーラルヘルス・サイエンティスト」の育成を目標としています。すなわち、口・顎・顔面領域を中心とした生命科学に関する最先端の専門的知識と、より広い領域で独創的な研究を展開し深化させる実行力を持ち合わせた研究者、並びに高度歯科医療人の育成を図ります。さらに、関連する学問分野との連携を推進する学際性と、世界的なレベルで活躍できる国際性を同時に育むことによって、大学、研究所、医療機関、企業、行政・公的機関など、多様な分野で活躍するグローバルな人材の輩出を目指しています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、歯学研究科では、口・顎・顔面領域に基盤をおいた生命科学分野を対象として、

1. 最先端の高度な専門的知識
 2. 広範で深遠な真理を考究する意欲と向上心
 3. 独創的な生命科学研究を発想し、自主的にそれを実践する行動力
 4. 他分野と連携した学際研究を展開する柔軟なデザイン力
 5. 世界レベルでの活動を推進できるコミュニケーション能力と国際的センス
- を身につけた学生に対して学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、歯学研究科では、専門力、俯瞰力、複眼的思考能力、並びに国際性を涵養し、将来の多様なキャリアパスを支援する教育プログラムに基づいて研究指導を実践します。すなわち、口・顎・顔面領域に基盤をおいた生命科学に関する知識を幅広く修得する必修科目に加え、適材適所の人材を育成するための問題解決型集中学習科目、一専攻であることの特徴を生かした分野横断型のボーダレス科目、国際的に活躍できる能力を育む国際交流科目などの選択科目を編成し、個々の学生が、自らの要望に合致するオーダーメイドのプログラムを組み立てることを可能としています。

アドミッション・ポリシー

(入学受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、歯学研究科では、生命科学基礎研究から先端的な診断・治療技術の開発に至る、口・顎・顔面領域に基盤をおいた高度な科学への探究心と、歯学研究・歯科医療分野における次世代のリーダーを目指す意欲に満ちた、以下のような資質をもつ人を受け入れます。

1. 歯科医学、生命科学を愛し、歯科医療に対する真摯な姿勢と使命感をもつ人
2. 最先端の知識と技術の修得に必要な洞察力と精神力をもつ人
3. 意欲と好奇心に満ち、自由なイマジネーションに富む人
4. 目的意識と向上心に溢れた自立心の強い人
5. 積極的に世界レベルでのコミュニケーションを望む人
6. 自らのキャリアパスを模索し、未来の自分を「創造」する人

多様な背景をもつ人を国内外から受け入れるため、一般選抜、社会人選抜、留学生選抜を複数回実施するとともに、選抜では学力試験、口頭試問によってこれらの資質を評価します。

歯学研究科

学位プログラム「口腔科学」

学位：博士(歯学)

教育目標

大阪大学および歯学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「口腔科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「口腔科学」では、歯科医学が口と全身との関わりも含めた幅広い分野へと拡大している現状を踏まえ、口・顎・顔面領域を通して人のからだ全体を科学の目で見ることができ、次世代の歯学研究・歯科医療をけん引する「オーラルヘルス・サイエンティスト」の育成を目標としています。すなわち、口・顎・顔面領域を中心とした生命科学に関する最先端の専門的知識と、より広い領域で独創的な研究を展開し深化させる実行力を持ち合わせた研究者、並びに高度歯科医療人の育成を図ります。さらに、関連する学問分野との連携を推進する学際性と、世界的なレベルで活躍できる国際性を同時に育むことによって、大学、研究所、医療機関、企業、行政・公的機関など、多様な分野で活躍するグローバルな人材の輩出を目指しています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および歯学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「口腔科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「口腔科学」では、口・顎・顔面領域に基盤をおいた生命科学分野を対象として、

1. 最先端の高度な専門的知識
 2. 広範で深遠な真理を考究する意欲と向上心
 3. 独創的な生命科学研究を発想し、自主的にそれを実践する行動力
 4. 他分野と連携した学際研究を展開する柔軟なデザイン力
 5. 世界レベルでの活動を推進できるコミュニケーション能力と国際的センス
- を身につけた学生に対して学位を授与します。

(学習目標)

- 最先端の高度な専門的知識を有している。
- 広範で深遠な真理を考究する意欲と向上心を有している。
- 独創的な生命科学研究を発想し、自主的にそれを実践する行動力を有している。
- 他分野と連携した学際研究を展開する柔軟なデザイン力を有している。
- 世界レベルでの活動を推進できるコミュニケーション能力と国際的センスを有している。

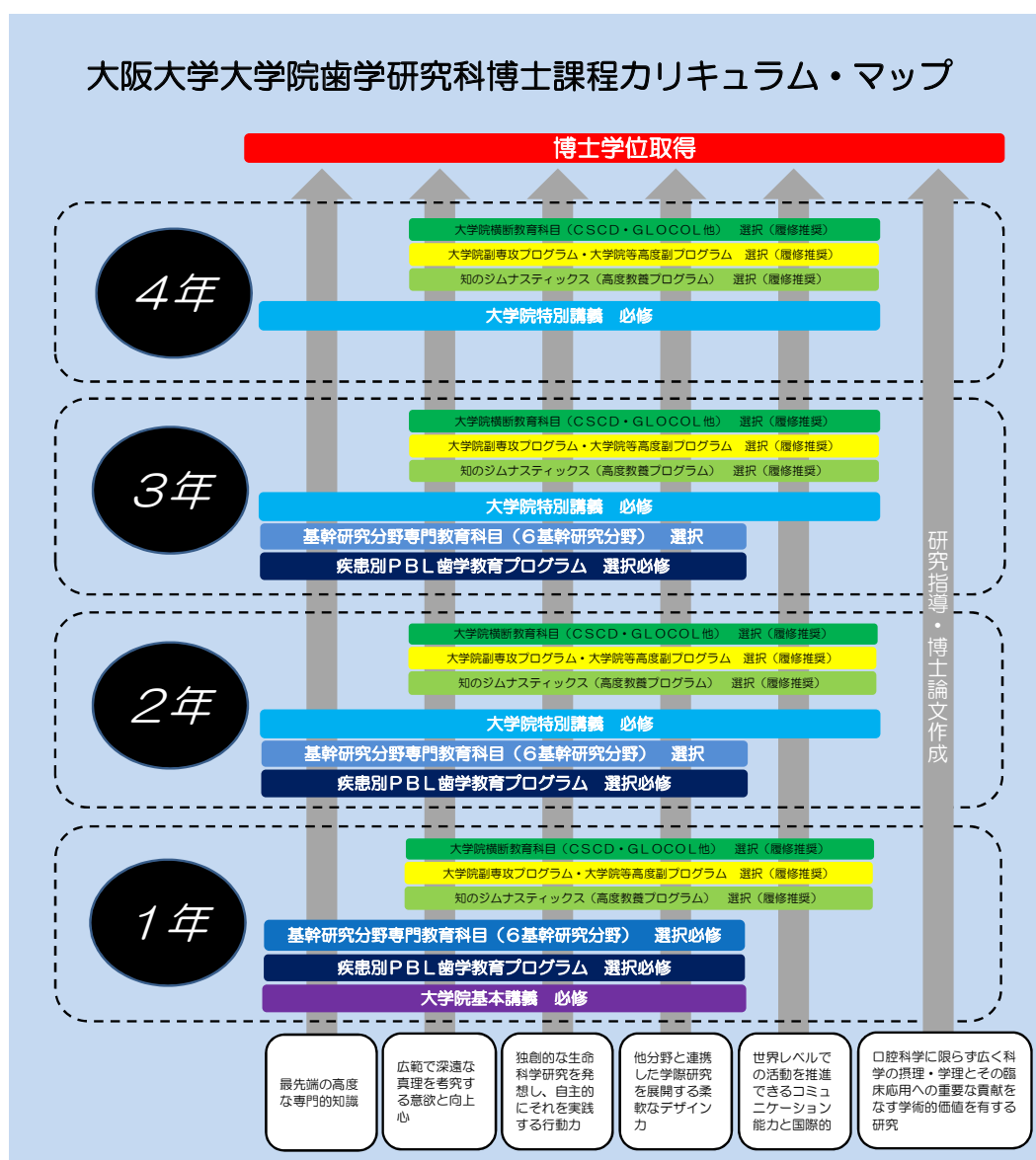
カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および歯学研究科のカリキュラム・ポリシーを受けて、学位プログラム「口腔科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「口腔科学」では、専門力、俯瞰力、複眼的思考能力、並びに国際性を涵養し、将来の多様なキャリアパスを支援する教育プログラムに基づいて研究指導を実践します。すなわち、口・顎・顔面領域に基盤をおいた生命科学に関する知識を幅広く修得する必修科目に加え、適材適所の人材を育成するための問題解決型集中学習科目、一専攻であることの特徴を生かした分野横断型のボーダレス科目、国際的に活躍できる能力を育む国際交流科目などの選択科目を編成し、個々の学生が、自らの要望に合致するオーダーメイドのプログラムを組み立てることを可能としています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および歯学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「口腔科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)】

学位プログラム「口腔科学」では、生命科学基礎研究から先端的な診断・治療技術の開発に至る、口・顎・顔面領域に基盤をおいた高度な科学への探究心と、歯学研究・歯科医療分野における次世代のリーダーを目指す意欲に満ちた、以下のような資質をもつ人を受け入れます。

1. 歯科医学、生命科学を愛し、歯科医療に対する真摯な姿勢と使命感をもつ人
2. 最先端の知識と技術の修得に必要な洞察力と精神力をもつ人
3. 意欲と好奇心に満ち、自由なイマジネーションに富む人
4. 目的意識と向上心に溢れた自立心の強い人
5. 積極的に世界レベルでのコミュニケーションを望む人
6. 自らのキャリアパスを模索し、未来の自分を「創造」する人

【入学者選抜の方針】

学位プログラム「口腔科学」では、多様な背景をもつ人を国内外から受け入れるため、一般選抜、社会人選抜、留学生選抜を複数回実施するとともに、選抜では学力試験、口頭試問によってこれらの資質を評価します。

薬学研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

薬学とは、生命・健康を分子や物質に注目して総合的に科学する学問であり、医薬品の創成や適正使用法の確立、生活環境の安全・安心の確保などを通じて人類の健康に奉仕し、豊かな社会の発展に貢献することを目的としています。大阪大学の教育目標を受けて、薬学研究科は、薬学の発展を主導できる優れた人材を育成することを理念とし、独立行政法人医薬品医療機器総合機構、国立医薬品食品衛生研究所等の学内外の機関と連携を深め、薬学領域の最先端の研究を通して、幅広い知識と深い専門性を修得することにより、将来、研究、医療、教育、産業、行政等の分野で国際的に活躍して「ものづくり（創薬）」に貢献できる指導的研究者を養成します。

創成薬学専攻では、アカデミア創薬を強力に推進でき、国際的競争力をもった、最先端創薬研究者の養成を実施するとともに、海外の著名大学等への研究派遣や国際学会等への派遣を通してグローバル人材の養成を推進し、「創薬基盤技術力」の深化を目指します。

医療薬学専攻では、Pharm. D.コース（大阪大学）修了者を対象とした、「創薬臨床力」のさらなる強化を目指した特別コースの設置に加え、協定締結先のアリゾナ大学を含めたグローバルな視点での国際的共同研究・教育の実施とともに、臨床科学の視点から、薬学の特色である「ものづくり力（創薬）」を習得できることを目指します。

ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、薬学研究科では、創成薬学専攻においては、最先端の基礎科学を習得するのみならず、新たな生命原理の発見や革新的科学技術・医療技術の創成に寄与する「創薬基盤技術力」を備えた人材の育成を実践します。

一方、医療薬学専攻においては、最新の医療を理解・習得し、現在の薬物治療・医療技術の科学的評価と最適化、あるいは、疾患の発症機序の解明とそれに基づく新規薬物治療の開発に寄与する「創薬臨床力」を備えた人材の育成を実践します。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、薬学研究科では、高度な専門性を有する人材を育成するための大学院教育として、創成薬学専攻では、薬科学科での教育を基礎として、学内外の研究所等との協力連携体制のもと、博士前期課程では、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修するコースワークを充実させ、研究科横断型の大学院高度副プログラム等の科目を含む選択コースの特色に合わせた必修・選択科目の区分を設けます。これらの講義科目に加え、所属研究分野が行う創成薬学ゼミナール及び特別演習を必修科目として設定し、研究プロジェクトの企画・マネジメント能力やプレゼンテーション能力を修得することにより、多様な領域で活躍できる薬学研究者の育成を図ります。

博士後期課程では、所属研究分野での特別研究や特別演習により、最先端の研究を通して自立的な研究者として必要な課題探求能力や問題解決能力を修得することにより、生命科学、創薬科学、社会・環境衛生薬学、医療薬学の発展を主導できる「創薬基盤技術力」を備えた優れた薬学研究者の育成を図ります。

一方、医療薬学専攻博士課程では、薬学科での教育を基礎として、本学の医療系部局や医学部附属病院、学外機関等との密な連携体制のもとに、研究科横断型の大学院高度副プログラム等の科目を含む講義、医療薬学ゼミナール及び特別演習を体系的に履修します。これにより、臨床薬学・医療薬学から基礎薬学まで多様な専門領域における実践的な教育研究を行い、「創薬臨床力」を備えた patient-oriented scientists の育成を図ります。

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、薬学研究科では、生命科学、創薬科学、社会・環境衛生薬学、医療薬学の発展を主導し、「ものづくり(創薬)」に貢献することができる優れた人材を育成するために、研究を通して培った論理的かつ柔軟な思考力と、豊かな創造性を備えた人を求めます。

上記のような薬学の発展を主導できる人材の育成教育に値する学生を見出すために、創成薬学専攻の博士前期課程では、出身学部を限定しない一般入試と共に、大阪大学薬学部以外の出身者を対象とする特別入試を行い、広く優秀な人材の受け入れを行っています。また、創成薬学専攻博士後期課程及び医療薬学専攻博士課程でもそれぞれ2回の入試を行い、同様に、社会人や留学生も含めた多様な研究教育背景を持つ優秀な学生の受け入れに努めています。

さらに、連携大学院を構成する在京の講座に入学を希望する者には同時期に東京入試を実施しています。

薬学研究科

学位プログラム「創成薬学」

学位：修士・博士(薬科学)

教育目標

大阪大学および薬学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「創成薬学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「創成薬学」は国際的競争力を持ったリーダーを輩出することを目指し優れた「創薬基盤研究力」を有する人材の育成を目標としています。ライフサイエンスの最先端でグローバルに活躍でき、次世代の創薬を担う創薬基礎研究者の育成は我が国の「ものづくり」の文化を支える重要な責務といえます。さらに創薬基礎研究に加え環境科学、レギュラトリーサイエンス、トランスレーショナルリサーチの分野で活躍できる人材の育成にも力を注ぎ、総合的に革新的医薬品創出、医療・生命科学の発展に貢献していきます。

そこで本専攻にて高い研究能力に裏打ちされた幅広い知識や技能を有する高度な専門性を培うことにより養成される以下のような人材養成を目標としています。

- ①有機化学、生物化学、物理化学などの幅広く深い知識を基盤として、将来製薬企業等で第一線の創薬研究者として活躍できる人材
- ②人類が直面する最重要課題の一つである地球規模の環境問題に対して、薬学領域の幅広い知識と創造性あふれる豊かな人間性ならびに倫理観を持って意欲的に取り組める人材
- ③大学等の教育機関ならびに官公庁において、将来、研究、教育、行政等で責任ある指導的立場から国際的に活躍できる人材

創成薬学専攻では、アカデミア創薬を強力に推進でき、国際的競争力をもった、最先端創薬研究者の養成を実施するとともに、海外の著名大学等への研究派遣や国際学会等への派遣を通してグローバル人材の養成を推進し、「創薬基盤技術力」の深化を目指します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および薬学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「創成薬学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「創成薬学」においては、本学の強みである「創薬基盤技術力」をさらに磨き上げ、ライフサイエンスの最先端でグローバルに活躍でき、次世代の「ものづくり(創薬)」を担う創薬基礎研究者を育成することを目指します。そして最先端の基礎科学を習得するのみならず、新たな生命原理の

発見や革新的科学技術・医療技術の創成に寄与する「創薬基盤技術力」を備えてさらに発展させられる人材の育成を実践します。以下の学習目標を達成し所定の単位を修得した学生に対して前期課程修了後に修士(薬科学)、後期課程修了後に博士(薬科学)の学位を授与します。

(前期課程学習目標)

- 高度な専門性と深い学識
 - ・創薬科学、社会・環境衛生薬学等の専門分野における高度な知識を有している
 - ・高度な専門分野での知識を活用して、薬学領域での問題点を抽出し、問題解決への道筋を提示できる
- 教養
 - ・生命科学、創薬科学、社会・環境衛生薬学、医療薬学領域の幅広い知識を有している
- デザイン力
 - ・研究者として薬学領域が抱える問題点を抽出することができる
 - ・自ら問題解決への道筋を設定することができる
- 国際性
 - ・研究活動を通じて国外との学問的、人的、文化的交流ができる
 - ・地球規模で物事を考えることができる

(後期課程学習目標)

- 高度な専門性と深い学識
 - ・創薬科学、社会・環境衛生薬学等の専門分野における高度な知識を有している
 - ・高度な専門分野での知識を活用して薬学領域で自ら抽出した問題点について解決の道筋を提示し実行できる
 - ・最新の医療を理解・修得し、現代医療の問題点解決にその知識を活用できる
- 教養
 - ・生命科学、創薬科学、社会・環境衛生薬学、医療薬学領域の幅広い知識を有している
 - ・論理的かつ柔軟な思考力を有する
 - ・研究課題の全体像を捉え客観的な判断ができる
- デザイン力
 - ・薬学研究者として近未来の薬学的課題を想定することができる
 - ・自ら問題解決への道筋を設定し、実行することができる
- 国際性
 - ・国外との学問的、人的、文化的交流により研究活動ができる
 - ・地球規模で物事を捉え活動できる

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および薬学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「創成薬学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「創成薬学」では、ライフサイエンスの最先端でグローバルに活躍でき、本学の強みである「創薬基盤技術力」をさらに発展させて次世代の「ものづくり(創薬)」を担うことができる創薬基礎研究者を育成することを目指し、以下のカリキュラムを組んでいます。

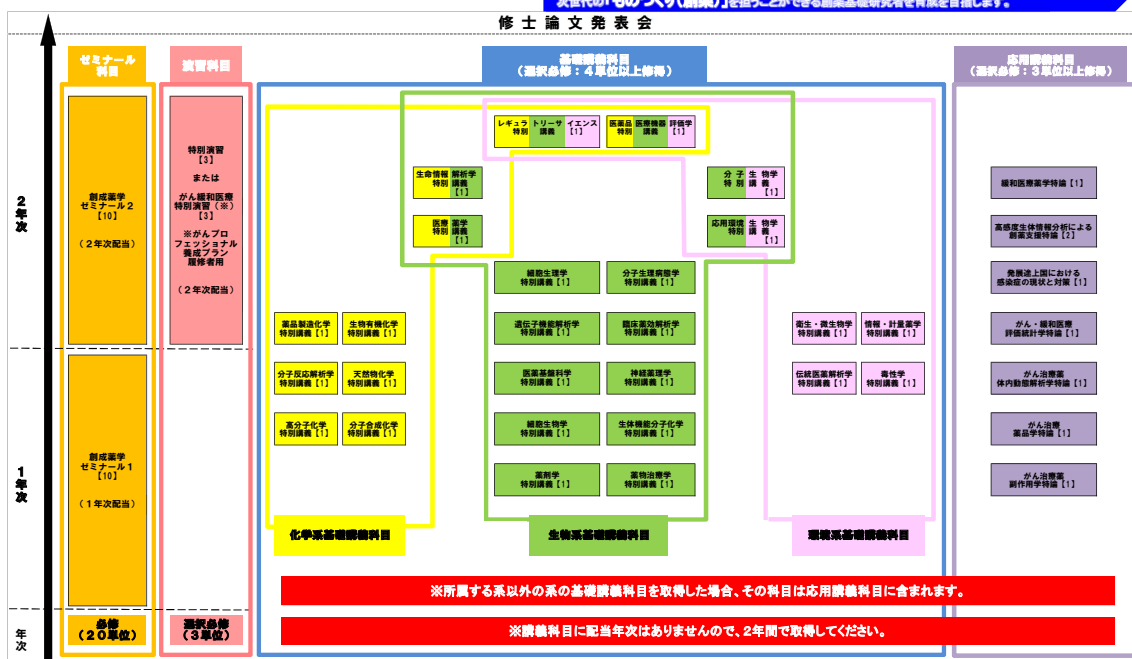
薬科学科での教育を基礎として、学内外の研究所等との協力連携体制のもと、博士前期課程では、学修課題を複数の科目等を通して体系的に履修するコースワークを充実させ、研究科横断型の大学院高度副プログラム等の科目を含む選択コースの特色に合わせた必修・選択科目の区分を設けます。これらの講義科目を前期課程2年間で7単位以上履修します。講義科目に加え、所属研究分野が行う創成薬学ゼミナール(20単位)及び特別演習(3単位)を必修科目として設定し、研究プロジェクトの企画・マネージメント能力やプレゼンテーション能力を修得することにより、多様な領域で活躍できる薬学研究者の育成を図ります。前期課程修了時には修士論文の提出及び最終試験を課しています。

博士後期課程では、所属研究分野での創成薬学特別研究(1～3年次各2単位)や特別演習(3単位)を必修としています。2年次には自ら設定した課題の研究動向、将来展望をまとめた総説講演を課しています。最先端の研究を通して自立的な研究者として必要な課題探求能力や問題解決能力を修得することにより、生命科学、創薬科学、社会・環境衛生薬学、医療薬学の発展を主導できる「創薬基盤技術力」を備えた優れた薬学研究者の育成を図ります。後期課程修了時には博士論文の提出及び最終試験を課しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

薬学研究科博士前期課程創成薬学専攻カリキュラムマップ

ライフサイエンスの最先端でグローバルに活躍でき、「創薬基盤技術力」をさらに発展させて、次世代の「ものづくり(創薬)」を担うことができる創薬基礎研究者を育成を目指します。



【 】内の数字は単位数を示す

- 384 -

薬学研究科

学位プログラム「医療薬学」

学位：博士(薬学)

教育目標

大阪大学および薬学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「医療薬学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「医療薬学」では、世界をリードする先導的医療人の輩出を目指し「創薬臨床力」に優れた人材の育成を目標としています。医療の現場における臨床的な課題を対象とする研究領域を中心とした臨床薬学・医療薬学に関する教育研究を行い、4年一貫の大学院教育課程として高度な専門性や優れた研究能力を備えた研究者としての薬剤師等の養成を行います。我が国の多くの薬学部は6年制学科を主体としていることから、今後薬剤師免許を持つ6年制学科卒業生が飛躍的に増大することが予想されます。これらの薬剤師に対する指導を行える人材には、上記のような質の高い薬剤師に対する社会ニーズとあいまって、多くの需要が発生すると見込まれます。したがって、本専攻にて高い研究能力に裏打ちされた幅広い知識や技能を有する高度な専門性を培うことにより養成される以下のような人材養成を目標としています。

- ①臨床薬学・医療薬学などの幅広く深い知識を基盤として、豊かな人間性ならびに倫理観を持って臨床現場で活躍できる指導的立場に立つ人材
- ②大学等の教育・研究機関ならびに官公庁において、薬剤師資格を有し、将来、研究・教育・行政等の分野で責任ある指導的立場から国際的に活躍できる人材
- ③臨床薬学研究、医薬保健行政、品質保証・薬事、創薬研究を含めた医薬品開発分野で活躍できる「創薬臨床力」に優れた人材

当専攻の特徴としてPharm.Dコース(大阪大学)修了者を対象とした、「創薬臨床力」のさらなる強化を目指した特別コースを設置しました。また、協定締結先のアリゾナ大学を含めたグローバルな視点での国際的共同研究・教育の実施とともに、臨床科学の視点から、薬学の特色である「ものづくり力(創薬)」を習得できることを目指します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および薬学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「医療薬学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療薬学」においては、医療の現場はもとより臨床薬学研究や医薬保健行政、品質保証・薬事を含めた医薬品開発の入口から出口において、国際的舞台で先導的に活躍できる、「創薬臨床力」に優れた人材育成を目指します。そして最新の医療を理解・習得し、現在の薬物治療・医療技術の科学的評価と最適化、あるいは、疾患の発症機序の解明とそれに基づく新規薬物治療の開発に寄与する「創薬臨床力」を備えた人材の育成を実践します。以下の学習目標を達成し所定の単位を修

得した学生に博士(薬学)の学位を授与します。

(学習目標)

- 高度な専門性と深い学識
 - ・臨床薬学・医療薬学等の専門分野における高度な知識を有している
 - ・高度な専門分野での知識を活用し、医療薬学領域で自ら抽出した問題点について解決の道筋を提示し実行できる
 - ・最新の医療を理解・修得し、臨床上の問題点解決にその知識を活用できる
- 教養
 - ・生命科学、創薬科学、社会・環境衛生薬学、医療薬学領域の幅広い知識を有している
 - ・論理的かつ柔軟な思考力を有する
 - ・課題の全体像を捉え客観的な判断ができる
- デザイン力
 - ・医療薬学研究者として近未来の薬学的課題を想定することができる
 - ・自ら問題解決への道筋を設定し、実行することができる
- 国際性
 - ・国外との学問的、人的、文化的交流により研究活動ができる
 - ・地球規模で物事を捉え活動できる

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および薬学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療薬学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療薬学」の博士課程では、国際的舞台で先導的に活躍でき、「創薬臨床力」をさらに発展させる優れた人材の育成を目指し、以下のカリキュラムを組んでいます。

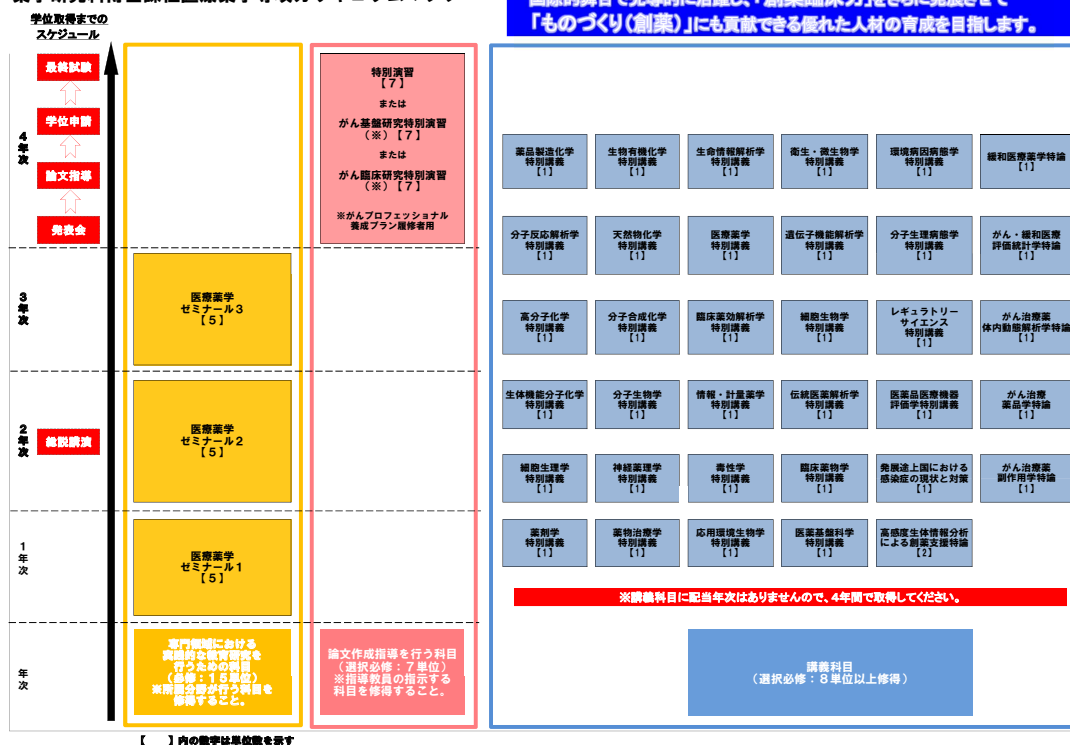
薬学科(6年制学科)での教育を基礎として、本学の医療系部局や医学部附属病院、学外機関等との密な連携体制のもと、研究科横断型の大学院高度副プログラム等の科目を含む講義、医療薬学ゼミナール及び特別演習を体系的に履修します。

教育課程は6年制学部・学科を卒業した学生の多様なニーズに対応した以下のような構成となります。まず、医療薬学ゼミナール(1～3年次各5単位、合計15単位)では、臨床薬学・医療薬学から基礎薬学まで、所属研究室の多様な専門領域における実践的な教育研究を行います。講義のカリキュラムは学生のニーズに合わせ多様な選択が可能となるものとし、8単位以上を取得させます。医療統計学やレギュラトリーサイエンス、薬事戦略、トランスレーショナルリサーチに関する講義を通じて「創薬臨床力」のさらなる醸成を図ります。2年次には自ら設定した課題の研究動向、将来展望をまとめた総説講演を課しています。さらに、特別演習及び指導教員による密接な論文作成指導(7単位)を受け、学生が臨床現場や所属研究室において最前線の研究活動に参画することにより、実践的な課題探求能力・問題解決能力の涵養を図ることが可能となります。博士課程修了時には博士論文の提出及び最終試験を課しています。

上記カリキュラムにより、臨床薬学・医療薬学から基礎薬学まで多様な専門領域における実践的な教育研究を行い、patient-oriented scientistsの育成を図ります。将来、臨床薬学分野だけでなく、創薬科学・環境薬学分野、さらには国際社会など多様な場で活躍できる研究者の育成を目指しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

薬学研究科博士課程医療薬学専攻カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学受入の方針)

大阪大学および薬学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「医療薬学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「医療薬学」では、国際的舞台上で先導的に活躍できる、「創薬臨床力」に優れた人材育成を目指しています。トランスレーショナルリサーチ、レギュラトリーサイエンスに関する取組を総合的に推進し、産学官連携や他の研究機関・研究分野等との連携した研究をグローバルに推進することにより、世界的な拠点として医療・生命科学等の発展に貢献していきます。

医療の現場における臨床的な課題を対象とする研究領域を中心とした臨床薬学・医療薬学に関する教育研究を行うことを主たる目的とし、4年一貫の大学院教育課程として高度な専門性や優れた研究能力を備えた研究者としての薬剤師等の養成を行います。上記の如く臨床医学・医療薬学の発展を主導することができる優れた人材育成を実践しており、次のような人を求めています。

- (1) 医療薬学の専門分野における高度な知識を有している人
- (2) 研究意欲旺盛で将来、大学、医療機関、研究機関において第一線の指導的立場に立つ意欲を有している人
- (3) 医療薬学研究における問題点を設定できるデザイン力を備えた人
- (4) 論理的かつ柔軟な思考力と、豊かな創造性を備えた人
- (5) 医療分野に携わる人材として豊かな人間性、高度な倫理観を有する人

上記のような薬学の発展を主導できる人材の育成教育に値する学生を見出すために、医療薬学専攻では2回の入試を行い、社会人や留学生も含めた多様な研究教育背景を持つ優秀な学生の受け入れに努めています。

工学研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、工学研究科では、「科学と技術の融合を図り、より豊かな社会生活を希求するための学問が工学である」との理念に基づき、工学の深い理解と積極的な活用を通じて、人類社会の持続的発展に資することを目指した教育・研究に取り組んでいます。

博士前期課程での教育においては、本研究科の掲げる工学の理念のもとに、

- (1) 人類社会や自然界の仕組みを深く理解する広範かつ高度な科学的知識
- (2) 人類社会の複雑な問題の解決策を見出すことのできる深い思考力
- (3) 工学の各分野における世界最先端の専門的知識と技能
- (4) 工学を真に人類社会の発展に活かすことのできる教養・デザイン力・国際性及びその実践において求められる高い倫理観

を身につけ、科学技術の発展に貢献できるリーダーとなるべき人材の育成を目標としています。

博士後期課程での教育においては、さらに

- (1) 人類社会の未来の問題を予見する洞察力
- (2) 未踏の工学領域への展開力

を身につけ、大阪大学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」の実践を目指し、世界最先端の科学技術の追求から未踏の工学領域の開拓まで、工学の関わる幅広い舞台で、世界で活躍することのできるグローバル・リーダーを育成し、社会に輩出することを目指しています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、工学研究科では、教育目標に定める人材を育成するために、博士前期課程及び博士後期課程についてのディプロマ・ポリシーを以下のように定めます。

博士前期課程については、研究科に所定の期間在学し、各専攻における高度な専門に関して以下の項目にあげる能力を身につけ、所定の単位を修得し、研究科規程に定める試験に合格した学生に修士(工学)の学位を授与します。

- (1) 専攻する分野における高度な専門知識と技能
- (2) 修士論文研究として取り組む先端専門分野の知識と技能
- (3) 研究開発を実践するための論理的思考力、コミュニケーション力及び問題解決力
- (4) 自ら実施した研究を正しく整理し、修士論文を作成する能力
- (5) 修士論文研究の内容・成果を発表し、それに関する討論を行う能力

博士後期課程については、研究科に所定の期間在学し、各専攻における高度な専門に関して以下の項目にあげる能力を身につけ、所定の単位を修得し、研究科規程に定める試験に合格した学生に博士(工学)の学位を授与します。

- (1) 専攻する分野における先端的な専門知識と技能
- (2) 研究遂行のための高い倫理観
- (3) 独創的研究課題の発掘能力、研究企画力、研究推進力、研究発信能力
- (4) 論理的かつ独創的思考力、課題探究力、問題解決力、表現力及び国際的なコミュニケーション力を併せ持つ実践的研究能力
- (5) 新規性、独創性、学術的意義を有する博士論文を作成する能力
- (6) 博士論文研究の内容・成果を発表し、それに関する専門的に高度な討論を行う能力

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、工学研究科では、学部で学んだ専門知識と技能をより深めるために、高度かつ最新の理論を学ぶカリキュラムを各専攻で提供しています。更にその知識を実社会に活用するために必要な、幅広い分野の教養、デザイン力及び国際性の涵養を目的とした大学院等高度副プログラムや、複眼的視野の獲得を目的とした大学院副専攻プログラムを実施しています。

博士前期課程では、各種授業により高度な専門知識と技能を修得させるとともに、実践的な研究開発能力の育成を目的とし、研究室配属を通じた対面指導による修士研究で完結するカリキュラムを提供しています。また希望する学生は大阪大学が学術協定を結んでいる海外の大学に留学する機会もあります。修了要件は、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受け、修士論文審査に合格することです。

博士後期課程では、各種授業により先端的な専門知識と技能を修得させるとともに、専門領域における世界でトップレベルの研究開発能力の育成を目的とし、指導教員による高い研究倫理と独創性・有用性等の視点からの研究論文指導を通じて完結するカリキュラムを提供しています。修了要件は、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受け、博士論文審査に合格することです。

博士前期・後期課程を通じて、優秀で創造性に富む研究者・技術者を育成するために、工学研究科に所属する教員に加え、関連の研究所・研究センター等の学内他部局や学外からも教員を迎え、研究指導を行っています。

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、工学研究科では、人類社会の持続的発展のために独創的な科学技術の進歩に貢献し、高い倫理観を持ってその恩恵を国際社会に還元したいという強い意欲と向上心に溢れ、次のような資質を持つ人を求めています。

- (1) 専攻分野における基礎的・専門的な知識並びに技能
- (2) 主体的に問題に取り組み、課題解決のために論理的な考察を行う能力
- (3) 自らの考えを的確に伝えるための表現力や討論する能力
- (4) グローバルなコミュニケーションに必要な英語力

博士前期課程では、このような人材を求めるために、筆記試験と口頭試問から成る一般の入学試験を実施しています。また、研究能力に特に秀でた学生を国内外から広く受け入れ、優れた研究者・技術者を育成するために、博士前期課程推薦入学特別選抜制度による入学試験、留学生を対象とした外国人留学生特別選抜制度による入学試験、3つの英語特別コース、高度アジア人材育成プログラム、エラスムス・スミットコース (MAPNET) への入学試験を設けています。

博士後期課程では、上記の資質に加え、以下に示す能力を有する人材を求め、筆記試験と口頭試問等から成る一般の入学試験を実施します。

- (1) 博士論文研究分野に関する先端的知識と技能
- (2) 自ら実施した研究を整理して論文を作成する能力、及びその内容・成果を発表し、それに関する討論を行う能力

また、研究能力に特に秀でた学生を国外から受け入れるために、外国人留学生特別選抜制度、3つの英語特別コースへの入学試験を設けています。

工学研究科

学位プログラム「機械工学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「機械工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

機械工学は、マイクロシステムから巨大なプラントにいたるまで、きわめて広範な機械や装置を対象として、安全で豊かな社会生活を実現するための技術を開拓する学術分野です。機械工学がもたらす技術は、例えば、エネルギーや環境問題に起因する制約、生態系との関係などのもと、ますます複合化するものづくりの課題を解決するために不可欠です。

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「機械工学」では、学術の探究を通じて機械工学分野における高度な専門知識を習得し、幅広い教養と国際性を身に付けることによって、持続可能な社会の構築、人類の未来の発展への貢献を目的とした教育・研究を行うことを目標としています。

博士前期課程では、狭義の機械に限定されず様々なシステムを横断的かつ総合的に扱い、個々の原理と相互の連成を理解することを基本として、複雑なシステムの力学(メカニクス)や環境に応じた知的な制御(コントロール)を究めることにより、革新的な機械システムの設計や開発に向けた新しい知識と学理の創造を担う技術者・研究者の育成を目的としています。

博士後期課程では、企画・管理・指導の能力にも優れ、研究や技術開発を通じて新たな価値の創出を先導し、社会の持続可能な発展に貢献することのできる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「機械工学」では以下のようにディプロマ・ポリシーを定めています。

博士前期課程では、機械工学専攻が設定したカリキュラムに沿って所定の単位を修得して以下の項目にあげる能力を身につけ、工学研究科規程に定める試験に合格した学生に修士(工学)の学位を授与します。

- (1) 機械工学に関する研究課題について深くかつ独創的に探求し、その過程を論理的に表現する能力を身につけている。
- (2) 機械工学の基礎となる数学、力学を深く理解している。
- (3) 機械や製品を創り出す際の創造性や多様な人々を巻き込む力、複雑な現象・事象をモデル化する

力などの総合力、実践力を身につけている。

- (4) 機械工学の専門科目(計算力学、固体力学、流体力学、熱工学、制御工学)について深く理解し、現象を緻密にモデル化して応用できる。
- (5) 機械工学の専門科目(知能機械学、統合デザイン工学、生産加工学)について深く理解し、新たな機械や製品を創り出す際に応用できる。
- (6) 最新の機械工学に関する知識と教養を有している。
- (7) 国際活動の基盤として、外国語を運用する能力を身につけている。

博士後期課程では、機械工学専攻が設定したカリキュラムに沿って所定の単位を修得して以下の項目にあげる能力を身につけ、工学研究科規程に定める試験に合格した学生に博士(工学)の学位が授与されます。

- (1) 機械工学における先端的な専門知識と技能を身につけている。
- (2) 研究遂行のための高い倫理観を有している。
- (3) 独創的研究課題の発掘能力、研究企画力、研究推進力、研究発信能力を身につけている。
- (4) 論理的かつ独創的思考力、課題探究力、問題解決力、表現力及び国際的なコミュニケーション力を併せ持つ実践的研究能力を身につけている。
- (5) 新規性、独創性、学術的意義を有する博士論文を作成する能力を身につけている。
- (6) 博士論文研究の内容・成果を発表し、それに関する専門的に高度な討論を行う能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「機械工学」では以下のようにカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「機械工学」では、学部で学んだ専門知識をより深めて、さらに高度でかつ最新の機械工学を学ぶカリキュラムを提供しています。

博士前期課程では、機械工学の高度な展開の基盤となる数学科目や力学科目、機械工学の最先端知識を選択的に深める8つの専門科目群(計算力学科目類、固体力学科目類、流体力学科目類、熱工学科目類、制御工学科目類、知能機械学科目類、統合デザイン工学科目類、生産加工学科目類)を提供します。また、展開科目として、産業界との連携により提供される設計開発課題に挑むプロジェクト科目やものづくりに関するマルチフィジックスを対象とした解析科目により、総合力や構想力を養成します。さらに、機械工学を独創的に発展させる能力や実際問題に適用する能力を涵養することを目的とし、研究室配属を通じた個別指導による修士研究で完結するカリキュラムを提供しています。

博士後期課程では、企画・管理・指導の能力にも優れた高度な研究者を養成するためのコースワークを提供するとともに、専門領域における最先端の理論の構築と実社会への適用を目的とし、指導教員による独創性・有用性等の視点からの研究論文指導を通じて完結するカリキュラムを提供しています。これらのカリキュラムにより、新たな価値の創出を先導し、社会の持続可能な発展に貢献する人材を育成します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

	MC 1年次			MC 2年次		DC 1年次		DC 2,3年次
	1学期	2学期		1学期	2学期	1学期	2学期	
博士前期課程学習目標 機械工学に関する研究課題について深くかつ独断的に探求し、その過程を論理的に表現する能力を身につけている。	機械工学ゼミナールⅠ	機械工学ゼミナールⅡ		研究指導(修士論文)	研究指導(修士論文)			
機械工学の基礎となる数学、力学を深く理解している。	基礎数学Ⅰ 連続体力学	基礎数学Ⅱ 解析力学						
機械や製品を創り出す際の創造性や多様な人々を巻き込む力、複雑な現象・事象をモデル化する力などの総合力、実践力を身につけている。	プロダクトデザイン方法論 プロダクトデザイン					複合システムデザイン実践 複合システムデザイン企画		
計算力学について深く理解し、現象を緻密にモデル化して応用できる。 ：計算力学科目目録	数理固体力学 計算流体力学	マルチフィジックス解析基礎 シミュレーション創成学 分子熱流体工学						
固体力学について深く理解し、現象を緻密にモデル化して応用できる。 ：固体力学科目目録	非線形構造力学 微細構造評価学 数理固体力学	マイクロメテリアル工学 機械材料科学 ナノ界面設計学						
流体力学について深く理解し、現象を緻密にモデル化して応用できる。 ：流体力学科目目録	計算流体力学 物理化学流体力学 熱性流体力学	非線形非平衡流体力学 流体・固体遷相流 複雑流体力学 熱流体システム工学						
熱工学について深く理解し、現象を緻密にモデル化して応用できる。 ：熱工学科目目録	燃焼工学 反応輸送現象論	分子熱流体工学 熱流体システム工学						
制御工学について深く理解し、現象を緻密にモデル化して応用できる。 ：制御工学科目目録	多変数制御理論 機械制御 ハイパーヒューマン工学	ロボティクス制御理論 生命機械システム工学 宇宙機工学				複合メカニクス特論Ⅰ マイクロ機械科学特論Ⅰ 知能機械科学特論Ⅰ 統合デザイン工学特論Ⅰ	複合メカニクス特論Ⅱ マイクロ機械科学特論Ⅱ 知能機械科学特論Ⅱ 統合デザイン工学特論Ⅱ	
知能機械工学について深く理解し、新たな機械や製品を創り出す際に応用できる。 ：知能機械学科目目録	ハイパーヒューマン工学 生命機械システム工学 構成論的知能学 人間指向システム論 宇宙機工学							
統合デザイン工学について深く理解し、新たな機械や製品を創り出す際に応用できる。 ：統合デザイン工学科目目録	システム設計工学 ライフサイクル工学	創成加工学 コンピュータ援用設計生産工学 宇宙機工学						
生産加工工学について深く理解し、新たな機械や製品を創り出す際に応用できる。 ：生産加工工学科目目録	光マイクロ機械計測学	創成加工学 コンピュータ援用設計生産工学 レーザープロセス学						
最新の機械工学に関する知識と教養を有している。	航空宇宙工学 機械工学特別講義Ⅰ 機械工学特別講義Ⅱ	機械工学特別講義Ⅲ						
国際活動の基礎として、外国語の運用能力を身につけている。	工学英語Ⅰ	工学英語Ⅱ						

MC:8専門科目類
から2科目類を選択

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「機械工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「機械工学」では、学術の探究を通じて機械工学分野における高度な専門知識を習得し、幅広い教養と国際性を身に付けることによって、持続可能な社会の構築、人類の未来の発展へ貢献しようと強く考えている学生を求めています。以上の方針のもと、学位プログラム「機械工学」では、次のような人を大学院生として求めています。

- (1) 数学、力学、語学などの基礎科目と機械工学あるいはその周辺分野での専門科目における十分な学力を有する人
- (2) 学術の探究を通じて、高度な専門知識と豊かな創造力を持つ技術者・研究者として社会に貢献する意欲と適性を持つ人
- (3) 高い倫理観を持ち、構想力と実行力に優れ、先駆者として各分野のリーダーとなることを目指す人

【入学者選抜の方針】

博士前期課程では、学術の探究を志し、機械工学分野の高度な知識に加え、国際性や倫理観を兼ね備えた意欲溢れる人材を求めるために、筆記試験と口頭試問から成る一般の入学試験を実施しています。また、研究能力に特に秀でた学生を国内外から広く受け入れ、優れた研究者・技術者を育成するために、博士前期課程推薦入学特別選抜制度や学部3年次学生を対象とする特別選抜制度、留学生を対象とした外国人留学生特別選抜制度を設けています。

博士後期課程では、学術の探究を強く志し、機械工学分野の高度な知識に加え、国際性や倫理観を兼ね備えた意欲溢れる人材を求めるために、筆記試験と口頭試問等から成る一般の入学試験を実施し、また研究能力に特に秀でた学生を国外から受け入れ、優れた研究者・技術者を育成するために、外国人留学生特別選抜制度を設けるとともに、積極的に社会人ドクターを受け入れています。

工学研究科

学位プログラム「知能・機能創成工学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「知能・機能創成工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

工学研究科では、「科学と技術の融合を図り、人類が安全・安心で、より豊かな社会生活を希求するための学問が工学である」との理念に基づき、工学の深い理解と積極的な活用を通じて、人類社会の持続的発展に資することを目指した教育・研究に取り組んでいます。学位プログラム「知能・機能創成工学」では、

- 発想・設計・実装のサイクルからなる方法論
 - 高機能材料や知能機械を基礎に、知能・機能を持つ人工物やシステムを創成する能力
 - 社会ニーズを察知し、想像力と統合力に富んだ問題設定・解決を行う能力
 - チームワークとリーダーシップ
- を持った人材の育成を目指しています。

博士前期課程での教育においては、本専攻の掲げる教育理念のもとに、企業と連携することによって、社会ニーズを察知し、統合力と想像力に富んだ問題設定・解決能力、チームワーク、さらに国際的にも活躍できる能力を持つ人材、新しい工学分野を創成できる人材の育成に力を注ぎます。

博士後期課程での教育においては、さらに設計、材料、加工、デバイス、機械、制御、ロボット、知能、生産を融合した研究開発を進める人材を育成します。たとえば、材料と加工、機械と材料、加工と機械を中心に融合した社会基盤材料創成、ロボット社会基盤創成、融合創成基盤システム等の融合領域研究を推進可能な能力を付け、世界に羽ばたける人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「知能・機能創成工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

工学研究科では、教育目標に定める「人類社会や自然界の仕組みを深く理解する幅広い知識や工学における高度な専門的知識並びに総合的判断力を有し、独創的な科学技術の発展に貢献できるリーダー格人材」を育成するために、それぞれの専攻において定める専門分野に関する高度な知識・技能並びに教養・デザイン力・国際性を身につけることを目的としたカリキュラムを設けています。学位プログラム「知能・機能創成工学」では、以下のディプロマ・ポリシーをもって、教育・研究を進めています。

1. 機械工学、マテリアル科学、生産科学のいずれか、もしくは、複数の専門分野の深い知識を修得している。

2. 学際領域の研究にチャレンジする強い意志をもっている。
 3. 国際会議等で英語でのコミュニケーション能力をもっている。
 4. 複数の専門分野にまたがる学際領域の研究を創造・推進できる知識及び思考力を身につけている。
 5. 研究の企画・計画・成果を英語で分かりやすく発表できる。
- 実社会での課題解決にリーダーシップを発揮できる。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「知能・機能創成工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

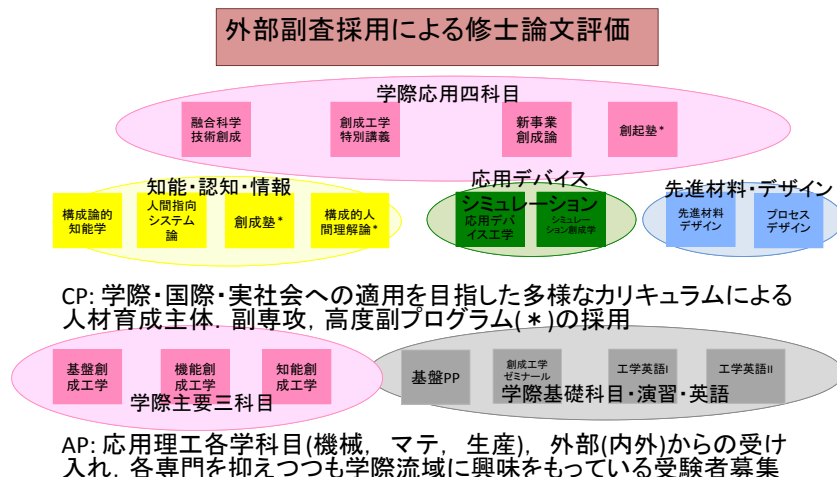
博士前期課程では、学際・国際・実社会への適用を目指した多様なカリキュラムによる人材育成を主体としています。以下では、必修と明記しない限り、選択科目を表します。

1. 全教員による学際主要三科目(演習を含む必修で各4単位:知能創成工学、基盤創成工学、機能創成工学)に加えて、学際基礎科目・演習・英語である、基盤PP(必修6単位)、創成工学ゼミナール(必修4単位)、工学英語I、II(各2単位)を修得後、
2. 知能・認知・情報、応用デバイス・シミュレーション、先進材料・デザインの三つに分かれて、それぞれの学際要素を含む専門科目を習得します。この中には、副専攻プログラムとして「構成的人間理解論」を医学系研究科、情報科学研究科、基礎工学研究科、人間科学研究科、情報通信研究所(NICT)、国際電気通信基礎技術研究所(ATR)と連携して提供しています。その後、
3. 学際応用科目として、融合科学技術創成(2単位)、学外講師による創成工学特別講義(2単位)、新事業創成論(必修2単位)、研究申請書の書き方を指導する創起塾(1単位)を修得後、
4. 修士論文審査には、外部から副査をお願いし、より客観的、学際的な評価を行っています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

知能・機能創成工学専攻ポリシーに基づくカリキュラム構成

DP: 高度な英語プレゼン能力を有し、専門能力を学際に応用し、実社会での課題解決にリーダーシップを発揮できる人材の輩出



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「知能・機能創成工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「知能・機能創成工学」では、工学研究のさらなる発展を目指して、先導的な教育プログラムのもと、工学研究の未来を開拓する融合領域研究を担う人材育成のための教育を行います。工学システムは、常に異なる分野融合と、融合された分野の分化を繰り返して発展します。その融合と分化の繰り返しにおいて、新たな研究分野開拓に貢献する最先端の教育・研究を担うのが、当専攻の使命です。

融合領域研究は、概念設計と新技術の発想、先端技術の研究開発、社会での実証研究という重要な3つの側面を持ちます。当専攻では、設計、材料、加工、デバイス、機械、制御、ロボット、知能、生産に関わる技術をもとに、これら、3つの側面を重視した研究・開発を展開していきます。入学前に修得して欲しい能力は、以下のとおりです。

1. 機械工学、マテリアル科学、生産科学のいずれか、もしくは関連する分野の学士学位(複数歓迎)を有すること
2. 深い専門知識を活かして、学際的研究を推進可能な独創的な発想能力を有すること
3. 学際的研究を国際的に深める上で、高い英語コミュニケーション能力をもっていること

【入学者選抜の方針】

上記の能力を評価軸として、

1. 応用理工学科目の学士取得者、及び内外の他大学からの学士取得者(見込みを含む)を対象とした学力試験において、それぞれの専門の知識能力を評価する。
2. 特別選抜入試(推薦)を利用して、深い専門知識に加え、学際的研究を推進可能な独創的な発想能力を評価する。
3. 留学生を含めて、面接試験等を通じて、英語コミュニケーション能力を評価する。

工学研究科

学位プログラム「応用化学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「応用化学」は以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「応用化学」は、分子創成化学コースと物質機能化学コースで構成されています。分子創成化学コースでは、新しい分子の設計と合成、新規合成ルートの開発、分子の高機能化の研究に焦点をあてた研究を行っています。物質機能化学コースでは、機能を有する新材料の開発、新機能を発現する材料の設計と合成、機能の構造化学的解明等の研究を中心に行っています。両コースが協力しながら、科学の基礎や産業の基盤となる物質変換の新手法構築、新エネルギー技術の確立、資源の再生・循環・超高度利用の環境技術開拓、創薬や医療バイオ材料開発などを世界的なレベルで推進しています。

学位プログラム「応用化学」では、工学研究科の掲げる理念に基づき、工学的視点に立った化学全般に関する基礎知識と幅広い教養を培う教育を行っています。化学を基礎とする最先端かつ高度な専門性と深い学識を備え、科学技術を総合的に俯瞰して新分野・新技術をデザインできる洞察力を身につけさせることを目標としています。さらに、グローバルな視点も養うことによって、新しい知識基盤社会のリーダーとなるべき人材の育成に取り組んでいます。

博士前期課程の学生に対しては、講義と研究活動を通じ、幅広い化学に関する知識と教養を身につけながら、高い専門知識を有した人材を育成することを目指しています。指導教員のもとで行う研究活動は、単に与えられた課題を行うだけでなく、自らの意志で新しい課題を企画し、実施できる環境を整えています。

博士後期課程では、個々の学生が独自の研究を行うことが求められ、それを通して社会の広い分野で活躍できる基礎学力と指導力を有する人材を育成することを目指しています。そのために、各自の専門分野以外の先端研究の調査、先端的研究課題の企画、プレゼンテーション能力を養うセミナーなど、多くの教育プログラムを準備しており、世界の最先端の科学技術の知識も俯瞰しながら新しい分野を開拓するデザイン力と、これを世界に広めていく国際性を身につけることができます。

これらの教育を通して、化学を基盤として分子変換技術、機能性分子創成、医薬品開発、環境技術、エネルギー変換技術等の次世代を担う科学技術分野の発展に主体的に貢献できる人材の育成に重点をおいています。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「応用化学」は以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「応用化学」では、化学全般の基礎を修得し、さらに化学分野での専門性に立脚した工学的応用力を身につけた未来創造社会で活躍する化学人材を育成することを目標としています。この教育目標に定める人材を育成するため、応用化学専攻のカリキュラムに沿って設定した所定の単位を取得し、以下に示した能力を備え、修士論文の審査に合格した学生には修士(工学)が、さらに研究活動を発展させ、リーダー力、教育力、企画力、コミュニケーション能力を養うことでさらにこれらの能力を高度化し、博士論文の審査に合格した学生には博士(工学)が授与されます。

(知識・理解)

1. 物理化学、有機化学、無機化学といった基礎分野から、環境・エネルギー化学、マテリアル化学、生命化学といった最先端分野の講義や、研究室における研究活動を通して、応用化学分野を中心に幅広い知識を有しています。
2. 応用化学分野の専門性に立脚して、物事の本質や問題を俯瞰的、かつ、客観的に捉え、柔軟に見極めることができます。

(思考・判断)

3. 自ら問題の解決に向かって課題を設定することができる工学的応用力を身につけています。

(関心・意欲)

4. 研究室において個々に与えられる研究課題を通じ、机上だけでは学べない論理的思考力、課題探究力、問題解決力を身につけています。
5. 社会における環境・エネルギー、マテリアル、生命の問題に対し、自らの役割を自覚することができます。

(態度)

6. 未来創造社会の問題を発見し、化学の力で自由に発想することができます。
7. 高度な技術社会を創るための問題解決の道筋を示すことができます。

(技能・表現)

8. 化学分野におけるアカデミアを中心とした基礎研究や、化学工業をはじめとした製造業、電子・情報産業、製薬産業、バイオ・医療産業等の応用研究の場で専門性を活かすことができます。
9. 上記の研究開発を発展させるための表現力並びに国際性やコミュニケーション能力を有しています。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「応用化学」では以下のとおり定めています。

学位プログラム「応用化学」では、現代社会が先端技術への依存度を益々高めていく中で、豊かな創造性と独創性を発揮して化学に対する社会の期待と要請に応え、次世代の科学技術の柱を創りだすことの可能な人材の育成に重点を置いた教育を実践するカリキュラムを準備しています。

博士前期課程では、ゼミナールや計算機化学などの基礎化学のほか、化学工学も開講し、実用的な

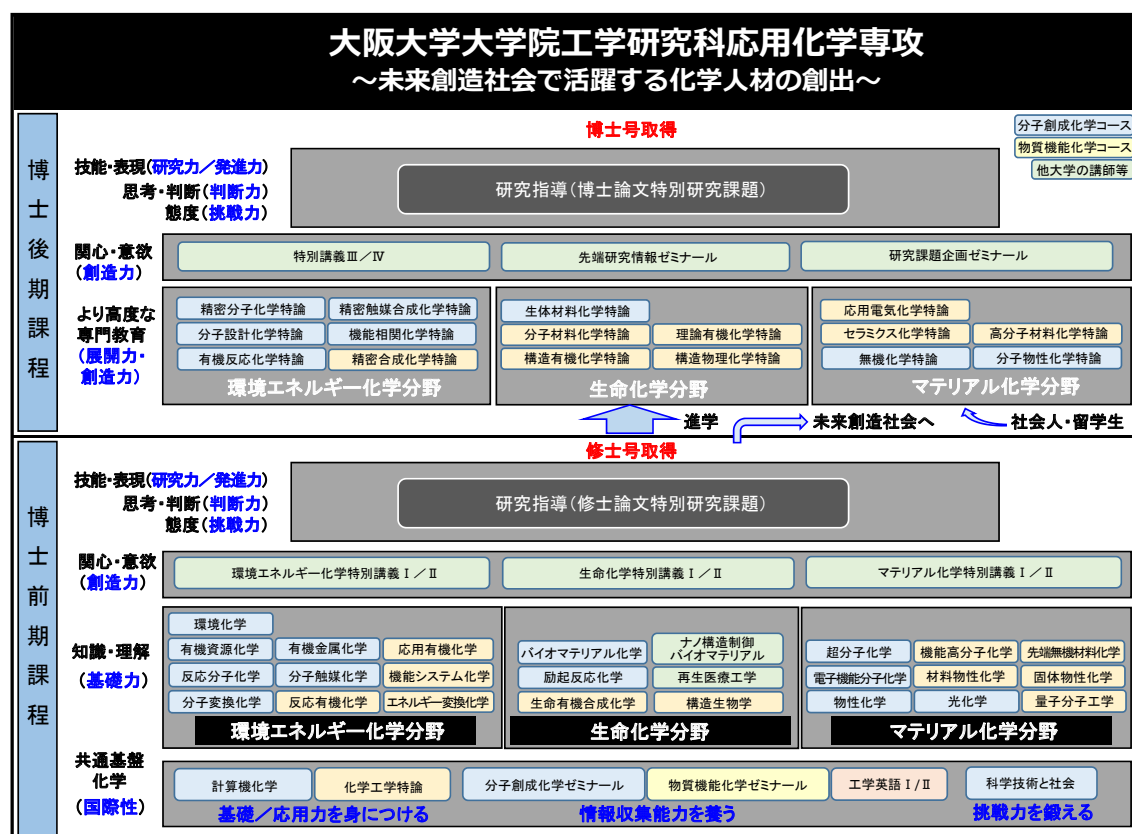
工業生産工程に関する基礎理論を修得させます。これら全ての基礎となる化学の基礎概念を修得したのちに、化学英語を通して国際的に活躍できるコミュニケーション能力も修得させ、総合的に化学を議論できる能力を養います。次に、最先端の化学を学ばせる目的で、分野別講義（「環境・エネルギー化学」、「マテリアル化学」、「生命化学」）を通して、自然科学分野の専門性を高めさせるとともに応用力を培わせ、応用化学及びその周辺分野における科学技術を俯瞰的に理解する能力を養います。また、多様な特別講義を通して、さらに幅広い化学の知識を身につけさせます。

さらに博士後期課程では、各自の専門分野以外の先端研究の調査、先端的研究課題の企画、プレゼンテーション能力を養うセミナーなどの教育プログラムを通して、幅広い分野で活躍できるリーダー力を養います。

いずれの課程においても、修士論文、博士論文の審査に合格することを修了要件としており、そのために各研究室でそれぞれの専門分野における独自の研究を主体的に行うことのできる研究環境を整えとともに、そこでの優れた研究指導を通して、学位授与に掲げる高度な知識・技能を体得させるとともに、研究企画・開発能力およびプレゼンテーション能力、国際性を養います。

一方、学位授与の方針に掲げるさらに高度な知識・技能などを修得させるため、応用化学専攻の分野に関する科目の一部と、大学院横断教育科目及び博士課程教育リーディングプログラム科目を体系的に編成した一貫教育プログラム（リーディングプログラム）も設置し、講義、演習、実習等を適切に組合せた高度な授業も開講しています。選抜試験で選ばれた優秀な学生を対象に、リーダーシップや国際性も兼ね備えた研究者となるための教育指導も行います。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「応用化学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「応用化学」では、化学を深く追究し新しい学問分野を精力的に開拓するとともに、独創的な発想によって国際社会のさらなる発展に貢献する新しい化学技術の創出に意欲を持つ学生を求めています。

そのために、教育目標に定める人材を育成するため、学部又は大学院(修士)の教育課程等における学修を通して、物理学、生物学、数学などの自然科学分野の確かな基礎学力のほか、応用化学を中心とした専門分野における十分な知識及び主体的に学ぶ態度を身につけ、自然現象を様々な角度から多面的に捉え、自ら課題を発見し探求しようとする意欲的な人材を受け入れます。高度先進技術のグローバル化の時代に際し、さらに変革をもたらすための様々な産業分野の基盤となる新しい物質変換法の開拓、新エネルギー技術の確立、資源の再生・循環・超高度利用のための環境技術開発、豊かな生活を維持するための創薬や医療材料開発などに果敢に取り組む意欲があり、グローバルに展開するリーダーとして活躍できる可能性のある、高い英語能力を有した素養のある人材を受け入れます。

【入学者選抜の方針】

このような学生を適正に選抜するために、全般的な化学に関する知識および専門的な化学に関する知識を問う選抜試験を行います。また、国際的に研究発表し、交流・活躍することが期待されていることから、選抜試験にて英語の能力を判定します。また、研究室での共同研究活動への適性や研究意欲を判断するための面接を行います。

工学研究科

学位プログラム「船舶海洋工学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「船舶海洋工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「船舶海洋工学」では、自然環境の保全、循環型社会の形成、都市・地域・国土そして海・地球へと広がる生活・活動空間の創造、及び船舶・港湾・道路・建物など人の活動環境を構成する人工物やネットワークの新たな構築・維持保全・再生に貢献し、時代の転換期に即した、しなやかな社会経済システムの再構築に向けて、修得した専門知識を活用できる人材を育成します。特に、地球的視点から海洋に係わる科学技術を創造し、その有効性・安全性・環境影響を展望しながら、海洋での人工物をデザイン・開発・運用する能力を持った人材を育てます。

博士前期課程では、大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、より高度な次の能力を有する人材の育成を教育目標とします。

- 地球環境や文化に対する学際的見識と倫理観
- 船舶海洋工学の専門的・多面的学力
- 地球環境と都市社会の現象を理解し評価する能力
- 課題を理解し計画・デザインをまとめる能力
- 環境・安全・性能・コストを総合的に考慮するマネジメント能力
- 自らの考えや解決策を論理的に伝えるコミュニケーション能力
- 英語により発表・討論する能力

さらに後期課程では、大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、次の能力の修得を目標とします。

- 時代とともに変化する社会的要請と技術動向への対処能力
- 最先端の知識・技能に基づき未来の社会システム像・環境像を構想する能力
- 国際的協調を基に海洋の開発・保全に貢献する能力

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「船舶海洋工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

博士前期課程では、大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、専門分野の知識を深める講義や討論を重視した演習・ゼミナールに加え、論理的思考力、課題探究力、問題解決力、解

決策を論理的に伝えるコミュニケーション能力を併せ持つ実践的な研究開発能力を培う修士論文作成のための研究指導があります。これらのカリキュラムを通じて以下の項目にあげる能力を身につけ、船舶海洋工学コースが設定した所定の単位を修得し、研究科規程に定める試験に合格した学生に修士(工学)の学位が授与されます。

- 論理的な記述力と数学的定式化、モデル化ができる能力を持っている。(思考・表現)
- 問題解決に必要な情報を得るための実験を自ら計画し、得られた情報をもとに既存技術と新規技術を織り交ぜて解析、考察できる能力を持っている。(知識獲得・表現)
- 船舶および海洋の利用・開発に対して、経済活動に偏らず、その有効性と安全性、環境保全に対する理解力と総合化力を持っている。(知識・理解)
- 船舶・海洋工学における諸問題の中から、自ら課題を設定し、問題解決法を構築し、その妥当性について、他人との議論を通して、批判や異なる考え方を理解し、解決法の改善を行い得る能力を持っている。(関心・思考・表現)
- 自ら設定した課題に対して、提案する問題解決法をもとに船舶・海洋工学における人工物の設計にまとめる力と学術論文にまとめる力を身につけている。(技能・表現)

博士後期課程では、大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、専門分野の先端科学技術を学ぶ講義の他、博士前期課程での研究開発能力に加え、独創的思考力、時代とともに変化する社会的要請と技術動向への対処能力、未来の環境像・都市像を構想する能力、国際的協調を基に海洋・都市基盤の保全・改善・再編に貢献する能力を培う博士論文作成のための研究指導があります。博士論文の審査および試験は、その研究が新規性、独創性、学術的意義等を有し、かつ申請者が上記の能力に加え研究企画力、推進力並びに発信力を有しているかどうかの評価に基づいて行われます。船舶海洋工学コースが設定したカリキュラムに沿って所定の単位を修得し、研究科規定に定める試験に合格した学生に博士(工学)の学位が授与されます。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「船舶海洋工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

博士課程前期では、各分野における世界最先端の専門的知識と深い思考力ならびに実践的な計画・デザイン力の育成のため、各種授業が開講されます。授業は、個々の学生の志向に応じて多数の科目から選択して履修できるようにしています。ゼミナールを通して行う修士論文研究では、高度な専門能力とともに、自発的な探求心の醸成、議論や発表を通じたコミュニケーション能力の育成が図られます。さらに、船舶海洋工学コースでは、すべての授業が英語により行われ、国際的な授業環境が提供されます。また、大阪大学、大阪府立大学、神戸大学間における海事教育の連携(関西海事教育アライアンス)による授業プログラム、国土交通省との連携授業プログラムなど多様なプログラムが用意されています。

博士課程後期では、各種授業の他、専門領域における世界トップレベルの原論・理論の構築とその工学的適用を目的として、指導教員による博士論文指導および指導教員グループによる評価が行われます。とくに、後期課程では最先端の学識のみならず、時代と共に変化する社会的要請への対処力、未知の分野への学術的展開力を重視した指導が行われます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

地球環境や文化に対する学際的見識と倫理観	船舶海洋工学の専門的・多面的学力	地球環境と都市社会の現象を理解し評価する能力	課題を理解し計画・デザインをまとめる能力	環境・安全・性能・コストを総合的に考慮するマネジメント能力	自らの考えや解決策を論理的に伝えるコミュニケーション能力	英語により発表・討論する能力
連続体力学	◎				◎	◎
力学系の安全性評価手法論	◎				◎	◎
注上フラットフォームデザイン論			◎	◎		◎
造波理論	◎		◎			◎
水中ロボット工学	◎			◎		◎
流体力学	◎				◎	◎
構造力学Ⅰ	◎				◎	◎
構造力学Ⅱ	◎				◎	◎
船舶推進エネルギー論	◎			◎	◎	◎
数値船舶海洋流体力学	◎				◎	◎
運動制御学	◎				◎	◎
数値構造解析	◎				◎	◎
構造体強度論	◎				◎	◎
船舶耐航性	◎				◎	◎
弾塑性学	◎					
船舶海洋工学ゼミナールⅠ	◎		◎		◎	◎
船舶海洋工学ゼミナールⅡ	◎		◎		◎	◎
マシナードesignストラテジー論	◎	◎	◎	◎	◎	
船舶のリスク管理	◎	◎		◎		
地球総合工学特論	◎	◎				
サステイナビリティ評価・技術論	◎	◎		◎		◎
工学英語Ⅰ						◎
工学英語Ⅱ						◎

	時代とともに変化する社会的要請と技術動向への対応能力	最先端の知識・技能に基づき未来の社会システム像を構想する能力	国際的協調を基に海洋の開発・保全に貢献する能力
海中機器工学ゼミナール	◎	◎	◎
海中機器工学特論	◎	◎	◎
船舶海洋材料学ゼミナール	◎	◎	◎
船舶海洋材料学特論	◎	◎	◎
船舶海洋流体力学ゼミナール	◎	◎	◎
船舶海洋流体力学特論	◎	◎	◎
船舶海洋構造力学ゼミナール	◎	◎	◎
船舶海洋構造力学特論	◎	◎	◎
運動制御学ゼミナール	◎	◎	◎
運動制御学特論	◎	◎	◎
海洋利用計画学ゼミナール	◎	◎	◎
海洋利用計画学特論	◎	◎	◎

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「船舶海洋工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「船舶海洋工学」では、自然環境の保全、循環型社会の形成、国土・海・地球へと広がる生活・活動空間の創造、及び船舶・港湾など人の活動環境を構成する人工物やネットワークの新たな構築・維持保全・再生について、全般的な基礎知識と特定領域に関する専門知識の修得に意欲を持ち、かつ、自ら考え、行動できる能力、柔軟な思考力、繊細な感受性、大胆な発信力、そして地球環境や人類の文化に対する深い洞察力を有する人を必要としています。

また、大災害の時代を迎え、海・陸域に関わる防災・減災対策を遂行すること、風力・海洋エネルギーに代表される再生可能エネルギーの開発・利用を推進すること、新たな圏域構造と海・陸域での輸送・移動手段の連携を構想し、その実現に向けた準備をする必要があり、都市・地域の復興と再編に向けて、修得した専門知識を生かし展開させる情熱と使命感を持ち合わせた人材を求めています。

【入学者選抜の方針】

博士前期課程では、専門分野の高度な知識に加え、地球環境に対する学際的見識や倫理観を兼ね備えた人材を求めるために、筆記試験と口頭試問から成る一般の入学試験を実施しています。また、国内外から優れた人材を広く受け入れるために、博士前期課程推薦入学特別選抜制度、外国人留学生特別選抜制度などを実施しています。

博士後期課程では、地球環境の未来像を構想し、国際的協調を基に船舶海洋工学の開発と海洋環境保全に貢献できる人材を求めるために、筆記試験と口頭試問等からなる一般の入学試験を実施し、国外から優れた人材を受け入れるために、外国人留学生特別選抜制度を設けています。

工学研究科

学位プログラム「社会基盤工学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「社会基盤工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

地球総合工学が目指す教育目標のもと、学位プログラム「社会基盤工学」においては、自然環境と調和した美しい国土づくりと、安全・安心で快適な社会生活及び円滑な社会経済活動を実現するための社会基盤の整備・保全に貢献する人材を育成するために、以下のような素養を身につけた人材の育成を目標として教育を行っています。

博士前期課程では、より高度な次の能力を有する人材の育成を教育目標とします。

- 地球環境や地域の多様な文化に対する学際的見識と倫理観
- 社会基盤工学の専門的・多面的学力
- 地球環境と人間社会の現象を理解し評価する力
- 課題を理解し計画・デザインをまとめる力
- 環境・性能・コストを総合的に考慮し解決を図るマネジメント力
- 自らの考えや解決策を論理的に伝えるコミュニケーション力
- 英語により発表・討論する力

さらに博士後期課程では、次の能力の修得を目標とします。

- 時代とともに変化する社会的要請と技術動向に対処する力
- 最先端の知識に基づき未来を構想する力
- 国際的協調を基に社会基盤の長寿命化に貢献する力

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「社会基盤工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「社会基盤工学」の教育目標のもと、博士前期課程では、専門分野の知識を深める講義や討論を重視した演習・ゼミナールに加え、論理的思考力、課題探究力、問題解決力、解決策を論理的に伝えるコミュニケーション能力を併せ持つ実践的な研究開発能力を培う修士論文作成のための研究を通して、下記の能力を身につけた学生に修士(工学)の学位が授与されます。

- 地球環境や地域の多様な文化に対する学際的見識と倫理観を身につけている。
(知識・理解、思考・判断)
- 社会基盤工学の専門的・多面的学力を身につけている。
(知識・理解)
- 地球環境と人間社会の現象を理解し評価する力を身につけている。
(知識・理解、思考・判断)
- 課題を理解し計画・デザインをまとめる力を身につけている。
(知識・理解、思考・判断)
- 環境・性能・コストを総合的に考慮し解決を図るマネジメント力を身につけている。
(思考・判断)
- 自らの考えや解決策を論理的に伝えるコミュニケーション力を身につけている。
(技能・表現)
- 英語により発表・討論する力を身につけている。
(関心・意欲・態度、技能・表現)

博士後期課程では、上記の博士前期課程で養う能力に加え、専門分野の先端科学技術を学ぶ講義の他、博士論文の作成のための研究活動を通して、下記の能力を身につけた学生に博士(工学)の学位が授与されます。

- 時代とともに変化する社会的要請と技術動向に対処する力
(思考・判断、関心・意欲・態度)
- 最先端の知識に基づき未来を構想する力
(知識・理解、思考・判断)
- 国際的協調を基に社会基盤の長寿命化に貢献する力
(思考・判断、技能・表現)

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「社会基盤工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

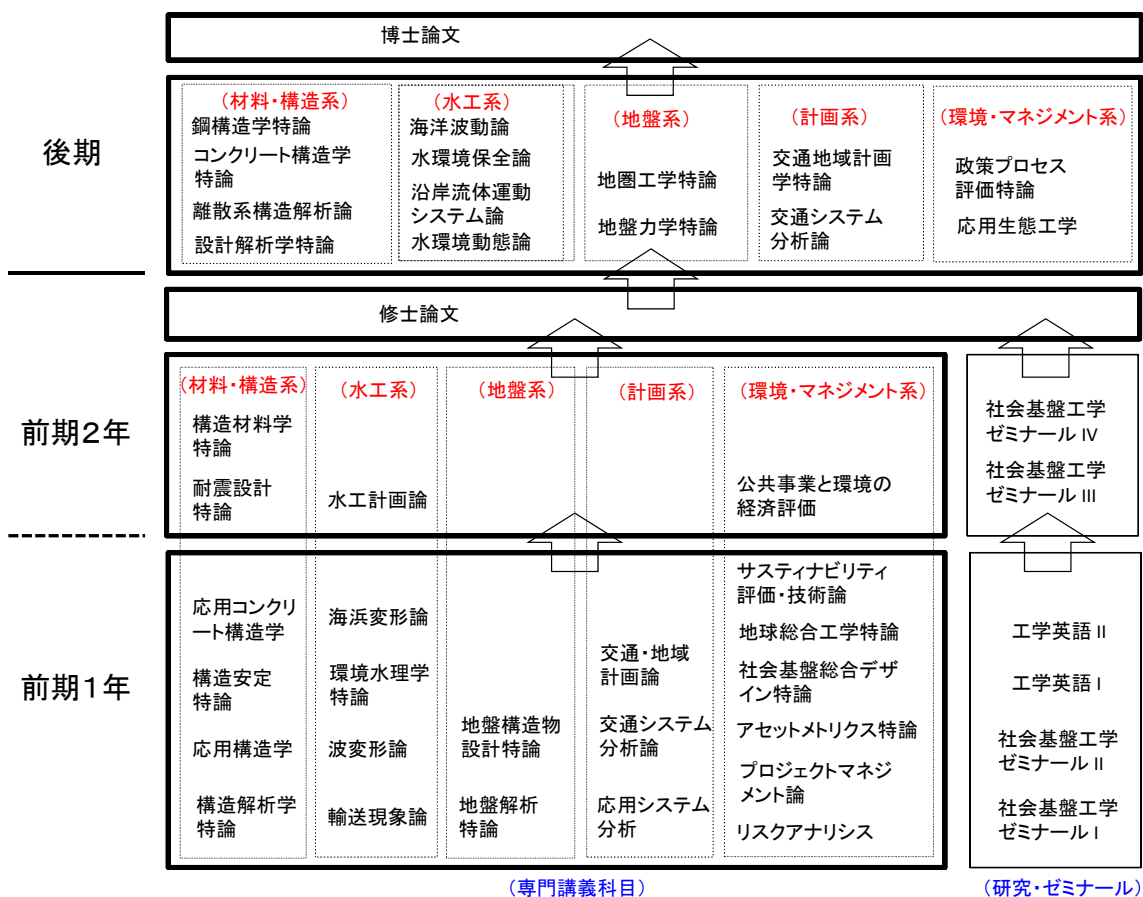
学位プログラム「社会基盤工学」の教育カリキュラムは、専門分野の知識や技術をより深く習得するためにデザインされた「専門講義科目」に加え、修士論文および博士論文を作成するための研究活動および研究成果発表のためのプレゼン能力・コミュニケーション能力等を養う「研究・ゼミナール」からなる。「専門講義科目」は、材料・構造系、水工系、地盤系、計画系、環境・マネジメント系に分類されています。

博士前期課程では、各分野における世界最先端の内容を有する各種授業が開講されており、それらを自由に選択することにより、総合的かつ深い専門的知識を獲得できます。また修士論文研究では、高度な専門能力とともに、自発的な探求心の醸成、ゼミナールにおける議論や発表を通じたコミュニ

ケーション能力の育成が図られます。

博士後期課程では、さらに高度な各種授業の他、専門領域における世界トップレベルの理論の構築とその工学的適用を目的として、指導教員による博士論文指導および指導教員グループによる研究指導が行われます。最先端の学識のみならず、時代と共に変化する社会的要請への対処力、未知の分野への学術的展開力を重視した実践的な指導が行われます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「社会基盤工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

地球総合工学専攻では、自然環境の保全、循環型社会の形成、都市・地域・国土そして海・地球へと広がる生活・活動空間の創造、及び船舶・港湾・道路・建物など人の活動環境を構成する人工物やネットワークの新たな構築・維持保全・再生に貢献し、時代の転換期に即した、しなやかな社会経済システムの再構築に向けて、修得した専門知識を活用できる人材を育成することを目標にしています。

したがって、地球総合工学専攻では次のような人を求めます。

1. 自然環境の保全、循環型社会の形成、都市・地域・国土の創造及び人の活動環境を構成する人工物やネットワークの新たな構築・維持保全・再生に関する専門知識の修得に意欲を持つ人
2. 自ら考え、行動できる能力、柔軟な思考力、繊細な感受性、大胆な発信力、そして自然界に対する深い洞察力を有する人
3. 都市・地域・国土の復興と再編に向けて、修得した専門知識を生かし展開させる情熱と使命感を持ち合わせた人

さらに、学位プログラム「社会基盤工学」では、人間や社会を自然災害の脅威や環境の変化から守り、安全・安心で快適な社会を実現するとの観点から、上記に加えて以下のような人を求めます。

4. 社会の基盤となるライフラインや防災関連施設並びに都市・地域・交通システム、環境保全・再生システムのデザイン・計画・技術に関して最先端の研究を行う熱意のある人

【入学者選抜の方針】

博士前期課程では、入学後の修学に必要な基礎的な学力と能力として、数学、構造力学・コンクリート工学、水理学、土質力学、土木計画学などの社会基盤工学の専門知識を有していることを、筆記試験と口頭試問からなる入学試験で確認します。また、海外から優れた人材を広く受け入れるために、外国人留学生特別選抜制度を実施しています。

博士後期課程では、入学後の修学と博士論文の研究に必要な高度な専門知識と研究の遂行能力を有していることを、筆記試験と口頭試問からなる入学試験で確認します。

工学研究科

学位プログラム「建築工学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「建築工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「建築工学」では、自然環境の保全、循環型社会の形成、都市・地域生活・活動空間の創造、人の活動環境を構成する建築・都市やネットワークの新たな構築・維持保全・再生に貢献し、時代の転換期に即した、しなやかな社会経済システムの再構築に向けて、修得した専門知識を活用できる人材を育成します。とりわけ、風雨や地震などの自然の外乱に対して人間の都市活動における安心と安全を確保し、また、健康で文化的な社会を支える快適で美しい建築・都市を実現するための計画・技術・デザインに関わる能力を有する人材を育成します。

具体的には、大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、以下の目標に従って教育を行います。

博士前期課程では、より高度な次の能力を有する人材の育成を教育目標とします。

- 地球環境や文化に対する学際的見識と倫理観
- 建築工学の専門的・多面的学力
- 地球環境と都市社会の現象を理解し評価する能力
- 課題を理解し計画・デザインをまとめる能力
- 環境・安全・性能・コストを総合的に考慮するマネジメント能力
- 自らの考えや解決策を論理的に伝えるコミュニケーション能力
- 英語により発表・討論する能力

さらに後期課程では、次の能力の修得を目標とします。

- 時代とともに変化する社会的要請と技術動向への対処能力
- 最先端の知識・技能に基づき未来の環境像・都市像を構想する能力
- 国際的協調を基に都市基盤の保全・改善・再編に貢献する能力

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「建築工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「建築工学」では以下の学生に学位を授与します。

博士前期課程では、専門分野の知識を深める講義や討論を重視した演習・ゼミナールに加え、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、解決策を論理的に伝えるコミュニケーション能力を併せ持つ実践的な研究開発能力を培う修士論文作成のための研究指導があります。それらのカリキュラムを通じて以下の項目にあげる知識・能力を身につけ、建築工学コースが設定した所定の単位を取得し、研究科規定に定める試験に合格した学生に修士(工学)の学位を授与します。

- 建築家あるいは建築技術者にふさわしい高い識見を身につけている。(関心・意欲・態度)
- 建築・都市に関して、計画・意匠、力学・構造、環境・設備のいずれかまたは複数の分野における国際的に最先端で高度な専門知識を身につけている。(知識・理解)
- 自ら設定した課題について解決策を考察できる能力を身につけている。(思考・判断)
- 課題を理解し、解決策を建築・都市の設計としてまとめる能力、または論文としてまとめる能力を身につけている。(技能・表現)
- 自らの考えや解決策を論理的に伝えるコミュニケーション能力を身につけている。(技能・表現)

博士後期課程では、専門分野の先端科学技術を学ぶ講義の他、博士前期課程での研究開発能力に加え、独創的思考力、時代とともに変化する社会的要請と技術動向への対処能力、未来の環境像・都市像を構想する能力、国際的協調を基に建築・都市の創造・保全・改善・再編に貢献する能力を培う博士論文作成のための研究指導があります。博士論文の審査および試験は、その研究が新規性、独創性、学術的意義等を有し、かつ申請者が上記の能力に加え研究企画力、推進力ならびに発進力を有しているかどうかの評価に基づいて行われます。建築工学コースが設定したカリキュラムに沿って所定の単位を取得し、研究科規定に定める試験に合格した学生に博士(工学)の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「建築工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

博士前期課程では、計画・意匠、力学・構造、環境・設備の各分野の世界最先端の専門知識と深い思考力ならびに実践的な計画・デザイン力の育成のため、各種授業が開講されます。必修の講義科目を少数に厳選し、個々の学生の興味・思考に応じて多数の科目から選択して履修できるようにしています。ゼミナールを通じて行う修士論文研究では、高度な専門能力とともに、自発的な探究心の醸成、議論や発表を通じたコミュニケーション能力の育成が図られます。また、建築設計インターンシップでは、建築設計業務を行う企業等に数週間在席し、建築設計の実務に触れる機会を持ちます。

博士後期課程では、各種授業の他、専門分野における世界トップレベルの原論・理論の構築とその工学的適用を目的として、指導教員による博士論文指導および指導教員グループによる評価が行われます。とくに、後期課程では最先端の学識のみならず、時代と共に変化する社会的要請への対処力、未知の分野への学術的展開力を重視した指導が行われます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

	計画・意匠	力学・構造	環境・設備	(斜体は必修科目)
後期 課程	建築・都市計画特論 地域施設計画特論 建築形態工学特論 建築空間生理学 建築人間工学特論 環境行動特論 空間文化学	地震防災論 構造開発工学特論 鋼構造性能評価工学特論 鋼構造設計工学特論 コンクリート工学特論 建築耐震解析	建築環境制御学 建築環境物理学特論	
前期 課程	建築工学ゼミナール III, IV 集落・都市の コンテクスチャル デザイン 空間デザイン手法論 建築・都市デザイン B 建築工学特別講義 II <u>建築工学特別講義 I</u> <u>建築工学ゼミナール I, II</u> 環境行動論 地域施設整備論 建築マネジメント論 都市デザイン論 建築・都市デザイン A	建築工学ゼミナール III, IV 建築力学特論, 同 演習 鉄筋コンクリート 構造学特論, 同 演習 鋼構造設計工学 , 同 演習 <u>建築工学ゼミナール I, II</u> 地盤基礎設計工学 , 同 演習 建築構造設計特論 鉄筋コンクリート 構造設計演習 鋼構造性能評価工学 , 同 演習	建築工学ゼミナール III, IV 建築設備設計論 建築環境設計論 建築環境物理学 建築環境測定実習 <u>建築工学ゼミナール I, II</u> 建築衛生学 建築設備設計演習 建築環境デザイン演習	他コース・他専攻 との共通科目 工学英語 II 工学英語 I サステナビリティ 評価・技術論 地球総合工学特論

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「建築工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「建築工学」では、自然環境の保全、循環型社会の形成、都市生活・地域生活・活動空間の創造、人の活動環境を構成する建築・都市やネットワークの新たな構築・維持保全・再生について、全般的な基礎知識と特定領域に関する専門知識の修得に意欲を持ち、かつ、自ら考え、行動できる能力、柔軟な思考力、繊細な感受性、大胆な発進力、そして地球環境や人類の文化に対する深い洞察力を有する人材を必要としています。また、大災害の時代を迎え、都市・地域の防災・減災対策を遂行すること、風力・海洋エネルギーに代表される再生可能エネルギーの開発・利用を推進すること、都市・地域を復興し再編すること、などに対して修得した専門知識を活かし展開させる情熱と使命感を持ち合わせた人材を求めています。

【入学者選抜の方針】

博士前期課程では、入学後の修学に必要な基礎的な学力と能力として、計画・意匠、力学・構造、環境・設備にわたる広範囲な建築工学の専門知識を有していること、ならびに設計製図の技能を有していることを、筆記試験と口頭試問からなる入学試験で確認します。また、海外から優れた人材を広く受け入れるために、外国人留学生特別選抜制度を実施しています。

博士後期課程では、入学後の修学と博士論文の研究に必要な高度な専門知識と研究の遂行能力を有していることを、筆記試験と口頭試問からなる入学試験で確認します。

工学研究科

学位プログラム「ビジネスエンジニアリング」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「ビジネスエンジニアリング」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「ビジネスエンジニアリング」は、機能や利便性がモノの価値(物価)を決めていた20世紀の規格大量生産社会を脱却し、多様な個人の好みを満足させるように込めた知恵がモノの価値(知価)を決める知価社会への変革が必要との理念に立脚しています。高度な工学的専門性と経済・経営に関する知識を兼ね備え、異分野の融合・連携により工学的な研究開発や経営学的な戦略を企画・遂行できる「技術知」を身に付け、社会や経済の高度化・活性化に貢献する人材の育成を目標とします。

博士前期課程での教育においては、専攻の掲げるこの理念のもとに、

- 工学における世界最先端の専門的知識とそれを適用するための深い思考力
- 経済および経営に関する基礎的な知識
- 工学や経営学を実社会に役立てるための考え方や方法論に関する知識と行動力を身につけます。

博士後期課程においては、さらに

- 社会の未来を予見し、それに対応した研究開発を自らデザインし実践する能力
- 自身の研究開発の成果を実社会に適用し展開する能力

を身につけ、社会や経済の活性化に貢献するリーダーを育成します。

特にビジネスエンジニアリング専攻は、プロジェクト研究などに少人数グループで取り組むOJE型演習(On the Job Education)を、工学研究科の他専攻や経済学研究科、さらに民間企業との連携を通じて実施しています。これにより、消費者ニーズに対応するため多様な知恵を盛り込んだ、ものづくりを含めたソリューションを提供し、持続可能な社会づくりに貢献するリーダーを育成し、世に送り出すことに注力しています。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「ビジネスエンジニアリング」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「ビジネスエンジニアリング」では、教育目標としている「高度な工学的専門性と経済・経営に関する知識を兼ね備え、異分野の融合・連携による工学的な研究開発や経営学的な戦略を企画・遂行できる「技術知」を身につけ、社会や経済の高度化・活性化に貢献する人材」を育成するため、博士前期課程においては下記の能力に加え、所定の単位を修得し、修士論文の審査に合格した学生に工学修士の学位を授与します。

- ・工学専門分野の高度な知識・技能に加え、基礎的な経済・経営の知識を習得している。
- ・思考力・分析力・決断力・コミュニケーション力がそれぞれ実践的な形で身につけており、異分野との融合・連携を図ることができる。
- ・消費者ニーズに対しものづくりを含めたソリューションを提供することができる。
- ・チームの中での自らの役割を理解し、チームの課題に対して主体的に取り組むことができる。
- ・社会や経済の活性化に貢献できるリーダーとして上記の能力・知識を展開することができる。

なお、当専攻で工学修士を取得した後、経済学研究科のMOTコースに進学すれば、MBA（経営学修士）を1年間で取得し、3年間で二つの修士号を得る道が開かれています。

博士後期課程においてはさらに下記的能力を備えた上で、所定の単位を修得し、博士論文の審査に合格した学生に博士（工学）の学位を授与します。

- ・最先端の科学技術に対し深い造詣を有している。
- ・実践的な研究能力として、論理的かつ独創的思考力、課題探究力、問題解決力、表現力とコミュニケーション能力をそれぞれ習得している。
- ・研究者として基礎的な研究企画力、研究推進力並びに研究発信力を有している。
- ・科学技術の発展のための研究・開発に高い関心を持つとともに、これらの活動の中心を担う意志を有している。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「ビジネスエンジニアリング」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「ビジネスエンジニアリング」では、教育目標に定める「高度な工学的専門性と経済・経営に関する知識を兼ね備え、異分野の融合・連携により工学的な研究開発や経営学的な戦略を企画・遂行できる「技術知」を身に付け、社会や経済の高度化・活性化に貢献する人材」を育てるため、前期課程では、次の三つのカテゴリに分けた講義演習科目と修士論文研究の指導を実施しています。

（専門科目）各員の修士論文研究課題と繋がる工学の専門性を深め、深い思考力によって展開する方法論などに関する科目です。工学専門性の涵養のために必要な工学研究科の他専攻の授業の履修も推奨しています。試験等により理解度を評価する他、講義での積極性も考慮します。

（OJE科目）工学を実社会に役立てるための新しい考え方やマネジメント手法を、演習を多く取り入れて指導します。特に、企業との連携や大学内でのプロジェクト研究などに少人数グループで取り組むOJE型演習「On the Job Education」を通じて、実社会で求められる課題発見・解決力や協働力を養うことに力をいれています。社会人基礎力をベースとした評価シートによる自己評価及び他者評価によって個人の評価を行います。

（MBA基礎科目）経済学や経営学の基礎知識を学ぶ科目で本学の経済学研究科で実施している科目を履修し修了要件単位としてカウントします。試験等により理解度を評価する他、講義での積極性も考慮します。

（修士論文研究指導）配属される研究室で特定の工学分野の最先端の研究テーマに深く踏み込んで2年間取り組み、課題解決や発表と質疑応答を行うことで修士論文を完成させます。また、学会発表、研究論文刊行、特許出願などを目指し専門性を高めます。

博士後期課程では、専門性をさらに高めるための授業を開講するとともに、専門領域における世界

でトップレベルの理論の構築と実社会への適用を目的とし、指導教員による独創性・有用性等の視点からの研究論文指導を通じて完結するカリキュラムを提供しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

ビジネスエンジニアリング専攻カリキュラムマップ

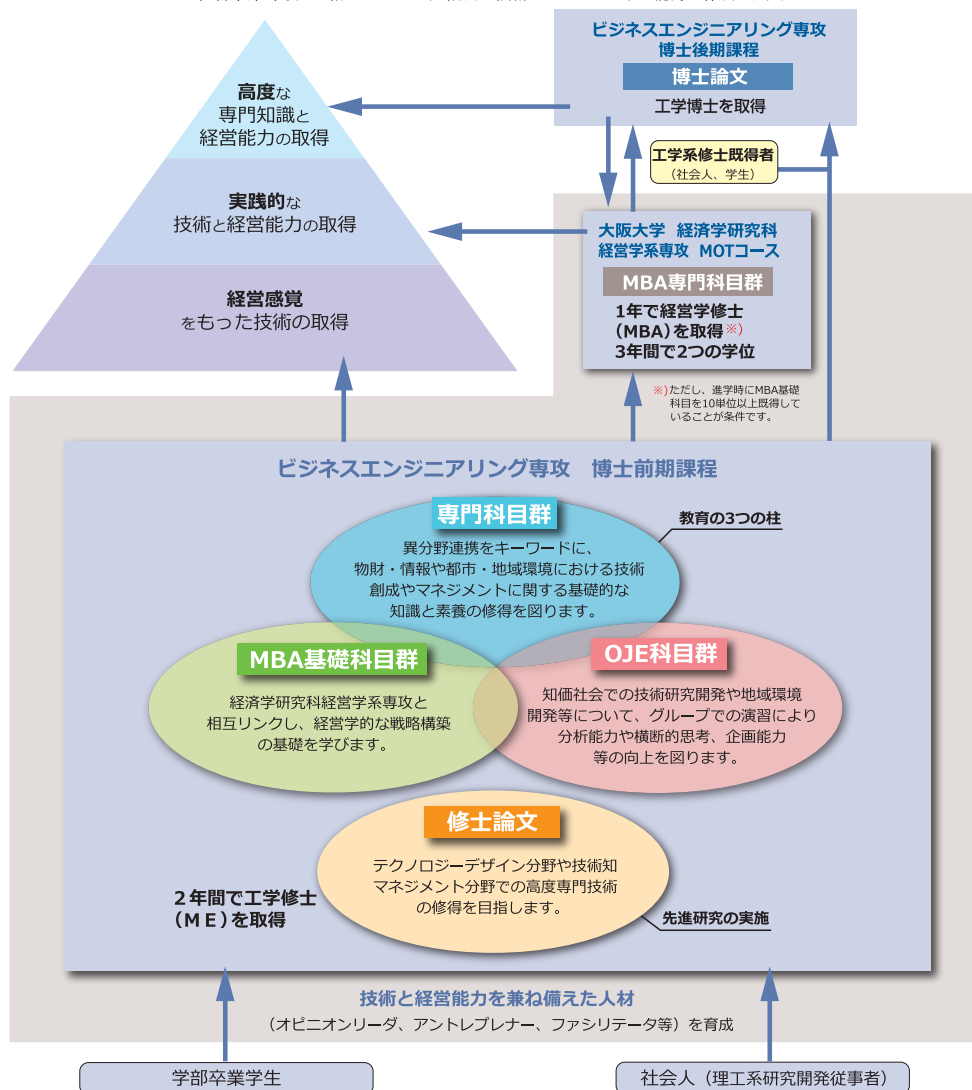
全体構成

工学と経営学、2つの修士号の取得

技術に対する知識と経営センスの両方を有した人材を育成します。経済学研究科経営学系専攻MOTコースとの間で互換単位を設定し、3年間で**工学修士**(ME: Master of Engineering)と**経営学修士**(MBA: Master of Business Administration)の2つの修士号を取得することが可能です。

カリキュラム

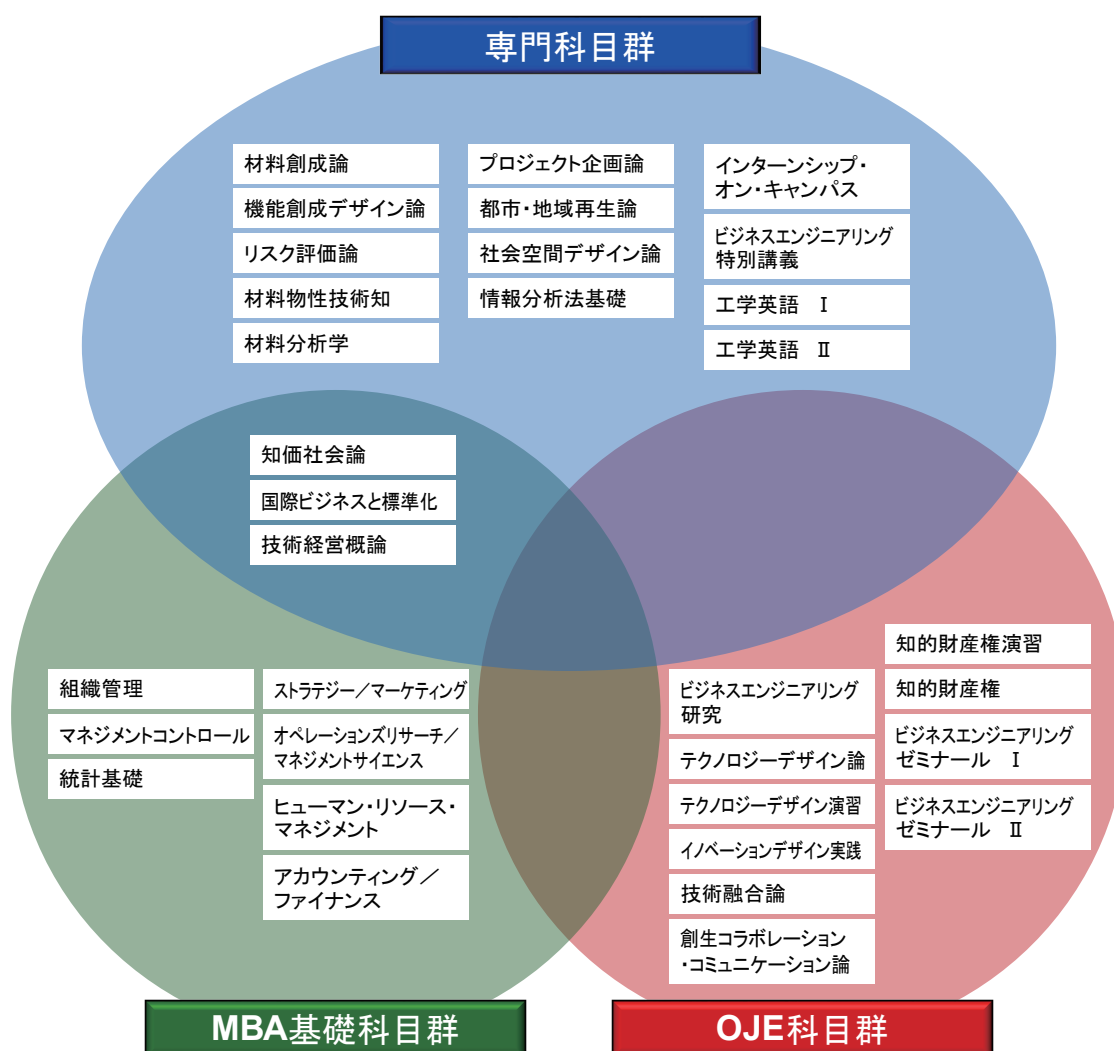
OJE 科目の実施や、技術創成・技術知マネジメントに関する専門科目、また、経済学研究科経営学系専攻との相互リンクにより、幅広い技術をマネジメントする能力を育成します。



※**短縮コース** 経済学研究科経営学系専攻MOTコース修了者(ビジネスエンジニアリング専攻MBA基礎科目群で10単位以上修得)が、**1年間でMEを取得できる**期間短縮カリキュラムも整備しています。

ビジネスエンジニアリング専攻カリキュラムマップ

三つの科目群



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「ビジネスエンジニアリング」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「ビジネスエンジニアリング」では、工学の高い専門性と知識、経済・経営の基礎的な知識を身につけ、社会や経済の発展に活かし、研究開発・事業企画のプロジェクトリーダー、アントレプレナー、オピニオンリーダー、ポリシーメーカーなどこれからの社会を牽引する役割を目指す意欲ある人を募集します。

○博士前期課程の入学選抜にあたっては次の【入学前に習得しているべき能力】についての検査をします。

- (1) 代表的な理工学分野(機械・電気・科学・材料・建築など)の学部水準の基礎的な知識と思考力
- (2) 理工学の要素を単に展開するに止まらずビジネスやイノベーション創出につなぐことの必要性についての関心や意欲
- (3) 研究やビジネスの国際化に対応できる英語力
- (4) 演習やグループワークを重視した授業科目に対応できるコミュニケーション力

これらについて、(1)には選択制による基礎科学と工学専門科目の筆記試験を、(2)には小論文形式の筆記試験を、(3)にはTOEIC等の判定試験の評点の提出、(4)には個別の口頭試問を行い、総合的に判定します。また、研究能力や学業成績や特定の活動に対して特に秀でた学生を国内外から広く受け入れるために、推薦入学特別選抜制度と外国人留学生特別選抜制度をもうけています。推薦入学特別選抜では、上記の(1)(2)に対しては出身校における成績表、志望理由書、推薦状などで判定します。

○博士後期課程の入学選抜にあたっては次の【入学前に習得しているべき能力】についての検査をします。

- (5) 本専攻の博士前期課程のディプロマ・ポリシーに述べられた能力、もしくはそれと同等な能力。
- (6) 理工学の専門分野の高度な知識に加え、国際性や倫理観を兼ね備えた意欲

これらについて、個別の口頭試問、修士論文、出身校における成績表、TOEIC等の判定試験の評点の提出などに基づき総合的に判定します。また、研究能力に特に秀でた学生を国外から受け、優れた研究者・技術者を育成するために、外国人留学生特別選抜制度による入学試験も設けています。

工学研究科

学位プログラム「生命先端工学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「生命先端工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

物質生命工学コースは、人類の存続と繁栄を目指し、物理学、化学を主体として発展してきた物質科学と生物学、情報科学に基礎を置く生命科学を融合した新しい学問領域を確立し、その最先端の工学的展開を図ることで、従来の学問領域や研究領域を超越した新しい科学観をもつ次世代の研究者・技術者を養成することを目標としています。そのため、物質生命工学コースでは、応用化学（4領域）、応用生物学（1領域）、精密科学（1領域）、応用物理学（2領域）の各分野の指導教官が、それぞれの分野の基幹コースと相補的關係を保ちながら教育・研究を進めています。また自然科学の知識だけでなく、科学技術政策がどのように国の産業の将来を決めて経済に影響を及ぼすか、また科学技術が産業と構造的にどのように関連するかを理解させ、科学技術の新たな課題を提起し、新しい政策の可能性も考えることができる人材を育成します。さらに専門英語教育も実施し、幅広い視野から国際的に活躍できる人材を育成することを目指します。

生物工学コースは、生命のメカニズムを多様なアプローチで解析し、人と地球の持続的発展に必要な細胞、生命システムの創造と工学的な展開を通して、その成果を食糧、医療、環境、材料、エネルギーなどをはじめとした多様な産業に結実させ、人類の未来に貢献できる国際感覚を持った人材の育成を教育目標としています。すなわち、「生命に学び」、「生命を創り」、「生命で造る」から構成される生物生産システムをトータルにデザインできるグローバル人材の育成が教育目標です。この目的のため、生命科学、数学、物理学、化学、情報科学や工学の素養を身につけるための教育・研究だけでなく、英語でのコミュニケーション力と国際交流力を培う教育にも力を入れています。こうした教育を通して、バイオテクノロジーのフロンティアや先端的融合分野をも創出し得る国際的、創造的な人材を育成したいと考えています。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「生命先端工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

物質生命工学コースでは、学部教育は応用自然科学科の授業を担当しています。応用自然科学科では、広範な理工学分野に必要な自然現象を学問対象とし、原子・分子レベルのミクロな立場からそれらを理解するとともに、その基本的なメカニズムを幅広い視野に立って工学的に応用することができる人材を育てることに主眼を置いています。応用自然科学の全分野、すなわち応用生物学(極限生命工学領域)、応用化学(生命物理化学領域、超分子認識化学領域、ケミカルバイオロジー領域、生命機能化学領域)、精密科学(応用表面科学領域)、応用物理学(先端物性工学領域、フォトリック情報工学領域)の教員が、各学科目(応用生物工学科目、応用化学科目、精密科学科目、応用物理学科目)において基礎及び専門科目の授業を実施しています。化学、生物、物理の専門分野だけでなく、すべての分野を融合した学際的な考え方の重要性を学生に理解させるようにしています。

生物工学コースで修士(工学)の学位を取得するには、カリキュラムに沿って設定された専門科目について、所定の単位を取得することが必須条件です。しかし、そうした多様な生物工学専門分野の理解だけでなく、卒業時には、修士研究の成果を原則として英語で発表する事を課しています。その後、修士研究の成果を修士論文として提出することが求められます。また、その間、前期課程の1年次には、研究の進捗状況について、原則として英語でポスター発表を行うことにより評価し、適宜指導を行っています。一方、博士(工学)の学位取得には、所定の単位を取得するだけでなく、自らのアイデアに基づいて研究を企画立案し、周囲をも巻き込んで研究を主体的に進展させる能力が求められます。研究成果を博士論文として提出することが学位取得の必要条件となっています。また、国際な専門誌に英語で執筆した原著論文を発表することを博士論文執筆の要件としています。

なお、学習目標は以下のとおりです。

- ・豊かな人間性と社会性のための広い教養を身につけている。
- ・自然現象を原子・分子レベルのミクロな立場から理解し、基本的なメカニズムを幅広い視野に立って工学的に応用することができる。
- ・遺伝子から生態に至るまでの生物科学の基礎的知識を体系的に理解し、工学的に応用することができる。
- ・生物が関わる現象を化学の力で解き明かす知識ならびに思考力をもち、工学的に応用することができる。
- ・物質科学と生命科学、情報科学を融合し、新しい先端科学の創成と、最先端バイオテクノロジーに応用することができる。
- ・生命先端工学分野について自ら設定した課題について、研究手法をデザインし、さらに発展させることができる。

生命先端工学によって生み出された物質・技術を、高い英語力、自己表現能力により、国際科学誌への掲載、国際学会での発表などにより国際社会に発信することができる。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「生命先端工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

【物質生命工学コース】前期課程の授業科目は、生物分野(生命工学、細胞動態学、生物化学工学特論、医用工学)、化学分野(生命物理化学、超分子認識化学、光化学とケミカルバイオロジー、生命機能化学、化学工学特論、計算機化学)、物理分野(物性分析工学、ナノ物性計測工学、フォトニック情報工学、時空間フォトニクス、光計測工学、応用表面科学、表面原子制御特論、レーザー分光学)に亘り、自然科学分野を網羅しています。この中で2分野以上の単位修得を義務づけ、新しい学際研究領域を開拓する能力を養成します。また、科学技術政策論を隔年で開講しています(後期課程と共通)。さらに、生命先端工学特別講義I/II(集中講義)、外国人による特別講義、工学英語I/IIを開催し、国際的に活躍できる人材育成を行っています。物質生命工学特別課題演習では、所属研究室以外で実習を受けて異分野の基礎を修得させます。後期課程においては、生命科学特論(生物系)、物質科学特論(化学系)、物性科学特論・フォトニック情報科学特論(物理系)、生命先端工学特別講義III/IV(集中講義)を開講し、さらに専門性の高い知識を身につけるとともに、物質生命工学研究企画ゼミナールでは、独自の企画で想定論文(英文)を提出し、その発表を行うことで、独創的なアイデアを生み出す力を養います。

【生物工学コース】前期課程においては、生物資源工学、ゲノム機能工学、細胞動態学、生命環境システム工学特論、細胞工学特論、生物化学工学特論、組織生産プロセス工学、微生物学特論、分子微生物学、ゲノム機能工学などの授業科目を用意して、生命の理解に留まらず、生物生産プロセスをトータルにデザインし、ものづくりに結実させることができる能力が培われるカリキュラム設計としています。これらの科目のいくつかは、留学生のためのバイオテクノロジー英語特別コースにも開講されており、英語で講義が行われています。そのため、受講者には留学生も含まれており、英語での自己表現力や討論能力を訓練できる科目として機能しています。さらに、当コースでは、前期課程の早い時期に、短期間であっても外国に留学することを奨励しており、将来、国際的に活躍しようとする人にとっては、大変魅力的な留学環境が整備されています。後期課程においては、生物機能工学特論I、II、生命反応工学特論I、II、生物工学ゼミナールIII～VIIIを開講し、さらに専門性の高い知識を身につけるとともに、独創的なアイデアを生み出す力を養います。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

物質生命工学コース

生物学系	化学系	物理学系
* 博士論文研究		
科学技術政策特論 * 物質生命工学研究企画セミナー 生命先端工学特別講義Ⅲ 生命先端工学特別講義Ⅳ		
生命科学特論	物質科学特論	物性科学特論 フォトリック情報科学特論
* 修士論文研究		
科学技術政策論 * 物質生命工学特別課題演習 生命先端工学特別講義Ⅰ 生命先端工学特別講義Ⅱ * 物質生命工学ゼミナール 工学英語Ⅰ 工学英語Ⅱ		
生命工学 細胞動態学 生物化学工学特論 医用工学	生命物理化学 超分子認識化学 光化学と ケミカルバイオロジー 生命機能化学 化学工学特論 計算機化学	物性分析工学 ナノ物性計測工学 フォトリック情報工学 時空間フォトニクス 光計測工学 応用表面科学 レーザー分光学 表面原子制御特論

* は必修

生物工学コース

* 博士論文研究	
生物工学ゼミナールⅢ～Ⅷ	
生物機能工学特論Ⅰ,Ⅱ	生命反応工学特論Ⅰ,Ⅱ
* 修士論文研究	
* 生物工学実験 バイオテクノロジー特論 生命先端工学特論Ⅰ 生命先端工学特論Ⅱ * 生物工学ゼミナールⅠ 生物工学ゼミナールⅡ 工学英語Ⅰ,Ⅱ	
生物資源工学 (E) ゲノム機能工学 (E) 細胞動態学 (E) 分子微生物学 (E) 生物化学工学特論	組織生産プロセス工学 (E) 微生物学特論 (E) ナノバイオテクノロジー特論 (E) 細胞工学特論 (E) 生命環境システム工学特論 (E)

* は必修、(E) は英語での講義

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「生命先端工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「生命先端工学」には、物質生命工学コースと生物工学コースが設けられています。物質生命工学コースでは、物理、化学という物質を扱う学問と、生物という生命を扱う学問の融合および先端工学への応用を目指しています。生物工学コースでは、生物が持つ多様な機能を解析し、その特性を、様々な有用物質生産や地球環境の保全、創造に工学的な手法で展開できる先端的バイオテクノロジーの創出を目指しています。そのために、物質生命工学コースでは、応用化学分野、応用物理学分野、精密科学分野のいずれかについて、学部教育レベルでの理解ができていること、生物工学コースでは、応用生物工学分野について、学部教育レベルでの理解ができていることが必要です。また、生命先端工学専攻では、日常的に英語を使用します。そのための基本的な読解力、英文作成能力、コミュニケーション能力を有することが必要です。さらに、物事を筋道立てて考える力、行動力が身につけていることが必要です。

【入学者選抜の方針】

物質生命工学コースでは、物理、化学、生物を融合した新しい学問領域を確立し、その最先端の工学的展開を国際的に図ることに意欲を有する有能な人材を選抜します。また、外部からの受験者に対し、学部の成績及び面接試験に基づくAO入試も実施しています。

生物工学コースでは、一般入試に加え、異分野から、あるいは同分野であっても、在学中の大学で優秀な成績を修めてきた人を積極的に受け入れます。そのため若干名の推薦入試も実施しています。生命科学の進展を、先端工学や先端バイオテクノロジーへ応用したいと考えている人、従来の学問領域を超越した新しい世界を切り拓きたいと思っている人を選抜します。

工学研究科

学位プログラム「精密科学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「精密科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

工学研究科精密科学・応用物理学専攻では、工学研究科の掲げる理念に基づき、

- 精密科学と応用物理学に関する高度な専門知識
- 幅広い教養と国際性
- 科学技術を総合的に俯瞰できる洞察力

を養い、世界最先端の科学技術の追求や未踏の工学領域の開拓まで、幅広く科学技術を発展させ、その成果を実社会へ還元できる人材の育成に取り組んでいます。自然界の現象を物理学に立脚して電子・原子・分子レベルから解明、制御、応用することにより、先端生産科学技術や先導的工学領域の開拓を図り、新産業創出へと展開して、豊かな社会の創造に貢献することを理念としています。新材料、加工プロセス、極限計測、制御を統合する新しい先端生産科学技術を開拓し、物質やエネルギー、エレクトロニクス、情報・通信、生命・環境、宇宙などの分野に応用展開することを目指した精密科学の教育と研究を行うとともに、物質の基礎的性質の解明、新物質の創成とその物性予測、新計測法の開発から、ナノテクノロジー、フォトンテクノロジー、バイオメディカル工学に至る融合科学技術の開拓を目指した応用物理学の教育と研究を行います。

学位プログラム「精密科学」では、物理学を基本に、自然現象の精密さをその極限まで駆使し、我が国が常に時代を先取りしてきた、創造性に富んだ高度な“物づくり技術”の創出にチャレンジします。これからの社会の発展のために先端技術に求められるのは、原子分子のスケールでの物づくりです。これらは従来の生産技術を、経験に基づき改良・洗練していくだけでは成し得ることはできません。特に製造プロセスに利用する物理・化学現象を原子・電子論の立場から深く理解し、高度に利用する「原子論的生产技術」と呼ぶべき新しい物づくり技術を開発することが重要です。このような理念や伝統を理解し、自ら課題を設定して探求するための十分な基礎学力を備え、次世代を担う科学技術分野の発展に積極的・主体的に貢献できる人材の育成を目指します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「精密科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

工学研究科精密科学・応用物理学専攻は、自然界の現象を物理学に立脚して解明、制御、応用することにより、幅広く科学技術を発展させ、その成果を実社会へ還元できる人材を育成することを目標として設立された専攻です。精密科学コースと応用物理学コースの二つのコースに分かれての専門講義科目、演習・実験により高度な専門知識を習得します。また、研究活動を通じて、論理的思考力、課題探究力、問題解決力、表現力並びに国際性やコミュニケーション能力を併せ持つ研究開発能力を習得します。これらの精密科学・応用物理学専攻のカリキュラムに沿って設定した所定の単位を修得し、工学研究科規程に定める修士論文および博士論文の審査に合格した学生には、修士（工学）および博士（工学）の学位が授与されます。

学位プログラム「精密科学」では、あらゆる科学・技術分野で必要とされる「精密科学」を基軸に、コース内に限らず、国内外の教育研究機関との広範な連携によって、基礎科学から応用、融合分野の創出に至るさまざまなプロジェクト研究を推進しています。これら最先端研究およびユニークな教育プログラムを通じて、

- (1) 多くの事象にわたる幅広い総合的な人文学的教養と、人文学を超えて学問全般にわたる広い教養を身につけさせる
- (2) 最先端研究を通じて、プロジェクトベースラーニングを積極的に行い、幅広い学問基盤と国際感覚、異分野との融合能力を備えた、次世代製造プロセスの開発を担う若手研究者を育成する
- (3) 価値創造型グローバル連携を積極的に展開し、原子制御製造プロセスの真の進化と学術体系化を推進できる実践的な実力を持つ人材を養成する
- (4) 学位取得後、トップスピードで企業等の物づくり現場に参入し、即戦力として活躍できる人材を養成する

ことを目標とします。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「精密科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

工学研究科精密科学・応用物理学専攻では、精密科学コースと応用物理学コースに分かれて、専門講義科目、演習・実験により高度な専門知識を習得する。また、幅広い分野の素養や国際性を高めるための科学技術に関する専門講義科目も用意されている。所属コース以外の開講科目も受講し専門性を広げることができ、さらに、研究室での研究活動を通じて、論理的思考力、課題探究力、問題解決力、表現力並びに国際性やコミュニケーション能力を併せ持つ研究開発能力を習得する。

学位プログラム「精密科学」では、自然科学の分野における充実した教育体制を基礎に、「機能材料領域、先端機器システム領域、量子計測領域、原子制御プロセス領域、超精密加工領域、計算物理領域」の、6つの研究領域から成る大講座、および、生命先端工学専攻に属する応用表面科学、工学研究科附属超精密科学研究センターの8研究室により構成されており、それぞれが、「精密科学」に基づく物づくりのための、材料、加工、計測、計算物理の分野を担当し、密接かつ有機的な連携のもとに教育

を行っている。また、コース内には、世界最高性能の研究施設（ウルトラクリーン実験施設）が設置されており、これら、充実した設備と自由な環境のもと、最先端の“物づくり技術”をめざした教育を推進する。

博士前期課程1年次では、物づくり技術に必要な「機器設計」、「材料・物性」、「加工・計測」、「デバイス」、「計算シミュレーション」に関する専門科目を修得したのち、2年次では、修士論文研究を遂行する。

博士後期課程1年次では、各領域が提供する「特論」を学習・修得したのち、博士課程3年間を通じて、博士論文研究を遂行する。

また、博士前期課程、博士後期課程を通じて「精密科学演習」が提供され、最先端研究の紹介とその深い理解、研究の進捗報告および議論を通じて、「精密科学」が目指す物づくり技術に関する総合的な教養と実践的な方法論を学ぶ。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

精 密 科 学 コ ー ス

	機器設計	材料・物性	加工・計測	デバイス	計算・シミュレーション
博士2・3年次	博士論文研究				
	精密科学特別演習Ⅲ、Ⅳ				
	先端機器システム特論	機能材料特論	量子計測特論 超精密加工学特論	超精密科学特論 原子制御プロセス特論	計算物理特論
博士1年次	精密科学特別演習Ⅰ、Ⅱ				
	精密科学特別講義Ⅰ、Ⅱ				
修士2年次	修士論文研究				
	精密科学演習Ⅲ、Ⅳ				
修士1年次	精密科学機器特論Ⅰ 精密科学機器特論Ⅱ	材料物性学特論 薄膜材料科学特論	光科学特論 物理計測特論 表面原子制御特論 極限精密加工学特論 放射光科学特論	半導体物性特論 半導体表面科学特論 応用表面科学	量子シミュレーション特論 計算科学特論Ⅰ 計算科学特論Ⅱ
	精密科学演習Ⅰ、Ⅱ				
	精密科学特論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ				
	工学英語Ⅰ、Ⅱ				

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「精密科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「精密科学」では、大は宇宙ステーションから小は超LSI、また生体細胞までもを対象にした最先端技術を切り開く基幹工学の拠点として、確固たる発展を遂げてきました。精密さと極限を目標とした幅広い物理系科学技術に関する世界最高水準の研究の推進を通じて、「精密科学」という学問領域を拓いています。本プログラムでは、この「精密科学」を基本として、自然現象の精密さを極限まで利用する革新的“ものづくり技術”の創出をおこない、未来社会の発展に貢献し、また多様な科学技術分野で活躍することができる、個性豊かなサイエンティスト・エンジニアに成長する人材を求めています。

学位プログラム「精密科学」では、次のような学生を求めています。

- (1) 原子レベルでの“ものづくり”に強い興味と情熱のある人。
- (2) 機能材料、薄膜・表面科学、半導体デバイス、先端機器システム、超精密加工、原子制御プロセス、量子計測、計算物理、原子論的生産技術の領域に高い関心を持ち、該当する専門を学習・研究する意欲の高い人。
- (3) 人間社会・自然と技術の係わりや、産業界の要請に日頃から関心を持ち、精密科学の専門知識を活かして、技術革新や新規事業の開拓、あるいは幅広い科学技術分野での活躍を志している人。

【入学者選抜の方針】

記憶中心の学習をしてきた学生ではなく、学習内容の意味について考えることができる学生を選抜したい。このため、考える筋道が分かることを判断できる選抜を行いたい。

特に物理学・数学について考えることに興味をもっている入学者を選抜したい。

工学研究科

学位プログラム「応用物理学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「応用物理学」では以下のとおり教育目標を定めています。

工学研究科精密科学・応用物理学専攻では、工学研究科の掲げる理念に基づき、

- 精密科学と応用物理学に関する高度な専門知識
- 幅広い教養と国際性
- 科学技術を総合的に俯瞰できる洞察力

を養い、世界最先端の科学技術の追求や未踏の工学領域の開拓まで、幅広く科学技術を発展させ、その成果を実社会へ還元できる人材の育成に取り組んでいます。

学位プログラム「応用物理学」では、自然界の現象を物理学に立脚して、電子・原子・分子レベルから解明し、物質の基礎的性質の解明、新物質の創成とその物性予測、新計測法の開発から、ナノテクノロジー、光子テクノロジー、バイオメディカル工学に至る融合科学技術の開拓を目指した応用物理学の教育と研究を行います。自然界の物理現象を工学的に応用する最先端の科学技術や先導的工学領域についての教育も行い、次世代を担う科学技術分野の発展に主体的に貢献するとともに、豊かな社会の創造に貢献できる人材の育成に重点をおいています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「応用物理学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

工学研究科精密科学・応用物理学専攻は、自然界の現象を物理学に立脚して解明、制御、応用することにより、幅広く科学技術を発展させ、その成果を実社会へ還元できる人材を育成することを目標として設立された専攻です。

学位プログラム「応用物理学」では、これからの科学・技術分野で重要とされるナノテクノロジー、ナノフォトニクス、ナノバイオテクノロジー、ナノマテリアルなどに関する高度な専門知識を習得します。これらの学問分野は、これまでの縦割りの学問分野である物理・化学・生物を横断・融合した学問分野であり、これらの広範な学問分野の知識を習得することにより、次世代の科学技術分野の発展に必要な不可欠な高度な専門知識と探求力、洞察力を習得します。また、研究活動を通じて、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力並びにコミュニケーション能力、国際感覚などを身につけ、これからの科

学技術の開拓者となるための能力を養成します。これらのカリキュラムに沿って設定した所定の単位を修得し、工学研究科規程に定める修士論文および博士論文の審査に合格した学生には、修士（工学）および博士（工学）の学位が授与されます。

なお、学習目標は以下のとおりです。

- ・豊かな人間性と社会性のための幅広い教養を身につけている。
- ・自然界の現象を物理学に立脚して解明、制御、応用することにより、幅広く科学技術を発展させ、その成果を実社会へ還元できる。
- ・次世代の科学技術分野の発展に必要な高度な専門知識と探求力、洞察力を身につけている。
- ・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力並びにコミュニケーション能力、国際感覚などを身につけ、これからの科学技術の開拓者となることができる。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「応用物理学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「応用物理学」では、ナノテクノロジー、光科学、バイオテクノロジーなど、様々な物理分野やその学際領域に属する研究室が協力して、応用物理学を中心とした専門分野を志す学生に対して、充実した教育プログラムと優れた研究環境を準備しています。具体的には、「ナノ物性理論領域、ナノ物性工学領域、ナノフォトニクス領域、ナノバイオ工学領域、ナノマテリアル領域、ナノスペクトロスコピー領域、ナノエレクトロニクス」の、7つの研究領域から成る大講座、レーザーエネルギー学研究センターに属するレーザーテラヘルツ研究部門、産業科学研究所に属する先進電子デバイス研究分野、生命先端工学専攻に属する先端物性工学領域とフォトニック情報工学領域が、密接かつ有機的な連携のもとに、専門講義科目、演習・実験により高度な専門知識を習得します。また、幅広い分野の素養や国際性を高めるための科学技術に関する専門講義科目も用意されています。これらには、量子エン지니어リングデザイン研究特別プログラム（QED-C）在籍の留学生を対象とした国際教育プログラムの開講も含まれています。また、応用物理学コースには、世界のフォトニクス研究を先導するフォトニクスセンターが設置されており、最先端の研究設備を利用した教育を推進します。所属コース以外の開講科目も受講し専門性を広げることができます。さらに、研究室での研究活動を通じて、論理的思考力、課題探究力、問題解決力、表現力並びに国際性やコミュニケーション能力を併せ持つ研究開発能力を習得します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

応用物理学コース
前期課程

		ナノ物性	ナノフォトニクス	ゼミナール
2年次	4セメスター			
	3セメスター			
1年次	2セメスター	物性分析工学 ナノ材料工学 ナノ量子工学 表面・界面物性	光量子工学 光学分光とナノ画像法 生体デバイス工学 画像・信号処理	応用物理学演習Ⅱ 応用物理学ゼミナール
	1セメスター	ナノ物性計測工学 物性物理	時空間フォトニクス 分光の数学的基礎 光計測工学	応用物理学演習Ⅰ 応用物理学実験 応用物理学ゼミナール

後期課程

		ナノ物性	ナノフォトニクス	ゼミナール
3年次	6セメスター			
	5セメスター			
2年次	4セメスター			
	3セメスター			
1年次	2セメスター	ナノ材料物性特論 物性物理特論	ナノ分光光学特論 ナノ・バイオフィotonics特論	応用物理学特別ゼミナールⅡ
	1セメスター	ナノ系の物理特論 表面物性特論	ナノバイオ・ナノダイナミクス ナノ計測光学特論	応用物理学特別ゼミナールⅠ

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「応用物理学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「応用物理学」では、物理系科学技術に関する基礎および応用の教育を行い、次世代産業基盤の創成につながる融合科学技術の開拓を目指しており、次のような学生を求めます。

1. 工学のための基礎的理論とそれを先導的に応用することに深い関心をもつ人
2. 物質の基礎的性質の解明、新物質の創成とその物性予測、新計測法の開発から、ナノテクノロジー、フォトンテクノロジー、バイオメディカル工学に至る幅広い融合科学技術の領域に強い興味を持ち、主体的かつ積極的に学習・研究する意欲に溢れた人
3. 世界的視点から人類の将来に関わる新たな課題を積極的に見出し、その課題に果敢にチャレンジすることにより、新学問領域の創出や新産業創出、あるいは独創的な科学技術の発展に寄与する意欲を持つ人

【入学者選抜の方針】

物理学・数学について考えることに興味をもっている入学者を選抜したい。また、筋道を立てた思考が可能な入学者を受入れたい。さらに、基礎的な英語の読解能力・コミュニケーション能力を有した入学者を受入れたい。

工学研究科

学位プログラム「マテリアル生産科学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「マテリアル生産科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「マテリアル生産科学」では、材料および生産プロセスの深い理解に基づいた「ものづくり」によって人類社会の持続的発展に貢献することをめざした教育・研究に取り組んでいます。

博士前期課程においては、本研究科の掲げる工学理念のもと、

- (1) 材料および生産プロセスの仕組みを深く理解する広範かつ高度な科学知識
- (2) 材料科学・生産科学における複雑な問題を見だし、解決する深い思考力
- (3) 材料科学および生産科学を追究する基礎研究能力
- (4) 各専門分野における世界最先端の専門知識と技能
- (5) 国際的な発信能力
- (6) 高い社会・工学倫理観

を身につけ、科学技術の発展に貢献できるリーダーとなるべき人材の育成を目標としています。

博士後期課程においては、さらに

- (1) 世界トップレベルの研究開発力
- (2) 科学の深遠および未踏の工学領域への展開力

を身につけ、「地域に生き世界に伸びる」の大阪大学のモットーの実践を目指し、世界最先端の材料・生産科学技術の追求し、専門分野において指導的役割を担うグローバルな技術者・研究者および教育者を育成し、社会に輩出することを目標としています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「マテリアル生産科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

現代社会の基幹をなす産業を支える「ものづくり」において世界のリーダーとして国際的に活躍できる材料科学者・技術者には、材料科学・生産科学に関する高度かつ最先端の専門知識と技術、広い視野に立った精深な学識に加え、文化を超えて交流できるコミュニケーション力を含めた国際性を兼ね備えることが求められます。

博士前期課程では、マテリアル科学・生産科学における高度な専門に関して以下の項目にあげる能力を身につけ、所定の単位を修得し、修士論文の提出および論文内容の発表を行い、審査基準を満足

した学生に対して、修士(工学)の学位を授与します。

- (1) マテリアル科学・生産科学に関する、高度な専門知識
- (2) 材料科学・生産科学に関する専門知識を社会のために役立てようとする健全な価値観ならびに高い倫理観
- (3) 工学に関する討論を英語で行うことのできる基礎的能力
- (4) 修士論文研究として取り組む先端専門分野の知識と技能
- (5) 研究開発を実践するための論理的思考力、問題解決力および指導力
- (6) 研究を正しく整理する分析力、内容を正確に伝える表現・伝達力
- (7) 修士論文研究の内容・成果を発表し、それに関する討論を行う能力

博士後期課程については、マテリアル科学・生産科学における高度な専門に関して以下の項目にあげる能力を身につけ、博士論文の提出、審査基準を満足する論文内容の発表を行い、かつマテリアル生産科学専攻が定める口頭試問に合格した学生に博士(工学)の学位を授与します。

- (1) マテリアル科学・生産科学に関する最先端の専門知識
- (2) 材料科学・生産科学に関する最先端の専門知識を社会の発展に活かそうとする健全な価値観ならびに高い倫理観
- (3) 科学・工学の深化および社会・産業の発展に寄与することのできる独創的な研究課題の発掘能力、課題を着実に遂行できる研究企画・推進力、得られた成果を発信する能力、研究を通じた後進の育成をできる指導力
- (4) 論理的かつ独創的思考力、問題解決力、表現力および国際的なコミュニケーション力を併せ持つ実践的研究・開発能力
- (5) 新規性、独創性および学術的意義を有する論文を作成する能力
- (6) 博士論文研究の内容・成果を発表し、それに関する高度かつ専門的な討論を行う能力

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「マテリアル生産科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「マテリアル生産科学」では、社会基盤構造物、輸送機器、エレクトロニクス製品の設計・開発等、多種多様な「ものづくり」を行う技術者・研究者となるために必要となる、材料科学と生産科学の一貫した研究教育体制をとり、材料の基礎物性、機能発現機構、材料加工・生産プロセス、構造化デザイン・評価とそれらのシステム化に至るまでの学問分野の高度専門知識を体系的に教育します。そのために、本プログラムでは、マテリアル科学コースと生産科学コースの二つのコースを用意しています。マテリアル科学コースは、物性材料設計、エネルギー理工学材料設計、構造機能制御設計、材料機能化プロセス設計を四つの大きな柱とし、主に材料科学に関して、また、生産科学コースでは、プロセス設計、構造設計、システム設計を三つの大きな柱とし、主に生産科学に関して高度に専門的な講義を用意しています。

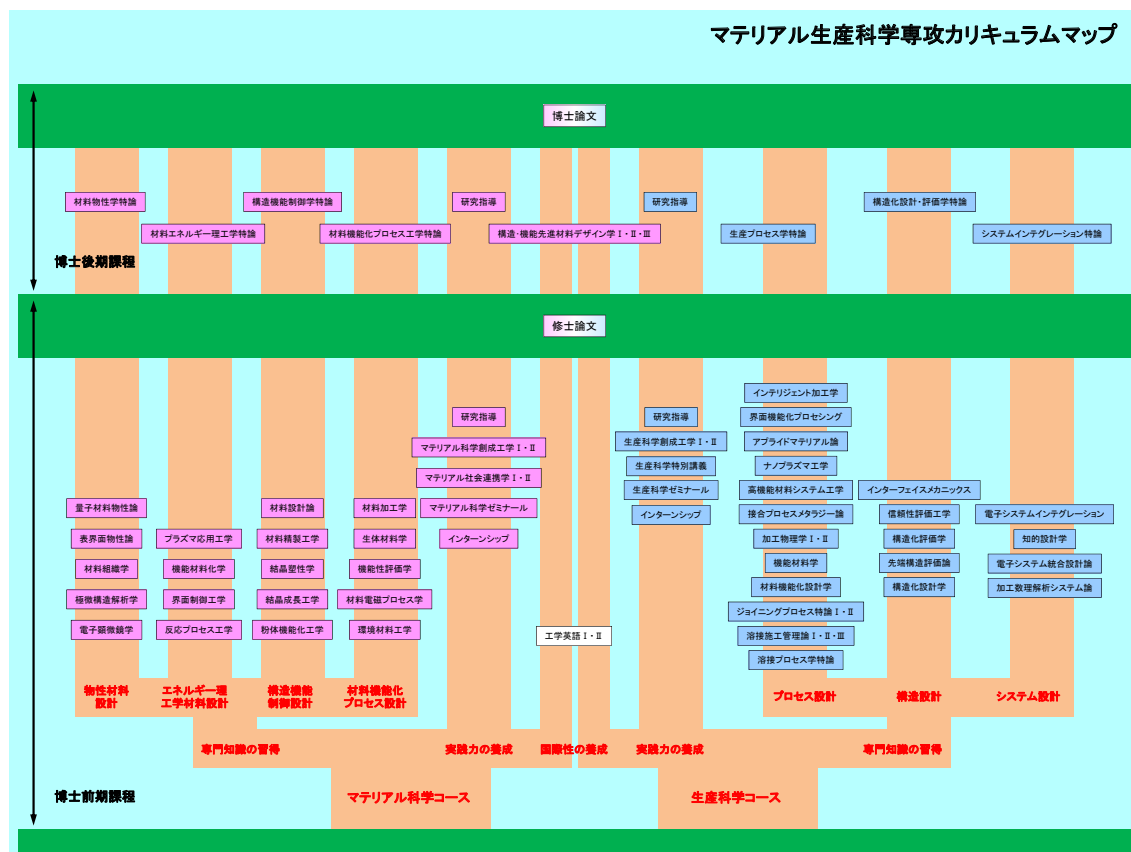
博士前期課程では、上記七つの柱に関する講義を適正に配置し、「ものづくり」の本質を理解するためのより深化した知識の習得を目標としています。国際性については、工学英語という科目で、専門分野に関する内容の発表と討論に必要な基礎的英語力を養成しています。また、マテリアル科学／生産

科学創成工学という科目では、学部生が取り組むべき課題の設定や進め方について大学院生自身が決定し、指導するという形態をとっており、企画力、コミュニケーション力だけでなく、将来、人の上に立つべき者としての素養習得に役立ちます。さらに、年度の前半にクォーター制を導入し、夏休みまでの期間を二期に分けて教育を行っています。これにより、希望する学生は、第二クォーターから夏休み期間にかけて、長期インターンシップや短期海外留学が可能となることが大きな特徴です。そして、マテリアル科学／生産科学ゼミナールおよび研究指導という科目において、修士論文の作成に必要な論理的思考力と問題解決力、整理・分析力、表現・伝達力、討論力、そして倫理観を対面指導により養成します。

博士後期課程では、上記七つの柱に関して最先端の専門教育を行います。また、構造・機能先進材料デザイン学という科目では、海外から一流の研究者を招待して、英語での講演と質疑応答を行うことで、専門分野に関する討論に必要な実践的英語力を養成します。そして、研究指導という科目において、社会の発展に寄与できる独創的な研究課題の発掘能力、課題を着実に遂行できる研究企画・推進力、論理的かつ独創的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力、倫理観等、高度かつ実践的な研究・開発能力を対面指導により養成します。

なお、大学院等高度副プログラムとして、本専攻を中心とした高度溶接技術者プログラムを用意しています。本プログラムを修了した後、就職先にてより実践的な知識の習得に努めることで、国際溶接技術者ディプロマ資格の取得に繋がります。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「マテリアル生産科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

自動車・車輛・船舶・航空機などの輸送機器、橋梁・建築物・プラントなどの社会基盤構造物、コンピュータ・情報携帯端末・インターネット関連機器などのエレクトロニクス製品など、現代社会の基幹をなす幅広い産業を支えるには、優れた機能をもつ新材料の開発とその製品化に至るプロセスの系統的な発展が必要で、豊かさ・利便性と環境との調和を考えた、人類に安心・安全と幸福をもたらす循環型社会の「ものづくり」が要請されています。「ものづくり」においては、資源から素形材の製造、人工物である工業製品や構造物の製造に至る一連の過程において、材料が様々な姿を変えながら有用な生産物に変化していくので、材料と生産プロセス・システム化を一つの流れとして捉えることが重要です。

博士前期課程では、人類社会の持続的発展のために上記の分野において独創的な科学技術の進歩に貢献し、高い倫理観を持ってその恩恵を国際社会に還元したいという強い意欲と向上心に溢れ、次のような資質を持つ人を求めています。

- (1) マテリアル生産科学分野における基礎的・専門的な知識並びに技能
- (2) 探究心をもって主体的に問題に取り組み、課題解決のために論理的な考察を行う能力
- (3) 自らの考えを的確に伝えるための表現力や討論する能力
- (4) グローバルなコミュニケーションに必要な英語力

博士後期課程では、上記の資質に加え、さらに以下に示す能力を有する人材を求めています。

- (5) マテリアル生産科学分野に関する先端的知識と技能
- (6) 自ら実施した研究を整理して論文を作成する能力、及びその内容・成果を発表し、それに関する討論を行う能力

【入学者選抜の方針】

博士前期課程では、このような人材を求めるために、TOEIC(またはTOEFL)、数学と専門科目に関する筆記試験と口頭試問から成る一般の入学試験を実施しています。また、研究能力に特に秀でた学生を国内外から広く受け入れ、優れた研究者・技術者を育成するために、博士前期課程推薦入学特別選抜制度による入学試験、留学生を対象とした外国人留学生特別選抜制度による入学試験を設けています。

博士後期課程では、外国語(英語)と専門科目に関する筆記試験ならびに口頭試問から成る一般の入学試験を実施しています。研究能力に特に秀でた学生を国外から受け入れるために、外国人留学生特別選抜制度による入学試験を設けています。

工学研究科

学位プログラム「電気電子情報工学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「電気電子情報工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

「科学と技術の融合を図り、より豊かな社会生活を希求するための学問が工学である」との工学研究科の理念に基づき、本専攻では、電気電子情報工学の深い理解と積極的な活用を通じて、人類社会の持続的発展に資することを目指した教育・研究に取り組んでいます。

本プログラムでは、エレクトロニクス、情報ネットワーク、ナノテクノロジー、電力・エネルギー、新材料・デバイスなどの幅広い分野で先進的かつ独創的な研究を行い、世界をリードした研究活動を行っています。さらに、国際共同研究や産官学連携にも積極的に取り組み、専門分野の発展に貢献するとともに、大学発の『知』を産業に結びつけ、社会に直接役に立つ技術の創出に努めています。また、従来の学問分野にとらわれることなく、学際を開拓し新たな技術分野への展開も積極的に行っています。これらの研究活動を通して、国際的水準で将来社会に貢献できる研究者・技術者を育成することを教育の目標に掲げています。

博士前期課程では、高度な専門的知識、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力とコミュニケーション能力を修得することを目標とします。博士後期課程では、修士に求められる能力に加えて、独創的思考力、研究企画力、研究推進力および研究成果発信能力を身につけることを目標とします。豊かで繁栄に富み、地球環境および人にやさしい安全で安心できる社会の実現に貢献できるような人材を輩出していきます。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「電気電子情報工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「電気電子情報工学」では、教育目標に定める人材を育成するために、博士前期課程及び博士後期課程についてのディプロマ・ポリシーを以下のように定めます。

博士前期課程では、最先端かつ高度な専門的知識の修得に加えて、論理的思考が出来る力、課題探求が出来る力、問題解決が出来る力、表現力とコミュニケーション能力を修得したものに「修士」の学位を授与します。具体的には、システム・制御・電力工学、先進電磁エネルギー工学、情報通信工学、量子電子デバイス工学および総合コースの5コースの専門分野の知識を深めるために提供されている

「講義」および「演習・実習」、討論などを通して専門分野の先端科学技術を学ぶ「セミナー」から所定の単位を修得するとともに、修士研究を行ってその成果に基づき「修士論文」を作成し、審査に合格した学生に修士の学位を授与します。

博士後期課程では、修士に求められる能力に加えて、独創的思考が出来る力、研究企画が出来る力、研究推進が出来る力および研究成果の発信が出来る力を修得したと認められるものに「博士」の学位を授与します。具体的には、システム・制御・電力工学、先進電磁エネルギー工学、情報通信工学、量子電子デバイス工学および総合コースの5コースの専門分野の知識を深めるために提供されている「講義」から所定の単位を修得するとともに、博士研究を行ってその成果に基づき「博士論文」を作成し、新規性、独創性、学術的意義の観点からの審査に合格した学生に博士の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「電気電子情報工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「電気電子情報工学」では、教育目標に定める人材を育成するために、博士前期課程及び博士後期課程についてのカリキュラム・ポリシーを以下のように定めます。

本プログラムでは、大学院基礎科目として量子論、電気電子材料、電子物理、通信理論、ネットワーク工学、システム理論、パワーエレクトロニクス、フォトニクス、プラズマ物理などを教授し、これらを中核として応用分野の科目を配して、包括的で高度かつ緻密な教育を提供しています。

システム・制御・電力工学コースでは、パワーエレクトロニクス、電力・エネルギーシステム、自律分散システムや大規模・複雑システムの分析や計画のための教育・研究を行います。

先進電磁エネルギー工学コースでは、レーザーやプラズマを駆使して(核融合などの)新エネルギー創出や極限的な新物質、新材料、新デバイス創生を目指した教育・研究を行います。

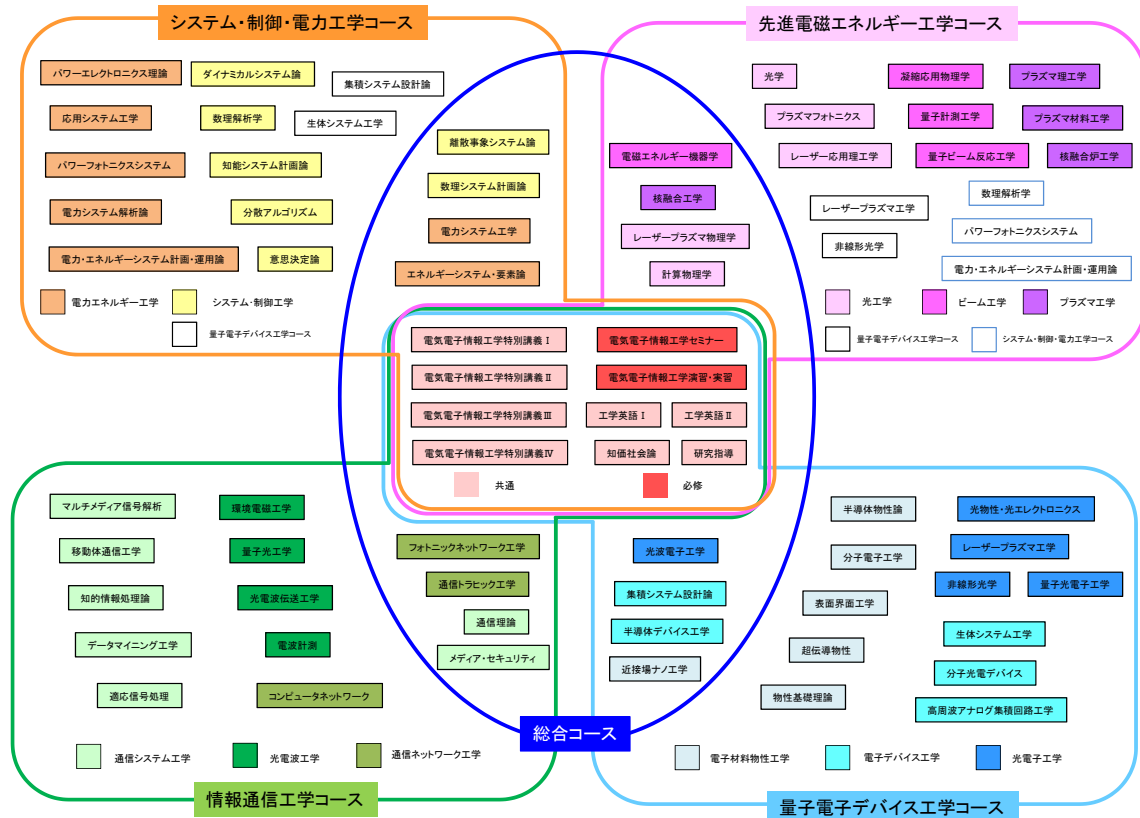
情報通信工学コースでは、光通信、無線通信、マルチメディア情報ネットワークの基礎理論から最先端応用技術に至るまでハード・ソフト両面の教育・研究を行います。

量子電子デバイス工学コースでは、ナノサイエンス・ナノエレクトロニクスとフォトニクスをキーワードに、電子、光子、原子、分子から集積デバイスや生体機能などの分野の教育・研究を行います。

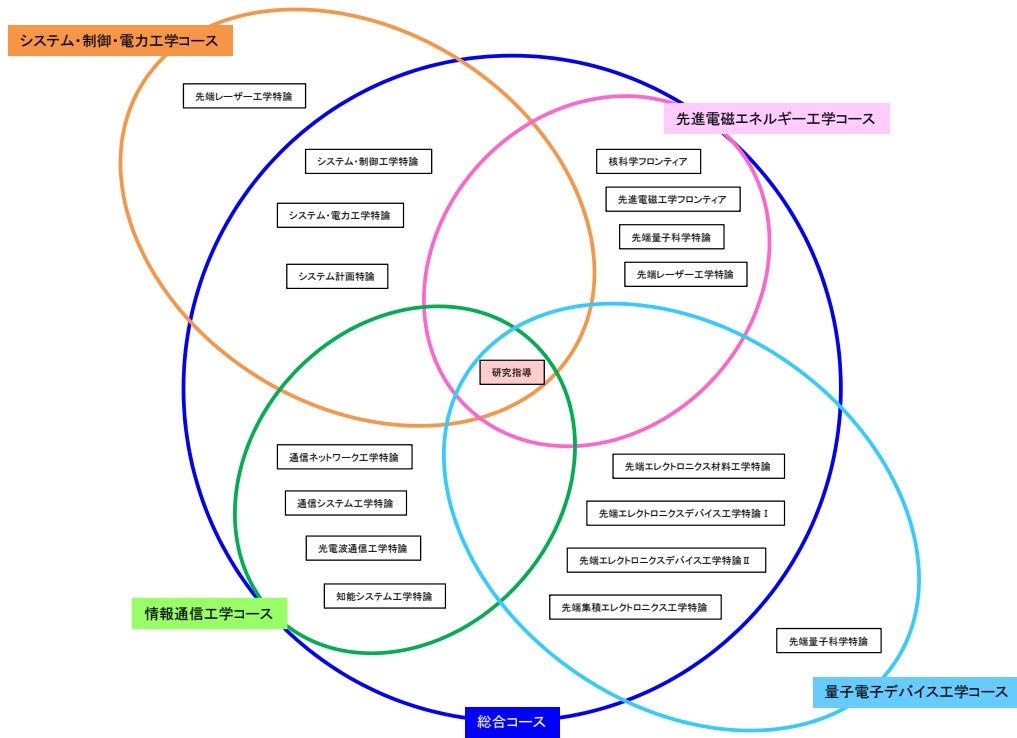
また、幅の広い視野および総合的能力が要求される分野で活躍する人材の育成を目的として、中核4コース(システム・制御・電力工学、先進電磁エネルギー工学、情報通信工学、量子電子デバイス工学)に跨る横断型コースとして総合コースを提供しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

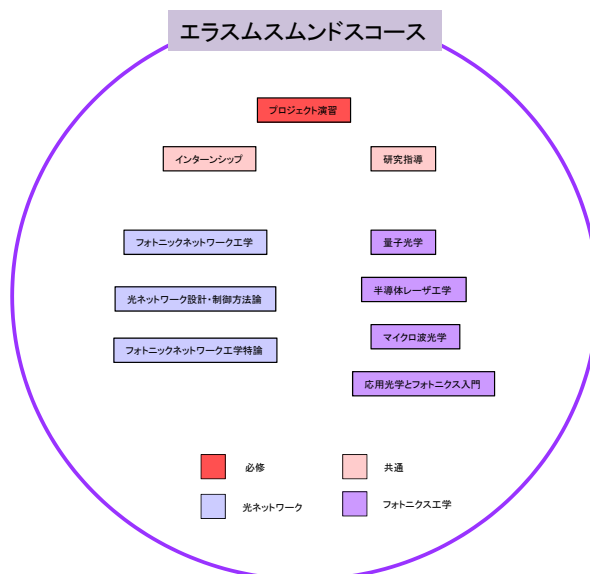
工学研究科 電気電子情報工学専攻 博士前期課程 カリキュラムマップ



工学研究科 電気電子情報工学専攻 博士後期課程 カリキュラムマップ



工学研究科 電気電子情報工学専攻 エラスムスムンドスコース (MAPNET) カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「電気電子情報工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「電気電子情報工学」では、教育目標に定める人材を育成するために、博士前期課程および博士後期課程についてのアドミッション・ポリシーを以下のように定めます。

本プログラムは、電気電子情報工学の基礎を修得した人あるいは大学での専門にかかわらず高い基礎学力をもった学生あるいは社会で活躍中の研究者・技術者の中から、以下のような資質を持つ人の入学を広く募ります。

- エンジニアや研究者として『夢』を抱き、電気電子情報工学を通して社会に貢献したいと考える人
- 自然界の現象に対して好奇心を持ち、創造的かつ先端的研究にチャレンジしたいと考える人
- 人類が直面する諸問題に関心を持ち、研究者・技術者として高い倫理感を持って問題の解決に当たろうとする人
- 国際的な視野を持ち、国際的に活躍の場を求める人

【入学者選抜の方針】

博士前期課程入学試験では、電気電子情報工学の基礎としての「基礎科目」に加えて、各コースの専門分野に関係する「専門科目」を筆記試験で課して専門分野に関する基礎学力を問います。選択科目を多く設け、学内外より幅広く優秀な人材を受入れます。また、学部課程での成績優秀者を受入れるため、推薦入試を実施しています。

博士後期課程入学試験では、口頭試問により博士論文研究分野に関する先端的知識と技能、自ら実施した研究を整理して論文を作成する能力、及びその内容・成果を発表し、それに関する討論を行う能力を問います。なお、博士後期課程では、前期課程からの進学者の他に、社会人、外国人留学生にも広く門戸を開いています。

工学研究科

学位プログラム「環境・エネルギー工学」

学位：修士・博士(工学)

教育目標

大阪大学および工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「環境・エネルギー工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

工学研究科では、「科学と技術の融合を図り、より豊かな社会生活を希求するための学問が工学である」との理念に基づき、工学の深い理解と積極的な活用を通じて、人類社会の持続的発展に資することを旨とした教育・研究に取り組んでいます。

博士前期課程での教育においては、本研究科の掲げる工学の理念のもとに、

- (1) 人類社会や自然界の仕組みを深く理解する広範かつ高度な科学的知識
- (2) 人類社会の複雑な問題の解決策を見出すことのできる深い思考力
- (3) 工学の各分野における世界最先端の専門的知識と技能
- (4) 工学を真に人類社会の発展に活かすことのできる教養・デザイン力・国際性およびその実践において求められる高い倫理観

を身につけ、科学技術の発展に貢献できるリーダーとなるべき人材の育成を目標としています。

博士後期課程での教育においては、さらに

- (1) 人類社会の未来の問題を予見する洞察力
- (2) 未踏の工学領域への展開力

を身につけ、大阪大学のモットーである「地域に生き世界に伸びる」の実践を目指し、世界最先端の科学技術の追求から未踏の工学領域の開拓まで、工学の関わる幅広い舞台で、世界で活躍することのできるグローバル・リーダーを育成し、社会に輩出することを目標としています。

環境・エネルギー工学専攻の博士前期課程での教育においては、上記の工学研究科の理念のもとで、環境、エネルギーそれぞれの分野の問題を解明するために必要となる広範かつ高度な科学的知識、解決策を構築する深い論理構築力を身につけます。

同博士後期課程での教育では、さらに環境、エネルギー分野のフロンティアの開拓とそこで生じる問題の解決に貢献できる技術リーダーを育成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「環境・エネルギー工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「環境・エネルギー工学」では、教育目標に定める人材を育成するために、博士前期課程及び博士後期課程についてのディプロマ・ポリシーを以下のように定めます。

博士前期課程では、環境工学分野とエネルギー工学分野の双方がもつ「人類の生存基盤」を築く研究と教育を展開することにより、そのシナジー効果を発揮できる教育研究カリキュラムに沿って設定した所定の単位を修得して研究科規程に定める試験に合格し、かつ専攻分野の発展への貢献という観点からの修士学位論文の学位審査に合格した学生に修士(工学)の学位を授与します。

- (1) 環境・エネルギー分野における高度な専門知識と技能
- (2) 修士論文研究として取り組む先端および学際融合分野の知識と技能
- (3) 研究開発を実践するための論理的思考力、異分野の専門家を含めたコミュニケーション力及び協働による問題解決力
- (4) 環境エネルギー問題の背景と本質を洞察する幅広い教養
- (5) 母国語に加えて英語で修士論文研究の内容・成果を発表し、それに関する討論を行う能力

博士後期課程では、環境・エネルギー工学専攻の定めるカリキュラムに沿って設定した所定の単位を修得して研究科規程に定める試験に合格し、かつ十分な学術的価値と新規性、および社会貢献の観点からの学位論文の審査に合格した学生に博士(工学)の学位を授与します。

- (1) 環境・エネルギー分野における先端的な専門知識と技能
- (2) 独創的で社会ニーズに応じた研究課題の発掘能力、研究企画力、研究推進力、研究発信能力
- (3) 論理的、複眼的かつ独創的な思考力、課題探究力、問題解決力、表現力および国際的なコミュニケーション力を併せ持つ実践的研究能力
- (4) 新規性、独創性、学術的ならびに社会的意義を有する博士論文を作成する能力
- (5) 博士論文研究の内容・成果を母国語に加えて英語で発表し、それに関する専門的に高度な討論を行う能力

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「環境・エネルギー工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

工学研究科では、学部で学んだ専門知識と技能をより深めるために、高度かつ最新の理論を学ぶカリキュラムを各専攻で提供しています。更にその知識を実社会に活用するために必要な、幅広い分野の教養、デザイン力及び国際性の涵養を目的とした大学院等高度副プログラムや、複眼的視野の獲得を目的とした大学院副専攻プログラムを実施しています。

工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、環境・エネルギー工学専攻の博士前期課程では、環境工学系およびエネルギー量子工学系に分かれたカリキュラムを提供しております。環境系工学系科目としては、人間・システム・自然の3つの分野から科目を提供します。エネルギー量子工学系科目としては、原子力系とエネルギー系の2つの分野から科目を提供します。これらの科目より、専門とする系

の科目を中心に、他の系の科目を含め幅広い分野の科目から選択、履修する独自の教育システムを提供します。またこれらの系に共通した英語科目、インターン科目、外部講師による先端特別講義なども提供しています。これらの科目は、互いに結びついており、それが横断的・有機的に結合することにより、さまざまな社会的な要請に応えるプロジェクトを組むことが可能となっています。これらの科目の履修に続いて、研究プロジェクトに参画し、その成果を修士論文にとりまとめることにより、産業社会を先導する役割を果たしうる人材、社会に出て即戦力となるような技術者や研究開発者に必要な知識を身につけることができます。修了要件は、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ指導教員(主査)に加えて他の分野の教員(副査)による研究指導を受け、修士論文審査に合格することです。

環境・エネルギー工学専攻の後期課程では、さらに専門的見地から配当されている科目から4単位以上取得するとともに博士論文の審査に合格することを必要とします。

博士前期・後期課程を通じて、優秀で創造性に富む研究者・技術者を育成するために、工学研究科に所属する教員に加え、産業科学研究所、接合科学研究所、レーザーエネルギー学研究センター等の学内他部局や学外からも教員を迎え、研究指導を行っています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

大学院		環境工学系科目	共通科目	エネルギー量子工学系科目		
2年生			ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ	原子力系	エネルギー系	
1年生	通常講義	共生都市環境論 共生環境デザイン論 共生空間構成論 環境情報システム工学 環境計画論 地球代謝循環学 産業環境マネジメント論 自然・社会生態システム学特論 需要端エネルギーシステム工学 熱環境システム特論 環境動態学特論 環境モデリング学特論 生物環境工学特論 生物資源工学特論 先端環境材料・資源循環利用システム学特論 サステナビリティ評価・技術論 環境イノベーションデザイン実践 Global Threats and Sustainability 環境と社会特講－多様性と持続可能性 Advanced Environmental Engineering	人間系 システム系 自然系	研究開発計画法 工学英語Ⅰ 工学英語Ⅱ	原子炉物理学 原子炉の制御 原子炉・核融合炉工学 原子力安全特論 原子炉燃料・材料 エネルギー流体工学 システムデザイン学	エネルギー変換材料 量子ビームバイオ工学 核融合物理学 量子計測学 レーザーエネルギー工学 福祉工学 先端医療工学 量子応答材料物性
		ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ		原子力実習 原子力工学セミナー Nuclear fuel cycle and Waste Management Decommissioning of nuclear facilities and preparedness of nuclear emergency Energy conversion and management	Decontamination Science and Engineering Energy economics Energy politics 放射線化学 ナノ工学 Energy business Business communication	
	集中講義	Frontiers of Sustainability Science	先端特別講義 環境エネルギー工学研修 環境エネルギー工学研修			

必修科目 共通選択科目 環境系選択科目 原子力系選択科目 エネ系選択科目 1学期=黒文字、 2学期=赤文字 下線:新規科目

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「環境・エネルギー工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「環境・エネルギー工学」は、環境・エネルギーに関係する学科を修了した学生だけでなく、新たにこの課題に挑もうとする意欲を持った学生・社会人を広く募集します。

工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、以下の様な資質を持つ人材を求めます。

- (1) 地球環境の持続性、自然環境保全、循環型社会形成、都市や地域の創造保全、新しいエネルギー・システム、原子力エネルギー・システムなど本専攻が対象とする各研究領域に深い関心、専門知識および技能を有している人
- (2) 自らの専門分野を確立することと併せて、課題対処の方法を専門領域にとらわれず探求し、責任をもって解決に導いていくことのできる柔軟性と意欲を持った人
- (3) 自ら考え行動できる能力、協働の能力を持ち、国内のみならず国際的な場面においてもリーダーシップを発揮しようとする姿勢を持った人
- (4) 柔軟な思考力、豊かな感性、人間や自然界に対する探究心を持っている人
- (5) グローバルなコミュニケーションに必要な英語力

【入学者選抜の方針】

博士前期課程では、このような人材を求めるために、筆記試験と口頭試問から成る一般の入学試験を実施しています。また、研究能力に特に秀でた学生を国内外から広く受け入れ、優れた研究者・技術者を育成するために、博士前期課程推薦入学特別選抜制度による入学試験、留学生を対象とした外国人留学生特別選抜制度による入学試験を設けています。

博士後期課程では、上記の資質に加え、以下に示す能力を有する人材を求め、口頭試問による一般の入学試験を実施します。

- (1) 環境・エネルギー分野に関する先端的知識と技能
- (2) 自ら実施した研究を整理して論文を作成する能力、およびその内容・成果を発表し、それに関する討論を行う能力

また、研究能力に特に秀でた学生を国外から受け入れるために、外国人留学生特別選抜制度の入学試験を設けています。

基礎工学研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、基礎工学研究科は、「科学と技術の融合による科学技術の根本的な開発、それにより人類の真の文化を創造する」という理念のもと、複合学際領域の開拓および新学問領域の創成をめざし、科学から技術にわたる幅広い分野で活躍でき、我が国のみならず国際社会をも牽引する技術者、研究者の育成を教育目標としています。そのため、高い専門性と深い学識に加えて分野横断型の幅広い専門性ならびに豊かな教養・デザイン力・国際性を兼ね備え、新しい科学技術分野を切り拓く高い創造性を持った人材を育成することを目指しています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、基礎工学研究科博士前期課程を修了する学生は、以下のことが求められます。

- ・ 研究科に所定の期間在学し、所定の科目を履修し、所属する領域の所定の単位数を修得するとともに指導教員の研究指導を受けて作成した修士論文の審査及び最終試験に合格する。
- ・ 修士学位申請者は、専攻分野における研究能力、高度の専門性に加えて、教養・デザイン力・国際性を身につけており、修士学位論文が専攻分野の発展に貢献する研究内容を含み、修士論文発表会・審査会で学術研究に相応しい発表、討論ができる。

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、基礎工学研究科博士後期課程を修了する学生は以下のことが求められます。

- ・ 研究科に所定の期間在学し、所定の科目を履修し、所属する領域の所定の単位数を修得するとともに博士論文の審査及び最終試験に合格する。
- ・ 博士学位申請者は、博士学位論文の扱う学問領域と全般的な知識を有し、独立して研究を遂行できる学力に加え、教養・デザイン力・国際性を身につけており、学術内容の社会に対する貢献を論述できる能力を有し、提出された博士学位論文について論文発表会・審査会で学術研究に相応しい発表、討論ができる。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、基礎工学研究科の教育プログラムは、基礎工学の「科学と技術の融合」の理念に基づき、高度な専門性と広い視野を持って新しい研究分野を切り拓くことのできる能力を学生に付与することを目標にしています。このため、基礎工学研究科博士前期課程では、本来の専門科目である「基盤専門科目」だけでなく、近い他分野との融合をめざす「境界専門科目」、さらに新領域の開拓をめざす「学際選択科目」を設け、幅広い専門教育を行っています。また、国際性を涵養するために英語による専門教育も行っています。教養やデザイン力を涵養するために、大学院横断教育科目や博士課程リーディングプログラム科目も受講できるようにしています。さらに研究を通じた実践的な教育により、研究の推進能力、成果の説明・発表能力及び高い倫理性等を備え、主体的に課題を発見し解決する能力を有する高度な技術者・研究者を育成します。

基礎工学研究科博士後期課程では、専門分野に関する高度で深い専門的知識の修得に加えて、研究を通じた実践的な教育により、研究の企画・立案能力、推進能力、成果の説明及び発表能力を備えた高度な技術者・研究者を育成します。また、将来、国内外の様々な分野のリーダーとして活躍できる人材を育成するため、研究を通して、幅広い教養・デザイン力・国際性を涵養する実践的な教育を行っています。

単位認定については、レポート・試験等を課し、一定の成績を収めた学生に対して単位を認定しています。なお、成績優秀者は、研究科委員会での審議を経て博士前期及び後期課程の修業期間を短縮し修了することが可能です。

アドミッション・ポリシー

（入学者受入の方針）

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、基礎工学研究科の博士課程では、研究科の理念に共感する次のような学生を求めています。

- ・ 基礎力に裏打ちされた専門性ととともに新しい分野を切り拓く意欲を持っている人
- ・ 自分の考えを説明でき、さまざまな人たちと建設的に対話する情熱を持っている人
- ・ 異分野との交流や国際的な交流を積極的に推し進めようとする意欲を持っている人

また、上記資質を有する優秀な人材を国内外から多様な方法により選抜することを入試の基本方針に定めています。このために、一般選抜試験に加えて、推薦入試や社会人入試などの多様な選抜試験を実施するほか、留学生向けには、英語特別コースおよび特別選抜制度を設けています。

基礎工学研究科

学位プログラム「物性物理工学」

学位：修士(工学)、修士(学術)
博士(工学)、博士(理学)、博士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「物性物理工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

すべての科学と技術の基礎となる物質の性質を量子力学に基づくミクロな相互作用の機構から解明するための高度な専門知識と最新の科学技術に関する深い学識を習得します。このことにより、新しい物理学を切り開くだけでなく、先端デバイスや新物質の研究・開発・製造において広い視野をもって世界をリードし、基礎工学研究科の教育理念である「科学技術の根本的な開発」を行う人材を育てます。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「物性物理工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

物性物理工学に関する深い理解とともに、今後、研究・開発などを通して広く社会に貢献するために必要な実験技術、理論的手法、問題解析能力、問題解決能力、コミュニケーション能力、国際的な場におけるリーダーシップなどを身につけ、大阪大学大学院基礎工学研究科における学位審査及び学位論文評価基準に定める試験に合格した学生に学位を授与します。

○高度な専門性と深い学識

- ・物性物理工学に関する専門的な知識を有している
- ・社会における問題の解決のために物性物理工学に関する専門知識を活用できる
- ・社会における問題を物性物理工学の観点から解決する意欲を持つ

○教養

- ・広く科学技術分野および人文・社会科学諸分野の知識を有している
- ・他分野とのコミュニケーションを積極的に図り学際領域を開発できる

○デザイン力

- ・社会における問題を物性物理工学の観点から見出すことができる
- ・問題解決のための専門的/学際的な研究・開発手段をデザインし実行できる
- ・解決手段を関係者とのコミュニケーションに基づき自らデザインする意欲をもつ

○国際性

- ・自分の学んだ理学と工学を融合する幅広い科学技術文化を理解している
- ・積極的なコミュニケーションにより異なる文化を理解し文化を超えて交流できる

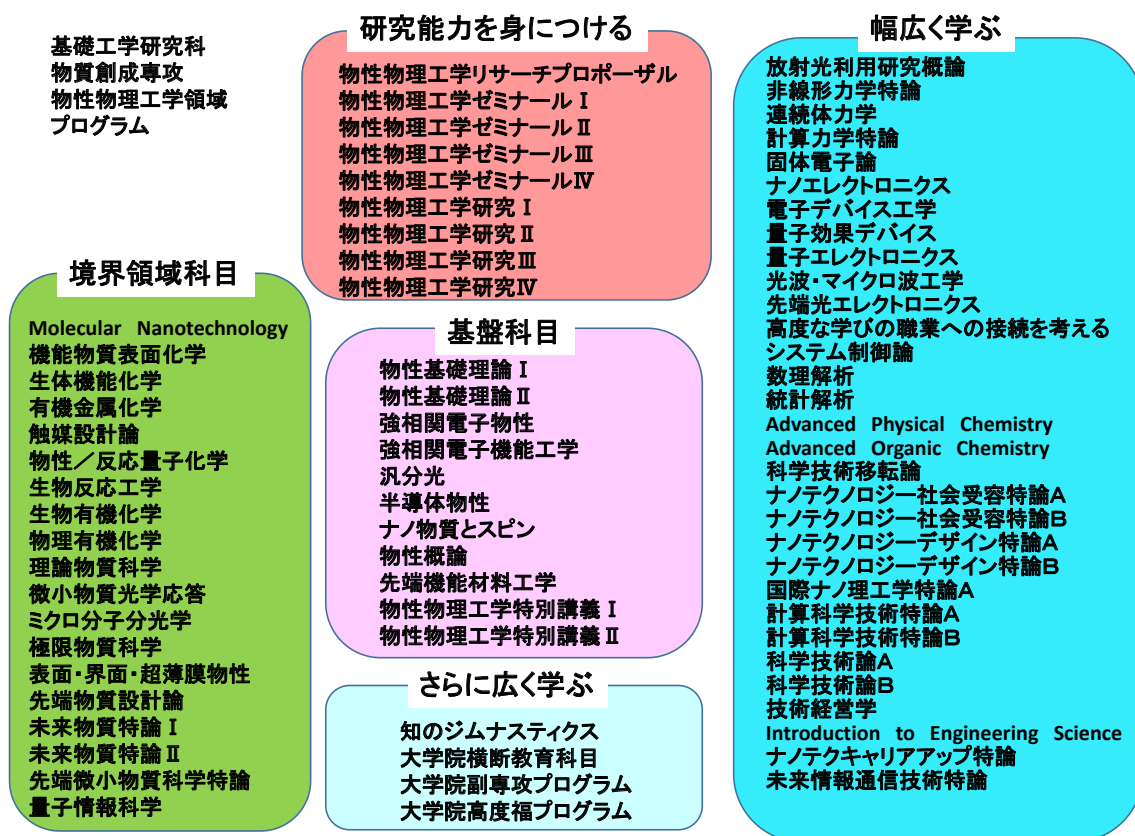
カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「物性物理学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

物性物理学に係る深い知識と理解を(1)基盤専門科目および境界専門科目により得るとともに、(2)学際選択科目により学際的な知識を修得します。さらに(3)物性物理学ゼミナールおよび研究を通じて、具体的な問題解析力、解決力、協調性、コミュニケーション力、創造性、国際性、リーダーシップを身につけます。また、博士課程教育リーディングプログラム科目においては、上記科目に加えてリーディングプログラム科目を体系的に編成し、博士前後期課程の一貫教育を行います。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「物性物理工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して入学させます。

(1)入学後の修学に必要な基礎学力としての知識や実技能力を有している。

- ・高等学校で履修する国語、地理歴史、公民、数学、理科、外国語などについて、内容を理解し、高等学校卒業相当の知識を有している。
- ・造形などに関して、修学に必要な実技能力を有している。

(2)物事を多面的かつ論理的に考察することができる。

(3)自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

(4)科学と技術に夢や希望を持ち、物性物理工学で世界をリードする活躍をする意欲がある、さらに、物性物理工学を基礎に他の専門にも果敢に進出する意欲がある。

(5)積極的に他者とかかわり、対話を通して相互理解に努めようとする態度を有している。

【入学者選抜の方針】

上記資質を有する優秀な人材を各内外から多様な方法により選抜することを入試の基本方針に定めています。このために、一般選抜試験に加えて、推薦入試や社会人入試などの多様な選抜試験を実施するほか、留学生向けには、英語特別コースおよび特別選抜制度を設けています。

基礎工学研究科

学位プログラム「機能物質化学」

学位：修士(工学)、修士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「機能物質化学」では以下のとおり教育目標を定めています。

「科学と技術の融合による科学技術の根本的な開発、それにより人類の真の文化を創造する」ことを教育研究理念とする基礎工学研究科において、学位プログラム「機能物質化学」を担う機能物質化学領域は、新しい物質・材料の開発、物質と生命の関係の探求、エネルギーや資源・環境問題の解決など、化学に係る重要な分野において、第一線で活躍できる人材を育成するために、研究活動への主体的参画を通じて、化学全般について基礎から専門にいたる徹底した教育を行うとともに、関連する科学領域の基礎も重視した教育を行っています。その教育目標は、次に掲げる人材を育成することです。

1. 化学についての深い理解とともに、学際的な幅広い知識と豊かな創造性をもち、研究者・技術者としての実践的能力を身につけ、第一線で活躍できる人材。
2. 専門知識とともに、高い教養とリーダーシップを兼ね備え、社会のさまざまな分野や国際的な場において活躍できる人材。
3. 高い倫理性等を備え、主体的に課題を発見し解決する能力を有する高度な技術者・研究者として活躍できる人材。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「機能物質化学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「機能物質化学」の教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、同プログラムでデザイン・設定された教育課程により所定の必要単位を取得するとともに、指導教員の研究指導を受けて作成した修士論文の審査及び最終試験に合格することで、以下の基準を満たす学生に学位を授与する。

- (1) 化学全般にわたる専門知識や関連する科学の基礎知識を習得している。
- (2) 化学に関する高度な専門知識をもとに、具体的な研究課題について、解決に向けて実践的かつ自

立的に取り組むとともに、成果を客観的に整理して発信できる。

- (3) 修士学位論文が専攻分野の発展に貢献する研究内容を含み、修士論文発表会・審査会で学術研究に相応しい発表、討論ができる。
- (4) 高い学問的な倫理観をもって、科学技術の社会への貢献を目指した活動をすることができる。
- (5) 物質科学の中心にある化学の学問的位置づけを理解し、異なる科学分野の教育を受けた集団の中で、互いに意志疎通を促進するリーダーシップを身につけている。
- (6) 世界各地の文化の違いを理解し、柔軟な思考により共通の目標を設定できる。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「機能物質化学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

基礎工学研究科において、学位プログラム「機能物質化学」を担う機能物質化学領域では、同プログラムの学位授与の方針に掲げる知識・技能などを習得させ、高度な専門性と広い視野を持って新しい研究分野を切り拓くことのできる能力を学生に付与することを目標に、以下の通り「基盤専門科目」、「境界専門科目」、「学際選択科目」からなるカリキュラムを編成し、実施しています。

- ・ 機能物質化学の専門科目である「基盤専門科目」の履修により、現代化学分野の高度な知識を習得する。
- ・ 配属研究室の研究分野に偏った科目を履修することを避けるため、基盤専門科目の選択について合成化学系科目(有機合成化学、有機金属化学、高分子特性解析または高分子機能化学)と機能化学系科目(機能物質表面化学、生体機能化学、機能物性化学)の両方を履修するよう指導する。
- ・ 「機能物質化学研究」を通じて、学生を各指導教官のもとに配属し、その指導教官の専門分野に応じて、具体的な研究課題を学生一人一人に個別に与えて、これに基づき理論的・実験的研究を行わせて実際の研究能力を身に付けさせ、研究の推進能力、成果の説明・発表能力を涵養する。
- ・ 「機能物質化学ゼミナール」を通じて、機能物質化学に関する最新の論文を読解し、その要点、特長、意義等を的確に把握して、これを正しく発表し討論できる能力を学生に身に付けさせ、同時に、研究に関する視野の広がりをもたせ、研究能力の向上に資する。
- ・ 「化学特論」を通じて、国内外の研究者による最新の研究についての講演を提供し、化学研究の最先端を直接体験させる。
- ・ 化学に近い他分野との融合をめざす「境界専門科目」、さらに新領域の開拓をめざす「学際選択科目」を設け、幅広い専門教育を行う。
- ・ 国際性を涵養するために英語による講義を開講する。上記「化学特論」の講義においても海外からの研究者による英語講演を通じて国際性を身につける機会とする。また、博士前期課程1年生について英語による研究発表会(ポスタープレゼンテーション)を実施する。
- ・ 教養やデザイン力を涵養するために、大学院横断教育科目や博士課程リーディングプログラム科目の受講機会を提供する。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「機能物質化学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

機能物質化学領域では、有機化学、無機化学、高分子化学、物理化学、生化学など広い範囲の化学分野において、新しい機能や優れた性能を持つ物質の創出を通じて、科学技術や産業の発展の物質的基盤を支え、環境やエネルギーなど人類社会が直面する諸問題の解決に貢献できる能力と高い倫理観を持った人材の育成を目指しています。このため、本領域では、以下に示す知識や能力、意欲を有する人を求めています。

知識・能力：

- (1) これまでの既定の教育課程において自然や文化に対する科学的かつ学際的な視野を習得し、将来さまざまな課題を解決するための幅広い基礎的教養、構想力、国際性を身に着けていること。
- (2) 博士前期課程においては有機化学、無機化学、物理化学、高分子化学を中心とした化学分野における専門基礎知識とそれに基づく問題解決のための基礎力を有していること。後期課程においては、それに加えて自身の研究分野における十分な専門知識と問題解決力を有していること。
- (3) 読解、作文、会話を含む総合的英語力を有していること。
- (4) 社会や自然界における現象を、分析・考察し、自身の考えを論理的に表現できること。

意欲・関心：

- (5) 高度教育と研究を通して学んだ化学の力を幅広い分野で活用し、将来社会貢献したいと願う人。
- (6) 化学という分子を扱う学問の世界を極めたいと願う人。

【入学者選抜の方針】

博士前期課程一般入試においては、化学の筆記試験、英語を含む主要科目における学部成績に基づく書類審査、面接試験に基づく総合判定により、また博士後期課程一般入試、博士前期課程推薦入学特別選抜、博士前期・後期課程社会人特別選抜、博士前期・後期課程英語カリキュラム特別選抜、博士前期課程外国人留学生特別選抜においては、これまでの教育課程成績に基づく書類審査と規定により行う面接試験による総合判定により入学者を選抜します。

基礎工学研究科

学位プログラム「機能物質化学」

学位：博士(工学)、博士(理学)、博士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「機能物質化学」では以下のとおり教育目標を定めています。

「科学と技術の融合による科学技術の根本的な開発、それにより人類の真の文化を創造する」ことを教育研究理念とする基礎工学研究科において、学位プログラム「機能物質化学」を担う機能物質化学領域は、新しい物質・材料の開発、物質と生命の関係の探求、エネルギーや資源・環境問題の解決など、化学に係る重要な分野において、第一線で活躍できる人材を育成するために、研究活動への主体的参画を通じて、化学全般について基礎から専門にいたる徹底した教育を行うとともに、関連する科学領域の基礎も重視した教育を行っています。その教育目標は、次に掲げる人材を育成することです。

1. 化学についての深い理解とともに、学際的な幅広い知識と豊かな創造性をもち、研究者・技術者としての実践的能力を身につけ、第一線で活躍できる人材。
2. 高度な専門知識とともに、高い教養とリーダーシップを兼ね備え、社会のさまざまな分野や国際的な場において活躍できる人材。
3. 高い倫理性を備え、主体的に課題を発見し解決できる研究企画・遂行能力を有する高度な研究者・技術者として活躍できる人材。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「機能物質化学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「機能物質化学」の教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、同プログラムで設定された教育課程により所定の必要単位を取得するとともに、指導教員の研究指導を受けて作成した博士論文の審査及び最終試験に合格することで、以下の基準を満たす学生に学位を授与する。

- (1) 化学に関する高度な専門知識をもとに、研究課題を設定し、その解決に向けて実践的かつ自立的に取り組む研究企画力と研究遂行力を備え、成果を客観的に整理して学術論文等として発信できる。
- (2) 博士学位論文が専攻分野の発展に貢献する研究内容を含み、博士論文発表会・審査会で学術研究に相応しい発表、討論ができる。
- (3) 高い学問的な倫理観をもって、学術の発展と科学技術の社会への貢献を目指した活動をすることができる。
- (4) 物質科学の中心にある化学の学問的位置づけを理解し、異なる科学分野の教育を受けた集団の中で、互いに意志疎通を促進するリーダーシップを身につけている。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「機能物質化学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

基礎工学研究科において、学位プログラム「機能物質化学」を担う機能物質化学領域では、「機能物質化学特別研究」を通じて、研究を通じた実践的な教育により、高度で深い専門的知識の修得に加えて、研究の企画・立案能力、推進能力、成果の説明及び発表能力を備え、高度な専門性と広い視野を持って新しい研究分野を切り拓くことのできる能力を身につけ、将来、国内外の様々な分野のリーダーとして活躍できる、高度な研究者・技術者を育成する。また、研究活動を通して、幅広い教養・デザイン力・国際性を涵養する実践的な教育を行う。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

1 年次	機能物質化学特別研究Ⅰ	機能物質化学特別研究Ⅱ
2 年次	機能物質化学特別研究Ⅲ	機能物質化学特別研究Ⅳ
3 年次	機能物質化学特別研究Ⅴ	機能物質化学特別研究Ⅵ

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「機能物質化学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

機能物質化学領域では、有機化学、無機化学、高分子化学、物理化学、生化学など広い範囲の化学分野において、新しい機能や優れた性能を持つ物質の創出を通じて、科学技術や産業の発展の物質的基盤を支え、環境やエネルギーなど人類社会が直面する諸問題の解決に貢献できる能力と高い倫理観を持った人材の育成を目指しています。このため、本領域では、以下に示す知識や能力、意欲を有する人を求めています。

知識・能力：

- (1) これまでの既定の教育課程において自然や文化に対する科学的かつ学際的な視野を習得し、将来さまざまな課題を解決するための幅広い基礎的教養、構想力、国際性を身に着けていること。
- (2) 博士前期課程においては有機化学、無機化学、物理化学、高分子化学を中心とした化学分野における専門基礎知識とそれに基づく問題解決のための基礎力を有していること。後期課程においては、それに加えて自身の研究分野における十分な専門知識と問題解決力を有していること。
- (3) 読解、作文、会話を含む総合的英語力を有していること。
- (4) 社会や自然界における現象を、分析・考察し、自身の考えを論理的に表現できること。

意欲・関心：

- (5) 高度教育と研究を通して学んだ化学の力を幅広い分野で活用し、将来社会貢献したいと願う人。
- (6) 化学という分子を扱う学問の世界を極めたいと願う人。

【入学者選抜の方針】

博士前期課程一般入試においては、化学の筆記試験、英語を含む主要科目における学部成績に基づく書類審査、面接試験に基づく総合判定により、また博士後期課程一般入試、博士前期課程推薦入学特別選抜、博士前期・後期課程社会人特別選抜、博士前期・後期課程英語カリキュラム特別選抜、博士前期課程外国人留学生特別選抜においては、これまでの教育課程成績に基づく書類審査と規定により行う面接試験による総合判定により入学者を選抜します。

基礎工学研究科

学位プログラム「化学工学」

学位：修士(工学、学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「化学工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて化学工学では、「原子・分子から生物、地球レベルまで」の幅広い視野に立って、持続可能な社会のための物質とエネルギーの生産システム・物質循環システムを構築するという明確な目的意識のもと、化学・化学工学に関する専門教育と先端的研究を通して、理学的センスと工学的センスを兼ね備え、社会のリーダーとして活躍できる高度人材(プロフェSSIONAL)を育成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「化学工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、化学工学の教育目標に定める人材育成を実現するために、下記の方針に基づいて、修了を認定し、学位を授与する。

- (1) 化学・化学工学の幅広く高度な専門知識および科学技術全般に関する学際的な知識および高度な技術を身につけている。(知識・技能)
- (2) 科学技術全般に関する見識に基づき、物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(知識・思考力)
- (3) 化学・化学工学に関する高度な専門知識に立脚して、自分のアイデアを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現・態度)
- (4) 化学者・化学工学者としての高度な倫理観を持って、①分子から地球レベルにいたるマルチスケールの現象、②生体系から人工系の広範囲にわたる複雑系の制御、③新しい機能をもつ物質の創成、④物質やエネルギーの変化及びその変換システムの開発、のいずれかに関する研究を主体的に遂行する能力を身につけている。(意欲・関心・態度)

カリキュラム・ポリシー

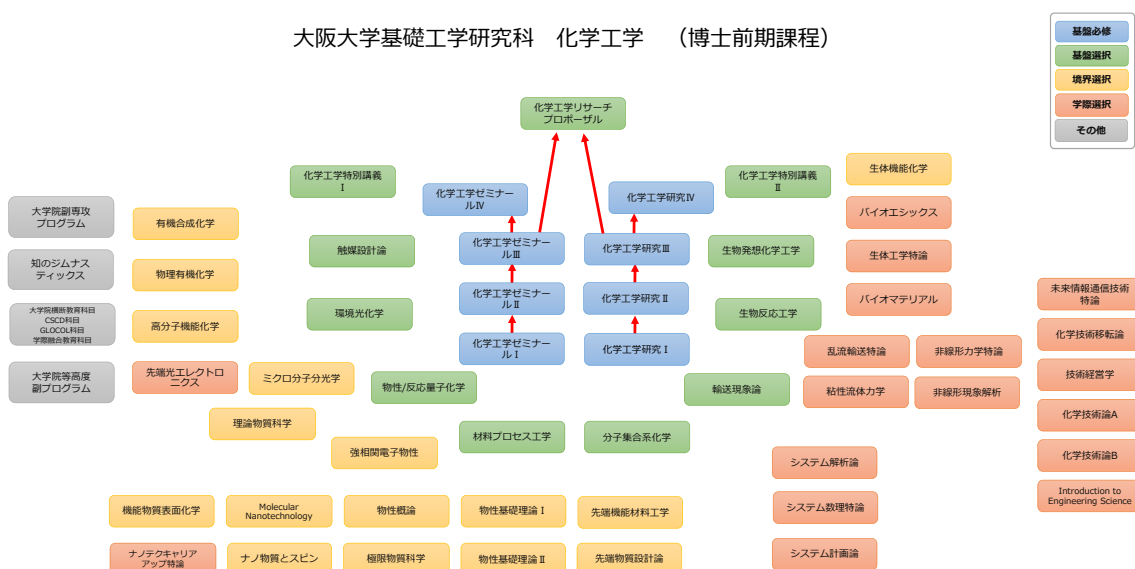
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「化学工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、化学・化学工学に関する幅広い知識を有し、理学的センスと工学的センスを兼ね備えた創造性豊かな人材を育てるため、基盤専門科目に加え境界専門科目と学際専門科目を重奏的に配したカリキュラムを編成するとともに、大学院副専攻プログラム、知のジムナスティックス、学際融合教育科目、大学院等高度副プログラムを通して学際融合を図る。

さらに、各研究グループにおける最先端分野の研究指導を通して、次代を担う研究者・高度技術者としての能力を養成する。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「化学工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、下記の能力を備えた学生を各種選抜試験を通して入学させます。

- (1) 入学後の就学に必要な基礎学力としての化学・化学工学に関する専門知識や高度な技術を有している。(知識・技能)
- (2) 物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(知識・思考力)
- (3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現・態度)
- (4) 以下にあげるいずれかの研究に強い興味をもち、「地球環境・エネルギー問題の解決と循環型持続性社会の形成」に貢献することに意欲をもっている。(意欲・関心・態度)
 - ① 分子から地球レベルにいたるマルチスケールの現象
 - ② 生体系から人工系の広範囲にわたる複雑系の制御
 - ③ 新しい機能をもつ物質の創成
 - ④ 物質やエネルギーの変化及びその変換システムの開発
- (5) 国際性を身につけるための基礎的素養として、英語を高度に取得している。(知識・表現)

【入学者選抜の方針】

上記資質を有する優秀な人材を国内外から多様な方法により選抜することを入試の基本方針に定めています。このために、一般選抜試験に加えて、推薦入試や社会人入試などの多様な選抜試験を実施するほか、留学生向けには、英語特別コースおよび特別選抜制度を設けています。

基礎工学研究科

学位プログラム「化学工学」

学位：博士(工学)、博士(理学)、博士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「化学工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて化学工学では、「原子・分子から生物、地球レベルまで」の幅広い視野に立って、持続可能な社会のための物質とエネルギーの生産システム・物質循環システムを構築するという明確な目的意識のもと、化学・化学工学に関する最先端研究を通しての教育により、理学的センスと工学的センスを兼ね備え、国際的リーダーとして活躍できる創造的かつ自立的な高度人材(プロフェッショナル)を育成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「化学工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシーのもと、化学工学の教育目標に定める人材育成を実現するために、下記の方針に基づいて、修了を認定し、学位を授与する。

- (1) 化学・化学工学の最高度の専門知識および科学技術全般に関する深く幅広い知識および高度な技術を身につけている。(知識・技能)
- (2) 科学技術全般に関する見識に基づき、物事を多面的かつ論理的に考察するとともに、課題を設定し問題を解決する能力を身につけている。(知識・思考力)
- (3) 化学・化学工学に関する最高度の専門知識に立脚して、自分のアイデアを的確に表現し、世界に発信することができる。(技能・表現・態度)
- (4) 化学者・化学工学者としての最高度の倫理観を持って、①分子から地球レベルにいたるマルチスケールの現象、②生体系から人工系の広範囲にわたる複雑系の制御、③新しい機能をもつ物質の創成、④物質やエネルギーの変化及びその変換システムの開発、のいずれかに関する学術的価値のある研究を創造性豊かにかつ自立的に遂行する能力を身につけている。(意欲・関心・態度)

カリキュラム・ポリシー

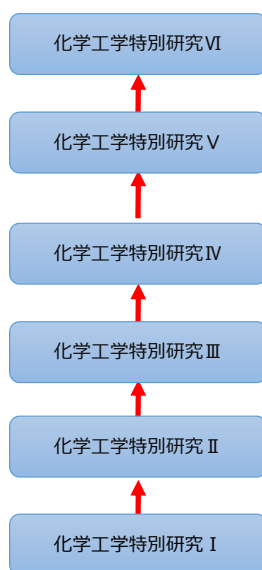
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「化学工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、特別研究を通して、化学工学に関する最高度の知識を有し、研究の企画・立案能力、推進能力、成果の説明及び発表能力を備えた高度な研究者・技術者を育成する。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

大阪大学基礎工学研究科 化学工学 (博士後期課程)



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「化学工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、下記の能力を備えた学生を各種選抜試験を通して入学させます。

- (1) 入学後の就学に必要な基礎学力としての化学・化学工学に関する専門知識や高度な技術を有している。(知識・技能)
- (2) 物事を多面的かつ論理的に考察することができる。(知識・思考力)
- (3) 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。(技能・表現・態度)
- (4) 以下にあげるいずれかの研究に強い興味をもち、「地球環境・エネルギー問題の解決と循環型持続性社会の形成」に貢献することに意欲をもっている。(意欲・関心・態度)
 - ① 分子から地球レベルにいたるマルチスケールの現象
 - ② 生体系から人工系の広範囲にわたる複雑系の制御
 - ③ 新しい機能をもつ物質の創成
 - ④ 物質やエネルギーの変化及びその変換システムの開発
- (5) 化学・化学工学に関する先端的研究を創造性豊かに、かつ自立的に遂行する能力を身につけたいという強い意欲をもっている。(意欲)
- (6) 科学技術全般に関する学際的な幅広い知識に基づき課題を設定する能力および問題を解決する能力を身につけている。(知識・思考力・技能)
- (7) 国際性を身につけるための基礎的素養として、英語を高度に取得している。(知識・表現)

【入学者選抜の方針】

上記資質を有する優秀な人材を国内外から多様な方法により選抜することを入試の基本方針に定めています。このために、一般選抜試験に加えて、推薦入試や社会人入試などの多様な選抜試験を実施するほか、留学生向けには、英語特別コースおよび特別選抜制度を設けています。

基礎工学研究科

学位プログラム「未来物質科学」

学位：修士(工学)、修士(学術)
博士(理学)、博士(工学)、博士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「未来物質科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「未来物質科学」では、「科学と技術の融合による科学技術の根本的な開発、それにより人類の真の文化を創造する」という理念のもと、優れた理論的・実験的枠組みをもつ物性物理学と分子化学の基礎に立脚し、電子と光に係る多様な物性の解明、新現象探索ならびに新物質創製に関する教育と研究を通じて、次に掲げる人材を養成することを目的とします。

物理学や化学など既存の学問分野の複合学際領域の開拓および新学問領域の創成を念頭に、物質科学のフロンティアを切り開くことのできる幅広い視野と高度な国際感覚を持ちつつ、科学から技術にわたる幅広い分野で活躍でき、我が国のみならず国際社会をも牽引する技術者、研究者となれる人材。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「未来物質科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

未来物質領域で学位が授与されるには以下のことが求められます。

- ・ 所定の期間在学し、未来物質領域の所定の単位を修得する。
- ・ 所定の単位の修得を通じて、以下を身につけている。
 - 物性物理学および分子化学の最先端かつ高度な専門知識
 - 物性物理学および分子化学の知識を活用する能力
 - 物性物理学および分子化学を研究や開発に活かすことができる高度な専門的能力
 - 物性物理学あるいは分子化学以外の幅広い学識
 - 種々の問題の解決や新学問領域・新技術の開拓に必要な創造性
 - 問題の本質が何かを見抜く能力
 - 問題を解決するための手段を構築できる能力
 - グループで問題を解決するために必要なコミュニケーションをとる能力
 - 異文化を理解し、文化の違いを超えて協調してリーダーシップが発揮できる国際性

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

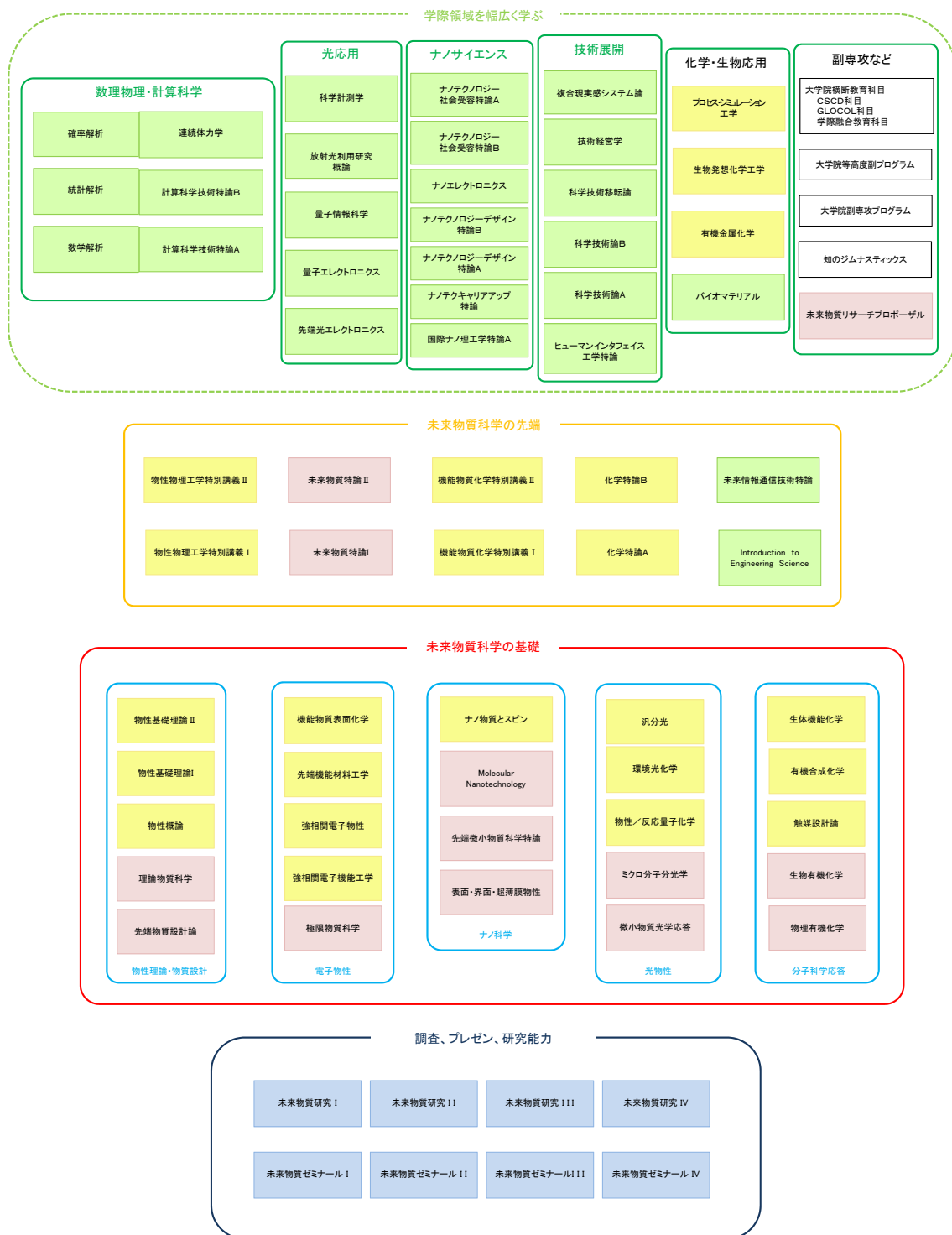
大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「未来物質科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

未来物質領域では、以下の履修方法で、高度な専門性と広い視野を持って新しい研究分野を切り拓くことのできる能力を育みます。

- ・ 本来の専門科目である「基盤専門科目」の履修により、物性物理学および分子化学に係る深い理解を得るとともに最先端かつ高度な専門知識を取得します。
- ・ 近い他分野との融合をめざして開講している「境界専門科目」の履修により、学際的知識を習得します。
- ・ 新領域の開拓をめざして開講している「学際選択科目」の履修により、科学技術全般に及ぶ学際的知識を取得します。
- ・ 未来物質ゼミナールおよび未来物質研究を通じて、高度な専門的能力のほか、問題の本質を見抜く能力、問題を解決するための手段を構築できる能力、新学問領域・新技術の開拓に必要な創造性、グループで活動を行う際に必要なコミュニケーションをとる能力、文化の違いを超えて協調してリーダーシップが発揮できる国際性を身につけます。
- ・ 国際性を涵養するために、一部の講義やゼミナールにおいて、英語による教育も行っています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

基礎工学研究科 物質創成専攻 未来物質領域



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「未来物質科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

未来物質領域では、領域の理念に共感し、下記の能力を備えた学生を求めています。

- (1) 入学後の修学に必要な基礎学力として、大学卒業程度の自然科学の知識とその活用能力を有している。
- (2) 入学後の修学に必要な英語の能力(読解力、作文力、会話力)を有している。
- (3) 自分の考えを的確に説明できる。
- (4) 物性物理学および分子化学やその学際領域で国際的な活躍をする意欲がある。
- (5) 異分野との交流や国際交流を積極的に行う意欲がある。

【入学者選抜の方針】

上記資質を有する優秀な人材を各内外から多様な方法により選抜することを入試の基本方針に定めています。このために、一般選抜試験に加えて、推薦入試や社会人入試などの多様な選抜試験を実施するほか、留学生向けには、英語特別コースおよび特別選抜制度を設けています。

基礎工学研究科

学位プログラム「機械科学・生体工学」

学位：修士(工学)、修士(学術)
博士(工学)、博士(理学)、博士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「機械科学・生体工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「機械科学・生体工学」では、基礎工学研究科の理念のもと、非線形力学領域、機能デザイン領域および生体工学領域において、機械科学・生体工学に関わる複合学際分野の開拓および新学問分野の創成をめざし、基礎科学から先進技術にいたる幅広い分野で活躍でき、我が国のみならず国際社会をも牽引する技術者、研究者の育成を教育目標としています。そのため、機械科学・生体工学を基盤とする高い専門性と深い学識に加えて分野横断型の幅広い専門性ならびに豊かな教養・デザイン力・国際性を兼ね備え、新しい科学技術分野を切り拓く高い創造性を持った人材を育成することを目指しています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「機械科学・生体工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

機能創成専攻博士前期課程を修了する学生は、以下のことが求められます。

- ・ 非線形力学領域、機能デザイン領域および生体工学領域のいずれかの領域に所属し、各領域が定める科目を定められた年限内で履修し、所定の単位数を修得するとともに、指導教員の研究指導を受けて作成した修士論文の審査及び最終試験に合格する。
- ・ 修士学位申請者は、機械科学・生体工学分野における研究能力、高度の専門性に加えて、教養・デザイン力・国際性を身につけており、修士学位論文が機械科学・生体工学分野の発展に貢献する研究内容を含み、修士論文発表会・審査会で学術研究に相応しい発表、討論ができる。

機能創成専攻博士後期課程を修了する学生は、以下のことが求められます。

- ・ 非線形力学領域、機能デザイン領域および生体工学領域のいずれかの領域に所属し、各領域が定める科目を定められた年限内で履修して所定の単位数を修得するとともに、指導教員の研究指導を受けて作成した博士論文の審査及び最終試験に合格する。
- ・ 博士学位申請者は、機械科学・生体工学分野に関わる高度な専門性を有し、独立して研究を遂行できる能力に加え、幅広い教養・デザイン力・国際性を身につけており、学術内容の社会に対する貢献を論述できる能力を有し、提出された博士学位論文について論文発表会・審査会で学術研究に相応しい発表、討論ができる。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「機械科学・生体工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

機能創成専攻博士前期課程では、以下に示す教育および研究指導を行う。

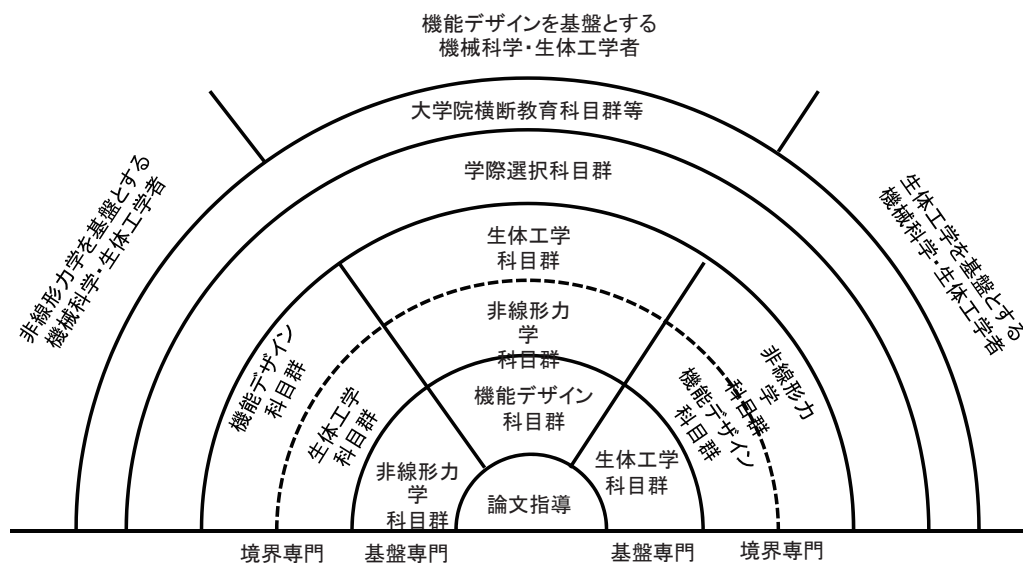
- ・ 非線形力学領域、機能デザイン領域および生体工学領域が定める基盤専門科目、境界専門科目および学際選択科目を履修させ、機械科学・生体工学に関する高度な専門性と深い学識を学ばせる。また、英語による専門科目や大学院横断教育科目、博士課程リーディングプログラム科目を履修できるようにし、専門知識や技能の幅を広げる教養やデザイン力、国際性を涵養する。
- ・ 各領域のゼミナールおよび研究を履修させることにより、機械科学・生体工学に関する最新の研究状況に関する専門知識を取得させるとともに、これを取りまとめて報告させることにより、研究に対する理解力と発表能力を養わせる。
- ・ 修士論文の研究指導を通じて、機械科学・生体工学に関する研究の推進能力、成果の説明・発表能力及び高い倫理性等を備え、主体的に課題を発見し解決する能力を有する高度な技術者・研究者を育成する。

機能創成専攻博士後期課程では、以下に示す教育および研究指導を行う。

- ・ 基礎工学研究科が提供する専門科目および英語による専門科目や大学院横断教育科目、博士課程リーディングプログラム科目を履修できるようにし、機械科学・生体工学に関する専門性を深化させるとともに、それらの幅を広げる教養やデザイン力、国際性を涵養する。
- ・ 機能創成専攻特別研究を履修させることにより、機械科学・生体工学に関する最新の研究状況に関する専門知識を取得させるとともに、これを取りまとめて報告させることにより、研究に対する理解力と発表能力を養わせる。
- ・ 博士論文の研究指導を通じて、機械科学・生体工学に関する研究の推進能力、学会等での成果の説明・発表能力及び高い倫理性等を備え、独立して研究を遂行できる能力、主体的に課題を発見し解決する能力を有する高度な技術者・研究者を育成する。

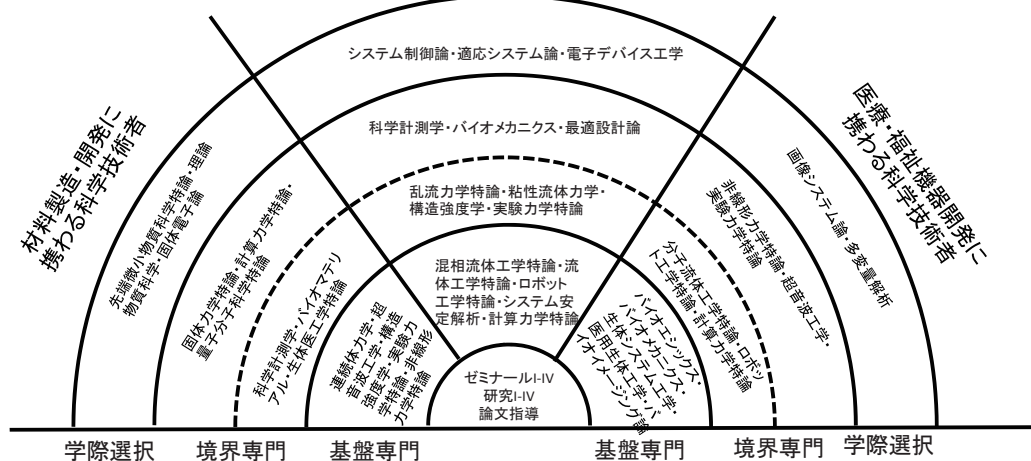
【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

基礎工学研究科機能創成専攻
機械科学・生体工学 学位プログラム カリキュラムマップ



履修例

航空宇宙機器開発に
携わる科学技術者



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「機械科学・生体工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

機械科学・生体工学の学位プログラムを提供する機能創成専攻機能創成専攻は非線形力学領域、機能デザイン領域、生体工学領域からなり、機械や生体を「しくみ」としてとらえその「はたらき」を解明するとともに、その知見の工学的応用を拓くことに、強い意欲と能力を持つ学生諸君の参画を期待しています。各領域では以下の機械科学・生体工学に関する能力・意欲・関心を持った学生を望んでいます。

○非線形力学領域

非線形力学領域は、機械などの人工物や自然界で生じる様々な力学的現象や問題から、従来の「線形力学」の枠組みを越えた新しい「非線形力学」を構築するとともに、得られた知見をもとにこれまで存在しない機械や機能を創造することを研究・教育の理念に掲げています。固体や流体の力学的または熱力学的現象、とりわけ近年進展著しいその非線形現象の解明に興味と関心があり、当領域の理念に共感して新しい機械や機能を創造したいという強い意欲と能力を持つ学生を望んでいます。

○機能デザイン領域

機能デザイン領域は、人間の活動範囲の拡大に伴って近未来及び将来必要となる多様な機械システムに求められる先進的機能について、具体的かつ現実的な課題・問題の根本的な解決を図るための技術開発を通じて、これからの工学の基盤となる新しい学問分野を開拓することを研究・教育の目標としています。機械工学に関わる様々な実際の問題に興味を持ち、新たな環境や極限状況においてこれまでにない先進的な機能を創造するための深い基礎能力と、開拓精神に富んだ学生を望んでいます。

○生体工学領域

生体工学領域は、生体の持つ巧妙かつ精緻な機能を発現する構造・メカニズムを、様々なスケールで解析、理解するとともに、得られた知見を医学・工学などへ展開することを目指しています。生体素材・組織の構造、生体機能発現の原理・メカニズム、生体機械の基本単位の機能・構造相関、バイオメカニクス解析と生体システムモデリング、生体運動機能の統合的理解、生体医用計測・情報、生体規範最適設計などに興味を持ち、力学、物理学、機械科学を含む生体工学基盤からこれらに取り組む能力と強い意欲を持つ学生を歓迎します。

【入学者選抜の方針】

基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、機械科学・生体工学に関する上記の資質を有する優秀な人材を世界から多様な方法により選抜します。具体的には、一般選抜試験に加えて、推薦入試や社会人入試などの多様な選抜試験を実施するほか、留学生向けには、英語特別コースおよび特別選抜を実施します。

基礎工学研究科

学位プログラム「電子光科学」

学位：修士(工学)、修士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「電子光科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

知的情報技術や創省エネルギー・省資源技術がますます重要となり、これらを支える主要な科学技術は、「電子・光」についての基礎科学とそれに基づく新しい機能材料・デバイス・システムの開発です。同時に、環境調和性や社会調和性を重視して、自然や人間社会とのかかわりを総合的に見つめる力が要求されます。このような観点に立ち、基礎から応用まで広くカバーするために、電子や光の性質を深く知りつつ機能材料を研究・開発する物性物理科学とそれらを新たなデバイス・システムへと発展させるエレクトロニクス・フォトンクスを基盤として、これらを融合し、ヒューマンな要素を加味した新分野を開拓する人材の育成が重要となっています。さらに、現時点での社会の諸問題を解決できる人材に加えて、人類の遠い未来に寄与できる新しい科学・技術を創出し、開拓してゆく知恵と能力をもつ人材の育成が求められています。

学位プログラム「電子光科学」では、新しい現象・機能の発掘、物理機構の解明、新材料・プロセス技術やそれらを組み合わせた新機能デバイスの探求とそのシステム化により、電子・光科学に関する科学・技術を創出し開拓する知恵と能力をもつ人材の育成を目標としています。その目標を実現するため、基礎工学研究科システム創成専攻電子光科学領域内において、以下に掲げる能力を有する人材を育成することを目的とします。

- 電子光科学に関する最先端かつ高度な専門性
- 電子光科学に関する教養・デザイン力・国際性

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「電子光科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「電子光科学」の修了は、基礎工学研究科システム創成専攻電子光科学領域に所定の期間在学し、所定の科目を履修し所属する領域の所定の単位数を修得するとともに、指導教員の研究指導を受けて作成した修士論文の審査及び最終試験に合格する必要があります。具体的には、電子光科学に関する研究能力、高度の専門性に加えて、教養・デザイン力・国際性を有し、電子光科学分野

の発展に貢献する研究内容を含み、修士論文審査会における発表や討論を基に可否を判定します。
試験に合格するには以下に示す学習目標で示された能力を有していることが求められます。

(学習目標)

○高度な専門性

- ・ 電子光科学分野における知識を有している
- ・ 電子光科学分野に関する物事の本質を見極めることができる
- ・ 電子光科学分野に関する問題解決のために知識を活用できる

○教養

- ・ 電子光科学分野に関する幅広い知識を有している
- ・ 電子光科学分野における課題に対し柔軟に思考する
- ・ 電子光科学分野における課題を俯瞰的に思考し、客観的に評価ができる

○デザイン力

- ・ 電子光科学分野に関する問題を発見することができる
- ・ 電子光科学分野の研究に関する新しいアイデアを自由に発想することができる
- ・ 電子光科学分野に関する問題において解決の道筋をつくることができる

○国際性

- ・ 電子光科学分野の研究成果に関する英語論文の執筆ができる
- ・ 電子光科学分野の研究成果を国際会議で発表ができる
- ・ 電子光科学分野の研究に関して海外研究者と議論ができる
- ・ 電子光科学分野の研究に関して海外研究者と共同研究を行える

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「電子光科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「電子光科学」では、ディプロマ・ポリシーに掲げた知識・技能を習得させるために、下記の方針で「基盤選択科目」および「基盤必修科目」、「境界選択科目」「学際選択科目」等を通じて、電子光科学のプロフェッショナルとなるための講義を開講します。

「基盤選択科目」では、固体電子論、電子デバイス工学等の科目を履修することで、電子光科学のベースとなる能力を身につけます。また、電子光科学に関連する「境界選択科目」を履修することが可能です。さらに、バイオイメージング論や医用生体工学といった各個人の興味にあった「学際選択科目」を履修することができます。これらの講義を通じて、研究に必要なスキルの基礎を身につけます。「基盤必修科目」での電子光科学ゼミナールⅠ～Ⅳではプレゼンテーション能力を身につけることができ、電子光科学研究Ⅰ～Ⅳにおいて研究者・技術者として必要な能力を取得します。

このように、学位プログラム「電子光科学」では、“回路・システム・情報・通信系”、“光・電磁波・電磁気系” および “半導体・電子材料・デバイス・物性系” の基幹3系を中心とし、より深い学習をするために多くの関連選択科目を提供しています。これらの詳細を、“カリキュラム・マップ”として示しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

電子光科学カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「電子光科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

安心安全で持続可能な高度情報化・ネットワーク社会を実現していくうえでは、高品位で安定な情報とエネルギーの制御が不可欠です。電子光科学領域では、知的情報処理、創・省エネルギー、省資源などの技術基盤となる電子・光・量子材料やデバイスに関わる、原理や科学的機構の解明、新現象の発掘と探索、新機能素子・装置の創製から、人間との調和を念頭においた高度システムの開発に至る研究と教育を行っています。基礎から最先端応用までの知識とスキルを身につけ、電子と光と量子、また、それらの協奏が織りなす新しい科学と技術を創出し開拓していく知恵と能力をもつ人材の育成に邁進しています。そのために、次のような人を求めています。

1. 知的好奇心に富み、何事にも挑戦する信念を持ち、エレクトロニクスの将来を担っていく意欲のあふれる人
2. 電子と光に関わる学術的な専門知識と科学技術に対する見識に磨きをかけ、自己研鑽に励む人
3. 科学技術の未来に期待し、その発展によって、人と社会へ貢献することに意義を感じる人
4. 広く多角的な視野に立ち、将来の電子光科学とその技術の発展に向けて創造力を発揮できる人

【入学者選抜の方針】

上記のような資質を有する人材を適正に選抜するために、一般選抜試験のほか、推薦入試や社会人入試など、多様な選抜試験を実施しています。

基礎工学研究科

学位プログラム「電子光科学」

学位：博士(工学)、博士(理学)、博士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「電子光科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

知的情報技術や創省エネルギー・省資源技術がますます重要となり、これらを支える主要な科学技術は、「電子・光」についての基礎科学とそれに基づく新しい機能材料・デバイス・システムの開発です。同時に、環境調和性や社会調和性を重視して、自然や人間社会とのかかわりを総合的に見つめる力が要求されます。このような観点に立ち、基礎から応用まで広くカバーするために、電子や光の性質を深く知りつつ機能材料を研究・開発する物性物理科学とそれらを新たなデバイス・システムへと発展させるエレクトロニクス・フォトンクスを基盤として、これらを融合し、ヒューマンな要素を加味した新分野を開拓する人材の育成が重要となっています。さらに、現時点での社会の諸問題を解決できる人材に加えて、人類の遠い未来に寄与できる新しい科学・技術を創出し、開拓してゆく知恵と能力をもつ人材の育成が求められています。

電子光科学プログラムでは、新しい現象・機能の発掘、物理機構の解明、新材料・プロセス技術やそれらを組み合わせた新機能デバイスの探求とそのシステム化により、電子・光科学に関する科学・技術を創出し開拓する知恵と能力をもつ人材の育成を目標としています。その目標を実現するため、基礎工学研究科システム創成専攻電子光科学領域内において、以下に掲げる能力を有する人材を育成することを目的とします。

- 電子光科学に関する最先端かつ高度な専門性と深い学識、応用力
- 電子光科学に関する教養・デザイン力・国際性

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「電子光科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「電子光科学」の修了は、基礎工学研究科システム創成専攻電子光科学領域に所定の期間在学し、所定の科目を履修し所属する領域の所定の単位数を修得するとともに、指導教員の研究指導を受けて作成した博士論文の審査及び最終試験に合格する必要があります。具体的には、電子光科学に関する研究能力、高度の専門性に加えて、教養・デザイン力・国際性を有し、電子光科学分野

の発展に貢献する研究内容を含み、修士論文審査会における発表や討論を基に合否を判定します。
試験に合格するには以下に示す学習目標で示された能力を有していることが求められます。

(学習目標)

○高度な専門性と深い学識

- ・ 電子光科学分野における深い知識を有している
- ・ 電子光科学分野に関する物事の本質を多角的に見極めることができる
- ・ 電子光科学分野に関する問題解決のために知識を活用できる
- ・ 電子光科学分野に関する問題に対して指導的な立場で知識を活用できる

○教養

- ・ 電子光科学分野に関する体系的な知識を有している
- ・ 電子光科学分野における課題に対し広い視野に立ち柔軟に思考する
- ・ 電子光科学分野における課題を俯瞰的に思考し、客観的に評価ができる

○デザイン力

- ・ 電子光科学分野に関する問題を発見することができる
- ・ 電子光科学分野の研究に関する新しいアイデアを自由に発想することができる
- ・ 電子光科学分野に関する問題において解決の道筋をつくることができる

○国際性

- ・ 電子光科学分野の研究成果に関する英語論文の執筆ができる
- ・ 電子光科学分野の研究成果を国際会議で発表ができる
- ・ 電子光科学分野の研究に関して海外研究者と議論ができる
- ・ 電子光科学分野の研究に関して指導的な立場で海外研究者と共同研究を行える

カリキュラム・ポリシー

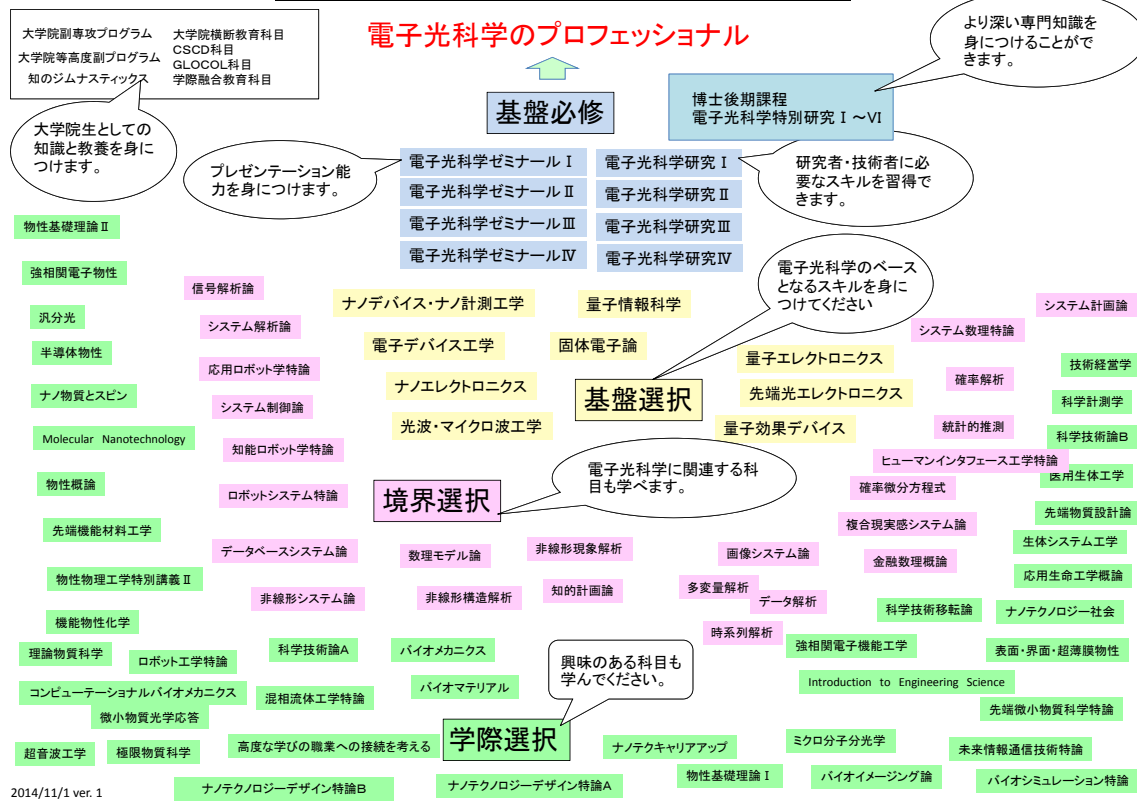
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「電子光科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「電子光科学」では、ディプロマ・ポリシーに掲げた知識・技能を習得させるために、電子光科学特別研究Ⅰ～Ⅵを開講し、電子光科学のプロフェッショナルを目指します。各研究室のテーマを実施し、博士課程前期で培った能力がさらに伸びるように各教員が指導を行います。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

電子光科学カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「電子光科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

安心安全で持続可能な高度情報化・ネットワーク社会を実現していくうえでは、高品位で安定な情報とエネルギーの制御が不可欠です。電子光科学領域では、知的情報処理、創・省エネルギー、省資源などの技術基盤となる電子・光・量子材料やデバイスに関わる、原理や科学的機構の解明、新現象の発掘と探索、新機能素子・装置の創製から、人間との調和を念頭にいた高度システムの開発に至る研究と教育を行っています。基礎から最先端応用までの知識とスキルを身につけ、電子と光と量子、また、それらの協奏が織りなす新しい科学と技術を創出し開拓していく知恵と能力をもつ人材の育成に邁進しています。そのために、次のような人を求めています。

1. 知的好奇心に富み、何事にも挑戦する信念を持ち、エレクトロニクスの将来を担っていく意欲のある人
2. 電子と光に関わる学術的な専門知識と科学技術に対する見識に磨きをかけ、自己研鑽に励む人
3. 科学技術の未来に期待し、その発展によって、人と社会へ貢献することに意義を感じる人
4. 広く多角的な視野に立ち、将来の電子光科学とその技術の発展に向けて創造力を発揮できる人
5. 確固たる専門性と学際性の両面を兼ね備え、幅広い知識と俯瞰的思考で、新しい分野を開拓していける人
6. 創造性と国際性をもって様々な問題を自己設定し、かつ自己解決できるプロフェッショナルを目指す人

【入学者選抜の方針】

上記のような資質を有する人材を適正に選抜するために、年2回の一般選抜試験のほか、社会人入試などの選抜試験を実施しています。

基礎工学研究科

学位プログラム「システム科学」

学位：修士(工学)、修士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「システム科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「システム科学」では、人間、機械、環境の調和と協働をもたらす新しい知能システムの創造を目指し、コンピュータ科学とロボット工学、および数理・統計解析を駆使したシステムの統合化、知能化のための基礎理論と技術に関する教育を行い、次に掲げる人材を養成することを目的としています。

- ・ 広い視野と深い教養を身に付け、システム科学の幅広い知識・技能と専門性を身に付けた人材。
- ・ 異なる分野を総合的にとらえて課題を発見し、客観的な分析と独自の発想を通じて、その解決策を提案し、実現に向けてリーダーシップを発揮できる人材。
- ・ 地域社会、国際社会及び産業界が要請する新たなシステムを自ら構想し、創造する人材。
- ・ システム科学に関する理論や技術及び応用システムについて、同じ専門分野の研究者だけでなく、分野外の人や海外の人にも分かりやすく説明できる人材。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「システム科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「システム科学」博士前期課程を修了する学生は、以下のことが求められます。

(i) 知識・理解

豊かな教養と国際性を身につけ、システム科学の最先端の研究やシステム開発に必要なコンピュータ科学系科目とロボット工学系科目等の知識・技能を習得している。

(ii) 思考・判断

自ら設定した課題についてシステム科学的アプローチを適用することができる。

(iii) 関心・意欲

新しい問題に関心を持ち、自らの専門知識と判断力を駆使して自主的・継続的に課題に取り組むことができる。

(iv) 態度

システム科学の役割を理解し、豊かな人類社会の発展のため、専門知識と判断力を駆使して自主的・継続的に課題に取り組み、地域社会や産業界のニーズに応えることができる。

(v) 技能・表現

論理的思考力に基づいて自分の意見を明確に説明することができる。海外の人や分野外の人に、システム科学に関する理論や技術、それに基づく応用システムについて分かりやすく説明できる。実験や観測結果を客観的に分析し、システムをデザインする能力を習得している。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「システム科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「システム科学」では、コンピュータ科学とロボット工学との組み合わせにより、与えられた各要素を最適に統合化して知的システムを構成するための理論や方法を学びます。

理論の座学だけでなく、ゼミナール形式の授業も採り入れた教育方法を採用しており、すべての学生がシステム科学に関する理論および十分な工学的スキルを習得してから卒業できるようシステムティックにカリキュラムを組んでいます。

「基盤専門科目」では、コンピュータ科学系科目とロボット工学系科目を提供し、知的システムの構成に必要な科目をバランス良く提供しています。コンピュータ科学系科目では、センシングデータの解析に必要な理論や技術、コンピュータと人間とのインタラクションに必要な画像理解、人工現実感、ヒューマンインタフェースに関する技術などを学びます。ロボット工学系科目では、ロボットの適応的動作に関する制御技術、またロボットとのコミュニケーションに必要な人工知能やコミュニケーション科学に関する理論や技術などを学びます。

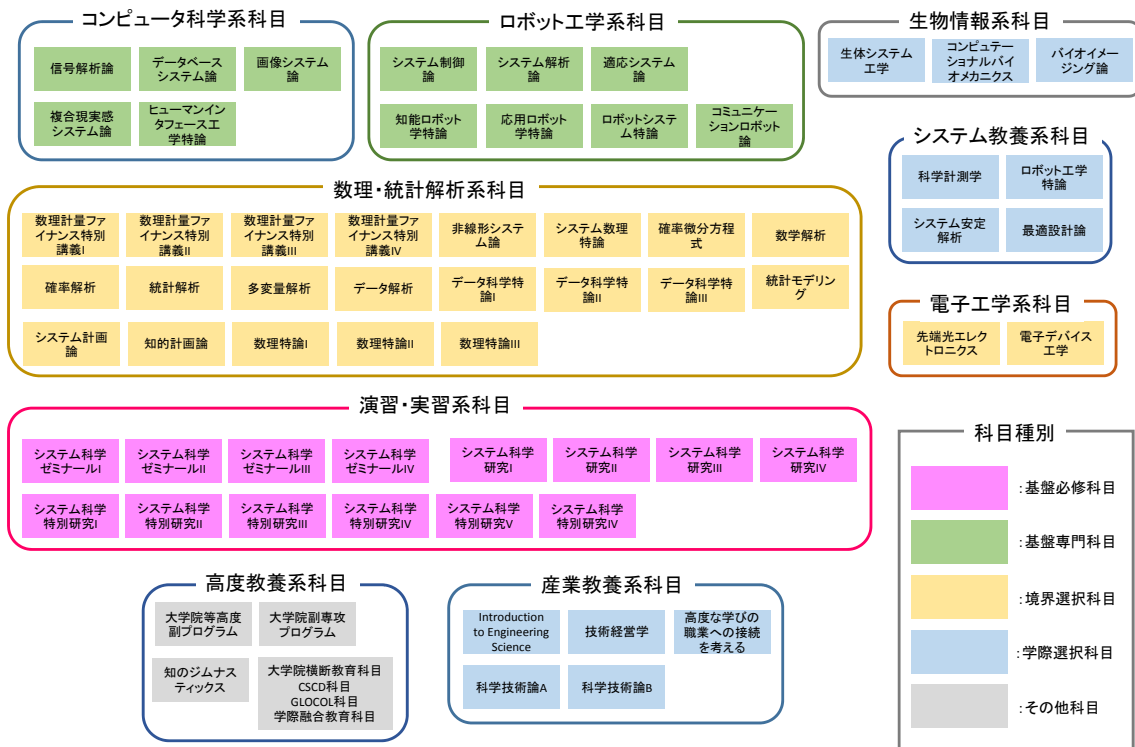
「境界選択科目」では、上記「基盤専門科目」の理解を深めるために、数理・統計解析系科目と電子工学系科目、生物情報系科目、およびシステム教養系科目も履修することが可能となっています。数理・統計解析系科目では、数理科学や統計解析学に関する高度な理論を学ぶことができます。電子工学系科目では、電子デバイスに関する発展的技術と最先端の光工学に関する理論を学ぶことができます。システム教養系科目では、「基盤専門科目」で提供する科目について、分野横断的な視点で見たときの考察する方法について学ぶことができます。

また、演習・実習系科目では、システム科学研究I～IVを提供し、自らシステム科学に関する課題を設定しそれを解決することを、具体的なテーマ設定の基で行います。システム科学ゼミナールでは、システム科学研究の科目で実習してきた内容を様々な分野の人たちに伝える技能や、それを英語で伝える技能について学びます。

また、高度教養系科目や産業教養系科目も履修することが可能となっており、システム科学に関する諸学問を、より高い視点で俯瞰する方法論や、産業界での位置づけなどについて学ぶことができます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

基礎工学研究科 システム創成専攻 システム科学領域 カリキュラム・マップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「システム科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

1. 応用数学、技術英語に加え、広範な理学教養の学識力をバランス良く持っていること。
2. システム工学の専門科目を習得し、かつプログラミング能力をはじめ十分なコンピュータリテラシーを有すること。
3. 広い視野を持ち、理工学の分野のみならず人文・社会科学の異分野にも関心があること。
4. 既成概念にとらわれることなく新分野への開拓精神を有すること。
5. 自らの観測に基づいて思考を発展させ、適切に表現する能力があること。
6. 新たな設計論を創り出し、それを役立てるシステム開発に挑戦する意欲があること。
7. 科学者や技術者の社会に対する責任に関心があること。
8. 関心あるテーマに関して他者と深い議論ができること。

【入学者選抜の方針】

1. 知能システム学コースの出身者に限らず、システム科学に関連する専門教育を修得した学生を幅広く国内外より選抜する。4年制大学出身者を始め、高等専門学校専攻科、諸外国学部レベル等の出身者で能力のある学生を広く受け入れる。また留学生については当領域を受験させると共に、一部は基礎工学研究科英語コースに所属させる学生も受け入れる。このような受け入れ方針に基づき広く受験生を集める。
2. 入学者の選抜は原則として筆記試験と面接により行う。筆記試験では応用数学とコンピュータ基礎、並びにシステム科学における専門科目から必要に応じて選択させた科目の能力を確認する。面接ではシステム科学に関する重要概念、異分野を含めた幅広い知識、新たな課題解決の意欲などを質疑応答により確認する。
3. 留学生については適宜、日本語または英語による筆記試験と面接により要求される能力を確認する。また、英語コース受験者に関しては、国内での受験が困難な場合は書類により専門とする分野の能力を確認すると共に、メール等により適宜質疑応答を行い専門能力、英語能力、異分野を含めた幅広い知識や新たな課題解決の意欲などを確認する。

基礎工学研究科

学位プログラム「システム科学」

学位：博士(工学)、博士(理学)、博士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「システム科学」は以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「システム科学」では、人間、機械、環境の調和と協働をもたらす新しい知能システムの創造を目指し、コンピュータ科学とロボット工学、および数理・統計解析を駆使したシステムの統合化、知能化のための基礎理論と技術に関する教育を行い、次に掲げる人材を養成することを目的としています。

- ・ 広い視野と深い教養を身に付け、システム科学の幅広い知識・技能と専門性を高度に身に付けた人材。
- ・ システム科学に関して、世界で最先端の研究を自らテーマを設定し遂行することができる人材。
- ・ システム科学やそれに関連するほかの学問分野において、まだ誰も目を付けていないような新しい研究分野を切り拓くことができる人材。
- ・ 地域社会、国際社会及び産業界が要請する新たなシステムを自ら構想し、創造する人材。
- ・ システム科学に関する最先端の研究テーマに関して、ほかの分野の研究者や海外の研究者と議論を行うことができる人材。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「システム科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「システム科学」博士後期課程を修了する学生は、以下のことが求められます。

(i) 知識・理解

豊かな教養と国際性を身につけ、システム科学の最先端の研究やシステム開発に必要なコンピュータ科学系科目とロボット工学系科目等の知識・技能を習得しており、なおかつそれらの理論的背景や技術的背景も深く理解している。

(ii) 思考・判断

新たな研究分野を切り拓く課題を自ら設定し、それをシステム科学的アプローチを用いて解決することができる。

(iii) 関心・意欲

新しい問題に関心を持ち、自らの専門知識と判断力を駆使して自主的・継続的に課題に取り組むことができる。さらに、分野横断的な課題にも関心を持ち、それらを多角的に分析・調査する意欲がある。

(iv) 態度

システム科学の役割を理解し、豊かな人類社会の発展のため、地域社会や産業界のニーズに応えることができる。

(v) 技能・表現

論理的思考力に基づいて自分の意見を明確に説明することができる。海外の人たちや様々な分野の人たちに、システム科学に関する理論や技術、それに基づく応用システムについて分かりやすく説明できる。また、海外の人や他の分野の人と、未解決の問題について議論して解決する能力がある。実験や観測結果を客観的に分析し、背後にあるモデルや法則を捉えた上で、システムをデザインする能力を習得している。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「システム科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「システム科学」では、コンピュータ科学とロボット工学との組み合わせにより、与えられた各要素を最適に統合化して知的システムを構成するための理論や方法を学びます。

理論の座学だけではなく、ゼミナール形式の授業も採り入れた教育方法を採用しており、すべての学生がシステム科学に関する理論および十分な工学的スキルを習得してから卒業できるようシステムティックにカリキュラムを組んでいます。

「基盤専門科目」では、コンピュータ科学系科目とロボット工学系科目を提供し、知的システムの構成に必要な科目をバランス良く提供しています。コンピュータ科学系科目では、センシングデータの解析に必要な理論や技術、コンピュータと人間とのインタラクションに必要な画像理解、人工現実感、ヒューマンインタフェースに関する技術などを学びます。ロボット工学系科目では、ロボットの適応的動作に関する制御技術、またロボットとのコミュニケーションに必要な人工知能やコミュニケーション科学に関する理論や技術などを学びます。

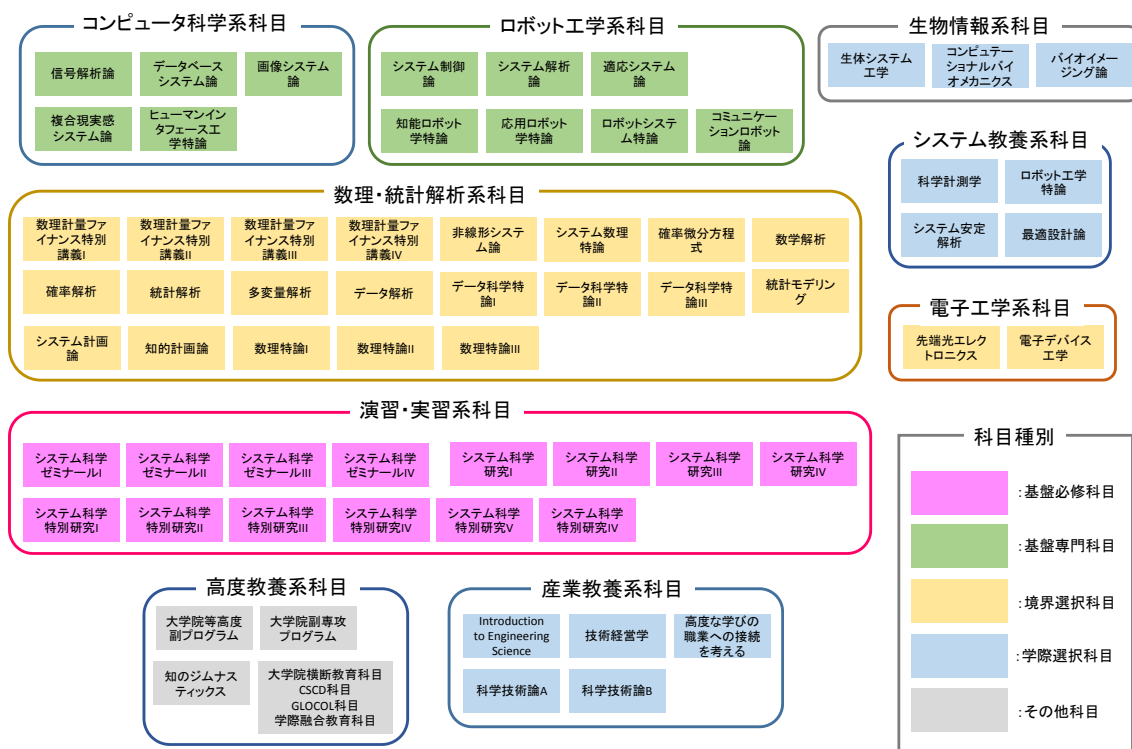
「境界選択科目」では、上記「基盤専門科目」の理解を深めるために、数理・統計解析系科目と電子工学系科目、生物情報系科目、およびシステム教養系科目も履修することが可能となっています。数理・統計解析系科目では、数理科学や統計解析学に関する高度な理論を学ぶことができます。電子工学系科目では、電子デバイスに関する発展的技術と最先端の光工学に関する理論を学ぶことができます。システム教養系科目では、「基盤専門科目」で提供する科目について、分野横断的な視点で見たときの考察する方法について学ぶことができます。

また、演習・実習系科目では、システム科学特別研究I～VIを提供し、自らシステム科学に関する世界最先端の課題を設定しそれを解決することを、具体的なテーマ設定の基で行います。また、そのテーマを対象の専門分野の中だけでなく、分野横断的な観点からも考察することを学びます。システム科学ゼミナールでは、システム科学研究の科目で実習してきた内容を様々な分野の人たちに伝える技能や、それを英語で伝える技能について学びます。

また、高度教養系科目や産業教養系科目も履修することが可能となっており、システム科学に関する諸学問を、より高い視点で俯瞰する方法論や、産業界での位置づけなどについて学ぶことができます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

基礎工学研究科 システム創成専攻 システム科学領域 カリキュラム・マップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「システム科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

1. 豊かな教養と国際性を身につけ、システム科学の最先端の研究やシステム開発に必要なコンピュータ科学系科目とロボット系科目等の知識・技能を習得していること。
2. 自ら設定した課題についてシステム科学的アプローチを用いて解決できること。
3. 新しい問題に関心を持ち、自らの専門知識と判断力を駆使して自主的・継続的に課題に取り組めること。
4. システム科学の役割を理解し、豊かな人類社会の発展のため、地域社会や産業界のニーズに応えられること。
5. 論理的思考力、コミュニケーション能力、問題解決力を習得していること。
6. 海外の人たちや様々な分野の人たちに、システム科学に関する理論や技術、それに基づく応用システムについて分かりやすく説明できること。

【入学者選抜の方針】

1. システム科学領域の出身者に限らず、システム科学に関連する修士学位相当の能力を有する人材、あるいはシステム科学の教育研究に強い興味を抱く人材を幅広く国内外より選抜する。博士前期課程出身者を始め、諸外国修士学位相当の能力のある人材を広く受け入れる。留学生については、当領域を受験させると共に、一部は基礎工学研究科英語コースに所属させる学生も受け入れる。このような受け入れ方針に基づき広く受験生を集める。
2. 入学者の選抜は原則として筆記試験とプレゼンテーションにより行う。筆記試験ではシステム科学に関する専門知識や特定の科学技術テーマに関して論述させ、システム科学の基礎知識と思考力、並びに論旨の明解さを確認する。プレゼンテーションではこれまでに実施した研究内容と後期課程における研究計画について発表させ、質疑応答により専門とする分野の深い知識と関連分野の幅広い教養、課題解決能力等を確認する。
3. 留学生については適宜、日本語または英語による論述試験とプレゼンテーションにより上記能力を確認する。また、英語コース受験者に関しては、国内での受験が困難な場合は書類により専門とする分野の能力を確認すると共に、メール等により適宜質疑応答を行い、英語能力、専門とする分野の深い知識と関連分野の幅広い教養、課題解決能力等を確認する。

基礎工学研究科

学位プログラム「数理科学」

学位：修士(工学)、修士(学術)
博士(工学)、博士(理学)、博士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「数理科学」では以下のとおり教育目標を定めています。

基礎工学研究科は、「科学と技術の融合による科学技術の根本的な開発、それにより人類の真の文化を創造する」という理念のもと、複合学際領域の開拓および新学問領域の創成をめざし、科学から技術にわたる幅広い分野で活躍でき、我が国のみならず国際社会をも牽引する技術者、研究者の育成を教育目標としています。そのため、高い専門性と深い学識に加えて分野横断型の幅広い専門性ならびに豊かな教養・デザイン力・国際性を兼ね備え、新しい科学技術分野を切り拓く高い創造性を持った人材を育成することを目指しています。

学位プログラム「数理科学」では、コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの急激な発達を背景として、現象を記述する数理モデルを構成し、そのモデルの解析を行い、現象やデータからのフィードバックである診断により、さらに高度なモデルの構築を通して自然・社会・工学・生命等に現れる現象を真に理解するための教育研究を行っています。

これらの分野で最先端かつ高度な専門性と深い学識を持ち、教養・デザイン力・国際性を身につけた者の育成を教育目標としています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「数理科学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

基礎工学研究科博士前期課程の修了は、研究科に所定の期間在学し、所定の科目を履修し、所属する領域の所定の単位数を修得するとともに指導教員の研究指導を受けて作成した修士論文の審査及び最終試験に合格することに基づいて判定されます。修士学位取得(博士前期課程修了)の審査は、修士学位申請者が専攻分野における研究能力、高度の専門性に加えて、教養・デザイン力・国際性を有すること、修士学位論文が専攻分野の発展に貢献する研究内容を含み、修士論文発表会・審査会で学術研究に相応しい発表、討論がなされること等を基に行われます。これらの結果をもとに研究科委員会により修了(修士の学位授与)の判定が行われます。

基礎工学研究科博士後期課程の修了は、研究科に所定の期間在学し、所定の科目を履修し、所属する領域の所定の単位数を修得するとともに博士論文の審査及び最終試験に合格することに基づいて判定されます。博士学位取得（博士後期課程修了）の審査は、博士学位申請者が、博士学位論文の扱う学問領域と全般的な知識を有し、独立して研究を遂行できる学力に加え、教養・デザイン力・国際性を有すること、学術内容の社会に対する貢献を論述できる能力を有すること、提出された博士学位論文について論文発表会・審査会で学術研究に相応しい発表、討論がなされること等を基に行われます。これらの結果を基に研究科委員会により修了（博士の学位授与）の判定が行われます。なお、成績優秀者は、研究科委員会での審議を経て博士前期及び後期課程の修業期間を短縮し修了することが可能です。

数理科学領域の博士前期課程の修了は、基礎工学研究科のディプロマ・ポリシーの下で、数理科学領域の基盤専門科目などから所定の単位を修得し、修士学位審査及び最終試験に合格することに基づいて判定されます。修士学位審査基準は、数理科学領域が対象とする研究分野に相応しい内容を含むことです。博士後期課程の修了は、基礎工学研究科のディプロマ・ポリシーの下で、所定の単位を修得し、博士学位論文について数理科学領域が対象とする研究分野の発展に貢献する内容を含むことです。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「数理科学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

基礎工学研究科の教育プログラムは、基礎工学の「科学と技術の融合」の理念に基づき、高度な専門性と広い視野を持って新しい研究分野を切り拓くことのできる能力を学生に付与することを目標にしています。

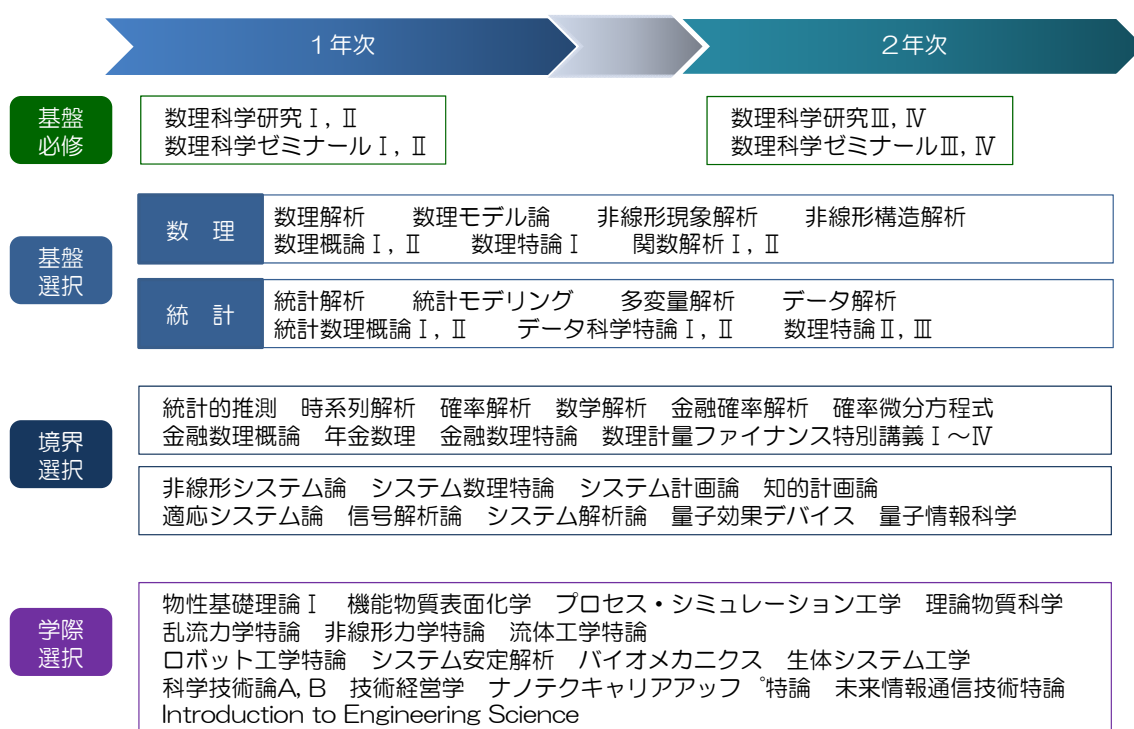
このため、基礎工学研究科博士前期課程では、本来の専門科目である「基盤専門科目」だけでなく、近い他分野との融合をめざす「境界専門科目」、さらに新領域の開拓をめざす「学際選択科目」を設け、幅広い専門教育を行っています。また、国際性を涵養するために英語による専門教育も行っています。教養やデザイン力を涵養するために、大学院横断教育科目や博士課程リーディングプログラム科目も受講できるようにしています。さらに研究を通じた実践的な教育により、研究の推進能力、成果の説明・発表能力及び高い倫理性等を備え、主体的に課題を発見し解決する能力を有する高度な技術者・研究者を育成します。

基礎工学研究科博士後期課程では、専門分野に関する高度で深い専門的知識の修得に加えて、研究を通じた実践的な教育により、研究の企画・立案能力、推進能力、成果の説明及び発表能力を備えた高度な技術者・研究者を育成します。また、将来、国内外の様々な分野のリーダーとして活躍できる人材を育成するため、研究を通して、幅広い教養・デザイン力・国際性を涵養する実践的な教育を行っています。

数理科学領域では、応用数学と統計数学を中心にした学問横断型の技術開発・研究に貢献できる能力を学生に付与することを目標としています。微分方程式、応用解析、統計解析、データ科学などの数理科学を中心に「基盤科目」を設定し、数理的手法を駆使して技術開発・研究を行うために重要となる周辺研究分野を「境界専門科目」、さらに分野横断を促進するための幅広い知識の習得をめざして「学際選択科目」を設定しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

数理科学領域博士前期課程カリキュラムマップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「数理科学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学部、大学院(修士)の教育課程等における学修を通して、

- ・ 確かな基礎学力、専門分野における十分な知識を身につけている人
- ・ 主体的に学ぶ態度を身につけている人
- ・ 自ら課題を発見し探求しようとする意欲のある人

を受け入れます。

数理科学領域では、コンピュータのハードウェア・ソフトウェアの急激な発達を背景として、現象を記述する数理モデルを構成し、そのモデルの解析を行い、現象やデータからのフィードバックである診断により、さらに高度なモデルの構築を通して自然・社会・工学・生命等に現れる現象を真に理解するための教育研究を行っています。これらの分野で最先端かつ高度な専門性と深い学識を持ち、教養・デザイン力・国際性を身につけた知識基盤社会のリーダーとなるべき人材を育成しています。

そのため、数理科学領域では、さらに

- ・ 数学、統計学のいずれかの基礎学力を十分に備えている人
- ・ 物理学、化学、生物学、工学、医学、経済学、人間科学など幅広い学問領域のいずれかの分野における数理科学的な応用に興味を持っている人
- ・ 抽象的・論理的な思考ができる人

を求めています。じっくりと考えることができ、計算能力が高く、コンピュータリテラシーに精通していると、より望ましい。

【入学者選抜の方針】

大阪大学や基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、基礎工学研究科の理念に共感し、博士課程システム創成専攻数理科学領域に入学を希望する以下のような学生を求めています。

- ・ 基礎力に裏打ちされた専門性ととも新しい分野を切り拓く意欲を持っている人
- ・ 自分の考えを説明でき、さまざまな人たちと建設的に対話する情熱を持っている人
- ・ 異分野との交流や国際的な交流を積極的に推し進めようとする意欲を持っている人

また、上記資質を有する優秀な人材を国内外から多様な方法により選抜することを入試の基本方針に定めています。このために、博士前期課程では一般選抜試験に加えて、推薦入試や社会人入試などの多様な選抜試験を実施するほか、留学生向けには、英語特別コースおよび特別選抜制度を設けています。博士後期課程では社会人特別選抜を含む一般選抜試験において、数理科学領域に関する口頭試問、修士学位論文または研究業績概要等、出身大学院(大学)の学業成績等を総合して選抜を実施します。

基礎工学研究科

学位プログラム「社会システム数理」

学位：修士(工学)、修士(学術)
博士(工学)、博士(理学)、博士(学術)

教育目標

大阪大学および基礎工学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「社会システム数理」では以下のように教育目標を定めています。

基礎工学研究科は、「科学と技術の融合による科学技術の根本的な開発、それにより人類の真の文化を創造する」という理念のもと、複合学際領域の開拓および新学問領域の創成をめざし、科学から技術にわたる幅広い分野で活躍でき、我が国のみならず国際社会をも牽引する技術者、研究者の育成を教育目標としています。そのため、高い専門性と深い学識に加えて分野横断型の幅広い専門性ならびに豊かな教養・デザイン力・国際性を兼ね備え、新しい科学技術分野を切り拓く高い創造性を持った人材を育成することを目指しています。

学位プログラム「社会システム数理」では、数理科学もしくはシステム科学に関する高い専門性を有して、更に理工学分野のみならず社会科学分野をも視野に入れた分野横断型の研究・開発を牽引できる技術者、研究者の育成を教育目標としています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「社会システム数理」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

基礎工学研究科博士前期課程の修了は、研究科に所定の期間在学し、所定の科目を履修し、所属する領域の所定の単位数を修得するとともに指導教員の研究指導を受けて作成した修士論文の審査及び最終試験に合格することに基づいて判定されます。修士学位取得(博士前期課程修了)の審査は、修士学位申請者が専攻分野における研究能力、高度の専門性に加えて、教養・デザイン力・国際性を有すること、修士学位論文が専攻分野の発展に貢献する研究内容を含み、修士論文発表会・審査会で学術研究に相応しい発表、討論がなされること等を基に行われます。これらの結果をもとに研究科委員会により修了(修士の学位授与)の判定が行われます。

基礎工学研究科博士後期課程の修了は、研究科に所定の期間在学し、所定の科目を履修し、所属する領域の所定の単位数を修得するとともに博士論文の審査及び最終試験に合格することに基づいて判定されます。博士学位取得(博士後期課程修了)の審査は、博士学位申請者が、博士学位論文の扱う学問領域と全般的な知識を有し、独立して研究を遂行できる学力に加え、教養・デザイン力・国際性

を有すること、学術内容の社会に対する貢献を論述できる能力を有すること、提出された博士学位論文について論文発表会・審査会で学術研究に相応しい発表、討論がなされること等を基に行われます。これらの結果を基に研究科委員会により修了（博士の学位授与）の判定が行われます。なお、成績優秀者は、研究科委員会での審議を経て博士前期及び後期課程の修業期間を短縮し修了することが可能です。

社会システム数理領域の博士前期課程の修了は、基礎工学研究科のディプロマ・ポリシーの下で、社会システム数理領域の基盤専門科目などから所定の単位を修得し、修士学位審査及び最終試験に合格することに基づいて判定されます。修士学位審査基準は、社会システム数理領域が対象とする研究分野に相応しい内容を含むことです。博士後期課程の修了は、基礎工学研究科のディプロマ・ポリシーの下で、所定の単位を修得し、博士学位論文について社会システム数理領域が対象とする研究分野の発展に貢献する内容を含むことです。

社会システム数理領域の学習目標は以下の通りです。

1. 確かな基礎学力、専門分野における十分な知識を身につけている
2. 基盤となる自然科学系の幅広い知識と教養を身につけている
3. 主体的に学習し、自立して研究活動を行える高度な研究推進能力を身につけている
4. 理工学のみならず社会科学分野に関連する問題にも関心を持ち、自らの発想により問題を解決する能力を身につけている
5. 高度な専門性と広い視野を持って新しい研究分野を切り拓くことができる
6. 自分の意見を論理的に説明でき、他者の意見にも耳を傾け建設的に対話ができる
7. 物事を多角的に捉え、柔軟な発想から筋道を立てて思考することができる
8. 自分の研究成果や知り得た知見を国内外に発信するための表現能力を身につけている
9. 異分野との交流や国際的な交流を積極的に推し進めることができる
10. リーダーシップ、協調性、創造性などを身につけ、国内外の様々な分野でリーダーとして活躍できる

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および基礎工学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「社会システム数理」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

基礎工学研究科の教育プログラムは、基礎工学の「科学と技術の融合」の理念に基づき、高度な専門性と広い視野を持って新しい研究分野を切り拓くことのできる能力を学生に付与することを目標にしています。

このため、基礎工学研究科博士前期課程では、本来の専門科目である「基盤専門科目」だけでなく、近い他分野との融合をめざす「境界専門科目」、さらに新領域の開拓をめざす「学際選択科目」を設け、幅広い専門教育を行っています。また、国際性を涵養するために英語による専門教育も行っています。教養やデザイン力を涵養するために、大学院横断教育科目や博士課程リーディングプログラム科

目も受講できるようにしています。さらに研究を通じた実践的な教育により、研究の推進能力、成果の説明・発表能力及び高い倫理性等を備え、主体的に課題を発見し解決する能力を有する高度な技術者・研究者を育成します。

基礎工学研究科博士後期課程では、専門分野に関する高度で深い専門的知識の修得に加えて、研究を通じた実践的な教育により、研究の企画・立案能力、推進能力、成果の説明及び発表能力を備えた高度な技術者・研究者を育成します。また、将来、国内外の様々な分野のリーダーとして活躍できる人材を育成するため、研究を通して、幅広い教養・デザイン力・国際性を涵養する実践的な教育を行っています。

社会システム数理領域では、数理科学とシステム科学を中心にした学問横断型の技術開発・研究に貢献できる能力を学生に付与することを目標としています。確率論や統計科学などの数理科学と、システム最適化やシステム理論などのシステム科学を中心に「基盤科目」を設定し、数理的手法を駆使して技術開発・研究を行うために重要となる周辺研究分野を「境界専門科目」、さらに分野横断を促進するための幅広い知識の習得をめざして「学際選択科目」を設定しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

社会システム数理領域博士前期課程カリキュラムマップ

1 年次		2 年次		
基盤必修	社会システム数理研究Ⅰ,Ⅱ 社会システム数理ゼミナールⅠ,Ⅱ		社会システム数理研究Ⅲ,Ⅳ 社会システム数理ゼミナールⅢ,Ⅳ	
	システム	非線形システム論 システム数理特論 システム計画論 知的計画論		
基盤選択	数 理	数理概論Ⅰ,Ⅱ 数理特論Ⅰ 確率微分方程式 確率解析 数学解析		
	金 融	金融数理特論 金融数理概論 金融確率解析 年金数理 数理計量ファイナンス特別講義Ⅰ～Ⅳ		
	統 計	統計数理概論Ⅰ,Ⅱ データ科学特論Ⅰ,Ⅱ 時系列解析 数理特論Ⅱ,Ⅲ 統計的推測		
境界選択	システム制御論 適応システム論 信号解析論 システム解析論 応用ロボット学特論 知能ロボット学特論 ロボットシステム特論 複合現実感システム論 画像システム論 ヒューマンインタフェース工学特論 データベースシステム論 コミュニケーションロボット論 量子情報科学			
	数理解析 統計解析	非線形現象解析 非線形構造解析 数理モデル論 関数解析Ⅰ,Ⅱ 統計モデリング 多変量解析 データ解析		
学際選択	非線形力学特論 システム安定解析 コンピュータシヨナルバイオメカニクス 最適設計論 生体システム工学 医用バーチャルリアリティ論 科学技術移転論 科学技術論A, B 技術経営学 ナノテクキャリアアップ特論 Introduction to Engineering Science			

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「社会システム数理」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学部、大学院(修士)の教育課程等における学修を通して、

- ・確かな基礎学力、専門分野における十分な知識を身につけている人
- ・主体的に学ぶ態度を身につけている人
- ・自ら課題を発見し探求しようとする意欲のある人

を受け入れます。

社会システム数理領域では、以下のような人材を求めています。

- ・数学、統計学、システム科学、情報科学のいずれかの基礎知識を十分に持っている人
- ・社会・経済や理工学の諸問題に確率論・統計学に関連する数理科学的な方法またはシステム科学的な方法がどのように応用されるかに関心を持っている人
- ・これらの基礎学問とその境界領域で新しい分野を創成する意欲のある人
- ・人間に優しい安全なネットワーク社会の基礎作りに貢献したいと思っている人

【入学者選抜の方針】

大阪大学や基礎工学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、基礎工学研究科の理念に共感し、博士課程システム創成専攻社会システム数理領域に入学を希望する以下のような学生を求めています。

- ・基礎力に裏打ちされた専門性ととも新しい分野を切り拓く意欲を持っている人
- ・自分の考えを説明でき、さまざまな人たちと建設的に対話する情熱を持っている人
- ・異分野との交流や国際的な交流を積極的に推し進めようとする意欲を持っている人

また、上記資質を有する優秀な人材を国内外から多様な方法により選抜することを入試の基本方針に定めています。このために、博士前期課程では一般選抜試験に加えて、推薦入試や社会人入試などの多様な選抜試験を実施するほか、留学生向けには、英語特別コースおよび特別選抜制度を設けています。博士後期課程では社会人特別選抜を含む一般選抜試験において、数理科学領域に関する口頭試問、修士学位論文または研究業績概要等、出身大学院(大学)の学業成績等を総合して選抜を実施します。

言語文化研究科

■ 教育目標・ディプロマ・ポリシー・カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、言語文化研究科は、言語と文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を身につけた人材の育成を目標としています。

グローバル化や情報化が進展する今日、政治・経済・教育などの領域において、世界の諸地域・諸民族の相互理解を成り立たせるためには、それぞれの言語や文化を適切に理解し尊重する姿勢が必要とされます。また、言語や文化の差異を越えて豊かなコミュニケーションを実現する言語能力や、言語文化の成り立ちに対する洞察力、得られた知見を多様な情報手段によって発信する能力などが求められます。

言語文化研究科は、言語文化を取り巻くこのような状況に即応すべく、3つの専攻から成ります。言語文化専攻は、おもに超域的・普遍的・理論的な観点から、言語文化の成り立ちや、そのあるべき姿を追求します。言語社会専攻では、世界の諸言語とそれを基底とする社会や文化に関する理論と実践にわたる教育研究を行います。日本語・日本文化専攻は、日本語・日本文化を取り巻く新しい状況において、日本語・日本文化を世界の諸言語・文化・社会との有機的な関係の中で捉える教育研究を推進しています。

言語文化研究科は、これらの3専攻の特色を活かしつつ、博士前期課程及び博士後期課程を通じて、社会の多様な分野のリーダーとして活躍し得る人材の育成に取り組めます。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、言語文化研究科は、言語と文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。

博士前期課程においては、以下の能力を身につけた学生に、修士(言語文化学)または修士(日本語・日本文化)の学位を授与します。

- ・ 言語文化に関する特定のテーマについて、データや文献などの資料を的確に収集し、正確に読解・分析することができる。
- ・ 自分の専門分野について、独創性・実証性・論理性・明確性等の要件を満たした論文を執筆することができる。
- ・ 言語や文化の差異を越えてコミュニケーションを図るための高度な言語運用能力を習得している。
- ・ 日本及び国際社会の多様な言語文化事象に関して、学際的で幅広い興味・関心及び教養を有している。

また、博士後期課程においては、以下の能力を身につけた学生に、博士(言語文化学)または博士(日本語・日本文化)の学位を授与します。

- ・ 自立した研究者並びに高度専門職業人に必要な言語文化に関する深い学識と高度な研究能力を有している。
- ・ 言語文化に関する専門分野について、自ら課題を設定し、先行研究を広く踏まえつつ、独創的・先端的な研究を展開することができる。
- ・ 学際的で幅広い教養に裏打ちされた高度な言語運用能力を身につけ、自分の研究によって得られた知見を日本及び広く世界に発信することができる。
- ・ 言語文化を研究する立場から、国際化・情報化の進展する現代社会に深い関心を寄せ、それぞれの言語や文化を適切に理解し尊重しようとする姿勢を有している。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、言語文化研究科の教育は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得させるべく、体系的かつ多様な科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行います。また、授業科目の単位認定は、筆記試験、口頭試験もしくは研究報告によって行います。

言語文化専攻は、一つの目安として、言語文化比較交流論・言語文化システム論・現代超域文化論を中心に履修する分野、言語コミュニケーション論・言語文化教育論を中心に履修する分野、言語情報科学・言語認知科学を中心に履修する分野の3つの履修分野を設定しています。学生の研究指導は2名の教員が担当しますが、指導教員以外にも、専攻の全教員に指導を求めることができる「集団指導体制」を取っています。

言語社会専攻の前期課程は、24の専攻言語の科目群の他に、広域言語論、地域言語社会特論、複合領域特論、関連研究言語の科目群を設け、それぞれ多様な科目を提供しています。学生の研究指導は、前期課程の学生には各専攻言語の教員を中心に2名の教員が担当します。後期課程では、専攻言語を問わない教員3名による研究指導体制を取っています。

日本語・日本文化専攻では、前期課程において、日本語学・言語学系域、日本語教育学系域、日本文化学系域の3つの系域ごとに専門科目を開講しています。また、各系域に、全教員の担当による総論科目を開講し、広い視座から研究に取り組むための基礎的知識を教授します。研究指導は、前期課程の学生には2名、後期課程の学生には3名の教員が担当します。

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、言語文化研究科は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、多様な学生を募るための適切な選抜方式(原則として筆記試験及び口述試験による)を採用しています。

言語文化専攻は、総合的・超域的な言語文化研究を重視するため、人文学だけでなく、社会科学や自然科学の分野の学生、また留学生や社会人に広く門戸を開いています。博士前期課程の筆記試験では、カリキュラム・ポリシーに掲げた各履修分野に関する論述問題、履修分野共通の問題、外国語などの問題を課します。博士後期課程入学試験では、修士論文等の応募論文も審査の対象となります。

言語社会専攻では、特定地域の言語の専門的知識を身につけ、その言語ないし言語圏に関する言語学、文学、歴史学、社会学、政治学等の先端的な研究を実践し得る人材を適正に選抜するための入学試験を行います。英語教員リカレントコースと中国語教員リカレントコースでは、各言語の優れた専門的知識及び各言語圏の文化と社会に関する高度な教養を身につけようと望む現役の教員を求めています。

日本語・日本文化専攻は、一般、社会人、留学生の3つのカテゴリーで入学試験を行います。また、広く世界から優秀な人材を求めるため、入学時期と試験方法の異なる2つのコースを設けています。

- ・ 日本語・日本文化実践コース(一般、社会人、留学生) 4月入学
- ・ 日本語・日本文化専修コース(留学生のみ) 4月及び10月入学(博士後期課程は10月のみ)

言語文化研究科

学位プログラム「言語文化」

学位：修士(言語文化学)

教育目標

大阪大学および言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「言語文化」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「言語文化」では、博士前期課程において、言語と文化に関する高度な専門性、深い学識、教養、デザイン力、そして国際性を身につけた人材の育成を目標としています。

グローバル化や情報化が進展する今日、政治・経済・教育などの領域において、世界の諸地域・諸民族の相互理解を成り立たせるためには、それぞれの言語や文化を適切に理解し尊重する姿勢が必要とされます。また、言語や文化の差異を越えて豊かなコミュニケーションを実現させる言語能力や、言語文化の成り立ちに対する洞察力、得られた知見を多様な情報手段によって発信する能力などが求められます。

学位プログラム「言語文化」は、言語文化を取り巻くこのような状況に即応すべく、主に超域的・普遍的・理論的な観点から、言語文化の成り立ちや現状、そのあるべき姿を追求します。

学位プログラム「言語文化」は、博士前期課程を通じて、学生にカリキュラム・ポリシーによって編成された科目を履修させ、教員の適切で多面的な指導によって論文作成や研究発表をさせることで、言語文化に関する高度な専門性と深い学識、そして地域社会および国際社会に対する言語文化学的な洞察力を身につけた、学術・文化・教育・社会・産業などの多様な分野でリーダーとして活躍し得る人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および言語文化研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「言語文化」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「言語文化」は、言語と文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。

博士前期課程では、研究のための「基礎力」、「教養・学識」、「創造性・デザイン力」の3つのカテゴリーについて以下の「学習目標」を設定しており、それらの目標を達成したと判定された学生に修士(言語文化学)の学位を授与します。

- ・言語文化に関する特定の研究テーマについて、データや文献などの資料を的確に収集・分析することができる。〔基礎力〕
- ・コンピューターを使った言語情報処理やデータの統計処理をする能力を身につけている。〔基礎力〕

- ・留学生は高度な日本語運用能力を身につけている。（「基礎力」）
- ・言語や文化の差異を越えてコミュニケーションを図るための高度な言語運用能力を習得している。（「教養・学識」）
- ・日本及び国際社会の多様な言語文化事象に関して、学際的で幅広い興味・関心及び教養を有している。（「教養・学識」）
- ・言語、文化、教育、メディア、翻訳等に関する理論に精通している。（「教養・学識」）
- ・自分の専門分野について、独創性・実証性・論理性・明確性等の要件を満たした論文を執筆することができる。（「創造性・デザイン力」）
- ・論理的で説得力のある研究発表をするためのプレゼンテーション能力を身につけている。（「創造性・デザイン力」）
- ・一つの言語、文化、学問分野を越えた研究をするための方法論を身につけている。（「創造性・デザイン力」）

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語文化」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学および言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語文化」の教育は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得させるべく、体系的かつ多様な科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行います。また、授業科目の単位認定は、筆記試験、口頭試験もしくは研究報告によって行います。

学位プログラム「言語文化」は7つの講座によって構成され、カリキュラム・マップに示されているように、以下の3つの履修分野に分かれて教育・研究が行われます。

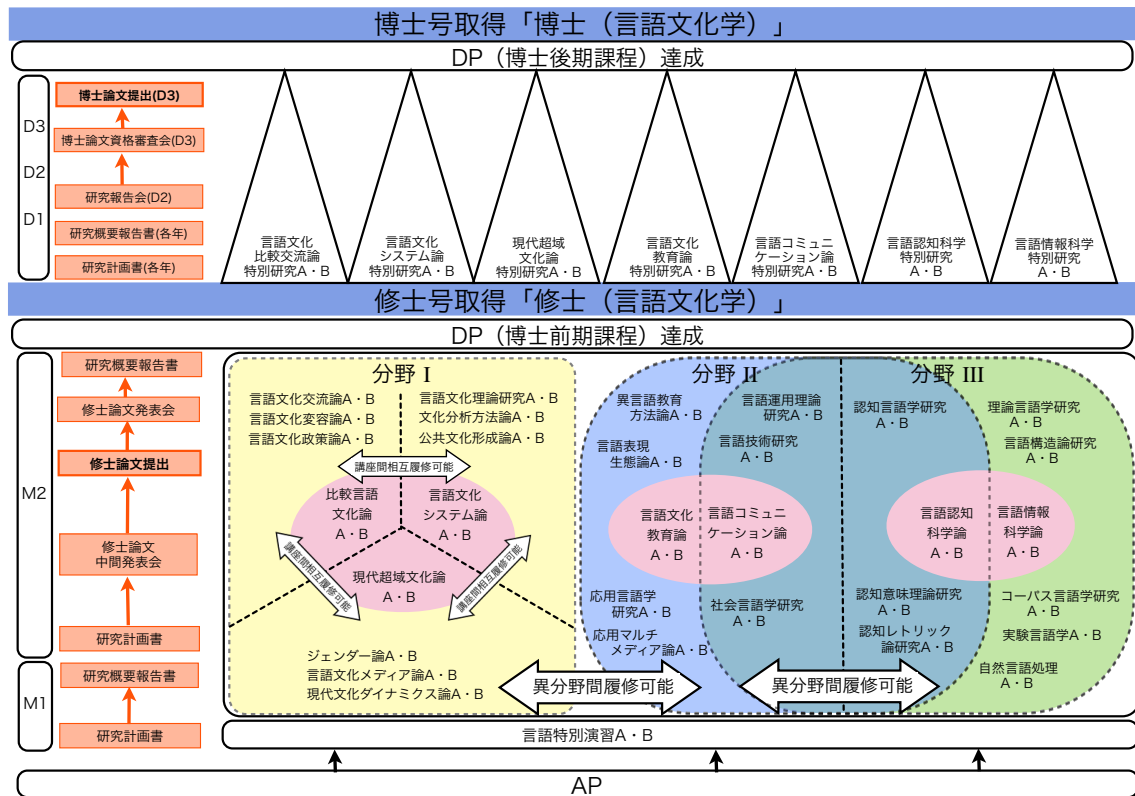
- ・履修分野Ⅰ：比較言語文化論、言語文化システム論、および、現代超域文化論を中心に履修する。
- ・履修分野Ⅱ：言語コミュニケーション論、および、言語文化教育論を中心に履修する。
- ・履修分野Ⅲ：言語情報科学、および、言語認知科学を中心に履修する。

上記の履修分野の科目をそれぞれの履修分野のコア科目群として位置づけていますが、言語文化専攻では総合的・超域的な言語文化研究を重視することから、従来の学問分野の領域を超えた横断的な教育・研究を可能にする場所として、学生は各自の研究関心を深め、広げるため、すべての履修分野の科目を自由に選択し、履修することができます。また、学生の研究課題や論文作成の指導についても、1名の学生に対し2名の指導教員が担当しますが、指定された指導教員以外にも言語文化専攻所属の全教員に直接指導を求めることができます。それを私たちは「集団指導体制」と呼んでいます。

以上のように、学位プログラム「言語文化」は、ディプロマ・ポリシーに掲げる「学習目標」を学生が達成できるように、授業の開講と研究指導の両面で、高度かつ多面的なカリキュラムを提供しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

学位プログラム「言語文化」(博士前期課程・博士後期課程)



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語文化」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「言語文化」は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、多様な学生を募るための適切な選抜方式(原則として筆記試験及び口述試験による)を採用しています。

学位プログラム「言語文化」は、総合的・超域的な言語文化研究を重視するため、人文学だけでなく、社会科学や自然科学の分野の学生、また留学生や社会人に広く門戸を開いています。

博士前期課程の入学試験は、夏と冬に2回行われます。夏季試験では、研究計画概要、カリキュラム・ポリシーに掲げた各履修分野に関する論述問題、外国語問題を含む履修分野共通の問題を課すとともに、口述試験を行い、ディプロマ・ポリシーに掲げる「学習目標」を達成できるための以下に挙げる項目について、入学前に修得しているべき能力を判定します。

- ・入学までに言語および文化に関わる科目を履修している。
- ・特定の研究テーマについてデータや文献などの資料を収集・分析することができる。
- ・コンピューターを使った言語情報処理やデータの統計処理についての基礎的知識を有する。
- ・留学生はN1相当の日本語運用能力を有する。
- ・言語や文化の差異を越えてコミュニケーションを図るための言語運用能力を習得している。
- ・日本及び国際社会の言語文化事象に関して、興味・関心及び教養を有している。
- ・言語、文化、教育、メディア、翻訳等に関する理論の基礎的知識を有する。
- ・言語文化に関する研究をするための方法論についての基礎的知識を有する。

冬季試験では、夏季試験と同様に研究計画概要、各履修分野に関する論述問題、履修分野共通の問題を課すとともに、口述試験を行い、ディプロマ・ポリシーに掲げる「学習目標」を達成できるための上記の項目について入学前に修得しているべき能力を判定します。また、外国語による高度なコミュニケーション能力を判定するために外国語を必須解答問題とします。

言語文化研究科

学位プログラム「言語社会」

学位：修士(言語文化学)

教育目標

大阪大学および言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「言語社会」では以下のとおり教育目標を定めています。

大阪大学及び言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「言語社会」は、世界の諸地域の言語と文化や社会に関する高度な専門性、深い学識、教養、デザイン力、そして国際性を身につけた人材の育成を目標としています。

学位プログラム「言語社会」は、世界の諸言語(中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語)とそれを基底とする社会と文化について理論と実践にわたる教授・研究を通し、

- ◎ 高度な言語運用能力
- ◎ 言語圏についての広く深い専門的知識
- ◎ 異文化を理解するための方法論

を身につけた研究者をめざす人材のみならず、国際舞台で活動するために必要な広い知識と高い教養そして外国に関する深い理解を有する有為な人材を養成することを教育目標としています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および言語文化研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「言語社会」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学及び言語文化研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語社会」は、地域文化研究コース(アジア・アフリカ言語文化コースおよびヨーロッパ・アメリカ言語文化コース)あるいは高度専門職業人コースにおいて、少なくとも2年間以上在学し、所定の授業科目から30単位以上を修得して以下の学習目標を達成したうえで、所定の研究指導プログラムに従って中間発表および最終発表を行い、所定の書式に従って修士論文を提出し、所定の審査および最終試験に合格した学生に修士(言語文化学)の学位を授与します。

学位プログラム「言語社会」が「高度な専門性と深い学識」「教養」「デザイン力」「国際性」の категорияについて設定する学習目標は以下のとおりです。

- ◎ 専攻する地域の言語について深い知識を有している

- ◎ 専攻する地域の文化表象について深い知識を有している
- ◎ 専攻する地域の歴史社会について深い知識を有している
- ◎ 問題解決のために知識と専攻語の能力を活用できる
- ◎ 世界の言語と文化と社会について幅広い知識を有している
- ◎ グローバルな視野に立ち柔軟に思考できる
- ◎ 世界の言語と文化と社会について、新たな問題を発見することができる
- ◎ 世界の言語と文化と社会について、自由な発想で考察することができる
- ◎ 外国語を駆使して文化の違いをこえて交流することができる
- ◎ 外国語を駆使して異なる文化を深く理解できる

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語社会」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学及び言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「言語社会」は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得するために、体系的かつ多様な科目を開設するとともに学位論文の作成等に関する指導を行います。授業科目の単位認定は、筆記試験、口頭試験もしくは研究報告等により行います。

学位プログラム「言語社会」は、学位授与の方針に掲げる専門的知識や技能を修得し、定められた学習目標を達成するため、以下の授業科目群を開設し、カリキュラム・マップに示されるような体系的な教育を行っています。

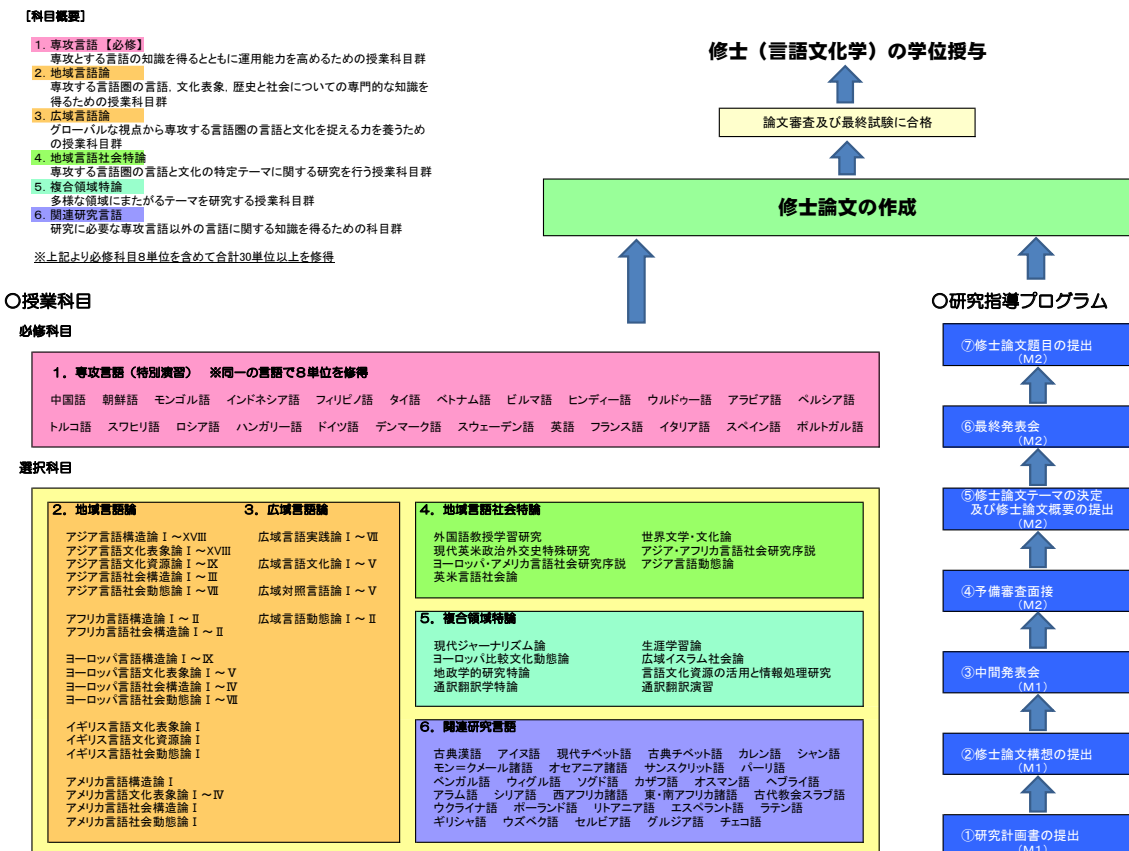
1. 専攻言語(専攻する言語の知識を得るとともに運用能力を高めるための授業科目群)【高度な専門性と深い学識】【国際性】
中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、デンマーク語、スウェーデン語、ドイツ語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語
2. 地域言語論(専攻する言語圏の言語、文化表象、歴史と社会についての専門的な知識を得るための授業科目群)【高度な専門性と深い学識】【国際性】【デザイン力】
アジア言語構造論、アフリカ言語構造論、ヨーロッパ言語構造論、アメリカ言語構造論、アジア言語文化表象論、ヨーロッパ言語文化表象論、イギリス言語文化表象論、アメリカ言語文化表象論、アジア言語文化資源論、イギリス言語文化資源論、アジア言語社会構造論、アフリカ言語社会構造論、ヨーロッパ言語社会構造論、アメリカ言語社会構造論、アジア言語社会動態論、ヨーロッパ言語社会動態論、イギリス言語社会動態論、アメリカ言語社会動態論
3. 広域言語論(グローバルな視点から専攻する言語圏の言語と文化を捉える力を養うための授業科目群)【高度な専門性と深い学識】【国際性】【デザイン力】
広域言語実践論、広域言語文化論、広域対照言語論、広域言語動態論
4. 地域言語社会特論(専攻する言語圏の言語と文化の特定テーマに関する研究を行う授業科目群)【高度な専門性と深い学識】【教養】【国際性】【デザイン力】

- 外国語教授学習研究、世界文学・文化論、現代英米政治外交史特殊研究、アジア・アフリカ言語社会研究序説、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説、アジア言語動態論、英米言語社会論
5. 複合領域特論(多様な領域にまたがるテーマを研究する授業科目群)【教養】【デザイン力】
現代ジャーナリズム論、生涯学習論、ヨーロッパ比較文化動態論、広域イスラム社会論、地政学的研究特論、言語文化資源の活用と情報処理研究、通訳翻訳学特論、通訳翻訳演習
6. 関連研究言語(研究に必要な専攻言語以外の言語に関する知識を得るための科目群)【高度な専門性と深い学識】【教養】【国際性】
アイヌ語、現代チベット語、古典チベット語、カレン語、シャン語、モン＝クメール諸語、オセアニア諸語、サンスクリット語、パーリ語、ベンガル語、ウイグル語、ソグド語、カザフ語、オスマン語、ヘブライ語、アラム語、シリア語、西アフリカ諸語、東・南アフリカ諸語、古代教会スラブ語、ウクライナ語、ポーランド語、リトアニア語、エスペラント語、ラテン語、ギリシア語、ウズベク語、セルビア語、グルジア語、チェコ語

学生は、専攻語を基底としてこれらの科目群を体系的に履修し、所定の研究指導プログラムに従って修士論文を執筆します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

言語文化研究科言語社会専攻博士前期課程のカリキュラム・マップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語社会」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

大阪大学及び言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語社会」は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、多様な学生を募るための適切な選抜方式(原則として筆記試験及び口述試験による)を採用しています。

学位プログラム「言語社会」は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、各コースで次のような人材を求めています。

地域文化研究コース(アジア・アフリカ言語文化コースおよびヨーロッパ・アメリカ言語文化コース)では、特定地域の言語(中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語)の専門的知識を身につけ、その言語あるいは言語圏の文化と社会に関する先端的研究、具体的には個別言語を対象にした言語学(語史や音韻、形態、統語、語用等の分析など)、各言語圏の文学(小説・演劇・詩等の文化表象の分析など)、各言語圏の歴史、社会、政治経済(社会の動態と構造の分析など)を扱う学問の先端的研究を実践する研究者をめざす学生を求めています。また同時に、世界の諸地域の言語や文化に関する高度の教養を身につけ、国際舞台で活躍しうるグローバル人材となることをめざす学生を求めています。

高度専門職業人コース(英語教員リカレント・コースおよび中国語教員リカレント・コース)では、中等教育の現場における英語および中国語の教育に役立てるため、それぞれの言語の高度な専門的知識とその言語圏の文化と社会に関する高度な教養を身につけようと望む現役教員を学生として求めています。

博士前期課程に入学するためには、上記の特定地域の言語とその言語圏の文化と社会について、本学外国語学部の卒業生と同等の学力を有していることが必要です。そして、上記のような学生を募るため、夏季と冬季の年2回に分けて、次のような選抜試験を行います。

- ◎ 研究活動に資する言語運用能力の高さを確かめるための「言語」の試験(社会人・外国人留学生を除く)
- ◎ 研究活動の基盤となる専門知識を確かめるための「専門科目」の試験(高度専門職業人コースを除く)
- ◎ 専門分野の知識や研究計画等を確かめるための口述試験

言語文化研究科

学位プログラム「日本語・日本文化」

学位：修士(日本語・日本文化)

教育目標

大阪大学および言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「日本語・日本文化」では次のとおり教育目標を定めています。

大阪大学と言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「日本語・日本文化」は、日本語・日本文化を通して日本と世界を結ぶ人材を養成することを目標としています。

近年の、アジア・アフリカの言語文化に対する関心の高まりに呼応して、日本語・日本文化研究の位置づけも従来とは変わり、今後、日本語・日本文化研究は21世紀の世界の言語文化の中で益々重要な位置を占めると考えられます。日本語・日本文化を取り巻くこの新しい状況において、本専攻では優れた人材を広く世界に求め、伝統的な学問の枠組みにとらわれることなく、日本語・日本文化を世界の諸言語・文化・社会の中で相対的にとらえる教育研究を推進します。学位プログラム「日本語・日本文化」は、(1) 今日の世界状況における新しい日本語・日本文化教育研究を推し進め、(2) 日本語・日本文化を通して日本と世界を結ぶ新しい人材を養成します。具体的には、次のような人材です。

- ・ 日本語・日本文化を他の言語・文化と比較対照する視座を持ち、学際的な日本語・日本文化研究を行う日本研究者
- ・ 高等教育レベルの留学生に対し日本語・日本文化を教授し、当該分野に関する高度な知識と教養を兼ね備えた教員
- ・ 諸外国において日本語・日本文化のために必要な企画・立案・運営等の実践能力を備えた国際性豊かで自律した高度専門職業人

そのために、学位プログラム「日本語・日本文化」においては、言語と文化に関する高度な専門性と深い学識に加え、それを国内外にわかりやすく発信するデザイン力、加えて、外国語能力を含む国際性を身につけた人材の育成を目標としています。つまり、学位プログラム「日本語・日本文化」で進める研究は、日本語と日本文化の研究にとどまるものではなく、世界の言語文化の研究につながるものであり、日本語・日本文化の教育研究を通じて、日本を発信し、あるいは世界の諸言語・諸文化に対する共感を深め、日本と世界を架橋する人材、ひいては世界の平和と安定に寄与する人材の育成という目標に向かって、これまで以上に積極的に応えていきます。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および言語文化研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「日本語・日本文化」では次のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学と言語文化研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「日本語・日本文化」は、日本語と日本文化に関する高度な専門性と深い学識、教養・デザイン力・国際性を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。

学位プログラム「日本語・日本文化」は、日本語・日本文化を通して日本と世界を結ぶ人材を養成することを目的としています。そこで求められる能力とは、日本語・日本文化を他の言語・文化と比較対照する視座をもって研究する能力、日本語・日本文化を他の言語・文化を母語・母文化とする人々に適切に教授する能力、異なる言語・文化を持つ人々と日本語・日本文化を持つ人々の間に立ち多言語・多文化間の調整を行う能力、などです。このような能力を備えた人材は、ソフトパワーとして、日本と世界各国をつなぐことのできる重要な人材として世界で活躍することが期待されます。

学位プログラム「日本語・日本文化」では、このような人材育成を実現するため、以下の「学習目標」を設定しており、それらの目標を達成したと判定された学生に修士（日本語・日本文化）の学位を授与します。

- 1 学際的で幅広い教養に裏打ちされた日本語並びに外国語の高度な言語運用能力を有している。
- 2 言語文化に関して、外国語文献を含む高度な文献を的確に読み解くことができる。
- 3 複雑化した種々の問題に対し、その解決のために専門的知識を活用することができる。
- 4 日本語学・言語学、日本語教育学、日本文化学の学際的な関連諸分野について、幅広い知識や問題意識を有している。
- 5 自分の専門分野について、独創的、論理的、説得的に、研究を展開することができる。
- 6 自分の専門分野において、学術誌に掲載されるような論文を執筆することができる。
- 7 自分の専門分野において、研究発表をするための高度なプレゼンテーション能力を身につけている。
- 8 自国の文化に関する深い見識を基盤として、異文化に対して偏見のない柔軟な見方ができ、文化を超えて真に人間的な交流ができる。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「日本語・日本文化」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

言語文化研究科日本語・日本文化専攻の教育は、大阪大学と言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得できるよう、体系的かつ多様な科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行います。

日本語・日本文化専攻では、教育目標に定める人材を育成するため、専門教育科目として、日本語学・言語学、日本語教育学、日本文化学のいずれかの領域（系域）に関する専門科目に加え、それらすべての基盤となる横断的基礎科目として、総論科目を設け自らが専門とする系域の関連領域についても学べる態勢を整えて、カリキュラムを編成しています。さらには、大学院横断教育科目の履修を推奨し、幅広い知見を基盤におくことによって、より高度な専門分野の研究を推し進める態勢をとっています。

このようにして得られた高度な研究成果も、他者にわかりやすく発信する「デザイン力」がなければ意味がありません。そのため、日本語・日本文化専攻においては、外国語能力を含むプレゼンテーション能力、広く「発信する力」をつけるため、教員が一方的に知識を授けるタイプの授業ではなく、学生側から発信し、学生間で、あるいは学生と教員の間で自由闊達な議論がおこなわれるよう授業を充実させることによって、デザイン力の育成をはかります。学生の研究課題や論文作成の指導については、1名の学生に対し1名の主指導教員と1名の副指導教員、都合2名の指導教員が修士論文の指導に当たります。さらに、最終審査は3名からなる審査委員会で行います。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

修士号取得（日本語・日本文化）

DP（博士前期課程）達成

研究計画書 → **中間発表会** → **最終発表会** → **修士論文提出**

AP → **DP（博士前期課程）達成**

DP（博士前期課程）達成 達成後:

- 日本文化学研究指導Ⅰ・Ⅱ
- 日本語学研究指導Ⅰ・Ⅱ

日本文化学

日本文学研究ⅢⅠ・Ⅱ	比較文学研究ⅠⅠ・Ⅱ
日本文学研究ⅡⅠ・Ⅱ	比較社会研究ⅡⅠ・Ⅱ
日本文学研究ⅠⅠ・Ⅱ	比較社会研究ⅠⅠ・Ⅱ
比較文学研究ⅡⅠ・Ⅱ	比較思想研究ⅡⅠ・Ⅱ
比較文学研究ⅠⅠ・Ⅱ	比較思想研究ⅠⅠ・Ⅱ

日本語教育学

日本語教育学基礎論ⅡⅠ・Ⅱ
日本語教育学基礎論ⅠⅠ・Ⅱ
日本語教育学実践論ⅠⅠ・Ⅱ
日本語教育学方法論ⅠⅠ・Ⅱ

日本語学

日本語学研究ⅤⅠ・Ⅱ	日本語学研究ⅥⅠ・Ⅱ
日本語学研究ⅢⅠⅠ・Ⅱ	日本語学研究ⅣⅠⅠ・Ⅱ
日本語学研究ⅡⅠⅠ・Ⅱ	対照言語学研究ⅡⅠⅠ・Ⅱ
日本語学研究ⅠⅠⅠ・Ⅱ	対照言語学研究ⅠⅠⅠ・Ⅱ

総論

- 日本文化学研究総論
- 日本語教育学研究総論
- 日本語学研究総論

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「日本語・日本文化」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

大阪大学及び言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「日本語・日本文化」は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、多様な学生を募るための適切な選抜方式(原則として筆記試験及び口述試験による)を採用しています。

学位プログラム「日本語・日本文化」では、日本語・日本文化分野の教育研究に強い関心を持つとともに、日本語・日本文化を世界の諸言語・文化の中で相対的に捉え、理解しようとする比較対照的視座をもった思考力に優れた学生を広く世界に求めます。将来、国内外の高等教育機関で当該分野における教育者や研究者を目指す方、海外協力機関や国際機関で日本語・日本文化の発信のために必要な企画・立案・交渉・運営等を行う専門職業人を目指す方、また日系企業等を活動の場として、日本と世界の国々との懸け橋となることを目指す方々の入学を期待しています。

博士前期課程の入学試験は、一般、社会人、外国人留学生の三つのカテゴリーでおこなっており、国内外から多様な人材を集めるために入学時期と試験方法の異なる二つのコース(日本語・日本文化実践コース及び日本語・日本文化専修コース)を設置しています。選抜試験の詳細は以下の表のとおりです。

日本語・日本文化実践コース(一般、社会人、外国人留学生) 4月入学	
一 般	提出書類(研究計画、小論文を含む)、筆記試験(専門科目及び言語)口述試験
社 会 人	提出書類(研究計画、小論文を含む)、筆記試験(専門科目)、口述試験
外国人留学生	提出書類(研究計画、小論文を含む)、筆記試験(専門科目)、口述試験
日本語・日本文化専修コース(外国人留学生のみ) 4月および10月入学	
提出書類(研究計画、小論文を含む)、Eメール等によるインタビューまたは口述試験	

なお、専修コースでは、海外から直接受験する方には口述試験の代わりにEメール等によるインタビューを実施します。また、10月入学希望者に対しては国費(日本政府奨学金)外国人留学生特別枠(6名分)も用意されています。

いずれのコースも、夏と冬の2回、入学試験を行い、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成できるための以下に挙げる項目について、入学前に習得しているべき能力を判定します。

- ・「日本語学・言語学」、「日本語教育学」、「日本文化学」の三つの系域のいずれかについて専門的な基礎知識を有する。
- ・「日本語学・言語学」、「日本語教育学」、「日本文化学」の三つの系域のいずれかの分野で研究を行うための方法論的知識を有する。
- ・「日本語学・言語学」、「日本語教育学」、「日本文化学」の三つの系域のいずれかについて専門的な基礎知識を有する。
- ・「日本語学・言語学」、「日本語教育学」、「日本文化学」の三つの系域のいずれかの分野で研究を行うための方法論的知識を有する。
- ・特定の研究テーマについてデータや文献などの資料を収集・分析することができる。

言語文化研究科

学位プログラム「言語文化」

学位：博士(言語文化学)

教育目標

大阪大学および言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「言語文化」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「言語文化」では、博士後期課程において、言語と文化に関する高度な専門性と深い学識・教養、独創的なデザイン力、幅広い国際性を身につけた人材の育成を目標としています。

グローバル化や情報化が進展する今日、政治・経済・教育などの領域において、世界の諸地域・諸民族の相互理解を成り立たせるためには、それぞれの言語や文化を適切に理解し尊重する姿勢が必要とされます。また、言語や文化の差異を越えて豊かなコミュニケーションを実現する言語能力や、言語文化の成り立ちに対する洞察力、得られた知見を多様な情報手段によって発信する能力などが求められます。

学位プログラム「言語文化」は、言語文化を取り巻くこのような状況に即応すべく、主に超域的・普遍的・理論的な観点から、言語文化の成り立ちや現状、そのあるべき姿を追求します。

学位プログラム「言語文化」は、博士後期課程を通じて、学生にカリキュラム・ポリシーによって編成された科目を履修させ、教員の適切で多面的な指導によって論文作成や研究発表をさせることで、言語文化に関する高度な専門性と深い学識、そして地域社会および国際社会に対する言語文化学的な洞察力を身につけた、学術・文化・教育・社会・産業などの多様な分野でリーダーとして世界で活躍し得る人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語文化」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学および言語文化研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語文化」は、言語と文化に関する高度な専門性と深い学識・教養、独創的なデザイン力、幅広い国際性を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。

博士後期課程では、研究のための「高度な技術力」、「高度な教養・学識」、「高度な創造性・デザイン力」の3つのカテゴリーについて以下の「学習目標」を設定しており、それらの目標を達成したと判定された学生に博士(言語文化学)の学位を授与します。

- ・ コンピューターを使った言語情報処理やデータの統計処理をする高度な能力を身につけている。
(「高度な技術力」)
- ・ 学際的で幅広い教養に裏打ちされた高度な言語運用能力を有している。(「高度な技術力」)

- ・ 自立した研究者並びに高度専門職業人に必要な言語文化に関する深い学識と高度な研究能力を有している。（「高度な教養・学識」）
- ・ 言語文化を研究する立場から、国際化・情報化の進展する現代社会に深い関心を寄せ、それぞれの言語や文化を適切に理解し尊重しようとする姿勢を有している。（「高度な教養・学識」）
- ・ 言語文化に関する専門分野について、自ら課題を設定し、先行研究を広く踏まえつつ、独創的・先端的な研究を展開することができる。（「高度な創造性・デザイン力」）
- ・ 自分の専門分野について、日本及び国際的な学術誌に掲載されるような論文を執筆することができる。（「高度な創造性・デザイン力」）
- ・ 日本及び国際学会で研究発表をするための高度なプレゼンテーション能力を身につけている。（「高度な創造性・デザイン力」）

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語文化」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学および言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語文化」の教育は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得させるべく、体系的かつ多様な科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導によって行います。また、授業科目の単位認定は、筆記試験、口頭試験もしくは研究報告によって行います。

学位プログラム「言語文化」は7つの講座によって構成され、カリキュラム・マップに示されているように、以下の3つの履修分野に分かれて教育・研究が行われます。

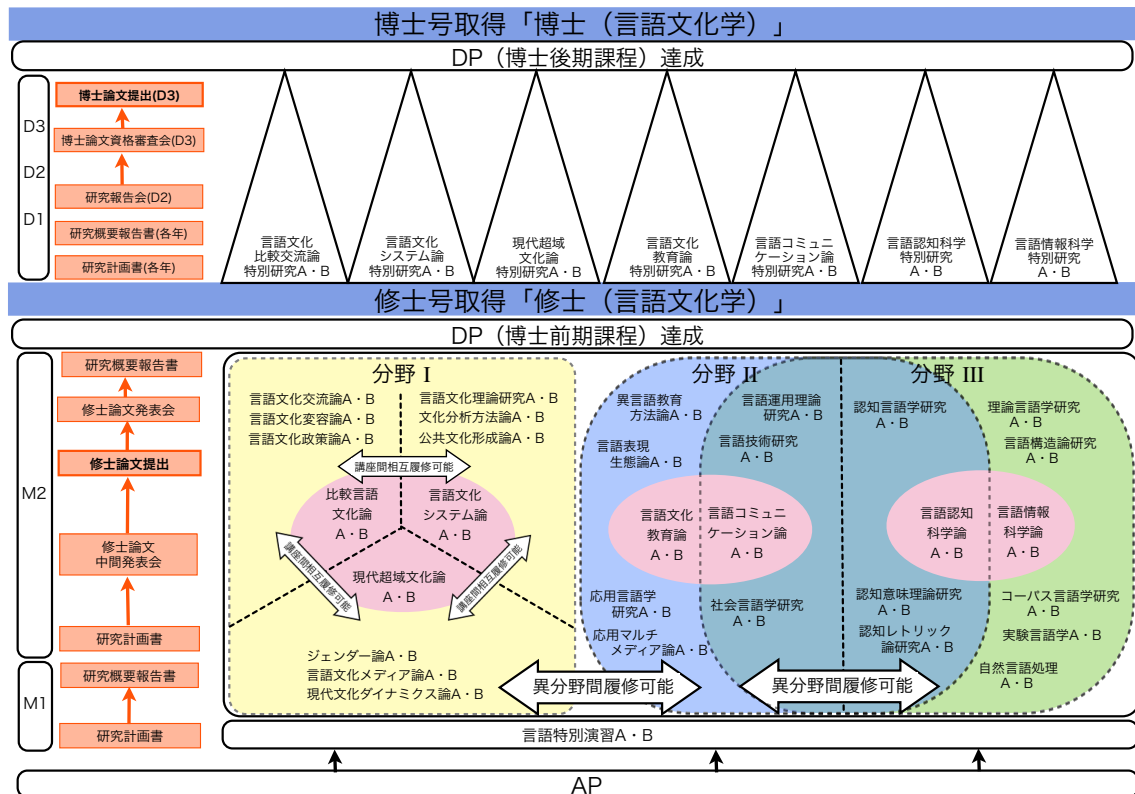
- ・ 履修分野Ⅰ：言語文化比較交流論特別研究、言語文化システム論特別研究、および、現代超域文化論特別研究を履修する。
- ・ 履修分野Ⅱ：言語コミュニケーション論特別研究、および、言語文化教育論特別研究を履修する。
- ・ 履修分野Ⅲ：言語情報科学特別研究、および、言語認知科学特別研究を履修する。

上記の履修分野の科目をそれぞれの履修分野のコア科目として位置づけていますが、学位プログラム「言語文化」では総合的・超域的な言語文化研究を重視することから、従来の学問分野の領域を超えた横断的な教育・研究を可能にする場所として、学生は各自の研究関心を深め、広げるため、すべての履修分野の科目を自由に選択し、履修することができます。また、学生の研究課題や論文作成の指導についても、1名の学生に対し2名の指導教員が担当し、博士論文資格審査に合格するとさらに1名の指導教員がつき、3名の指導教員が博士論文の指導に当たります。しかしながら、指定された指導教員以外にも言語文化専攻所属の全教員に直接指導を求めることができます。それを私たちは「集団指導体制」と呼んでいます。

以上のように、学位プログラム「言語文化」は、ディプロマ・ポリシーに掲げる「学習目標」を学生が達成できるように、授業の開講と研究指導の両面で、高度かつ多面的なカリキュラムを提供しています。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

学位プログラム「言語文化」(博士前期課程・博士後期課程)



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語文化」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

大阪大学および言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語文化」は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、多様な学生を募るための適切な選抜方式(原則として筆記試験及び口述試験による)を採用しています。

学位プログラム「言語文化」は、総合的・超域的な言語文化研究を重視するため、人文学だけでなく、社会科学や自然科学の分野の学生、また留学生や社会人に広く門戸を開いています。

博士後期課程の入学試験は、冬に行われます。入学試験は、研究計画概要、論述問題(外国語問題)を課すとともに、口述試験、そして修士論文等の応募論文の審査を行い、ディプロマ・ポリシーに掲げる「学習目標」を達成できるための以下に挙げる項目について、入学前に修得しているべき能力を判定します。

- ・入学までに博士前期(修士)課程で言語および文化に関わる科目を履修している。
- ・コンピューターを使った言語情報処理やデータの統計処理をする能力を身につけている。
- ・高度な言語運用能力を有している。
- ・言語文化に関する基本的な学識と研究能力を有している。
- ・国際化・情報化の進展する現代社会に深い関心を寄せ、それぞれの言語や文化を適切に理解し尊重しようとする姿勢を有している。
- ・言語文化に関する専門分野について、自ら課題を設定し、先行研究を踏まえつつ研究を展開することができる。
- ・自分の専門分野について、論文を執筆することができる。
- ・研究発表をするためのプレゼンテーション能力を身につけている。

言語文化研究科

学位プログラム「言語社会」

学位：博士(言語文化学)

教育目標

大阪大学および言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「言語社会」では以下のとおり教育目標を定めています。

大阪大学及び言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「言語社会」は、世界の諸地域の言語と文化や社会に関する高度な専門性、深い学識、教養、デザイン力、そして国際性を身につけた人材の育成を目標としています。

学位プログラム「言語社会」は、世界の諸言語(中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語)を基底とする社会と文化について理論と実践にわたる教授・研究を通し、

- ①極めて高度な言語運用能力
 - ②言語圏についての先端的な専門的知識
 - ③異文化を総合的に理解するための方法論
 - ④新たな学問的な知見を提起する能力
- を身につけた研究者を養成することを教育目標としています。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および言語文化研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「言語社会」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学及び言語文化研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語社会」は、博士後期課程に少なくとも3年間以上在学し、8単位以上の単位を修得して以下の学習目標を達成したうえで、所定の研究指導プログラムにしたがって中間発表および最終発表を行い、所定の書式にしたがって博士論文を提出し、所定の審査および最終試験に合格した学生に博士(言語文化学)の学位を授与します。

学位プログラム「言語社会」では、「高度な専門性と深い学識」「教養」「デザイン力」「国際性」のカテゴリーについて、以下のような学習目標を設定しています。

- ◎専攻する地域の言語について先端的な知識を有している
- ◎専攻する地域の文化表象について先端的な知識を有している
- ◎専攻する地域の歴史社会について先端的な知識を有している
- ◎問題解決のために知識と専攻語の能力を活用できる
- ◎世界の言語と文化と社会について幅広く深い知識を有している
- ◎グローバルな視野に立ち専門的な知識を活かし柔軟に思考できる
- ◎世界の言語と文化と社会について、新たな問題を発見し、解決の道筋を提案することができる
- ◎世界の言語と文化と社会について、自由な発想で考察し、新たな知見を提起することができる
- ◎外国語を駆使して文化の違いをこえて学問的な交流をすることができる
- ◎外国語を駆使して異なる文化を深く理解し、研究活動に活かすことができる

また、上記の所定の課程を修了した者のほか、研究分野および内容に鑑み、本専攻に博士論文を提出する者で、所定の審査に合格し、本専攻の博士後期課程を修了した者と同等以上の学力を有することを確認した者にも博士（言語文化学）の学位を授与します。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語社会」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学及び言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語社会」は、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識や技能を修得するために、体系的かつ多様な科目を開設するとともに学位論文の作成等に関する指導を行います。授業科目の単位認定は、筆記試験、口頭試験もしくは研究報告等により行います。

学位プログラム「言語社会」は、学位授与の方針に掲げる専門的知識や技能を修得し、定められた学習目標を達成するため、以下の授業科目群を開設し、カリキュラム・マップに示されるような体系的な教育を行っています。

1. 専攻科目（専攻する言語圏の先端的な知識を身につけるための授業科目群）【高度な専門性と深い学識】【国際性】【デザイン力】

広域対象言語論特別研究、アジア・アフリカ言語構造論特別研究、ヨーロッパ・アメリカ言語構造論特別研究、アジア・アフリカ文化表象論特別研究、ヨーロッパ・アメリカ文化表象論特別研究、アジア・アフリカ言語社会論特別研究、ヨーロッパ・アメリカ言語社会論特別研究

2. 地域言語社会特論（専攻する言語圏の言語と文化の特定のテーマに関する先端的研究を行う授業科目群）【高度な専門性と深い学識】【教養】【国際性】【デザイン力】

外国語教授学習研究、世界文学・文化論、現代英米政治外交史特殊研究、アジア・アフリカ言語社会研究序説、ヨーロッパ・アメリカ言語社会研究序説、アジア言語動態論、英米言語社会論

3. 複合領域特論(多様な学問領域にまたがるテーマを研究する授業科目群)【教養】【デザイン力】
現代ジャーナリズム論、生涯学習論、ヨーロッパ比較文化動態論、広域イスラム社会論、地政学的研究特論、言語文化資源の活用と情報処理研究、通訳翻訳学特論、通訳翻訳演習

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

言語文化研究科言語社会専攻博士後期課程のカリキュラム・マップ



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語社会」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

大阪大学及び言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「言語社会」は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、多様な学生を募るための適切な選抜方式を採用しています。

学位プログラム「言語社会」は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、特定地域の言語（中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、フィリピン語、タイ語、ベトナム語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、アラビア語、ペルシア語、トルコ語、スワヒリ語、ロシア語、ハンガリー語、ドイツ語、デンマーク語、スウェーデン語、英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語）の専門的知識を有し、その言語あるいは言語圏の文化と社会に関する先端的研究、具体的には個別言語を対象にした言語学（語史や音韻、形態、統語、語用等の分析など）、各言語圏の文学（小説・演劇・詩等の文化表象の分析など）、各言語圏の歴史、社会、政治経済（社会の動態と構造の分析など）を扱う学問の先端的研究を実践するに十分な資質をもつ学生を求めています。

博士後期課程に入学するためには、上記の特定地域の言語とその言語圏の文化や社会について、本研究科前期課程修了者と同等の専門的知識と言語運用能力を有することが求められます。そして、上記のような学生を募るため、年1回、次のような選抜試験を行います。

◎研究活動に資する言語運用能力の高さを確かめるための「言語」の筆記試験

◎専門分野の知識や研究計画等を確かめるための口述試験

言語文化研究科

学位プログラム「日本語・日本文化」

学位：博士(日本語・日本文化)

教育目標

大阪大学および言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「日本語・日本文化」では以下のとおり教育目標を定めています。

大阪大学と言語文化研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「日本語・日本文化」は、日本語・日本文化を通して日本と世界を結ぶ人材を養成することを目標としています。

近年の、アジア・アフリカの言語文化に対する関心の高まりに呼応して、日本語・日本文化研究の位置づけも従来とは変わり、今後、日本語・日本文化研究は21世紀の世界の言語文化の中で益々重要な位置を占めると考えられます。日本語・日本文化を取り巻くこの状況において、学位プログラム「日本語・日本文化」では優れた人材を広く世界に求め、伝統的な学問の枠組みにとらわれることなく、日本語及び日本文化を世界の諸言語・文化・社会の中で相対的にとらえる新しい教育研究を推進します。

学位プログラム「日本語・日本文化」は、(1) 今日の世界状況における新しい日本語・日本文化教育研究を推し進め、(2) 日本語・日本文化を通して日本と世界を結ぶ新しい人材を養成します。

そのために、学位プログラム「日本語・日本文化」においては、言語と文化に関する高度な専門性と深い学識に加え、それを国内外にわかりやすく発信するデザイン力、加えて、外国語能力を含む国際性を身につけた人材の育成を目標としています。即ち、日本語・日本文化研究は、日本語と日本文化の研究にとどまるものではなく、世界の言語文化の研究につながるものであり、日本語・日本文化の教育研究を通じて、日本を発信し、あるいは世界の諸言語・諸文化に対する共感を深め、日本と世界をつなぐことのできる人材、ひいては世界の平和と安定に寄与する人材の育成という目標に向かって、これまで以上に積極的に応えていきます。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および言語文化研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「日本語・日本文化」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学と言語文化研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「日本語・日本文化」は、日本語と日本文化に関する高度な専門性と深い学識・教養、独創的なデザイン力、幅広い国際性を身につけ、所定の単位を修得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した学生に学位を授与します。

日本語・日本文化研究は、単に日本語または日本文化研究にとどまるものではなく、世界の諸言語・諸文化との比較対照という視座を推進、発展させることによって、より大きな成果が得られるものと考

えます。この視点にたち、日本語・日本文化を、他の言語文化を母語・母文化とする人々に適切に教授する能力、異なる言語・文化を持つ人々と日本語・日本文化の中に生きる人をつなぐことのできる調整能力をもった人材の育成に取り組みます。このような人材は、混迷を深める現代において、必要不可欠な人材として世界で活躍することが期待されます。

学位プログラム「日本語・日本文化」では、このような人材育成を実現するため、以下の「学習目標」を設定しており、それらの目標を達成したと判定された学生に博士（日本語・日本文化）の学位を授与します。

- 1 学際的で幅広い教養に裏打ちされた高度な日本語並びに外国語の言語運用能力を有している。
- 2 言語文化に関して、外国語文献を含む高度な文献を的確に読み解くことができる。
- 3 高度に複雑化した種々の問題に対し、その解決のために専門的知識を活用することができる。
- 4 日本語学・言語学、日本語教育学、日本文化学の学際的な関連諸分野について、幅広く高度な知識や問題意識を有している。
- 5 自分の専門分野について、独創的、論理的、説得的に、研究を展開することができる。
- 6 自分の専門分野において、国内あるいは国際的な学術誌に掲載されるような論文を執筆することができる。
- 7 自分の専門分野において、国内あるいは国際学会で、研究発表をするための高度なプレゼンテーション能力を身につけている。
- 8 自国の文化に関する深い見識を基盤として、異文化に対して偏見のない柔軟な見方ができ、文化を超えて真に人間的な交流ができる。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学のおよび言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「日本語・日本文化」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学と言語文化研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「日本語・日本文化」では、教育目標に定める人材を育成するため、ディプロマ・ポリシーに掲げる「学習目標」を学生が達成できるように、授業の開講と研究指導の両面で、高度かつ専門的なカリキュラムを提供しています。専門教育科目として、日本語学・言語学、日本語教育学、日本文化学の領域に関する専門科目をおき、当該分野に関する文献を厳密にまた批判的に読みこなす力をつけ、その前提にたって、自らの独創的な論をたてる基盤を整えています。また、日本語および日本文化を他の言語・文化と比較対照させて、相対的に捉える視座を養うよう、比較言語学・比較文学・比較歴史学などの科目をおき、より立体的に言語・文化を位置づけ、深い考察ができる視座を提供します。授業科目の単位の授与は、学期末等に行う筆記試験、口頭試験又は研究報告等の判定結果に基づいて行います。

このようにして得られた高度な研究成果も、他者にわかりやすく発信する「デザイン力」がなければ意味がありません。そのため、学位プログラム「日本語・日本文化」においては、外国語能力を含むプレゼンテーション能力、広く「発信する力」をつけるため、一方的受動的に知識を受けるタイプの授業

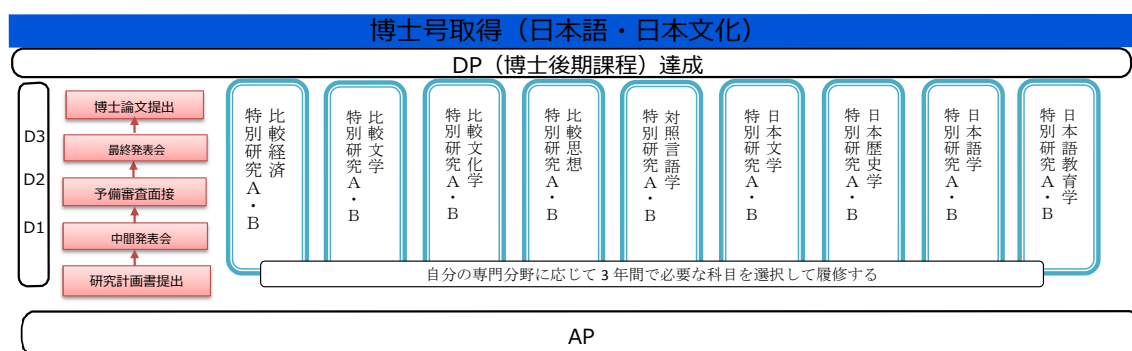
ではなく、学生側から発信し、学生間で、あるいは学生と教員の間で議論が自由闊達におこなわれるよう授業を充実させることによって、デザイン力の育成をはかります。

最後に、学位プログラム「日本語・日本文化」が考える「国際性」とは、単に外国語の運用能力のことだけをいうではありません。自国の言語文化の深い見識を基盤として、他の言語、他の文化に対して偏見のない柔軟な見方ができ、言語・文化の壁を超えて真に人間的な交流ができる力を身につけた人材のことです。

学位プログラム「日本語・日本文化」では、学生は各自の研究関心を深め、また広げるため、すべての履修分野の科目を自由に選択し、学ぶことができます。また、学生の研究課題や論文作成の指導についても、1名の学生に対し1名の主指導教員と2名の副指導教員、都合3名の指導教員が博士論文の指導に当たります。さらに、最終審査は5名からなる審査委員会で行います。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

言語文化研究科 日本語・日本文化専攻



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「日本語・日本文化」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

大阪大学及び言語文化研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「日本語・日本文化」は、教育目標に定める人材育成の方針に沿って、多様な学生を募るための適切な選抜方式(原則として筆記試験及び口述試験による)を採用しています。

学位プログラム「日本語・日本文化」では、日本語・日本文化分野において、他の言語・文化との比較対照的視座から学際的な研究を行う、思考力に優れた学生を広く世界に求めます。将来、国内外の高等教育機関で当該分野における専任の教員を目指す方、海外協力機関や国際機関で日本語・日本文化の発信のために必要な企画・立案・交渉・運営等を指導的立場で行う高度専門職業人を目指す方々の入学を期待しています。

博士後期課程においては、入学試験におけるコースの区分はありませんが、博士前期課程と同じく国内外から多様な人材を集めるために入学時期と試験方法の異なる二つの機会を提供しています。選抜試験の詳細は以下の表のとおりです。

4 月 入 学
提出書類(研究計画、修士論文を含む)、筆記試験(言語)、口述試験
10月入学(外国人留学生のみ)
提出書類(研究計画、小論文を含む)、Eメール等によるインタビューまたは口述試験

なお、10月入学希望者で海外から直接受験する方には口述試験の代わりにEメール等によるインタビューを実施します。また、国費(日本政府奨学金)外国人留学生特別枠(4名分)も用意されています。

これらの入学試験によって、ディプロマ・ポリシーに掲げる目標を達成できるための以下に挙げる項目について、入学前に修得しているべき能力を判定します。

- ・日本語及び日本文化を世界の諸言語・文化・社会の中で相対的にとらえる比較対照的視座を有する。
- ・「日本語学・言語学」、「日本語教育学」、「日本文化学」の三つの系域のいずれかにおける研究歴があり、自ら課題を設定し、研究を計画的に進めていくことができる。
- ・自分の専門分野について、論文を執筆することができる。

国際公共政策研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミSSION・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、国際公共政策研究科では、社会で発生する公共的性格をもつ諸問題（公共政策課題）、特に国際的なそれに対し、一定の学問分野の高度な専門性を前提としつつ（専門性）、種々の観点からそれを分析できる能力をもち（複眼性・学際性）、かかる能力に基づいて得られた知見により問題の本質を解明し、その解決策を人々に説得的に提示し、社会で指導的な役割を果たし（指導性）、文化の進展と人々の安寧・福祉の向上に寄与する人材を育成します。それは次の認識に基づきます。

- 1 現代の国際社会はグローバル化が進展し、かつてない規模で人・物・資本などが国境を越えて移動している。そのため、国際社会と国内社会の境界線も曖昧になり、国際問題と国内問題とが深く関連するようになった。その結果、公共政策課題は国際的性格を有するものが多い。
- 2 公共政策課題は、通例、法的・政治的・経済的側面を有する。その解決には、法律学・政治学・経済学の高度な専門的能力を前提としつつも、そのいずれかひとつの視角から分析するだけでは不十分である。
- 3 公共政策課題に対して多角的視点から分析を行っても、その分析結果を他者に説得的に説明できなければ社会変革（イノベーション）をもたらすことはできない。リーダーシップを発揮するためには、コミュニケーション能力を備えることが必須である。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、国際公共政策研究科博士前期課程では、次の基準を満たした学生に修士（国際公共政策）の学位を授与します。

- 1 所定の単位を修得し、法律学・政治学・経済学における高度な専門的能力を身につけている。
- 2 修士論文は、著者の問題意識、方法論、分析・論証及び結論が論理的に構築され、かつ、他者に著者の主張が適切に伝達されるよう明瞭・平明に記述されている。
- 3 修士論文が、次の属性を備えている。
 - ①新規性（内容が新規であり、独創的であること）
 - ②継承性（先行研究を十分に渉猟し、先行研究に対する位置づけが明確であること）
 - ③実証性（確かな典拠・データに基づいて議論が展開されていること）
 - ④論理性（議論が論理的に展開されていること）
 - ⑤明確性（明快・適切な表現が用いられていること）
- 4 修士論文の口頭試験において、十分に準備された明快なプレゼンテーションを行うことができる。
- 5 修士論文の口頭試験において、審査委員である教員と対等の研究者として討論することができる。

国際公共政策研究科博士後期課程では、上記に加えて（ただし修士論文は博士論文と読み替える）、さらに次の基準を満たした学生に博士（国際公共政策）の学位を授与します。

- 6 独立した研究者として研究を遂行する学力・能力をもち、今後、一定水準の学術的価値をもつ論文その他の知的生産物を継続的に公表していくことができる。
- 7 博士論文は、専門分野における高度の学術的価値を有する。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、国際公共政策研究科は、次の属性を備えた人材を育成するための授業を開講し、試験、レポート、授業における報告・討論等により、当該科目について専門性等を備えたと判断できる学生に単位を授与します。

1 専門性

国際公共政策研究科は、法律学・政治学・経済学の一線級の研究者である教員を擁し、高度な専門性を有する多彩な授業を提供している。また、学生には、入学時に指導教員を配置し、2年次にはさらに副指導教員を定め、修士論文・博士論文の執筆のために必要な研究指導がなされる。また、社会科学系の学問分野では、理論研究とともに、実務レベルの評価に耐えうるということが重要なため、本研究科では、官公庁や国際機関において実務経験のある研究者を有するほか、官界や民間などの実務家を非常勤講師として任用し、これらの教員が実務的妥当性を確保するための授業を提供している。

2 学際性・複眼性

学際性を有する研究を促進するため、本研究科では、初学者を対象とした法律学・政治学・経済学の基礎を学ぶ科目を提供している。また、通常の授業においても、多様な方法論を用いた授業を提供している。

3 国際性

本研究科では、国際関係論・国際法・国際経済学など、国際性を有する授業科目を多数配置するとともに、英語で行われる授業も相当数開講している。

4 コミュニケーション能力・リーダーシップ

本研究科では、ネゴシエーションやディベート、リーダーシップ、インターンシップなどの授業を提供しており、コミュニケーション能力の向上と指導性の養成に努めている。

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、国際公共政策研究科は、教育目標に定めた人材を育成するために、次のような者を選抜する。

- 1 公共政策課題、たとえば、平和や安全保障、環境問題、経済発展・開発、人権の保障などの諸課題に関心を有する者
- 2 これらの公共政策課題を種々の観点から解明することを望む者
- 3 学習によって得た知識やものの考え方などを用いて、他者と積極的に議論をすることを希望する者
- 4 公共政策課題の解決に向けて指導性を発揮したいと考える者
- 5 外国語、特に英語に関心を有し、さらにこれに磨きをかけ、国際社会で自らの主張を積極的に発信したいと望んでいる者

以上のような人材を得るため、本研究科では、博士前期課程への入学のためには、英語能力試験、研究計画書に基づいた口述試験を課している。博士後期課程への入学のためには、さらに修士論文などの論文の提出を要求している。

- 1 英語の能力については、TOEFLやTOEIC、IELTSなどの評価の定まった試験で一定のスコアを得ていることを要求する。
- 2 研究計画書では、入学後に研究することを希望するテーマ、当該テーマを研究する背景にある問題意識、研究の方法論などが論理的・説得的に論じられていなければならない。
- 3 口述試験では、研究計画書に記された諸事項に関する能力が試されるとともに、自らの主張を説得的に伝達し、審査委員との質疑応答に的確に回答することなどのコミュニケーション能力も試される。
- 4 修士論文などの論文については、複数の教員が専門的観点から評価を行う。

国際公共政策研究科

学位プログラム「国際公共政策学」

学位：修士(国際公共政策)

教育目標

大阪大学および国際公共政策研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「国際公共政策学」では以下のとおり教育目標を定めています。

大阪大学の教育目標を踏まえ、国際公共政策研究科博士前期課程では、次のような問題状況を念頭に置いて、下記のような教育目標を設定している。

グローバル化がますます進展する現代の国際社会において、経済的相互依存、人の交流の拡大にもかかわらず、多種多様な紛争・摩擦が頻発している。歴史・文化の違いに基づく慣習・制度、さらには人々の行動様式が異なっていることが、その一因であろう。こうした現実を念頭に本研究科では、国際公益の観点から持続可能な調和のとれた国際社会の建設に、先頭を切って取り組むことができるグローバル人材、あるいは国際公益の観点から諸問題に対して政策提言できる「warm heart and cool head」を備えた高度な人材の養成を目指している。その一環として、英語による授業も多数提供している。

国際公益の観点から国際的な共生社会の実現に資するためには、各国の歴史・文化の違いに由来する法制度や価値観の違いなどが、どのような取引形態の違い及び人々の行動の違いをもたらしているかについて、理解できなければならない。また、現実的で効率的な経済成長や安定を達成するためには、理論的な妥当性だけでなく、具体的にどう取り組むと良いのかを判断できなければならない。そのためには、既存の学問体系にイノベーションを引き起こし、実践的な行動に移せるような情熱と、多様な価値観を受け止めた上で、地道な努力を通じて培った冷静な判断力を駆使する力を兼ね備えていることが必要である。

本研究科は、国際公益に関する我が国最初の高等研究機関であるのみならず、教員も他の多くの大学院と異なり専任である。つまり、本研究科教員が一丸となって教育や研究に情熱を注ぎ込める体制が整っている。さらに、実業界や外務省などの中央省庁、IMF、世界銀行その他の国際機関の勤務経験者を多数招聘し、また外国の大学との提携やインターンシップにより、身を持って国際交流を経験できるようにしている。

本研究科では、急激な国際状況の変化に対して、高度な学問的体系に裏打ちされて築き上げた英知と冷静な判断力のもとに、人々の先頭に立ってリーダーシップを発揮し、国際社会に貢献できるグローバル人材の育成を目指している。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および国際公共政策研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「国際公共政策学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、国際公共政策研究科博士前期課程では、次のような観点から、ディプロマ・ポリシーを設定している。

本研究科の教育目標が、学問的な基礎に基づいた公共利益の観点から国際的な諸問題に対して政策提言できる能力を身につけることであることを考えると、学位授与に際しても、それに相応しい能力を身につけていることが必要不可欠である。そしてこれらの能力を獲得するためにはその前提として、次の5つの付随的素養を取得することが必要となる。

- ① 基盤的知識を適切に運用する能力を身に付けている
- ② 課題解決に向かって論理的に思考し判断する能力を身に付けている
- ③ 世界の人とコミュニケーションする能力を身に付けている
- ④ 国際社会の一員として共生できる能力を身に付けている
- ⑤ 自立した個人として倫理的マインドを持って実践できる能力を身に付けている

博士前期課程の学生は、指定された科目のうちから合計30単位以上を修得する。その上で修士論文を提出し、修士学位審査を受け、適当と認められた者に対して、修士(国際公共政策)の学位が授与される。修士の学位を受ける者は、

- (1) 専攻分野における研究能力または高度の専門性が求められる職業を担うための能力を修得している。

修士学位論文については、

- (2) 専攻分野の発展に貢献する研究内容を含んでいる。
- (3) 明瞭、かつ、平明に書かれており、審査委員会が開催する学位論文審査及び最終試験において学術研究に相応しい発表、討論がなされている。
- (4) 論文審査は、以下の項目を総合的に評価して行われる。
 1. 新規性: 内容が新規であり、独創的であるか。
 2. 継承性: 先行研究を十分に渉猟し、先行研究に対する位置付けが明確であるか。
 3. 実証性: 確かな典拠・データに基づいて議論が展開されているか。
 4. 論理性: 議論が論理的に展開されているか。
 5. 明快性: 明快かつ適切な表現が用いられているか。

学位審査は、教授会が設置した審査委員会で行われ、教授会にて最終判定がなされる。前期課程の修業年限は2年であるが、優れた業績を上げたと認められた者に対して、1年以上の在籍で修士の学位を取得できる早期修了制度がある。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および国際公共政策研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「国際公共政策学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

世界的規模で起こっている経済危機あるいは政治的には絶えることのない地域紛争、さらには気候変動や自然災害などが地球的規模で我々の社会に押し寄せてくる。本研究科は、これらの問題に率

先垂範して取り組めるリーダーシップと英知を備えたプロフェッショナルを輩出するため、特徴的なカリキュラム・ポリシーを組んでいる。

授業のタイプは、4つの柱で構成されている(①を履修後あるいは①の履修と並行して、②～④の科目を学ぶことが想定されている)。

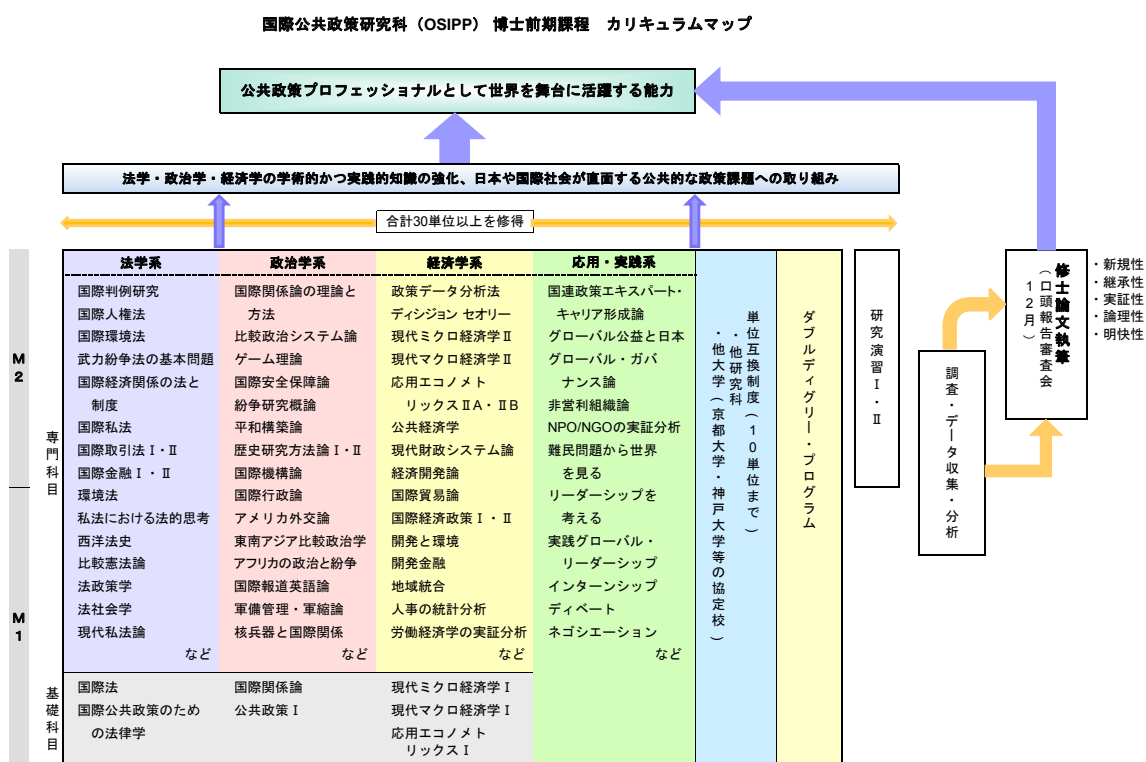
- ①本研究科の核心となる国際公益と関連させながら法学・政治学・経済学の基礎を学ぶ科目。
- ②テーマ別に絞り込んだ専門性の高いプロジェクト演習。
- ③既成の学問と異なる複眼的なアプローチを使った学際的な授業。例えば政治学でも経済学的手法を用いた実証分析やシミュレーション分析の授業。
- ④参加型で実践的な授業、例えばネゴシエーション、ディベート、リーダーシップ、インターンシップなどの科目。コミュニケーション能力の向上や実務経験を支援している。

また、本研究科のカリキュラムの特徴は、次の項目にまとめられる。

- a. 国際機関や国際協力専門家等のキャリアを目指す人のための科目を提供している。
- b. 単位互換制度を利用して、自分の専門性に最も適した科目を選択できる。互換できる研究科は、本学の他の研究科をはじめ京都大学・神戸大学等の協定校での単位取得も可能である。
- c. 授業時間についても夜間・週末の授業、集中講義など工夫している。
- d. 英語で行われている講義や演習も多く、国際化に対応している。
- e. ダブルディグリー・プログラムにより、国際化に対応している。

修士の論文作成については、2年次の後半に論文提出前の公開発表会を通じて事前指導を行うなど、国際分野で活躍できる人材を輩出するために、スタッフが一丸となった指導をしている。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および国際公共政策研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「国際公共政策学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

入学者選抜においては、研究計画、基礎的な専門知識並びに口述試験が重視され、そこでは目的意識、論理的思考力、プレゼンテーション能力が評価される。さらに国際性を備えた人材を求めており、英語力をはじめとするコミュニケーション能力が重視され、TOEFL、TOEICやIELTSで一定の得点を得ることが必要不可欠である。

【入学者選抜の方針】

現代の国際社会では、グローバルな経済的相互依存や人の交流の拡大にもかかわらず、さまざまな紛争・摩擦が頻発している。歴史・文化の違いに基づく慣習・制度、さらには人々の行動様式が異なっていることが、その一因であろう。そのため、本研究科の前期課程は、国際社会の平和と発展のために、熱い心と学問に裏打ちされた冷徹な頭脳を持ち、国際公益の観点から、問題解決に対して具体的な政策提言できるグローバル人材の養成を目指している。そして、卒業後のキャリアとしては、専門的な高度職業人であり国際機関や国際研究機関で活躍できる人材の輩出を目標とし、その一環として英語による授業も多数提供している。

こうした目標を達成するために、本研究科の前期課程では、以下のような人材を求めている。

1. より良い国際社会と日本の発展のために、率先垂範して貢献したいと考えている人
2. 国際秩序、経済発展、危機管理、地球環境、NPOなどの分野で深く関わり、問題解決のために研究したい人
3. 国際研究機関や国際公務員としてのキャリアを希望している人
4. 政策立案、施行、プロジェクト評価などに関わりたい人
5. 日本の法・政治・経済システムにかかる現実の政策問題に関心を持ち、国際的にあるいは歴史的に比較検討して、現代の新しい課題について学術的に研究したい人

国際公共政策研究科

学位プログラム「国際公共政策学」

学位：博士(国際公共政策)

教育目標

大阪大学および国際公共政策研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「国際公共政策学」では以下のとおり教育目標を定めています。

大阪大学の教育目標を踏まえ、国際公共政策研究科博士後期課程では、次のような問題状況を念頭に置いて、下記のような教育目標を設定している。

近年の国際社会では、ますますグローバル化・経済的相互依存が進展しているが、期待された相互理解の深化ではなく、逆に法的・経済的・政治的・社会的な摩擦が頻繁に起こるようになってきている。平和的・安定的かつ持続可能な人類社会を達成するためには、多様な価値観を理解した上で、現存の法制度や国際関係に調整を加えつつ人々の行動様式をそれに適合させるようにするか、または多様な価値観や人々の行動様式の変化を前提として、現存の法制度や国際関係に代わる優れたレジームを作ることが求められるであろう。

本研究科は、国際公益に関する我が国最初の高等研究機関であるのみならず、教員も他の多くの大学院と異なり専任である。本研究科教員が一丸となって教育や研究に情熱を注ぎ込める体制が整っている。専任教員にも中央省庁や国際機関出身者が多いが、それに加えて、ビジネスその他の実業界、外務省などの中央省庁、IMF、世界銀行、ユネスコをはじめとする国際機関の勤務経験者を多数招聘し、国際社会が実際に直面している現状を学ぶ場を提供している。また、外国の数多くの大学と提携し、さらに国際機関などでのインターンの可能性を多く提供することで、身を持って国際経験が積めるようにしている。

本研究科の後期課程では政治、法律、経済の各分野において、データの整理・加工その他の客観的な分析に基づいて、さまざまな事象を的確に判断できる能力の養成を目指している。例えば、立法論や解釈論に基づいた法学上の事実認定に、経済学その他で用いられる実証分析を取り入れ、法と経済学のように法制度を経済的に解釈し、その逆に経済モデルの設定のために現存の法制度などの成立理由の理解を深め、必要に応じて既存の法制度の改革を提言することがあり得よう。また、政治学においても、経済学的な計量分析の手法やゲーム理論的な分析が取り入れられ始めている。さらに、英語での授業を多数提供することにより、英語を駆使できるグローバル人材の養成に注力している。

このように高度な学問的体系を背景に築き上げられた英知と冷静な判断力の下に、具体的な政策を提言して実践的に行動し、国際社会に貢献できるグローバル人材の養成を目指している。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および国際公共政策研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「国際公共政策学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学のディプロマ・ポリシーを踏まえ、国際公共政策研究科博士後期課程では、次のような観点から、ディプロマ・ポリシーを設定している。

本研究科後期課程の学位授与に際しては、高度な学問的修練に基づいた独創的な分析手法の下に、国際公益の観点から国際的問題や日本の社会システムに関わる現実の問題に対して、解決のための政策提言をする能力が獲得されていることが求められる。

博士後期課程の学生は、指定された科目のうちから合計8単位以上を修得する。さらに必要な研究指導を受けた上で、博士論文を提出して博士学位審査を受け、適当と認められた者に対して、博士(国際公共政策)の学位が授与される。論文作成の過程においては、主指導教員と副指導教員の二人からの確かな指導を受けることで、独創的な博士論文が生まれる一助としている。

博士の学位を受ける者は、

- (1) 博士学位論文の学術内容を含む分野に関する十分な全般的知識を有し、独立した研究者として真理を究める研究を遂行できる学力を習得している。

博士学位論文については、

- (2) 専攻分野における高度の学術的価値を有している。
- (3) 明瞭、かつ、平明に書かれており、審査委員会が開催する学位論文審査及び最終試験において学術研究に相応しい発表、討論がなされている。
- (4) 申請者自身が自主的かつ主体的に取り組んだ研究の成果である。

以下の項目を総合的に評価して、論文審査が行われる。

1. 新規性: 内容が新規であり、独創的であるか。
2. 継承性: 先行研究を十分に渉猟し、先行研究に対する位置付けが明確であるか。
3. 実証性: 確かな典拠・データに基づいて議論が展開されているか。
4. 論理性: 議論が論理的に展開されているか。
5. 明快性: 明快かつ適切な表現が用いられているか。

学位審査は、教授会が設置した審査委員会で行われ、教授会にて最終判定がなされる。後期課程の修業年限は3年であるが、優れた業績を上げたと認められた者に対して、1年以上の在籍で博士の学位を取得できる早期修了制度がある。

カリキュラム・ポリシー

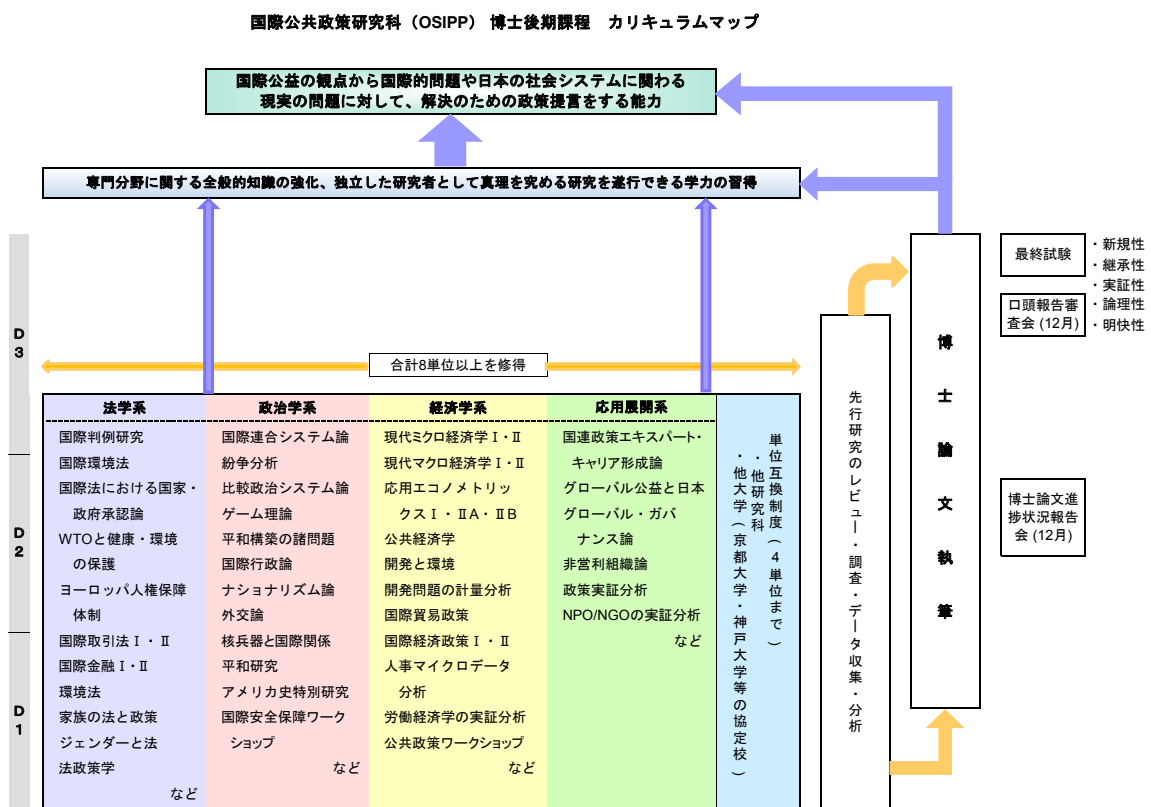
(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および国際公共政策研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「国際公共政策学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

大阪大学のカリキュラム・ポリシーを受けて、国際公共政策研究科博士後期課程では、グローバルな経済危機・摩擦、政治面では国際的な安全保障問題や地域紛争、さらには自然災害リスクや地球的規模の環境問題に対して、国際公益あるいは国際比較の視点から新たな解決の道を探り、高度な専門的学問の応用能力を養成するために、次のようなカリキュラム・ポリシーを採用している。

1. 学生は原則として、「特殊研究」や教員の専門分野を絞り込んだ「プロジェクト演習」のうちから、合計8単位以上を修得する。
2. 本研究科のスタッフの中には、中央官庁又は世界銀行、IMF、ユネスコなどの国際機関に籍を置いて活躍していた教員がおり、将来そのようなキャリアを目指す院生に対して、的確な教育及び貴重な情報を提供して、学生の要求に応える。
3. 指導する教員スタッフも本研究科に限らず、本学法学研究科、経済学研究科、社会経済研究科の教員から選ぶことができ、質・量ともに充実した指導体制を取る。
4. 後期課程では、諸外国の大学に合わせて秋(10月)入学を実施している。さらに国際化の観点から、後期課程の講義や演習は、英語で行われることも多く、将来における国際的舞台での活躍に備えた教育をする。
5. 社会人のために夜間・週末の授業、集中講義や千里エクステンションでの授業など、多様な形態での授業を提供する。
6. 単位互換制度を利用して、本学の法学研究科・経済学研究科あるいは本学の他研究科をはじめ、京都大学や神戸大学等の協定校での単位取得が可能である。
後期課程早期修了制度も設けられており、優れた研究業績を上げた場合、1年以上3年未満で修了する可能性を示すことで、学生の意欲向上を図る。
7. 博士論文作成に対して各分野における第一線級の教員が、情熱を持ってきめ細やかな手厚い指導を行い、2年次から公開で進捗口頭報告会を実施し、論文の完成に向けた支援をする。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および国際公共政策研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「国際公共政策学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

入学者選抜は、研究計画、修士論文の評価と口述試験、それに英語力の評価による。英語力については、TOEFL、TOEICやIELTSで一定の得点を得ることが要求される。

【入学者選抜の方針】

現代の国際社会では、グローバルな経済的相互依存や人の交流の拡大にもかかわらず、さまざまな紛争・摩擦が頻発している。歴史・文化の違いに基づく慣習・制度、さらには人々の行動様式が異なっていることが、その一因であろう。このような時代において、本研究科の後期課程では、国際社会の平和と発展のために、高度な学問に裏打ちされた冷徹な頭脳を基礎にしながら、しかし一方で既存の学問に対してイノベーションをもたらすようなチャレンジ精神を持ち、国際公益の観点から、問題解決に対して政策提言できるグローバル人材の養成を目指している。

卒業後のキャリアとしては、専門的な高度職業人として国際機関で勤務、または国内外の大学や国際研究機関で教育・研究に従事できるような、国際的に活躍できる人材の輩出を目標としている。その一環として、英語による授業も多数提供している。

こうした目標を達成するために、本研究科の後期課程では、以下のような人材を求めている。

1. より良い国際社会と日本の発展のために、率先垂範して貢献したいと考えている人
2. 国際秩序、経済発展、危機管理、地球環境、NPOなどの分野で深く関わり、問題解決のために研究して貢献したい人
3. 国際研究機関や国際公務員としてのキャリアを希望している人
4. 政策立案、施行、プロジェクト評価などに関わりたい人
5. 国際的諸問題を数量的に分析して、あるいは歴史的に比較検討して、問題解決策を学術的に研究したい人

情報科学研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、情報科学研究科では、「我々人類が、豊かで充実した社会生活を営むためには、高度な情報社会の実現が必要不可欠であり、これを可能にする新しい技術や新しいシステムを生み出し、社会に変革をもたらすための学問が情報科学である」との理念に基づき、情報科学技術に関する深い学識を身につけ、当該分野を牽引し、新たな学術領域を開拓する技術者、研究者、および、教育者等を輩出することを目標としています。

情報科学技術分野や数学・生命科学などの関連分野、多様な応用分野において、博士前期課程では、

- 当該分野に関わる広範な教養と高度な専門知識ならびに技能
- 新しいシステムを構想して研究開発できるデザイン力
- 国際的な視野を持って活動できるコミュニケーション力
- 人と協働してプロジェクトを遂行できるマネジメント力

博士後期課程では、これらに加えて、

- 当該分野において自ら設定した課題を探究できる研究能力
- 世界的な視野で技術者・研究者を先導するリーダーシップ力

を身につけ、これらを駆使して高い倫理観をもって活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、情報科学研究科の博士前期課程では、情報科学の学術領域を俯瞰し基礎的素養を涵養できる体系的なコースワークにより、以下にあげる要件を満たした学生に学位を授与します。

- 所定の単位を修得した上で、専攻分野における研究能力や高度の専門性が求められる職業を担うための知識を身につけている
- 必要な研究指導を受けて作成・提出された修士学位論文が明瞭かつ平明に記述され、専攻分野の発展に貢献する研究内容を含んでいて、当該分野に関する十分な学識を有している

情報科学研究科の博士後期課程では、情報科学の学術領域における高度な専門的知識を最先端の学識へと深化させる体系的なコースワークにより、以下にあげる要件を満たした学生に学位を授与します。

- 情報科学の学術領域において、未知の事象や事物の発見、新しい理論の構築と展開、新しい技術、機器、手法、ならびにアルゴリズムの開発や発明と応用、新しい学問的概念の提出など、学理とその応用に関する重要な貢献を果たしている
- 必要な研究指導を受けて作成・提出された博士学位論文が明瞭かつ平明に記述され、博士学位論文の学術内容を含む分野に関する十分な全般的知識を有している
- 独立した研究者として研究を遂行できる学力を有し、当該論文の学術内容が社会に対して貢献できる

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、情報科学研究科の博士前期課程では、情報科学の学術領域を俯瞰し基礎的素養を涵養できる体系的なコースワークのために、専攻ごとの専門性を獲得するための基礎科目のほかに、周辺の重要分野を網羅した境界横断的な科目を配置しています。また、分野横断型融合科目や、産業界などの外部から講師を招いて最新の技術動向をカバーする特別講義科目、国内外の企業や研究機関へのインターンシップ科目、プロジェクト型演習科目など実践力を育てる科目を配置することによって、高度技術者・研究者としての素養が身に付くとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識を修得できます。このような教養・デザイン力・国際性を涵養する情報科学技術に係わる高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

情報科学研究科の博士後期課程では、情報科学の学術領域における高度な専門的知識を最先端の学識へと深化させる体系的なコースワークのために、最先端の科学・技術を修得できる専門科目に加え、国内外の企業や研究機関等へのインターンシップ科目などを配置し、新しい学術的価値を生み出す能力を養います。また、それを活用して新しい社会的価値を創出できる人材の育成を行います。このような教養・デザイン力・国際性を涵養する情報科学技術に係わる高度な授業を開講するとともに優れた研究指導を行います。

単位認定に際しては、レポートや試験などを課し、一定の成績を修めた学生に対して単位を認定します。また、極めて優秀な成績を修めた学生は、教授会での審議によって修業期間を短縮して修了することも可能です。

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、情報科学研究科の博士前期課程では、国内外を問わず、より高度な情報社会の実現を可能にする情報科学技術の確立と深化を担う意欲を持った学生を受け入れます。このため、理工系の学部で情報科学技術を学んできた人、情報科学技術の生物学や医学などへの応用や展開に興味を持つ人を受け入れます。さらに幅広く人材を求めるために、情報科学技術以外の分野を学んできた人も受け入れます。国内に限定することなく、海外からも秀でた学生を積極的に受け入れます。これらのために、学力試験、面接試験などによる多様な選抜試験を実施しています。

情報科学研究科の博士後期課程では、国内外を問わず、より高度な情報社会の実現のために情報科学の学術領域にイノベーションを創起する意欲を持った学生を受け入れます。このため、理工系などの研究科(博士前期課程・修士課程)で情報科学技術を学んできた人、情報科学技術の生物学や医学などへの応用や展開に興味を持つ人、既にこれらの研究科を修了し、社会のさまざまな分野で活躍しながら、情報科学の学術領域への貢献を強く願っている人を受け入れます。さらに幅広く人材を求めるために、情報科学以外の研究科等に在籍する人や、社会人で情報科学に関して勉学や研究に取り組む意欲がある人も受け入れます。国内に限定することなく、海外からも秀でた学生を積極的に受け入れます。これらのために、学力試験、面接試験などによる多様な選抜試験を実施しています。

情報科学研究科

学位プログラム「情報基礎数学」

学位：修士(情報科学、理学、工学)
博士(情報科学、理学、工学)

教育目標

大阪大学および情報科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「情報基礎数学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「情報基礎数学」では、情報科学の基礎としての数学や、情報科学の数学への応用に関する研究と教育を行っています。数学の潮流は、1970年代から徐々に、抽象から具象へと移行し、離散数学と呼ばれる分野が台頭し、その後、計算機の発展も追い風となり、「離散」と「アルゴリズム」は、現代数学のキーワードとしての市民権を獲得しました。情報基礎数学専攻も、「離散」と「アルゴリズム」に関連する探究を基盤とし、高度に抽象化されたレベルでの情報科学と数学のインターフェースを指向し、理学研究科数学専攻との密接な連携を保ちながら、研究と教育を遂行します。

博士前期課程では、純粋数学、応用数学、情報数学の最先端の講義を聴き、専門知識を修得するとともに、修士論文の執筆と発表を通し、自らデザインする能力、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を養成し、教育界、金融界、産業界、IT界などで活躍する有能な人材を育成します。

博士後期課程では、世界的な視野を磨き、斬新な数学理論の開拓をする独創的な能力を鍛え、数学の発展に尽力する多才な人材を輩出します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および情報科学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「情報基礎数学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

博士前期課程では、所定の期間在学し、専攻が定める専門基礎知識に関する所定の単位を修得した上で、修士論文を提出し、その審査、および、最終試験に合格した学生に修士号を授与します。修士論文は、論文著者の独創性が認められるものに限り、原則として、論文著者によるオリジナルな定理を含むものが望まれます。しかしながら、数学的に意義のある計算結果(計算機実験等)、既知の定理の別証などを含むもの、あるいは、既存の理論の再構築なども、論文著者の貢献が顕著ならば、可とします。

博士後期課程では、所定の期間在学し、専攻が定める専門知識に関する所定の単位を修得した上で、博士論文を提出し、その審査、および、最終試験に合格した学生に博士号を授与します。博士論文は、その内容の一部に、国際的に認められている、査読付き雑誌に掲載、あるいは、掲載予定の単著論文を含むことを必須とします。

学習目標

- 高度な数学の技術と応用力を身につける
- 幅広い数学の知識を身につける
- 新しい数学的概念や証明法を生み出す力を身につける
- 英語による数学論文の内容を理解し、また自分の数学的アイデアを英語で表現する力を身につける

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

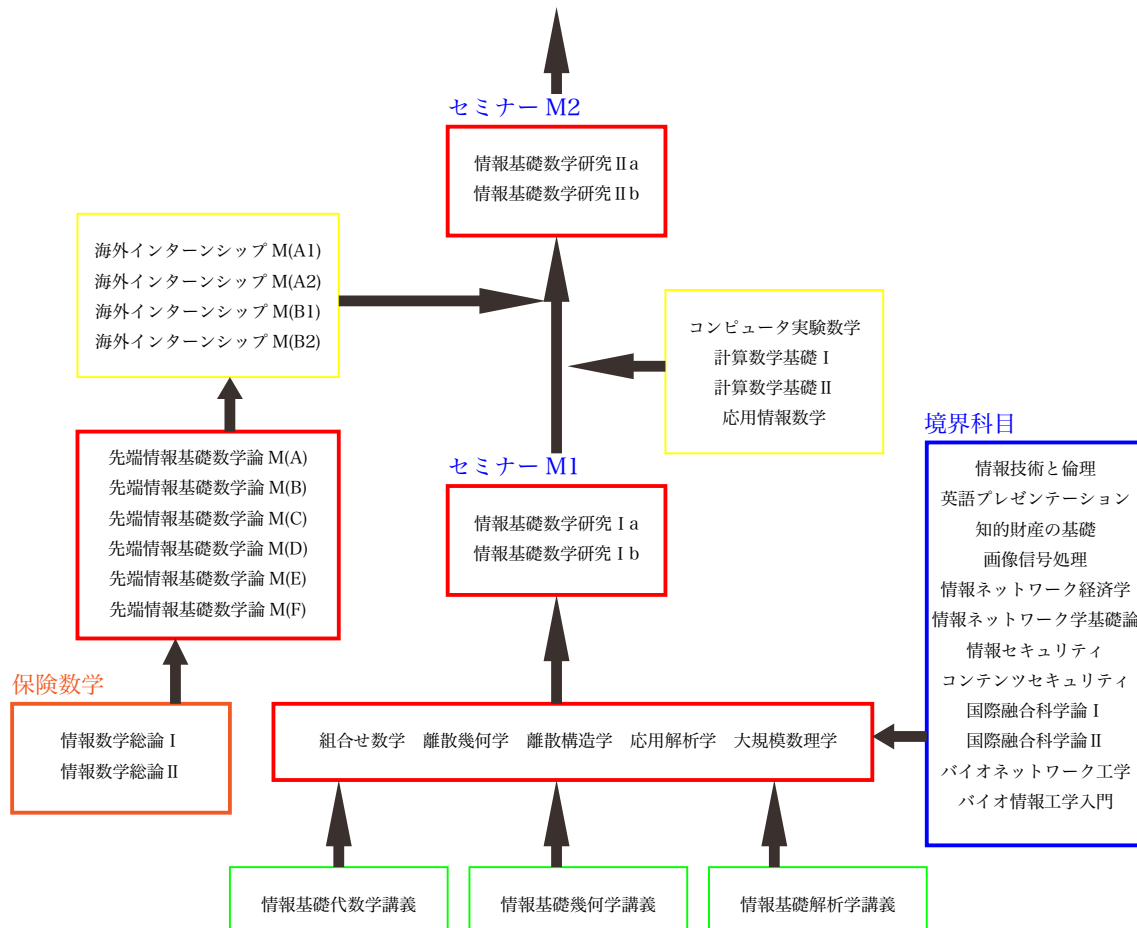
大阪大学および情報科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「情報基礎数学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

博士前期課程では、理学研究科数学専攻との連携のもと、代数学、幾何学、解析学、応用数学、情報数学の高度な専門科目を配置し、学生は、自分の専門とする分野とともに、その周辺領域の最先端の話題に触れることができます。博士前期課程のカリキュラムの核心となる科目は、情報基礎数学研究であり、そこでは、自らデザインする能力、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の向上を目指すとともに、欧文の研究論文を読む英語力を強化し、修士論文を執筆する準備となる、数学的な基礎学力を育成します。

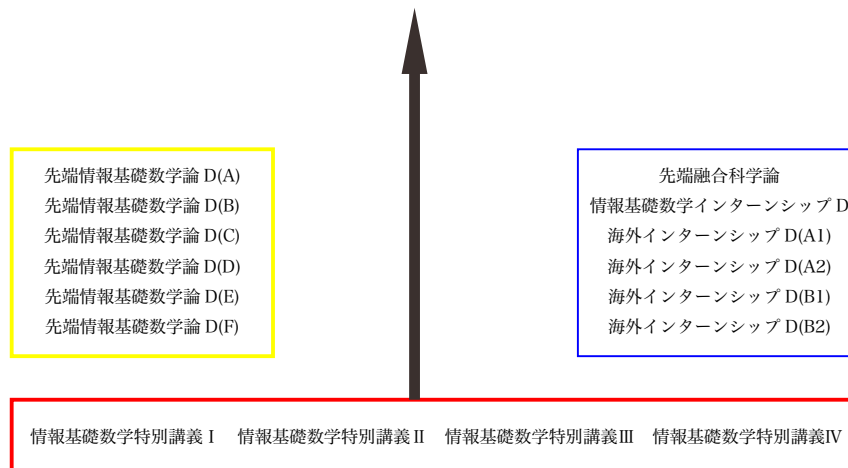
博士後期課程では、独創的な数学の研究を自ら遂行する能力の育成を目指すとともに、国内外の研究集会などでの研究発表を通し、他の数学者と議論しながら、自らの研究を進展させる土壌を育みます。究極的な到達目標は、権威ある国際雑誌に受理される単著論文を執筆し、優れた博士論文を執筆することです。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

大学院情報科学研究科情報基礎数学専攻 博士前期課程



大学院情報科学研究科情報基礎数学専攻 博士後期課程



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および情報科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「情報基礎数学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

博士前期課程では、国内外を問わず、理工系の学部で純粋数学、応用数学、数理科学などを学び、数学の純粋理論の探究、数学の情報理論への応用などに意欲を持った学生を歓迎しています。

博士後期課程では、数学の基礎と応用の発展に貢献できると期待される人材を受け入れます。情報基礎数学専攻の博士前期課程に在籍する学生に限らず、他大学の大学院(博士前期課程・修士課程)からの学生、あるいは、一般企業、教育界からの社会人に加え、海外からの優秀な学生も積極的に受け入れます。

【入学者選抜の方針】

博士前期課程においては、筆記試験では、理工系の学部で学ぶ数学の基礎に習熟し、英語の数学書を読むための基礎的な英語力を持つことが試されます。さらに、口頭試問では、コミュニケーション能力の有無も問われます。

博士後期課程においては、選抜試験として、修士論文の発表と口頭試問を実施し、独創力、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の達成度を審査します。

情報科学研究科

学位プログラム「情報数理学」

学位：修士(情報科学、理学、工学)
博士(情報科学、理学、工学)

教育目標

大阪大学および情報科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「情報数理学」は以下のとおり教育目標を定めています。

情報科学の新たな展開のためには、情報とその解析に関する数理科学的な基礎理論の上に、自然科学や社会科学に啓発された発想を融合させた学問分野の開拓が必要です。学位プログラム「情報数理学」では、この理念の下で、システムのモデリング、解析、制御、最適化や意思決定などの数理科学、光情報処理やナノ情報技術などの応用物理学、および学習や認識などの知能科学に関する知識や理解を深めることを目指しています。そのために、さまざまな問題を俯瞰的に捉えることのできる横断的な思考力や判断力を身につけ、幅広い視野をもって課題に取り組む意欲と関心をもつことのできる人材を育成するための教育を行います。

博士前期課程では、複雑な自然現象や社会現象に対して、そのメカニズムや原理の解明と最適化のための基盤技術となる数理科学、応用物理学、知能科学に関わる広範な教養と高度な専門知識ならびに技能を修得させ、情報科学研究科の教育目標に掲げるデザイン力、コミュニケーション力、マネジメント力の養成を図っています。

博士後期課程では、これらに加えて、自ら課題を設定し、探求できる研究遂行能力や世界的な視野で技術者・研究者を先導するリーダーシップ力を駆使し、高い倫理観をもって活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および情報科学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「情報数理学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

博士前期課程は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、数理科学、応用物理学、知能科学の各分野における所定の単位を修得し、審査および試験に合格した学生に学位を授与します。

(学習目標)

- 数理科学・応用物理学・知能科学にわたる幅広い総合的な知識とともに、情報科学を超えて学問全般にわたる広い教養を身につけている。
- 多様な事象を系統的に整理し、論理的な思考や状況に応じた合理的な判断ができる能力を有している。
- 自然科学や社会科学における諸問題に関心をもち、数理科学的な基礎理論の上に、その解決に向けた手法を適用することができる。
- 研究分野における課題解決のための学術的手段を選択し、解決にいたる技能を有している。
- 世界的な視野をもち、国際連携を行うためのコミュニケーション力を身につけている。

博士後期課程は、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、数理科学、応用物理学、知能科学における所定の単位を修得し、審査および試験に合格した学生に学位を授与します。

(学習目標)

- 数理科学・応用物理学・知能科学にわたる幅広い総合的な知識とともに、そのいずれかの分野の高度な専門的知識を有し、情報科学を超えて学問全般にわたる広い教養を身につけている。
- 多様な事象を系統的に整理し、論理的あるいは柔軟な思考や状況に応じた合理的な判断ができる能力を有している。
- 自然科学や社会科学における諸問題に関心をもち、数理科学的な基礎理論の上に、自ら課題を設定し、適切な手法により解決することができる。
- 研究分野における課題解決のための学術的手段に精通し、適切な手続きを設定し、効率的な解決にいたる技能を有している。
- 世界的な視野をもち、国際連携を統率するための優れたコミュニケーション力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および情報科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「情報数理学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「情報数理学」では、数理科学的な基礎理論の上に自然科学と社会科学に啓発された発想を融合させた情報科学分野の開拓を目指し、システムのモデリング、解析、制御、最適化や意思決定などの数理科学、光情報処理やナノ情報技術などの応用物理学、および学習や認識などの知能科学に関する教育と研究を行います。

博士前期課程では、数理科学、応用物理学、知能科学に関する基礎を体系的に獲得するために、専攻基礎科目を配置しています。専攻基礎科目には、これら情報数理学に関わる知識と理解を深める専門科目群、思考と判断の能力を高めるための研究科目、関心・意欲・態度を涵養するセミナー・インターンシップ科目、情報数理学的アプローチの技能と表現を身につける演習科目があります。さらに、情報

数理学の周辺分野に関わる選択科目として、専攻境界科目と海外インターンシップ科目を配置しています。専攻境界科目としては、情報科学の諸分野について俯瞰した知識と理解を得るための概論科目や入門科目、情報科学に関わる研究者や技術者としての技能と表現を身につけるプレゼンテーション科目と演習科目があります。また、海外インターンシップ科目は、国際的な経験を積むことを奨励するものです。以上の科目に加え、各個人が取り組む修士論文に対する研究指導により、情報数理学に関わる高度な専門知識ならびに技能を修得した人材の育成を行います。

博士後期課程では、数理科学、応用物理学、知能科学に関する最先端の研究能力や開発能力を修得するために、専門科目を配置し、知識と理解を深めます。また、分野横断的な科目、インターンシップ科目なども配置し、多面的な関心や意欲、態度、技能や表現力を磨きます。以上の科目に加え、各個人が取り組む博士論文への研究指導により、思考と判断の能力を高め、情報数理学に関わる新しい学術的価値や社会的価値を創出できる人材の育成を行います。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

博士論文		修士論文	
情報非線形数理学 知能アーキテクチャ " 1 2学期～		海外インターンシップD(A2) 海外インターンシップD(B2)	
情報計画学 応用情報物理学 " 1 1学期～	先端融合科学論 先端生物情報融合論	情報数理学インターンシップD 海外インターンシップD(A1) 海外インターンシップD(B1)	インタラクティブ創成工学演習A
！ 2 1学期～		！ 1 2学期～	
情報計算工学 数値情報解析 情報統計解析学 情報数理学特別講義II 情報物理学II 行動計画知能論	知的財産の基礎(情報科学を中心に) 計算数学基礎II 情報基礎数学講義 画像(信号)処理 情報ネットワーク学基礎論 国際融合科学論II	情報数理学研究II 海外インターンシップM(A2) 海外インターンシップM(B2)	凡例# 専攻基礎科目 専攻基礎科目(必修) 専攻基礎科目(選択) 選択科目 専攻境界科目 海外インターンシップ
計画情報数理 非線形解析学 応用情報解析学 情報物理学I 知能と学習 情報数理学特別講義I 情報数理学概論 ！ 1 1学期～	情報技術と倫理 計算数学基礎I 応用情報数学 コンピュータサイエンス基礎論 情報セキュリティ 国際融合科学論I 生物分子情報解析 バイオネットワーク工学 バイオ情報工学入門 先端生物情報融合基礎論	情報数理学研究I 情報数理学セミナーI 情報数理学セミナーII 情報数理学インターンシップ 海外インターンシップM(A1) 海外インターンシップM(B1)	情報数理学演習I 情報数理学演習II 英語プレゼンテーション インタラクティブ創成工学基礎演習A クラウド開発基礎 クラウド開発演習 クラウド開発応用 クラウド基礎PBL クラウド発展PBL
知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および情報科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「情報数理学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

学位プログラム「情報数理学」では、高度な情報化社会の実現を目指して情報数理学の立場から貢献することを志望し、常に応用を意識しつつさらなる基礎理論の探究を目指す人、あるいは既存の基礎理論を踏まえてその実践的な活用や応用に関心をもつ人を理工系に限らず人文・社会系からも広く求めます。あわせて海外からの優秀な学生も受け入れます。

博士前期課程では、下記的能力を備えた受験生を各種の入学試験により選抜します。

- 英文による学術論文や専門書を読解する力を有している。
- 理工系出身者については、数学、物理学、情報基礎など学部で専門とした分野の基礎学力を修得しており、それらを他の問題へ応用する力も有している。人文・社会学系出身者については、専門で学んだ学識をもとに取り入れる情報数理学的な方法について知識をもっている。
- 進学後の研究課題について、その内容と意義を具体的に分かり易く説明できる。研究を推進するための計画や方法について、自身が学部で修得した学識や技能と整合させつつ考えている。
- 志望の動機について日頃から抱いている個人的な興味や関心、あるいは高度な情報化社会の実現に向けて今後必要とされる科学・技術などの観点から説明できる。

博士後期課程では、下記的能力を備えた受験生を各種の入学試験により選抜します。

- 関連分野の英文による学術論文や専門書を読解する力を有している。
- 専門とする分野の先端的な学識を有している。
- 進学後の研究課題について、その意義、新規性、独創性について平易な言葉で説明できる。研究を推進するための計画や方法について、自身のこれまでの研究結果を踏まえて考えている。
- これまでに取り組んできた研究について、意義、新規性、工夫を要した点、残された課題などについて分かり易く説明できる。

情報科学研究科

学位プログラム「コンピュータサイエンス」

学位：修士(情報科学、理学、工学)
博士(情報科学、理学、工学)

教育目標

大阪大学および情報科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「コンピュータサイエンス」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「コンピュータサイエンス」では、豊かな情報社会の実現を図るために必須である、情報分野の基礎から応用までの幅広い知識を身につけた人材の育成を目指します。コンピュータの原理や数学的な基礎、アルゴリズムやデータ構造等の知識を基盤として、ハードウェアやソフトウェアを高度に利用し、コンピュータサイエンス分野の理論を深化させる、あるいは社会に役立つ情報システムを設計、開発、活用できるように教育します。このような教育により、修了生が将来、情報分野の技術者、研究者、教育者として世界の第一線で活躍できる能力を獲得することを目標とします。

博士前期課程では、

- アルゴリズム、ソフトウェア、コンピュータの応用など、いわゆるコンピュータサイエンスの広範な教養と高度な専門知識および技能
- これらの知識や技能を社会の実問題に適用し、現実のシステムを設計、構築、運用できるデザイン力
- 国際的な視野を持って活動できるコミュニケーション力
- これらの知識や技術を駆使しながら、国内外の多くの人々と協働してプロジェクトを遂行できるマネジメント力

博士後期課程では、これらに加えて、

- アルゴリズム、ソフトウェア、コンピュータの応用など、いわゆるコンピュータサイエンスの最先端かつ高度な専門知識および技能
 - コンピュータサイエンス領域における新たな課題や問題点を見つけ、それを理論、実践の両面から解決に導くデザイン力
 - 新しい学問領域を創設し、新たな社会的価値を創造するデザイン力
 - 世界的な視野で国内外の多くの協力者をまとめるリーダーシップ力を発揮してプロジェクトを遂行できるマネジメント力
- を身につけ、これらを駆使して高い倫理観をもって活躍できる人材を育成します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および情報科学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「コンピュータサイエンス」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

博士前期課程では、コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、コンピュータの効果的な利用法まで、コンピュータサイエンス分野の広い領域を横断的に、さらに基礎から応用までを縦断的に深く探求できるための基礎的素養を涵養できる体系的なコースワークにより所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、コンピュータサイエンスの発展に貢献する研究内容を含んだ修士学位論文を作成することによって、以下にあげる要件を満たした学生に学位を授与します。

- A. コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、コンピュータの効果的な利用法まで、コンピュータサイエンス分野の広い領域を横断的に、さらに基礎から応用までを縦断的に深く探求できるための基礎的知識を身につけている。
- B. 修士学位論文が明瞭かつ平明に記述され、コンピュータサイエンスの発展に貢献する研究内容を含んでおり、コンピュータサイエンスに関する十分な学識を有している。
- C. 専門的知識を知識情報社会における諸課題の解決に柔軟に応用できる。
- D. 国際的な視野を持ち、国内外の多くの人々と協働して、情報通信システムの研究開発プロジェクトを遂行できる。
- E. 情報科学をめぐる倫理的な課題に対する理解力や判断力を身につけ、社会における研究者・技術者の任務と責任を負うことができる。

博士後期課程では、コンピュータサイエンス分野における高度な専門的知識を修得するコースワークにより所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、コンピュータサイエンスに関連した情報科学技術分野における十分な学術的価値を有する博士学位論文を作成することによって、以下にあげる要件を満たした学生に学位を授与します。

- A. コンピュータサイエンスの学術領域において、未知の事象や事物の発見、新しい理論の構築と展開、新しい技術、機器、手法、ならびにアルゴリズムの開発や発明と応用、新しい学問的概念の提出など、学理とその応用に関する重要な貢献を果たしている。
- B. 博士学位論文が明瞭かつ平明に記述され、コンピュータサイエンスの発展および社会への貢献が認められる研究内容を含み、コンピュータサイエンス分野に関する十分な全般的知識を有している。
- C. 専門的知識を知識情報社会における諸課題の解決に柔軟に応用できる。
- D. 世界的な視野で国内外の多くの協力者をまとめるリーダーシップ力を持ち、国内外の多くの人々と協働して、情報通信システムの研究開発プロジェクトを遂行できる。
- E. 情報科学をめぐる倫理的な課題に対する理解力や判断力を身につけ、独立した研究者として研究を遂行できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および情報科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「コンピュータサイエンス」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

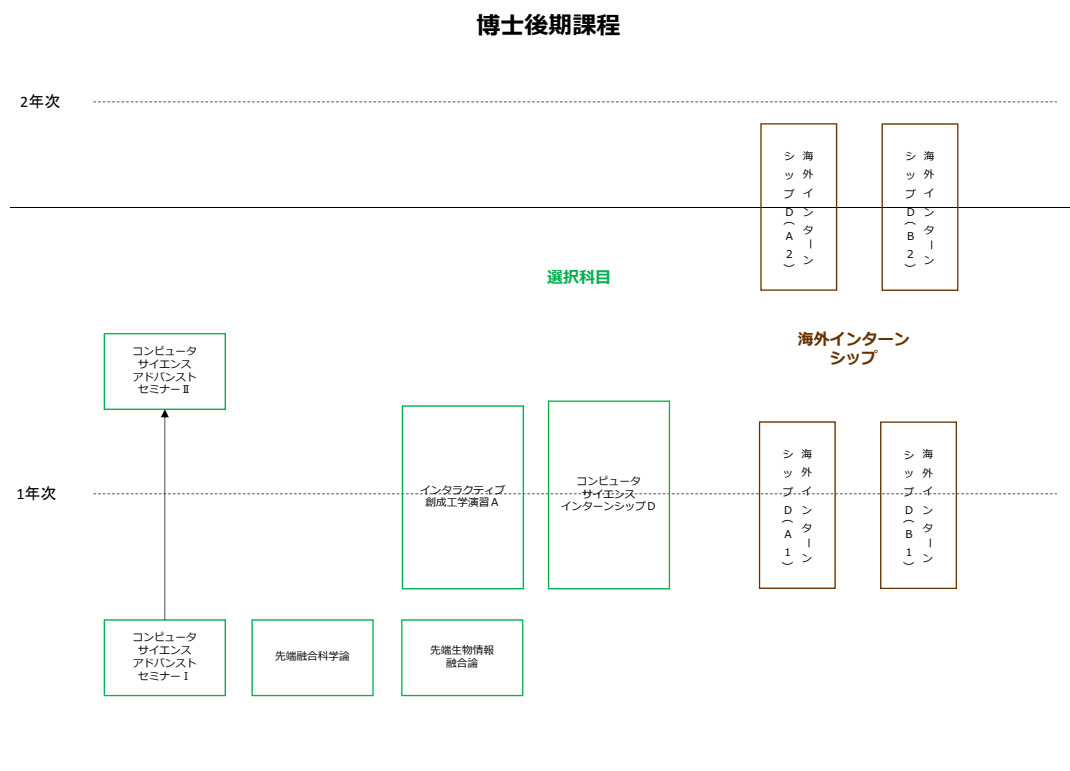
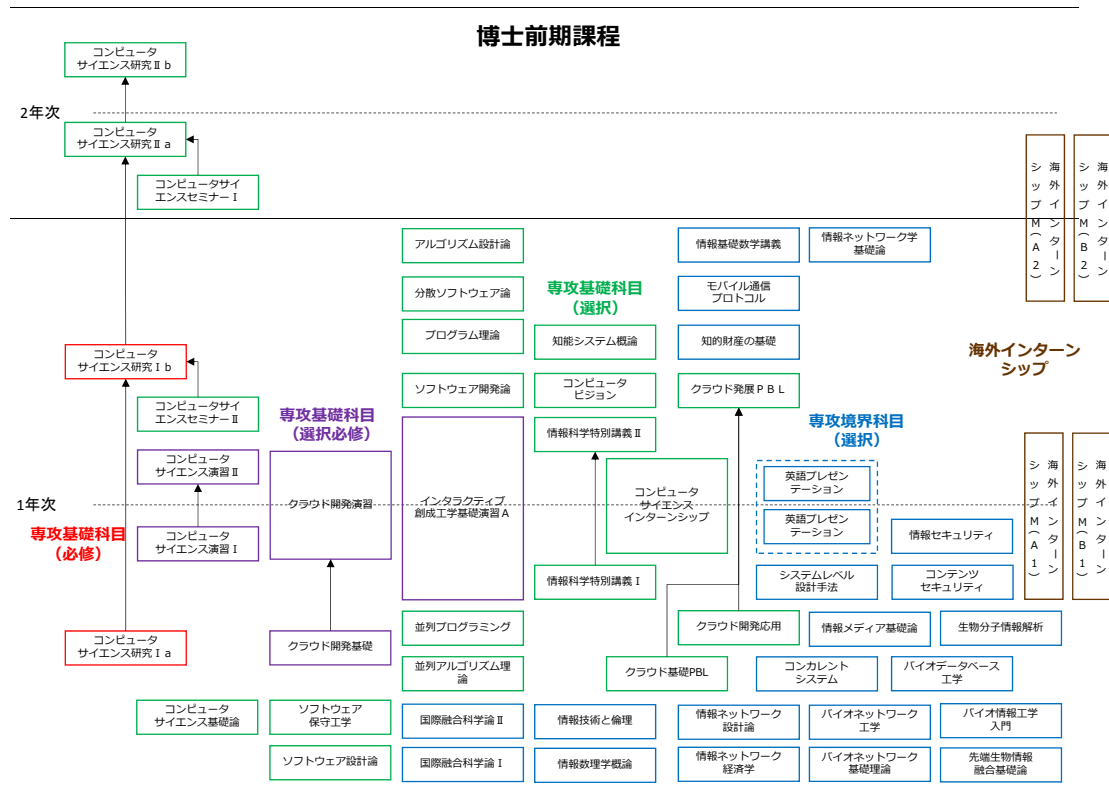
博士前期課程では、専門基礎科目、専攻境界科目、分野横断型融合科目、特別講義科目、インターンシップ科目、プロジェクト型演習科目ならびにコンピュータサイエンス研究等を配置することによって、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能を修得できるようにしています。

- 専攻基礎科目では、コンピュータのハードウェア、ソフトウェア、コンピュータの効果的な利用法まで、コンピュータサイエンス分野の広い領域を横断的に、さらに基礎から応用までを縦断的に深く探求できるための基礎的素養を習得します。
- 周辺の重要分野を網羅した専攻境界科目ならびに分野横断型融合科目では、境界領域や分野横断領域に関する基礎的知識および技能を習得します。
- 産業界などの外部から講師を招いて最新の技術動向をカバーする特別講義科目では、知識や技能を社会の実問題に柔軟に適用し、現実のシステムを設計、構築、運用できる能力を習得します。
- インターンシップ科目およびプロジェクト型演習科目では、国際的な視野を涵養し、国内外の多くの人々と協働して、情報通信システムの研究開発プロジェクトを遂行できる能力を習得します。
- コンピュータサイエンス研究では、情報科学をめぐる倫理的な課題に対する理解力や判断力を身につけ、社会における研究者・技術者の任務と責任を負うことができるように、研究指導を受けます。

博士後期課程では、専門科目、分野横断型融合科目、インターンシップ科目を配置し、博士論文作成に向けた研究指導を行うことによって、ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・技能を修得できるようにしています。

- 専攻科目では、コンピュータサイエンス分野における高度な専門的知識を習得します。
- 分野横断型融合科目では、境界領域や分野横断領域に関する知識および技能を習得します。
- インターンシップ科目では、世界的な視野で国内外の多くの協力者をまとめるリーダーシップ力と、国内外の多くの人々と協働して、情報通信システムの研究開発プロジェクトを遂行できる能力を習得します。
- 研究指導により、リーダーシップ力、研究開発プロジェクトを遂行できる能力、情報科学をめぐる倫理的な課題に対する理解力や判断力を身につけ、独立した研究者として研究を遂行できる能力を習得します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および情報科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「コンピュータサイエンス」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

博士前期課程では、国内外を問わず、下記の能力を備えた人材を受け入れます。

- コンピュータサイエンス分野の十分な基礎学力と知識を有する。
- 国内外の人々との協働するための基礎的なコミュニケーション力を有する。
- より高度な情報社会を実現するために、コンピュータサイエンス分野の発展に貢献したいという意欲を持っている。
- コンピュータサイエンスの他分野への応用や展開に興味を持っている。
- 情報科学以外の分野において、優れた基礎学力と知識を有しており、コンピュータサイエンスの他分野への応用や展開に興味を持っている。

博士後期課程では、国内外を問わず、下記の能力を備えた人材を受け入れます。

- コンピュータサイエンス分野の高度な基礎学力と知識を有する。
- 国内外の人々と協働するためのコミュニケーション力を有する。
- より高度な情報社会の実現のために、コンピュータサイエンス分野の深化やイノベーションの創起に意欲を持っている。
- コンピュータサイエンスの他分野への高度な応用や展開に興味を持っている。
- 情報科学以外の分野において、高度な学力と知識を有しており、コンピュータサイエンスの他分野への高度な応用や展開に興味を持っている。

【入学者選抜の方針】

博士前期課程では、一般選抜、留学生特別選抜、学部3年次を対象とする特別選抜により、コンピュータサイエンス分野の基礎学力と知識、日本語および英語によるコミュニケーション力、コンピュータサイエンスに対する意欲・関心を評価します。情報科学以外の分野を専門とする人に対しては、推薦入試の口頭試問により、その分野の基礎学力と知識、日本語および英語によるコミュニケーション力、コンピュータサイエンスを学ぶための基礎的素養、意欲・関心を評価します。

博士後期課程では、口頭試問等により、コンピュータサイエンス分野の学力と知識、論理的デザイン力、日本語および英語によるコミュニケーション力、コンピュータサイエンスに対する意欲・関心を評価します。情報科学以外の分野を専門とする人に対しては、口頭試問により、その分野の学力と知識、論理的デザイン力、日本語および英語によるコミュニケーション力、コンピュータサイエンスを学ぶための基礎的素養、意欲・関心を評価します。

情報科学研究科

学位プログラム「情報システム工学」

学位：修士(情報科学、理学、工学)
博士(情報科学、理学、工学)

教育目標

大阪大学および情報科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「情報システム工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「情報システム工学」では、高度な情報社会の実現に貢献することのできる、情報システム工学分野の基礎から応用までの幅広い知識と技能を身につけた人材の育成を目指しています。情報システムの実現に必要なハードウェアとソフトウェア技術、および、それらを統合して高機能かつ高信頼な情報システムを開発し活用できるよう教育を行います。このような教育を受けた学生が、将来、技術者、研究者、教育者などの優秀な人材として、世界の第一線で活躍できることを目標とします。

博士前期課程では、ハードウェア、ソフトウェア技術に加えて、それらを統合して安心、安全な情報システムとして実現することのできる知識を幅広く修得するとともに、現実のシステムを設計、実装する技能を修得するための教育を行います。また、これらの知識や技能を駆使して社会の問題を解決することのできる人材の育成を行います。

博士後期課程では、これらに加えて、情報システム工学分野における課題や問題を自分自身で発見することができるとともに、習得した知識、技能を活用するだけでなく、国内外の協力者と協調することで解決する能力を有した、研究者や技術者をはじめとする優れた人材の育成を目指します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および情報科学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「情報システム工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

博士前期課程では、学生は情報システム工学分野の基礎的素養を涵養できる体系的なコースワークにより所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえで修士学位論文を作成、提出します。これにより、下記の能力を身に付けた学生に学位を授与します。

1. 情報システム工学分野における理論から応用に至る十分な学識を有すること。
2. 情報システム工学分野における知識を論理的に系統立てて活用することで問題解決を行い、研究を遂行する能力を有すること。
3. 情報システム工学の学術分野と応用分野における未解決な問題に取り組み、これらの分野の発展に寄与する意欲と能力を有すること。

4. 人と協同で問題解決を行う能力、および、自身の考えや技術的な事柄を日本語と英語を用いて明確に説明する能力を有すること。

博士後期課程では、情報システム工学分野における高度な専門的知識を修得するコースワークにより所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえで博士学位論文を作成、提出します。これらにより、下記の能力を身に付けた学生に学位を授与します。

1. 独立した研究者として研究を遂行するのに必要な、情報システム工学分野における深い知識を有すること。
2. 情報システム工学分野における深い知識を駆使して、解決すべき学術的もしくは社会的な問題を自ら明確にし、それを解決できる能力を有すること。
3. 情報システム工学分野の学理と応用に関する重要な問題に積極的に取り組み、これを解決する意欲を有すること。
4. グループを率いて問題解決を行うリーダーシップと、国際的な場において高度な専門技術について発表と議論を行う能力を有すること。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および情報科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「情報システム工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

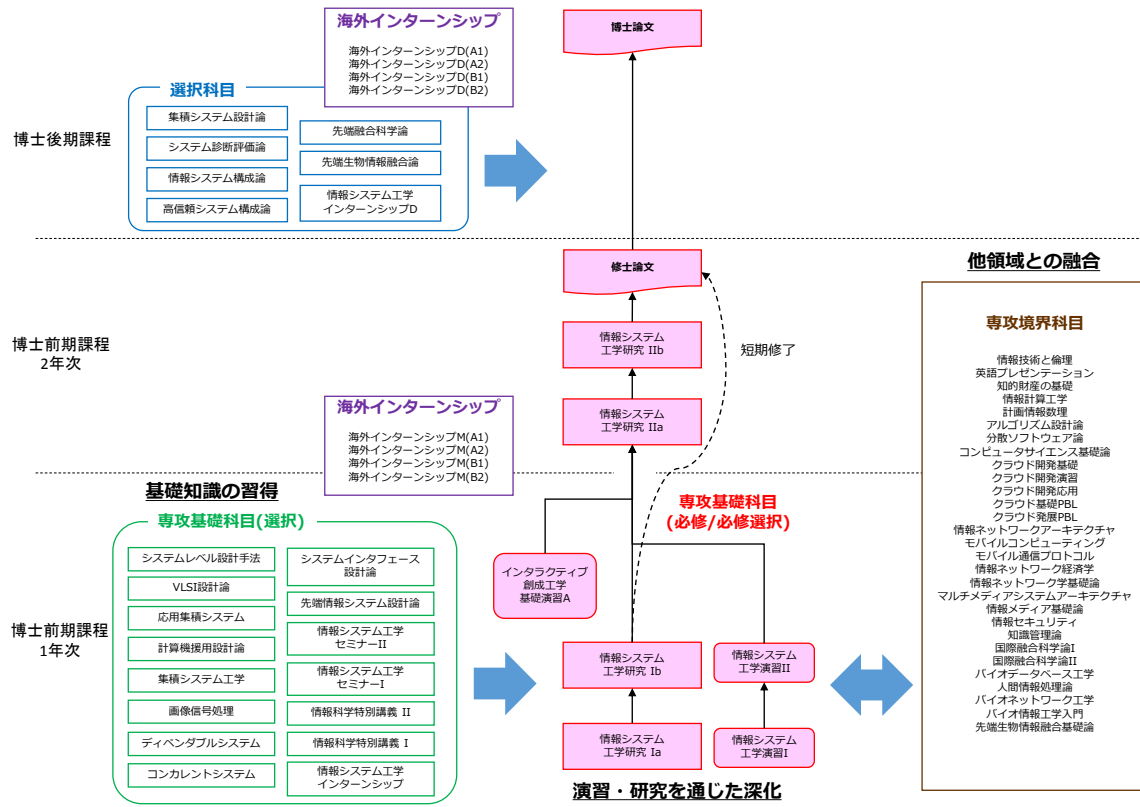
博士前期課程では、教育目標達成のため下記の教育課程を編成し実施します。

1. 集積回路からシステムレベルに至る、情報システム工学分野を網羅した専攻基礎科目を配置するとともに、選択科目として周辺の重要分野について学ぶ境界横断的な科目や産業界等大学の外から講師を招いて最新の技術動向について講義する特別講義科目を配置することで、専攻分野における理論から応用までの基礎的素養を涵養します。
2. 専攻基礎科目として演習科目を設置し、学生自らが方法を考えて課題に取り組む問題解決型の授業を行います。また、研究においては、専攻分野の発展に資する研究課題を設定して指導を行います。これらにより、技術的に有意義な問題に取り組む意欲と、それを解決する能力を涵養します。
3. 専攻基礎科目である問題解決型の演習科目に加え、選択科目として国内外の企業や研究機関において学生が研究開発を行うインターンシップ科目を設置し、協同で問題解決を図る能力を涵養します。また、これらの科目に学生各自による研究発表を取り込むことで、表現能力を育みます。

博士後期課程では、教育目標達成のため下記の教育課程を編成し実施します。

1. 博士後期課程では、専攻分野における高度な専門的知識を獲得するために必要な専門科目を配置し実施します。
2. 情報システム工学分野の最先端技術を探求する研究を個々の学生に対して指導することで、新しい学術的価値や社会的価値を創出する意欲と能力を涵養します。
3. 海外の企業や研究機関で研究を実施する海外インターンシップ科目、および、グループワークを中心とした演習をすべて英語で実施する科目を配置することで、国際的に活躍できる能力を涵養します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

大阪大学および情報科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「情報システム工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

博士前期課程では、国内外を問わず、下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して受け入れます。

- 博士前期課程における修学と研究実施に支障のない十分な基礎学力と知識を有する。
 - 情報科学分野における基礎学力と専門知識、および、英語能力を備えている。
 - 情報科学以外の分野において優れた学力と知識を有しており、それらの情報システム工学分野への展開や応用する能力を有する。
- 物事を論理的に考察し、その思考過程を明確に表現できる。
- 情報システム工学分野における修学、および、具体的な課題に対する研究実施に高い意欲を有する。
- 他者と対話を通して相互理解に努めようとする態度を有する。

博士後期課程では、国内外を問わず、下記の能力を備えた受験生を各種選抜試験を通して受け入れます。社会人も他の学生と同様に受け入れます。

1. 博士後期課程における修学、研究実施、および、博士学位論文の作成に支障のない十分な学力と知識を有する。
 - 博士前期課程・修士課程を修了し、情報システム工学分野全般における十分な学識を有する。
 - 企業や研究期間で研究経験があり、情報システム工学分野全般における十分な学識を有する。
 - 情報科学以外の分野において極めて優れた学力と知識を備え、それらを用いて情報システム工学、および、その周辺分野で研究を実施する能力を有する。
2. 自身の専門分野における知識を論理的に用いて研究を遂行する能力を有する。
3. 情報システム工学の学術と応用分野において、これらの分野の発展に寄与する重要な研究を成し遂げる意欲がある。

【入学者選抜の方針】

上記の能力を評価するため、博士前期課程では、一般選抜、外国人留学生対象特別選抜、学部3年次学生を対象とする特別選抜、推薦入学特別選抜、英語特別プログラム入試を実施します。

一般選抜、外国人留学生対象特別選抜、学部3年次学生を対象とする特別選抜では、筆記試験、学部での成績により、情報科学分野における基礎学力と専門知識、および、物事を論理的に考察し思考過程を明確に表現できる能力を評価します。また、TOEICなどの標準的な英語能力試験の成績により、英語能力を判断します。加えて、口頭試問と入学願書から、修学および研究への意欲と、相互理解に努めようとする態度を評価します。

推薦入学特別選抜では、学部での成績を基に、情報科学以外の分野において優れた学力と知識、および、それらの情報システム工学分野への展開や応用する能力を有すると判断できる場合に口頭試問を実施します。口頭試問により、修学および研究への意欲と、相互理解に努めようとする態度を評価します。

英語特別プログラム入試では、学部における成績と標準的な英語能力試験の成績を基に、情報科学分野における基礎学力と専門知識、および、英語能力を備えていることが判断できる場合に口頭試問を実施します。口頭試問により、再度学力と英語能力を評価し、同時に、修学および研究への意欲と、相互理解に努めようとする態度についても評価を行います。

博士後期課程では、一般選抜および外国人留学生対象特別選抜を実施します。これらの選抜試験では口頭試問を実施し、受験生はこれまで携わってきた研究内容と進学後の研究計画について発表および質疑応答を行います。口頭試問に加え、学部と博士前期課程における成績、および、標準的な英語能力試験の成績に基づき、博士後期課程における修学、研究実施、博士学位論文の制作に必要な、学力と知識、研究遂行能力、重要な研究を成し遂げる意欲を評価します。

情報科学研究科

学位プログラム「情報ネットワーク学」

学位：修士（情報科学、理学、工学）
博士（情報科学、理学、工学）

教育目標

大阪大学および情報科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「情報ネットワーク学」では以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「情報ネットワーク学」は、豊かで信頼のできる高度情報通信社会を実現するために、情報ネットワーク学分野の基礎から応用まで幅広い知識を活用して、高度情報通信社会の発展に貢献し、世界の第一線で活躍できる技術者、研究者、および、教育者等を輩出することを目標としています。

博士前期課程では、次に掲げる人材を育成します。

1. 情報ネットワーク学分野の基礎技術からその応用技術まで、情報ネットワークの基礎となる知識を幅広く習得した人材
2. 広く情報科学に関する知識を基盤として、情報ネットワーク学分野の技術を縦断的に俯瞰できる人材
3. 習得した情報ネットワーク学分野ならびに情報科学における技術を高度に利用して、高度情報通信社会の発展に資する情報ネットワークシステムを設計、開発、活用することができる人材
4. 高度情報通信社会で必要とされる応用や、このような社会の実現に向けての課題を深く理解し、情報ネットワークならびに情報科学の技術を用いて解決できる人材
5. 国内外の技術者と協力して、情報ネットワークシステムの設計、開発、運用するときに、論理的に思考し、思考したことを伝えるコミュニケーション能力を有し、リーダーシップを発揮できる人材
6. 深い素養を身に付け、高い倫理観を有し、高度情報通信社会に貢献する使命感を有する人材

博士後期課程では、さらに次に掲げる能力を併せ持つ人材を育成します。

1. 情報ネットワーク学分野における未知の事象や新しい技術や理論の学術的価値を深く理解するために必要となる高度な専門知識を有する人材
2. 広く情報科学に関する先端的な知識を基盤として、情報ネットワーク学分野の技術を縦断的に俯瞰することにより、新しい学問領域を開拓する能力を有する人材
3. 新たな課題を自ら設定し、それを理論と実践の両面から解決に導く力や、情報ネットワーク分野における新しい学問領域を開拓しながら、社会的価値を創造する力を有する人材
4. 国内外の技術や研究者と協力しながら、リーダーシップを強く発揮できる人材

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学および情報科学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「情報ネットワーク学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

博士前期課程では、情報科学研究科ならびに情報ネットワーク学専攻で開講される情報ネットワーク学分野における体系的なコースワークにより所定の単位を修得することによって、下記の能力を身に付けた学生に学位を授与します。

- A. 情報ネットワーク学分野における基盤技術から応用技術に関して、幅広い知識を有する。(知識・理解)
- B. 情報科学の基盤技術を基にして、情報ネットワーク学分野の技術を縦断的に俯瞰し、活用することを可能とする学識を有する。(知識・理解)
- C. 高度情報通信社会の発展に資する情報ネットワークシステムを、設計、開発する能力を有する。(技能・表現)
- D. 高度情報通信社会における応用や課題を深く理解し、情報ネットワークシステムを用いた解決法を考案、デザインする能力を有する。(思考・判断)
- E. 情報ネットワークシステムの設計、開発において、国内外の人々と協力して実現す能力、ならびにリーダーシップを有する。(技能・表現)
- F. 高度情報通信社会の発展に貢献することに関心を持ち、高い倫理観を持って、取り組む能力を有する。(関心・意欲)(態度)

博士後期課程では、情報科学研究科ならびに情報ネットワーク学専攻で開講される情報ネットワーク学分野における体系的なコースワークにより所定の単位を修得するとともに、博士論文を作成することによって、下記の能力を身に付けた学生に学位を授与します。

- A. 情報ネットワーク学分野における未知の事象や新しい技術や理論の学術的価値を深く理解し、活用することを可能とする知識を有する。(知識・理解)
- B. 情報科学の基盤技術を基にして、情報ネットワーク学分野の技術を縦断的に俯瞰する学識を有し、新しい学問領域を開拓する能力有する。(知識・理解) (思考・判断)
- C. 情報ネットワーク学分野における十分な学術的価値、すなわち、未知の事象や事物の発見、新しい理論の構築および展開、新しい技術や機器、手法、アルゴリズム等の開発や発明、応用、新しい学術的概念の創出など学理とその応用に関する重要な貢献をなす能力を有する。(思考・判断)
- D. 情報ネットワーク学分野における十分な学術的価値を持つ発明や理論の構築を、国内外の研究者を主導して行うリーダーシップを有する。(技能・表現)

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および情報科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「情報ネットワーク学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

博士前期課程では、その学位授与の方針に掲げる知識・技能を習得するために、下記の方針で、専攻基礎科目、分野打斷型融合科目、海外インターンシップ科目、プロジェクト型演習、研究科基礎科目、ならびに情報ネットワーク学研究等を、組み合わせた授業を開講します。

1. 専攻基礎科目の履修により、情報ネットワーク学分野における基盤技術から応用技術を習得します。
2. 分野横斷型融合科目、ならびに他専攻が配当する研究科基礎科目の履修により、情報科学に関する知識を基盤として、情報ネットワーク学分野の技術を縦斷的に俯瞰する技術を習得します。
3. プロジェクト型演習の履修により、高度な情報ネットワークシステムを、設計、開発する技術を習得します。
4. 情報ネットワーク学研究における修士論文作成により、高度情報通信社会における応用や課題を抽出し、解決する技術を習得します。
5. 海外インターンシップ科目の履修により、国内外の技術者と協力し、リーダーシップを発揮する技術を習得します。
6. 研究科基礎科目の履修により、情報科学分野における倫理観や使命感を習得します。

さらに博士後期課程では、情報ネットワーク学分野における高度な専門的知識を獲得するための専門科目、分野打斷型融合科目、海外の企業や研究機関等へのインターンシップ科目等を、組み合わせた授業を開講するとともに、博士論文作成に向けて自主性を重んじた研究指導を行います。

1. 専攻基礎科目の履修により、情報ネットワーク学分野における先端技術を習得します。
2. 分野打斷型融合科目の履修により、情報ネットワーク学分野の技術を縦斷的に俯瞰し、新しい学問領域の開拓を可能とする学識を習得します。
3. 研究指導により、情報ネットワーク学分野における十分な学術的価値を有する発明、応用、新しい学術的概念の創出などを行う技術を習得します。
4. 海外インターンシップ科目の履修により、海外の研究者、技術者との共同プロジェクト等におけるリーダーシップを習得します。

後期博士課程は、さらに、情報ネットワーク学分野の基礎から応用まで幅広い知識を活用して、高度情報通信社会の発展に貢献し、世界の第一線で活躍できる技術者、研究者、および、教育者等を輩出することを目指しています。そのために次のような人材を求めます。

1. 情報ネットワーク学、ならびに情報科学の応用知識を有し、それを活用できる人材。
2. 豊かで信頼のできる高度情報社会の実現に向けた情報ネットワーク学分野の深化や、情報ネットワーク分野だけでなくその関連分野におけるイノベーション創出に意欲を持つ人材。
3. 情報ネットワーク学や関連分野の技術に深い関心と興味を持ち、情報ネットワーク学の新しい分野の開拓に積極的に挑戦する意欲のある人材。
4. 情報科学分野以外を専門とする研究科等に在籍する人や、社会のさまざまな分野で活躍している人で、情報ネットワークに関して勉学や研究に取り組む意欲がある人材。
5. 海外の研究者、技術者に論理的に思考したことを伝えるコミュニケーション能力のある人材。

【入学者選抜の方針】

前期博士課程は、下記的能力有する入学者を選抜します。

1. 情報ネットワーク学、ならびに情報科学の基礎知識を有している。
2. 豊かで信頼のできる高度情報通信社会の実現に向けた技術的課題や社会的問題について関心を有する。
3. 情報ネットワーク学の新しい分野の開拓に挑戦する意欲を有している。
4. 海外の技術者とコミュニケーションするのに必要な語学力を有している。

このような学生を適正に選抜するため、一般選抜試験の他、推薦入学特別選抜試験、学部3年次学生を対象とする特別選抜試験や、外国人留学生対象特別選抜試験など、多様な入学試験を実施しています。

後期博士課程は、下記的能力有する入学者を選抜します。

1. 情報ネットワーク学、ならびに情報科学の応用知識、あるいは、関連分野の応用知識を有し、これらの知識を活用できる。
2. 豊かで信頼のできる高度情報社会の実現に向けた情報ネットワーク学分野の深化や、情報ネットワーク分野だけでなくその関連分野におけるイノベーションに関心を有している。
3. 情報ネットワーク学の新しい分野の開拓に挑戦する意欲を有し、さらに分野開拓に必要な学識を有している。
4. 海外の研究者、技術者とコミュニケーションし、さらにリーダーシップを発揮するのに必要な語学力を有している。

このような学生を適正に選抜するため、一般選抜試験の他、外国人留学生対象特別選抜試験を実施しています。

情報科学研究科

学位プログラム「マルチメディア工学」

学位：修士(情報科学、理学、工学)
博士(情報科学、理学、工学)

教育目標

大阪大学および情報科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「マルチメディア工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

豊かな情報社会の実現を図るために高度な情報通信ネットワークを介して大量のマルチメディアコンテンツを高速に分析・加工・編集・蓄積するためのメディア情報処理技術を教育し、ユーザからの多様な要求に応えられる人材の育成を目指します。より具体的には、マルチメディアに関するデータ工学やシステムアーキテクチャ、セキュリティ等の知識を基盤として、ハードウェアやソフトウェアを高度に利用し、社会に役立つ情報システムを設計、開発、活用できるよう教育を行い、情報分野の技術者、研究者、教育者として、近い将来世界の第一線で活躍できるようになる人材を輩出することを目標とします。

博士前期課程では、データ工学、システムアーキテクチャ、セキュリティなど、マルチメディア工学の基礎となる知識を幅広く修得するとともに、習得した知識を社会の実問題に適用し問題を解決するための技術を身につけます。また、これらの知識や技術を駆使しながら、国内外の多くの人々と協力し、現実のシステムを設計、構築、運用できるようになることを目指します。

博士後期課程では、マルチメディア工学領域における新たな課題や問題を見つけ、それを理論、実践の両面から解決に導く力や、新しい学問領域を創設し、新たな社会的価値を創造する力を有する研究者や技術者の育成を目指します。その際、国内外の多くの協力者をまとめ、リーダーシップを強く発揮できる人材を目指します。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および情報科学研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「マルチメディア工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

博士前期課程では、高度な情報通信ネットワークを介してマルチメディアコンテンツを高速に加工・編集・蓄積するためのメディア情報処理技術など、マルチメディア工学分野の広い領域を横断的に、さらに基礎から応用までを縦断的に深く探求できるための基礎的素養ならびに教養・デザイン力・国際性を涵養できる体系的なコースワークにより所定の単位を修得します。加えて、指導教員による研究指導の下で研究を遂行し、修士学位論文を提出します。修士学位論文の審査において、マルチメディア工学に関連した情報科学技術分野における研究能力を有し、専攻分野の発展に貢献する研究内容を含んでいると判断された場合に学位が授与されます。具体的な判断基準は以下のとおりです。

1. マルチメディア工学分野における十分な学識を有すること。
2. この学識を論理的に系統立てて活用することで問題解決を行い、研究を遂行する能力を有すること。
3. 人と協同で問題解決を行う能力、および、自身の考えや技術的な事柄を明確に説明する能力を有すること。
4. 修士学位論文のテーマに関して、国際的に先端の研究成果を理解し、国際的な研究プロジェクトに参画するための基礎的素養があること。
5. マルチメディア工学の学術分野と応用分野における未解決な問題に取り組み、これらの分野の発展に寄与する意欲と能力を有すること。

博士後期課程では、マルチメディア工学分野における高度な専門的知識を修得するコースワークにより所定の単位を修得し、指導教員による研究指導の下で研究を遂行し、博士学位論文を提出します。提出された博士学位論文は厳正に審査され、マルチメディア工学に関連した情報科学技術分野における十分な学術的価値を有するとともに、独立した研究者として研究を遂行できる能力を有し、当該論文の学術内容の社会に対する貢献が認められると判断された場合に学位が授与されます。

具体的な判断基準は以下のとおりです。

1. 独立した研究者として研究を遂行するのに必要な、マルチメディア工学分野における深い知識を有すること。
2. マルチメディア工学分野における深い知識を駆使して、解決すべき学術的もしくは社会的な問題を自ら明確にし、それを解決できる能力を有すること。
3. 情報科学分野の学理と応用に関する重要な問題に積極的に取り組み、これを解決する意欲を有すること。
4. グループを率いて問題解決を行うリーダーシップと、国際的な場において高度な専門技術について説明し、議論を行う能力を有すること。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および情報科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「マルチメディア工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

博士前期課程では、以下のように、マルチメディア工学分野の高度技術者・研究者としての素養を身に付けるとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識を修得できるようにしています。

1. マルチメディア工学分野の広い領域を横断的に、さらにマルチメディアデータの基本技術から効果的な利用法までを縦断的に深く探求できるための基礎的素養を獲得するための専攻基礎科目の他に、選択科目として周辺の重要分野を網羅した境界横断的な科目を履修します。また、分野横断型融合科目や、産業界等外部から講師を招いて最新の技術動向をカバーする特別講義科目も履修できます。
2. プロジェクト型演習科目やセミナー科目を通じて、人と協同で問題解決を行う能力、および、自身の考えや技術的な事柄を明確に説明する能力を養います。さらに、国内外の企業や研究機関へのインターンシップ科目など実践力を育てる科目も履修できます。

3. このような教養・デザイン力・国際性を涵養する情報科学技術における高度な授業とともに優れた研究指導の下、修士学位論文を執筆します。

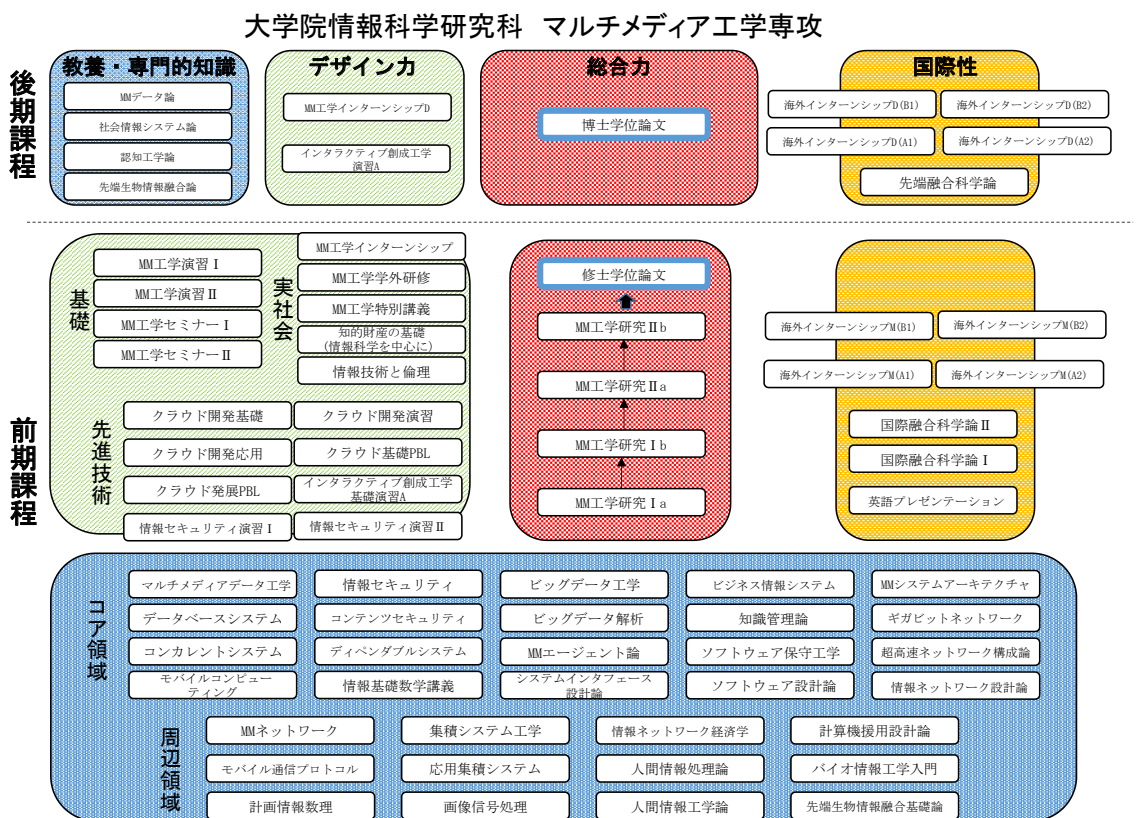
各科目では、学生が到達すべき目標を定められ、筆記試験、レポート、口頭発表等に基づき、各学生の到達度により、単位認定が行われます。

博士後期課程では、独立した研究者として研究を遂行できるようになるために、以下のように、能力を養います。

1. マルチメディア工学分野における高度な専門的知識を獲得するための専門科目に加え、国内外の企業や研究機関等へのインターンシップ科目などを履修でき、新しい学術的価値を生み出す能力を養い、また、研究活動を通じて新しい社会的価値を創出できる能力を養います。
2. このような教養・デザイン力・国際性を涵養する情報科学技術における高度な授業とともに、優れた研究指導の下、博士学位論文を執筆します。

各科目では、学生が到達すべき目標を定められ、レポート、口頭発表等に基づき、各学生の到達度により、単位認定が行われます。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および情報科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「マルチメディア工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

博士前期課程では、国内外を問わず、より高度な情報社会の実現を可能にするマルチメディア工学分野の確立と深化を担う十分な基礎学力と知識や意欲を持った学生を受け入れます。このため、次のような知識や能力をもつ人を、選抜試験を通じて受け入れます。

1. 十分な基礎学力と知識を有すること。
(ア)理工系の学部で情報科学を学んできた人。
(イ)学部で情報科学以外の分野を学んできて、その分野に関して優れた学力と知識があり、情報科学についても基礎学力がある人。
2. マルチメディア工学そのもの、あるいはマルチメディア工学の他分野への応用や展開に興味を持っていること。
3. 物事を論理的に考えることができ、考えた内容を説明できること。

博士後期課程では、国内外を問わず、より高度な情報社会の実現のためにマルチメディア工学分野の深化やイノベーションの創起に意欲を持った学生を受け入れます。このため、次のような知識や能力をもつ人を、選抜試験を通じて受け入れます。

1. 十分な学力と知識を有すること。
(ア)理工系などの研究科(博士前期課程・修士課程)で情報科学を学んできた人。
(イ)企業や研究機関における研究開発を通じて情報科学に関する学力と知識を培ってきた人。
(ウ)理工系などの研究科(博士前期課程・修士課程)で情報科学以外を学んできた人で、その分野に極めて優れた学力を有し、情報科学についても基礎学力と知識がある人。
2. マルチメディア工学そのもの、あるいはマルチメディア工学の他分野への応用や展開に関して、深化やイノベーションの創起に強い意欲を持っていること。
3. 物事を論理的に考えることができ、考えた内容を明快に説明できること。また、指導の下で、研究を推敲できる能力を有すること。

【入学者選抜の方針】

博士前期課程では、一般選抜、留学生特別選抜、学部3年次を対象とする特別選抜により、情報科学の基礎学力、英語力を評価し、また、説明能力、意欲を面接により評価します。また、情報科学以外の分野を学んできた人に対しては、推薦入試の面接試験により、学んできた分野の学力、情報科学を学ぶための基礎的素養、説明能力、意欲を評価します。

博士後期課程では、日本語または英語による面接試験により、博士前期課程等における研究成果の説明を受け、専門分野における知識や問題に対する着想、解決の道筋、そしてそれらをわかりやすく説明する能力、今後希望する研究テーマへの意欲を評価します。

情報科学研究科

学位プログラム「バイオ情報工学」

学位：修士（情報科学、理学、工学）
博士（情報科学、理学、工学）

教育目標

大阪大学および情報科学研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「バイオ情報工学」では以下のとおり教育目標を定めています。

人工物、生物に限らずあらゆるシステムが内部での情報処理と外部との入出力を繰り返すことで大きなネットワークのダイナミックスを創り出しています。生物の行っている柔軟でロバストな情報処理を、ネットワークを構成するシステムの挙動として理解することで、耐故障性や拡張性に優れた情報システムを設計・構築する新たな情報科学技術の創出が期待できます。情報科学と生命科学の相補的循環、つまり、情報科学の立場からの生命システムの理解、および、生命システムに基づいた新しい情報科学技術の創出によって、さまざまな分野への産業応用と人材育成が求められています。バイオ情報工学専攻では、この目的を達成するために、生物を対象としたアナリシス（解析）とシンセシス（設計）を両輪とする新しい情報科学・工学の学術領域を開拓する技術者、研究者、および、教育者等の輩出を目指しています。

博士前期課程では、当該分野の基礎となる知識を幅広く修得し、生物の機能およびネットワークの理解から応用までの技術力を身につけるとともに、国際的な視野を持って研究開発を行うためのデザイン力、コミュニケーション力、マネジメント力の養成を図っています。

博士後期課程では、これらに加えて、当該分野において自ら設定した課題を探究できる研究能力、世界的な視野で技術者・研究者を先導するリーダーシップ力を駆使し、高い倫理観をもって活躍できる人材の育成を目標とします。

ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

大阪大学および情報科学研究科のディプロマ・ポリシー（学習目標を含む）のもとに、学位プログラム「バイオ情報工学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

博士前期課程

バイオ情報工学専攻博士前期課程では、生物の機能およびネットワークの理解から応用までの基礎となる知識を幅広く修得し、体系的なコースワークにより所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえで修士学位論文を作成・提出します。これらにより、当該分野に関する十分な学識と研究能力

- を有し、当該分野の発展に貢献する研究内容を含んでいると判断できる場合に学位を授与します。
- 修了までに、生物を対象としたアナリシス（解析）とシンセシス（設計）を両輪とする新しい情報科学・工学の学術領域を開拓する技術者、研究者に以下のような能力を修得している。
- ・生物の機能の解明、生物に関する情報処理・解析、ネットワークの理解と解析、人間の感覚情報処理・解析のための基礎的な知識や技能（高度な専門性と深い学識）
 - ・情報科学に関連する広い知識と教養（教養）
 - ・自身の研究内容の意義を社会と照らし合わせて議論ができ、自らの研究を説明するコミュニケーション能力（社会性）
 - ・国際的な見地に立って自身の研究内容を議論し説明する能力（国際性）
 - ・当該分野に関連する先端的研究を調査し、自らの研究を発展させるデザイン力を身に付けている（デザイン力）

博士後期課程

- 博士後期課程では、当該分野における高度な専門的知識を最先端の学識へと深化させる体系的なコースワークにより所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けたうえで博士学位論文作成・提出します。提出された博士学位論文が、当該分野に関する全般的知識をもとにした新しい理論とその応用に関する十分な学術的価値を有するとともに、独立した研究者として研究を遂行できる学力を有し、当該論文の学術内容の社会に対する貢献が認められると判断できる場合に学位を授与します。
- 修了までに、生物を対象としたアナリシス（解析）とシンセシス（設計）を両輪とする情報科学・工学の学術領域でイノベーションを想起することのできる技術者、研究者に必要な高度な専門性と深い学識を有するための以下のような能力を修得している。
- ・生物の機能の解明、生物に関する情報処理・解析、ネットワークの理解と解析、人間の感覚情報処理・解析するための先端的な知識や技能（高度な専門性と深い学識）
 - ・情報科学に関連する広い教養、倫理観を身に付けている。（教養）
 - ・自身の研究内容の意義を社会と照らし合わせて議論ができ、自らの研究を説明するコミュニケーション能力を身に付けている。（社会性）
 - ・国際的な見地に立って自身の研究内容を議論し説明する能力（国際性）
 - ・当該分野において自ら設定した課題を探究できる研究能力、世界的な視野で技術者・研究者を先導するし、活躍できる能力（デザイン力）

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および情報科学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「バイオ情報工学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

博士前期課程

- バイオ情報工学専攻の博士前期課程では、ミクロからマクロまでの多様な生物の機能および生物や

情報のネットワークの理解から応用までの基礎科目を実施します。

- ・生物の機能を解明するための基礎的な知識や技能を修得する科目
- ・生物に関する情報を処理し、解析する基礎的な知識や技能を修得する科目
- ・ネットワークを理解するための基礎的な知識と技能を修得する科目
- ・人間の感覚情報を扱い、解明するための基礎的な知識や技能を修得する科目
- ・生物系、情報系のバックグラウンドを持った学生が両方の分野の内容を理解する能力を身に付けるため、入学後、最初にバイオ情報工学入門を実施します。同時に、上記の専攻基礎科目を修得します。

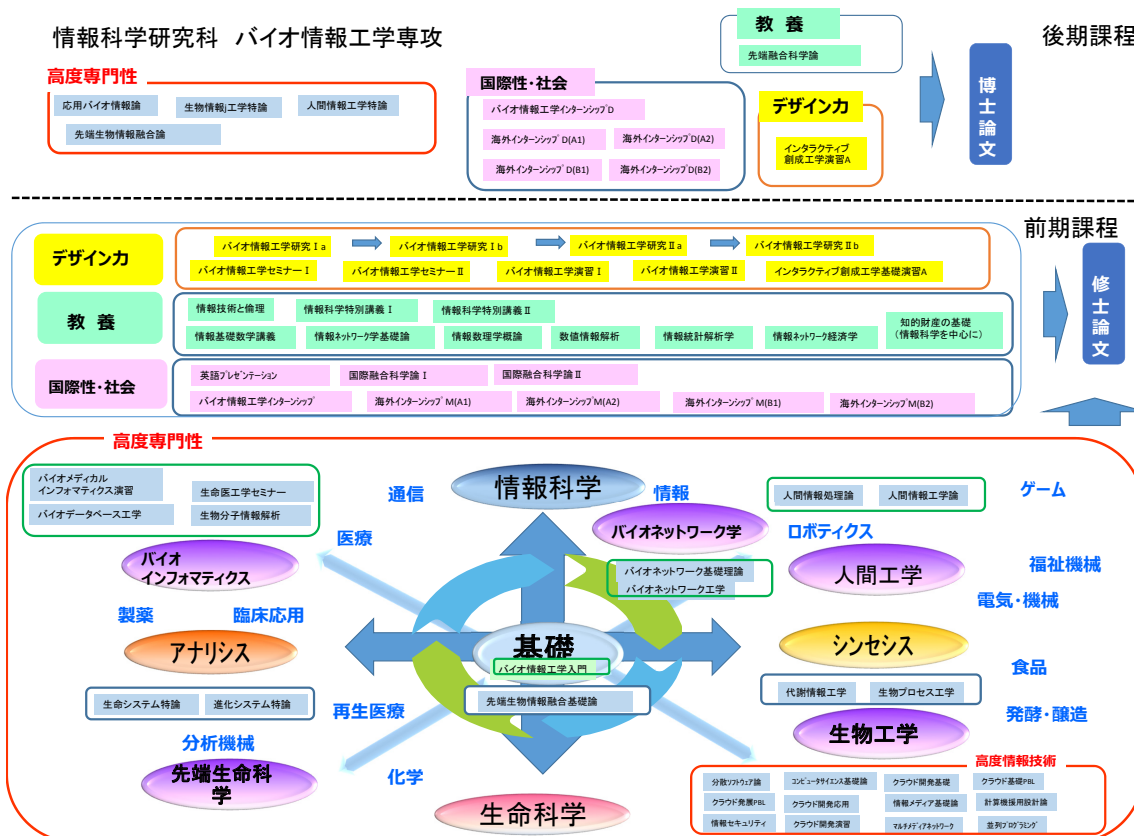
- 専攻境界科目として周辺の重要分野を網羅し、情報科学の教養を身に付ける境界横断的な科目を本人の意思により選択し修得します(教養)。
- 産業界などの外部から講師を招いて最新の技術動向をカバーする特別講義科目、国内外の企業や研究機関へのインターンシップ科目を実施し、自らの研究の社会とのかかわりを考察・議論する力を身に付けます(社会性、国際性)。
- プロジェクト型演習科目、最新の研究を調査し自身の研究に取り込む力を身につける演習科目、自身の研究の進捗を伝えるコミュニケーション能力など実践力を育てるセミナー科目を配置することによって、高度技術者・研究者としての素養を身に付けます。(デザイン力)
- 国際性を涵養する英語コミュニケーション能力を身に付けるとともに、社会の多様な要請に対応した幅広い知識を修得します。(国際性、社会)
- 当該分野に関する十分な学識と研究能力を有し、当該分野の発展に貢献する研究内容を追行する能力を身に付ける研究指導を行います。

博士後期課程

博士後期課程では、当該分野における最先端の科学・技術を修得できる専門科目に加え、国内外の企業や研究機関等へのインターンシップ科目などを配置し、新しい学術的価値を生み出す能力を養い、また、それを活用して新しい社会的価値を創出できる人材の育成を行っています。このような教養・デザイン力・国際性を涵養する情報科学技術に係わる高度な授業を開講するとともに研究指導を行います。

- バイオ情報工学専攻の博士後期課程では、ミクロからマクロまでの多様な生物の機能およびネットワークの理解から応用までの先端的科目を実施します。
- ・生物の機能を解明するための基礎的な知識や技能を修得する科目
- ・生物に関する情報を処理し、解析する先端的な知識や技能を修得、ネットワークを理解するための先端的な知識と技能を修得する科目
- ・人間の感覚情報を扱い、解明するための先端的な知識や技能を修得する科目
- 当該分野に関する十分な学識と研究能力を有し、当該分野の発展に貢献する研究内容を遂行し、それを活用し、高い倫理観をもって新しい社会的価値を創出できる能力を身に付ける研究指導を行います。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー (入学受入の方針)

大阪大学および情報科学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「バイオ情報工学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

博士前期課程

バイオ情報工学専攻の博士前期課程では、生物の機能およびネットワークの理解から応用により創出される新たな情報科学・工学の学術領域を開拓するための技術の確立と深化を担う意欲を持った学生を受け入れます。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

- 理工系の学部における情報科学・情報工学、または、生物情報(基礎生物学)についての知識や実技能力(知識、技能)
- 英語によるコミュニケーション能力(技能)
- 物事を多面的かつ論理的に考察することができる力。(思考力)
- 自分の考えを的確に表現し、伝えることができる力。(思考力)

○生物の機能およびネットワークの理解から応用により創出される新たな情報科学・工学の技術や研究を行う意欲。(意欲・関心)

【入学者選抜の方針】

上記の能力を有している受験生を一般選抜入試(筆記試験・口頭試問)を通して入学させます。英語によるコミュニケーション能力はTOEICのスコアを参考に評価します。さらに幅広く人材を求めるために、情報科学や生物学以外の分野を学んできた人も受け入れます(推薦入試)。また、国内に限定することなく、海外からも秀でた学生を積極的に受け入れます(外国人対象留学生特別選抜)。

博士後期課程

バイオ情報工学の学術領域において、自ら設定した課題を探索できる研究能力、世界的な視野で技術者・研究者を先導するリーダーシップ力を駆使し、高い倫理観をもって活躍できる人材の育成を目標とします。イノベーションを創起する意欲を持った学生を受け入れます。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

- 理工系などの研究科(博士前期課程・修士課程)における情報科学または生物学の基礎学力と技能を有する。
- 英語によるコミュニケーション能力(技能)
- 物事を多面的かつ論理的に考察し、与えられた課題について研究を行う能力(思考力)
- 自分の考えを的確に表現し、伝える能力(思考力)
- 生物の機能およびネットワークの理解から応用により創出される新たな情報科学・工学の学術領域を開拓する意欲。(意欲・関心)

【入学者選抜の方針】

上記の能力を有している受験生を一般選抜入試(口頭試問)を通して入学させます(一般選抜)。英語によるコミュニケーション能力はTOEICのスコアを参考に評価します。情報科学技術の生物学や医学などへの応用や展開に興味を持つ人、既にこれらの研究科を修了し、社会のさまざまな分野で活躍しながら、専攻の目指す学術領域への貢献を強く願っている人を受け入れます。さらに幅広く人材を求めるために、情報科学以外の研究科等に在籍する人や、社会人で情報科学や生物学に関して勉学や研究に取り組む意欲がある人も受け入れます。国内に限定することなく、海外からも秀でた学生を積極的に受け入れます(外国人対象留学生特別選抜)。

生命機能研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受け、生命機能研究科の博士課程では、生命の多様な機能や原理の探求を通じて社会に貢献することを使命とし、医学、工学および理学の融合的な考え方ならびに高度な研究能力を有する将来の科学界・産業界を担う国際性豊かな人材を社会に輩出することを目標としています。

その目標を実現するために、世界最先端の研究を展開する第一線で学生の自由な発想を活かしながら、分野融合環境のもと学生自身の成長を促し、高度な専門家や次世代の最先端研究を担う研究者として活躍する人材、そして社会のより広い分野でリーダーとして活躍する人材を育成することを目指した教育に取り組んでいます。

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもと、生命機能研究科では、5年一貫制の博士課程を通して、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、最終試験に合格した学生に博士の学位を授与します。優れた研究業績をあげた学生は、早期に博士の学位を修得することができます。また、所定の要件を満たし、中間審査に合格した学生には修士の学位が授与されます。

生命の多様な機能や原理の探求を通じて、高度な研究能力と融合的な考え方を習得し、科学界、産業界など広く社会に貢献することができる人材を育成し、次のような資質を持つ高度な専門家、研究者として輩出することを目指しています。

- ・ 真理を探求する意志と好奇心に富み、高い倫理観を有し、主体的に行動することで真理を解明する実行力を習得している。
- ・ 高度な専門分野の知識と技術を有し、専門性の深化とともに分野融合能力を身につけることで、新たな分野を切り拓く創造力を習得している。
- ・ 研究者、専門家の集団を組織し、共同して課題に取り組み、解決するとともに、社会に対する責任感、使命感と国際性を有するリーダーシップを習得している。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学のカリキュラム・ポリシーを受け、生命機能研究科では、5年一貫制博士課程のもと、基礎的知識・技術習得のための基礎教育、最先端の研究を含む個々の分野における高い専門性を深化させる教育、優れた研究環境と世界的レベルの教員による最先端の研究指導、異分野での研究活動等を通して、高度な研究能力と専門性を習得します。

- ・ 医学・生命科学と工学・物理学との融合によってこれまでにない新分野を創成することを目指しています。国内外の当該分野で先導的な役割を果たしている教員により、最先端の知識と技術を習得するとともに、学問分野の融合を目指した教育を行います。このため、専門教科に加えて数学・物理・化学・生物・医科学に関する基礎的講義科目とそれを実践する演習や実習科目を提供しています。このような学習により、次世代の先導的生命科学分野を開拓する世界的レベルの人材や、生命機能研究の成果を社会に還元できる人材を育成します。
- ・ 出身が異なる学生への教育に当たっては、未経験分野への基礎教育を行うとともに、それまで身につけた知識と技術を埋もれさせることなく、むしろ活かせるような個性を生かした教育を実施します。
- ・ 新たな技術・分野の創出や研究成果を多様な方法で社会に還元することができるよう、最先端の知識・技術の習得とともに、異分野を体験できる教育を通して、社会のニーズを意識できる教育を行います。そのために、他研究室、他大学院などで積極的に学ぶプロジェクト研究科目が設けられています。
- ・ 単位認定については、レポート等を課し、その評価に基づき認定を行います。

アドミッション・ポリシー

（入学者受入の方針）

大阪大学のアドミッション・ポリシーを受けて、以下の教育理念に基づき試験を実施します。

生命機能研究科は、生命科学の最先端を切り開くリーダーの育成を目指す研究機関です。近年、生命科学の分野には、ゲノム情報の解読、改変された遺伝子の導入法の確立など大きな変革が相次ぎ、医薬、農業、材料工学などへ、従来では予想できない形での応用の可能性が広がり、またその一方で、生命の根源に迫る問いのいくつかが解決されようとしています。研究手法も高度化し、これまでの、遺伝学、酵素学が主体のいわゆる「生物学」から、光工学、情報工学、ロボットなどの他分野の先端技術を利用する複合的な分野へと変化しています。このような生命科学の新時代に対応するため、本研究科では、幅の広い教授陣を揃え、医学、工学、理学を融合した環境で5年一貫制の教育を行い、想像力に優れ、自分の研究で世界を切り開いていける、新時代のリーダーとなるべき人材を育てます。

求める資質として最も重要なものは、探究心と想像力、そして対外的な交渉のための語学力です。現状での知識も必要ですが、それは入学後でも十分に得られるものであると考えます。そのため試験では、十分な時間を取って、口頭試問と言う形で議論することで、志願者1人1人の科学者としての将来性を見極めます。また、国際的に活躍できる研究者であるための必須の要素として、英語による意思伝達能力が重要です。英語に関しては、TOEIC等のスコアを利用することで、より実用的な英語能力を試験します。

生命機能研究科

学位プログラム「生命機能学」

学位：修士(学術、理学、工学、生命機能学)
博士(学術、理学、工学、生命機能学)

教育目標

大阪大学および生命機能研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「生命機能学」では以下のとおり教育目標を定めています。

生命機能研究科の博士課程では、生命の多様な機能や原理の探求を通じて社会に貢献することを使命とし、医学、工学および理学の融合的な考え方ならびに最先端かつ高度な研究能力を有する将来の科学界・産業界を担う国際性豊かな人材を社会に輩出することを目標としています。

その目標を実現するために、世界最先端の研究を展開する第一線で学生の自由な発想を活かしながら、分野融合環境のもと学生自身の成長を促し、高度な専門家や次世代の最先端研究を担う研究者として活躍する人材、そして社会のより広い分野でリーダーとして活躍する人材を育成することを目指した教育に取り組んでいます。

具体的には、次のような能力を有する人材を育成することを教育目標としています。

- ・生命科学を第一線で研究するに必要な最先端かつ高度の専門性と研究能力を有する
- ・独創性のある研究を推進することができる
- ・基礎的知識と幅広い見識と教養を有し、分野横断型研究に積極的に臨むことができる
- ・分野を国際的視野から牽引することができる

ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

大阪大学および生命機能研究科のディプロマ・ポリシー(学習目標を含む)のもとに、学位プログラム「生命機能学」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

生命機能研究科では、5年一貫制の博士課程を通して、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、最終試験に合格した学生に博士の学位を授与します。優れた研究業績をあげた学生は、早期に博士の学位を修得することができます。また、所定の要件を満たし、中間審査に合格した学生には修士の学位が授与されます。

生命の多様な機能や原理の探求を通じて、高度な研究能力と融合的な考え方を習得し、科学界、産業界など広く社会に貢献することができる人材を育成し、次のような資質を持つ高度な専門家、研究者として輩出することを目指しています。

- ・高度な専門性を有する人材

生命機能を解明するための高度な専門分野の知識と技術を有し、深い専門性を備えている。生命系

の複雑な要因を分析し、物事の本質を見極めることができる。困難な状況に直面したとき、専門的知識と自ら得た知見とから問題解決の糸口を見出すことができる。

- ・幅広い見識と教養

生命機能研究には、生物学に加えて数学、物理学、化学、医科学などの幅広い知識と手法を要するため、多岐の学問にアプローチする能力を有する。分野横断を推進するために必要な融合能力を身につける。

- ・独創性とデザイン力

真理を探究する意志と好奇心に富み、高い倫理観を有し、主体的に行動することで真理を解明する実行力をもつ。オリジナリティーを尊び、新たな分野を切り拓く創造力を目指す。

- ・リーダーシップと国際性

研究者、専門家の集団を組織し、共同して課題に取り組み、解決するとともに、社会に対する責任感、使命感と国際性を有するリーダーシップを習得している。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学および生命機能研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「生命機能学」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

生命機能研究科では、5年一貫制博士課程のもと、基礎的知識・技術習得のための基礎教育、最先端の研究を含む個々の分野における高い専門性を深化させる教育、優れた研究環境と世界的レベルの教員による最先端の研究指導、異分野での研究活動等を通して、高度な研究能力と専門性を習得します。

- ・医学・生命科学と工学・物理学との融合によってこれまでにない新分野を創成することを目指しています。国内外の当該分野で先導的な役割を果たしている教員により、最先端の知識と技術を習得するとともに、学問分野の融合を目指した教育を行います。このため、専門教科に加えて数学・物理・化学・生物・医科学に関する基礎的講義科目とそれを実践する演習や実習科目を提供しています。このような学習により、次世代の先導的生命科学分野を開拓する世界的レベルの人材や、生命機能研究の成果を社会に還元できる人材を育成します。
- ・出身が異なる学生への教育に当たっては、未経験分野への基礎教育を行うとともに、それまで身につけた知識と技術を埋もれさせることなく、むしろ活かせるような個性を生かした教育を実施します。
- ・新たな技術・分野の創出や研究成果を多様な方法で社会に還元することができるよう、最先端の知識・技術の習得とともに、異分野を体験できる教育を通して、社会のニーズを意識できる教育を行います。そのために、他研究室、他大学院などで積極的に学ぶプロジェクト研究科目が設けられています。
- ・カリキュラムとしては、基礎的講義科目と実習や演習を1年次前半に学ばせ、1年次後半から専門的研究を行わせる。プロジェクト研究は、3年次以降に行わせる。
- ・単位認定については、レポート等を課し、その評価に基づき認定を行います。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

■生命機能研究科カリキュラム・マップ

学習目標	1年次		2年次		3年次		4年次	5年次
	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎的研究能力を学ぶ 分野融合型研究の素地を学ぶ	基礎物理学Ⅰ 基礎数学Ⅰ 基礎生物学Ⅰ～Ⅲ 基礎化学Ⅰ、Ⅱ 基礎医科学Ⅰ、Ⅱ Introduction to Frontier Biosciences 基礎物理学実習 基礎生物学実習 基礎化学実習 基礎医科学実習 コンピュータ科学演習	基礎物理学Ⅱ						
幅広い見識と教養を学ぶ		特別集中講義Ⅰ～Ⅳ		特別集中講義Ⅰ～Ⅳ				
	ナノ生体科学Ⅰ(A～C) 細胞ネットワークⅠ(A～D) 時空生物学Ⅰ(A～D) 個体機能学Ⅰ(A～D) 脳神経工学Ⅰ(A～E) 生体ダイナミクスⅠ(A～D) 理工医学Ⅰ(A～F, S)		ナノ生体科学Ⅱ(A～C) 細胞ネットワークⅡ(A～D) 時空生物学Ⅱ(A～D) 個体機能学Ⅱ(A～D) 脳神経工学Ⅱ(A～E) 生体ダイナミクスⅡ(A～D) 理工医学Ⅱ(A～F, S)					
高度な専門性を学ぶ	ナノ生体科学セミナーⅠ(A～C) 細胞ネットワークセミナーⅠ(A～D) 時空生物学セミナーⅠ(A～D) 個体機能学セミナーⅠ(A～D) 脳神経工学セミナーⅠ(A～E) 生体ダイナミクスセミナーⅠ(A～D) 理工医学セミナーⅠ(A～F, S)		ナノ生体科学セミナーⅡ(A～C) 細胞ネットワークセミナーⅡ(A～D) 時空生物学セミナーⅡ(A～D) 個体機能学セミナーⅡ(A～D) 脳神経工学セミナーⅡ(A～E) 生体ダイナミクスセミナーⅡ(A～D) 理工医学セミナーⅡ(A～F, S)					
異なる専門性を養う 最先端研究を学ぶ					プロジェクト研究Ⅰ～XXX, S			
最先端かつ高度な専門性を学ぶ 独創性とデザイン力を磨く					ナノ生体科学特別セミナー(A～C) 細胞ネットワーク特別セミナーⅠ(A～D) 時空生物学特別セミナー(A～D) 個体機能学特別セミナー(A～D) 脳神経工学特別セミナー(A～E) 生体ダイナミクス特別セミナー(A～D) 理工医学特別セミナー(A～F, S)			
研究倫理を遵守することを徹底する	(研究倫理)				(研究倫理)			

アドミッション・ポリシー (入学者受入の方針)

大阪大学および生命機能研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「生命機能学」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

【入学者選抜の方針】

大阪大学のアドミッション・ポリシーを受けて、以下の教育理念に基づき試験を実施します。

生命機能研究科は、生命科学の最先端を切り開くリーダーの育成を目指す研究機関です。近年、生命科学の分野には、ゲノム情報の解読、改変された遺伝子の導入法の確立など大きな変革が相次ぎ、医薬、農業、材料工学などへ、従来では予想できない形での応用の可能性が広がり、またその一方で、生命の根源に迫る問いのいくつかが解決されようとしています。研究手法も高度化し、これまでの、遺伝学、酵素学が主体のいわゆる「生物学」から、光工学、情報工学、ロボットなどの他分野の先端技術を利用する複合的な分野へと変化しています。このような生命科学の新時代に対応するため、本研究科では、幅の広い教授陣を揃え、医学、工学、理学を融合した環境で5年一貫制の教育を行い、想像力に優れ、自分の研究で世界を切り開いていける、新時代のリーダーとなるべき人材を育てます。

求める資質として重要なものは、論理的に考える力、探究心、想像力、対外的な交渉のための語学力、そして学問や科学に対する真摯な態度です。現状での知識も必要ですが、それは入学後でも十分に得られるものであると考えます。そのため試験では、十分な時間を取って、口頭試問と言う形で議論することで、志願者1人1人の科学者としての素質と将来性を見極めます。また、国際的に活躍できる研究者であるための必須の要素として、英語による意思伝達能力が重要です。英語に関しては、TOEIC等のスコアを利用することで、より実用的な英語能力を試験します。

高等司法研究科

■ 教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けた、専門職大学院としての本研究科の教育の理念及び目標は、「新時代を担う真のLegal Professionalsの育成」です。多様なバックグラウンドを有する学生を多数受け入れ、高度の法的知識、能力、豊かな人間性、厳格な職業倫理を兼ね備え、かつ、ひとりひとりの国民がそれぞれに社会的責任を持った主体として自由で公正な社会の構築に参画することが求められる社会に貢献する法曹を養成することを目指しています。そのため、以下の重層的な目的を掲げています。

- (1) 法科大学院は、法曹養成教育プロセスの第一段階ですので、①将来の法曹としての実務に必要な基礎的な知識及び技能を確実に修得させること、②その基礎にたつて、理論的かつ実践的な応用能力を身につけさせることを目指します。
- (2) 人間や社会のあり方に関する幅広い問題関心を持ち、複眼的思考と深い洞察力をもって既存の法律知識を批判的に検討しながら、発展させていく創造的な思考力、同時に豊かな人間性と高い倫理性を有する総合的・全人格的な能力の涵養を目指します。
- (3) 商都大阪という立地から、ビジネス法に重点を置いた教育を実施し、地域社会に貢献・寄与できる法曹を養成することを目指します。

ディプロマ・ポリシー

(学位授与の方針)

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、以下の本研究科のディプロマ・ポリシーを定めました。

専門職大学院である本研究科の標準修業年限は3年で、所定の科目群から合計98単位以上を修得し、(1)から(4)までの知識、能力を身につけ、司法試験に合格しうる学生に「法務博士」学位を授与します。

本研究科の課程において必要とする法学の基礎的な学識を有すると教授会が認めた者(法学既修者)については、1年次配当の必修科目34単位を修得したものとみなします。また、法学既修者については、修了に要する在学期間につき1年を超えない範囲で、本研究科が認める期間在学したものとみなすことになりますので、2年で本研究科課程を修了することができます。

- (1) 十分な法律知識を身につけ、的確な文章表現で自分の考えを示すことができる
- (2) 司法修習に即応できる実務の知識・技能を身につけている
- (3) 多角的視点から社会的事象を捉えることができる
- (4) 豊かな人間性と高い職業倫理を身につけている

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、本研究科は、法曹養成教育プロセスの第一段階としての教育目標を実現するために、以下の4つの柱に即してカリキュラムを構築しています。

- (1) 少人数教育と段階的かつ完結的な履修を可能にするカリキュラムの設定
- (2) 「理論と実務の架橋」を目指し、内容面と主体面ともに実務家との密接な協力に基づく実務系科目の段階的配置
- (3) 幅広い視野・関心及び複眼的思考による深い洞察力と国際性を涵養するための充実した基礎法学・隣接科目の提供並びに法曹としての責任・倫理観を陶冶するための法曹倫理の必修化
- (4) 現代社会の多様な法的ニーズにこたえられる展開・先端法領域での授業科目の提供

これらを具体化するために、学年進行的に、①「理論」的性格の強い授業科目から、「実務」的性格の強い授業科目へと比重が移行していくように、また、②全体として「基礎」から「応用」さらには「演習」ないし「展開・先端」へと推移していくように授業科目を配置しています。特に、法律基本科目では「基礎」から「応用」そして「総合」という積上げ型学修を徹底しています。

さらに、法学未修者を念頭において、法学学修の手ほどきをする導入的科目を配置しています。

各科目の単位認定については、次の段階に進めるレベルに達したかどうかを絶対的に評価して決定し、そのレベルに達した者については相対的評価によって成績を決定します。

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、本研究科は、法科大学院制度の理念及び本研究科の理念に共感し、教員や同級生とともに研鑽を積む学生を求めています。単なる知識の習得や一つの答えに満足せず、柔軟な発想のもとに「考える」という論理的プロセスを大事にし、自らが設定する課題を探究しようとする学生、また、厳格な成績評価・修了認定に耐えるだけの努力を惜しまない学生、を求めています。

具体的には、①法学の基礎的な学識を既に修得した者(法学既修者)、②法学以外の専門知識を十分に修得した者、または社会において多様な知識を獲得し、経験を積んだ者(法学未修者)を求めています。

法学既修者については、一般選抜(法学既修者コース)を実施しています。一次選抜として学部での成績、志望理由書、適性試験の点数等による書類選考を行い、その合格者に対して、憲法・行政法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法の論文式試験を課しています。

法学未修者については、一般選抜(法学未修者コース)と社会人や他学部・他学科卒業生を対象とする特別選抜を実施しています。一般選抜(法学既修者コース)と同様の書類選考による一次選抜の合格者に対して、一般選抜(法学未修者コース)では小論文試験を、特別選抜では口述試験をそれぞれ課しています。小論文試験も口述試験も法律知識を問うものではありません。

一般選抜の法学既修者コースと法学未修者コースは併願できます。また、一般選抜と特別選抜も併願できます。

高等司法研究科

学位プログラム「法務」

学位：法務博士（専門職）

教育目標

大阪大学および高等司法研究科の教育目標を受けて、学位プログラム「法務」では以下のとおり教育目標を定めています。

専門職大学院としての本研究科の教育の理念及び目標は、「新時代を担う真のLegal Professionalsの育成」です。多様なバックグラウンドを有する学生を多数受け入れ、高度の法的知識・能力、幅広い教養、豊かな人間性、厳格な職業倫理を兼ね備え、かつ、ひとりひとりの国民がそれぞれに社会的責任を持った主体として自由で公正な社会の構築に参画することが求められる社会に貢献する法曹を養成することを目指しています。そのため、以下の重層的な目的を掲げています。

- (1) 法科大学院は、法曹養成教育プロセスの第一段階ですので、①将来の法曹としての実務に必要な基本的な法知識及び技能を確実に修得させること、②その基本・基盤にたつて、理論的かつ実践的な応用能力を身につけさせることを目指します。
- (2) 人間や社会のあり方に関する幅広い問題関心を持ち、複眼的思考と深い洞察力をもって既存の法律知識を批判的に検討しながら、発展させていく創造的な思考力、同時に豊かな人間性と高い倫理性を有する総合的・全人格的な能力の涵養を目指します。
- (3) 商都大阪という立地から、国際関係を含めたビジネス法に重点を置いた教育を実施し、地域社会に貢献・寄与できる法曹を養成することを目指します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学および高等司法研究科のディプロマ・ポリシー（学習目標を含む）のもとに、学位プログラム「法務」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

大阪大学及び高等司法研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「法務」では、以下のとおりのディプロマ・ポリシーを定めました。

所定の科目群から合計98単位以上を修得し、1から5までの知識、能力を身につけ、司法試験に合格しうる学生に「法務博士」学位を授与します。

1 知識・理解

- (1) 十分な法律知識を身につけ、司法試験に合格できる能力を獲得している
- (2) 豊かな人間性・幅広い教養とともに、高い職業倫理を身につけている

2 思考・判断

- (3) 国際的観点を含む多角的視点から社会的事象を捉え、法的思考をめぐらせて、事案に応じた的確な判断をすることができる

3 関心・意欲

- (4) 法律知識を実践の力へと高めることができる
- (5) 国際化を含む法化社会における自分の役割を自覚することができる

4 態度

- (6) 法学の知をもって、国際化など変化する法化社会の多様なニーズに対応できる

5 技能・表現

- (7) 他者の声を正確に聞き取り、的確な文章表現で自分の考えを示すことができる
- (8) 司法修習に即応できる実務の知識・技能を身につけている

専門職大学院である本研究科の標準修業年限は3年ですが、本研究科の課程において必要とする法学の基礎的な学識を有すると教授会が認めた者（法学既修者）については、1年次配当の必修科目34単位を修得したものとみなします。また、法学既修者については、修了に要する在学期間につき1年を超えない範囲で、本研究科が認める期間在学したものとみなすことになりますので、2年で本研究科課程を修了することができます。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学および高等司法研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「法務」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

法曹養成教育プロセスの第一段階としての教育目標を実現するために、以下の4つの柱に即してカリキュラムを構築しています。

- 1 少人数教育と段階的かつ完結的な履修を可能にするカリキュラムの設定
- 2 「理論と実務の架橋」を目指し、内容面と主体面ともに実務家との密接な協力に基づく実務系科目の段階的配置
- 3 幅広い視野・関心及び複眼的思考による深い洞察力和国際性を涵養するための充実した基礎法学・隣接科目の提供並びに法曹としての責任・倫理観を陶冶するための法曹倫理の必修化
- 4 現代社会の多様な法的ニーズにこたえられる展開・先端法領域での授業科目の提供

これらを具体化するために、授業科目は大きく4つ科目群を配置し、系統的履修を促します。「法律基本科目群」（司法試験の必修科目）、「法律実務基礎科目群」、「基礎法学・隣接科目群」、「展開・先端科目群」の4つです。

その各科目群の中で学年進行的に、①「理論」的性格の強い授業科目から、「実務」的性格の強い授業科目へと比重が移行していくように、また、②全体として「基礎」から「応用」さらには「演習」ないし「展開・先端」へと推移していくように授業科目を配置しています。特に、法律基本科目では「基礎」か

ら「応用」そして「総合」という積上げ型学修を徹底しています。

さらに、法学未修者を念頭において、法学学修の手ほどきをする導入的科目を配置しています。

各科目の単位認定については、次の段階に進めるレベルに達したかどうかを絶対的に評価して決定し、そのレベルに達した者については相対的評価によって成績を決定します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】

高等司法研究科（法科大学院）カリキュラム・マップ							
法化社会を担う真のLegal Professionals							
	DP 1・5 司法試験合格能力を身につける（高度な法的知識） （法律基本科目）			DP 3・5 活躍の場を広げる （展開：先端A）	DP 3～5 実務能力を身につける （法律実務基礎科目）	DP 1・2 豊かな人間性・教養を養う （基礎法学・隣接科目）	
	公法系科目 公法総合演習	民事系科目 民事法総合演習 民法応用3 民法応用4 民事訴訟法応用2 コーポレート・ガバナンス	刑事系科目 刑事法総合演習 刑法応用2	（展開：先端A） 倒産法演習 倒産法応用 税法演習 知的財産法演習 労働法演習 経済法演習 環境法 国際取引法	（展開：先端B） 民事回収法 債権法 企業課税法 消費者法 金融商品取引法 社会保障法 技術知的財産法 国際知的財産法 ベンチャー法ワークショップ 国際法3 国際民事訴訟法 特殊講義C	実務能力を身につける （法律実務基礎科目） 模擬裁判（民事） 模擬裁判（刑事） 裁判実務基礎（刑事） 公法訴訟 弁護実務 エクスターンシップ2 ベンチャー社会と法 刑事法律文書1 刑事法律文書2 特殊講義A	豊かな人間性・教養を養う （基礎法学・隣接科目） 法理学 比較法史 法社会学 ローマ法 現代政治学 現代行政学 法と経済学 財務報告戦略 特殊講義B
3 年 次							
2 年 次	憲法応用 行政法応用1 行政法応用2	民法応用1 民法応用2 会社法応用1 会社法応用2 民事訴訟法応用1 民事手続法概論2 商法基礎	刑法応用1 刑事訴訟法応用 刑事法応用	倒産法基礎1 倒産法基礎2 税法1 税法2 経済法1 経済法2 知的財産法1 知的財産法2 労働法基礎 労働法応用 環境訴訟 国際法1 国際法2 国際私法1 国際私法2	保険法 金融法 少年法	法曹倫理 裁判実務基礎（民事） エクスターンシップ1 リサーチ&ライティング2	
1 年 次	憲法基礎1 憲法基礎2 行政法基礎	民法基礎1 民法基礎2 民法基礎3 民法基礎4 会社法基礎 民事訴訟法基礎 民事手続法概論1 導入演習	刑法基礎1 刑法基礎2 刑事訴訟法基礎	司法試験の 選択科目に対応		リサーチ&ライティング1	法理論
桃色：必修科目 青色：選択必修科目 黒色：選択科目							
少人数クラス編成				双方向対話型授業		充実したFD活動	

少人数クラス編成

双方向対話型授業

充実したFD活動

アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学および高等司法研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「法務」では以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「法務」では、大阪大学及び高等司法研究科のアドミッション・ポリシーに基づいて、以下の能力を備えた受験生を、選抜試験を通して入学させます。

- 1 柔軟な発想のもとに「考える」という論理的プロセスを受け入れることができる
- 2 自らが設定する課題を探究しようとする意欲を持っている
- 3 厳格な成績評価・修了認定に耐えるだけの努力能力を持っている
- 4 法学既修者コースについて、法学の基礎的な学識を既に修得している
- 5 法学未修者コースについて、法学以外の専門知識を十分に修得し、または、社会において多様な知識を獲得し、経験を積んでいる

【入学者選抜の方針】

以上の能力の有無を判定するために、以下の選抜試験を行います。

- 1 法学既修者コース
一般選抜試験(法学既修者コース)を実施します。一次選抜として、学部・成績・志望理由書・適性試験の点数等による書類選考を行い、その合格者に対して、憲法・行政法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法の論述式試験を課しています。
- 2 法学未修者コース
一般選抜(法学未修者コース)と社会人や他学部・他学科卒業生を対象とする特別選抜を実施します。一般選抜(法学既修者コース)と同様の書類選考による一次選抜の合格者に対して、一般選抜(法学未修者コース)では小論文試験を、特別選抜では口述試験をそれぞれ課しています。小論文試験も口述試験も法律知識を問うものではありません。
- 3 併願
一般選抜の法学既修者コースと法学未修者コースは併願できます。また、一般選抜と特別選抜も併願できます。

連合小児発達学研究科

■ 教育目標・ディプロマ・ポリシー・カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー ■

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（後期3年のみの博士課程）では、「子どものこころの障害」に科学的知識をもって対応できる人材を養成するため、医学、心理学、保健学/看護学、教育学などの学際領域を研究対象とし、異なる出身履歴を持つ学生が共に学び研究することにより、真に学際的で現在の社会の要求に応える研究者・指導者層・高度専門家の育成を目指しています。

具体的には、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学において「子どものこころの課題」に関連する異なった専門領域における教員、研究者が専門領域を超えて連携し、文理融合型の共通したプラットフォームを用いて異なった背景を持つ学生を教育します。このことにより、既存の領域を超えた新しい研究領域である「子どものこころと脳発達学」の研究者と、「子どものこころと脳発達及びその障害」の理解と対応を協働して進めていく密接なネットワークを形成し、真に学際的で現在の社会の要求に応える指導者層や高度専門家の育成を目指します。

ディプロマ・ポリシー

（学位授与の方針）

大阪大学のディプロマ・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（後期3年のみの博士課程）では、以下を身につけた学生に、修了要件に基づき審査等を行い、学位「博士（小児発達学）」を授与します。

- （1）「子どものこころと脳発達及びその障害」に関する高度な科学的知識
- （2）子どものこころの課題の解決に対して、経験則にとらわれない、異なる背景の専門性と科学的視点
- （3）生涯を通じて学習意欲を持続し、自立的・意欲的な問題解決能力とデザイン力
- （4）協調性・柔軟性を有する真に学際的で現在の社会の要求に応えるリーダーシップ

修了要件

- （1）本研究科に3年以上在学し、授業科目につき30単位以上修得し、研究指導を受け、かつ、本研究科が行う博士論文の審査に合格すること。
- （2）博士論文は、研究科が刊行する機関誌又は査読付きの学術誌等に掲載されたものであって、申請者が筆頭著者であり、共著者が学位申請（予定）していないものに限る。
- （3）必要となる論文の本数は、英文の場合は1本、和文の場合は2本とし、研究科入学後の業績によるものとする。
- （4）特に優れた研究業績を挙げた者と教授会において認められた場合には、2年での修了を可としている。

カリキュラム・ポリシー

（教育課程の編成・実施の方針）

大阪大学のカリキュラム・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（後期3年のみの博士課程）では、異なるバックグラウンドを持つ学生に文理融合プラットフォームによる教育を実施し、幅広い視野と基礎知識を身につけ、また、専攻分野に関

連する諸領域の学識及び基礎的研究技術を修得できるよう指導を行います。

授業は、基礎学力を担保するための講義形式の導入科目、支援や研究の現場において実践的学習を行う演習科目、論文作成を目指す高度専門科目（研究指導）からなり、他大学で開講される導入科目はTV会議システムにて受講し、さらに演習科目では開講される大学へ移動して受講することにより、非常に広汎な知識の修得を目指します。

（１）導入科目（配当年次D1）

異なるバックグラウンドを持つ学生に対して、D2～D3に行う演習科目や高度専門科目における基礎学力を担保するために講義形式をD1に設定します。

（２）演習科目（配当年次D2）

実際に開講される大学に赴き受講し、また、高度臨床・研究の実践の場やカンファレンスにも参加します。

（３）高度専門科目（配当年次D2～D3）

各講座の指導教員の下で、定期的に講座のゼミナールに出席して専門知識を深めると同時に、選択した研究課題について臨床・基礎研究を行って、博士論文をまとめます。

単位認定については、授業の出席状況をはじめ、レポート・試験等を課し、一定の成績を収めた学生に対して単位を認定しています。また、5大学合同の研究発表会への出席・発表が単位認定に必須です。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

大阪大学のアドミッション・ポリシーのもとに、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科（後期3年のみの博士課程）では、強い学習意欲と優れた学力を有し、かつ、子どものこころの課題の解決に対して強い使命感と真摯な姿勢を持った以下のような人材を求めています。

- （１）子どものこころの課題に関して、明確な目的意識を持ち、科学的な対処法の発見により我が国の未来に貢献しようという高い志を持つ人。
- （２）経験則にとらわれず、異なる背景の専門家に対してもオープンな姿勢を保ち、新たな科学的視点を持つことを希求する人。
- （３）生涯を通じて学習意欲を持続し、自立的・意欲的な問題解決能力を有する人。
- （４）問題を抱える子どもの支援ネットワークのリーダーになるべく、協調性・柔軟性のある思考ができ、社会性を備え、社会的弱者に対して深い共感性と洞察力をもって接することができる人。

また、入学選抜の基本方針として、統一した入学試験を以下により行います。

（１）筆記試験

外国語（英語）の筆記試験により、学術論文等を読み解く読解力と、学位論文作成に必要な表現力、論理的思考力等を審査します。

（２）面接試験

将来、どのような姿勢で子どものこころの課題に取り組むのか、また、同問題に関する意欲・熱意、将来性を評価すると同時に、標準修業年限内での学位論文の作成の可能性についても審査します。

連合小児発達学研究科

学位プログラム「小児発達学」

学位：博士（小児発達学）

教育目標

大阪大学の教育目標を受けて、学位プログラム「小児発達学」では、以下のとおり教育目標を定めています。

学位プログラム「小児発達学」では、「子どものこころの障害」に科学的知識をもって対応できる人材を養成するため、医学、心理学、保健学/看護学、教育学などの学際領域を研究対象とし、異なる出身履歴を持つ学生が共に学び研究することにより、真に学際的で現在の社会の要求に応える研究者・指導者層・高度専門家の育成を目指しています。

具体的には、大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学において「子どものこころの課題」に関連する異なった専門領域における教員、研究者が専門領域を超えて連携し、文理融合型の共通したプラットフォームを用いて異なった背景を持つ学生を教育します。このことにより、既存の領域を超えた新しい研究領域である「子どものこころと脳発達学」の研究者と、「子どものこころと脳発達及びその障害」の理解と対応を協働して進めていく密接なネットワークを形成し、真に学際的で現在の社会の要求に応えうる指導者層や高度専門家の育成を目指します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

大阪大学及び大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科のディプロマ・ポリシーのもとに、学位プログラム「小児発達学」では、以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。

学位プログラム「小児発達学」では、教育目標に定める人材を育成するため、所定の期間在学し、本研究科において定める文理融合型の専門分野に関する高度な知識・技能並びに教養・デザイン力・国際性を身につけ、所定の単位を修得した学生に、以下の修了要件に基づき審査等を行い、学位「博士（小児発達学）」を授与します。

（学習目標）

○高度な専門性と深い学識

- ・「子どものこころと脳発達及びその障害」に関する高度な科学的知識を有している
- ・子どものこころの課題の解決に対して、経験則にとらわれない、異なる背景の専門性と科学的視点を有している

○教養

- ・「子どものこころと脳発達及びその障害」に関する幅広い知識を有している
- ・子どものこころの課題に関し、広い視野に立ち柔軟かつ俯瞰的に思考し、客観的に評価ができる

○デザイン力

- ・生涯を通じて学習意欲を持続し、自立的・意欲的な問題解決能力とデザイン力を有している
- ・子どものこころの問題を発見し、解決の道筋をつくることができる
- ・研究成果を伝達するプレゼンテーション能力を有している

○国際性

- ・協調性・柔軟性を有する真に学際的で現在の社会、しいては国際的要求に応えうるリーダーシップ
- ・英文学術論文等を読み解く読解力を有し、異なる文化を理解できる

(修了要件)

- 本研究科に3年以上在学し、授業科目につき30単位以上修得し、研究指導を受け、かつ、本研究科が行う博士論文の審査に合格すること。
- 博士論文は、研究科が刊行する機関誌又は査読付きの学術誌等に掲載されたものであって、申請者が筆頭著者であり、共著者が学位申請(予定)していないものに限る。
- 必要となる論文の本数は、英文の場合は1本、和文の場合は2本とし、研究科入学後の業績によるものとする。
- 特に優れた研究業績を挙げた者と教授会において認められた場合には、2年での修了を可としている。

カリキュラム・ポリシー

(教育課程の編成・実施の方針)

大阪大学及び大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科のカリキュラム・ポリシーのもとに、学位プログラム「小児発達学」では、以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。

学位プログラム「小児発達学」では、異なるバックグラウンドを持つ学生に文理融合プラットフォームによる教育を実施し、幅広い視野と基礎知識を身につけ、また、専攻分野に関連する諸領域の学識及び基礎的研究技術を修得できるよう指導を行います。

授業は、基礎学力を担保するための講義形式の導入科目、支援や研究の現場において実践的学習を行う演習科目、論文作成を目指す高度専門科目(研究指導)からなり、他大学で開講される導入科目はTV会議システムにて受講し、さらに演習科目では開講される大学へ移動して受講することにより、非常に広汎な知識の修得を目指します。

(1) 導入科目(配当年次D1)

異なるバックグラウンドを持つ学生に対して、D2～D3に行う演習科目や高度専門科目における基礎学力を担保するために講義形式をD1に設定します。なお、「生命倫理学」及び「疫学統計学」は研究に必要な資質の修得を目指します。

(2) 演習科目(配当年次D2)

実際に開講される大学に赴き受講し、また、高度臨床・研究の実践の場やカンファレンスにも参加します。

(3) 高度専門科目(配当年次D2～D3)

各講座の指導教員の下で、定期的に講座のゼミナールに出席して専門知識を深めると同時に、選択した研究課題について臨床・基礎研究を行って、博士論文をまとめます。

(4) 研究(計画・進捗)発表会(配当年次D1～D3)

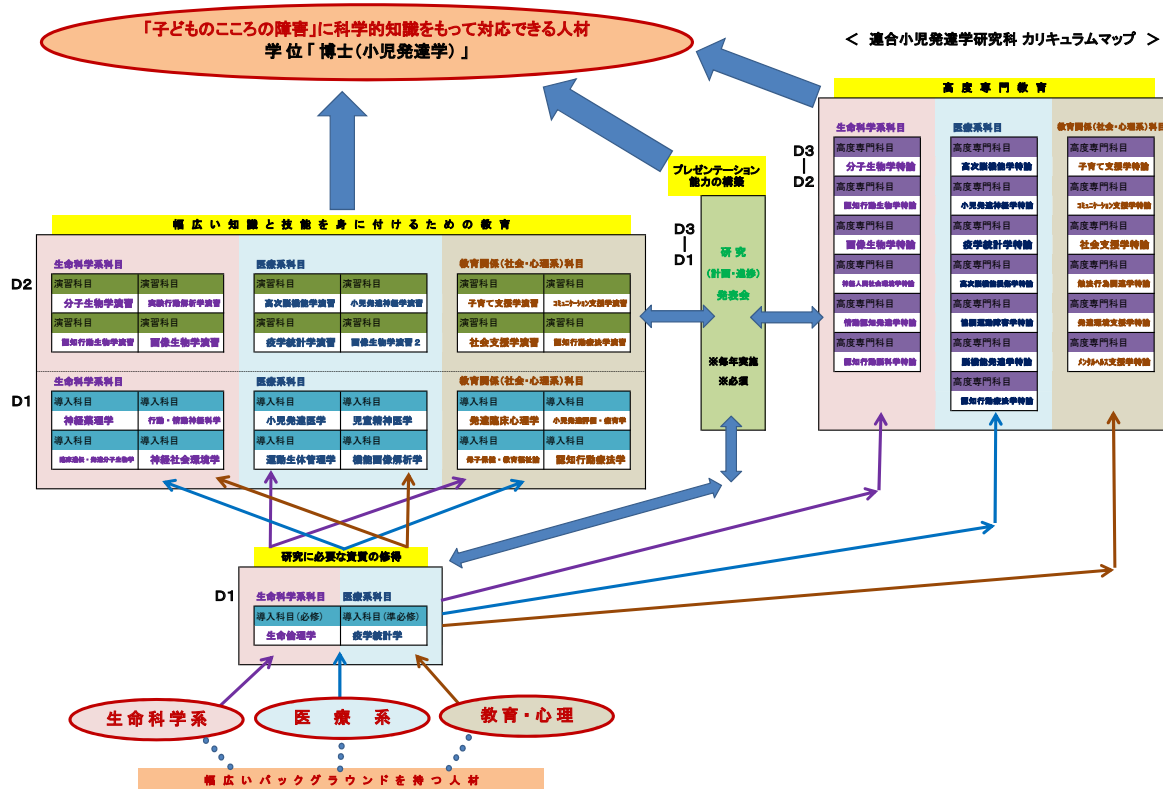
毎年、5大学合同の研究(計画・進捗)発表会への出席・発表を義務付け、プレゼンテーション能力の構築を目指します。

単位認定については、授業の出席状況をはじめ、レポート・試験等を課し、一定の成績を収めた学生に対して単位を認定しています。

履修登録については、これまで学んできた専門分野以外の科目の履修を推進し、指導教員の指導を受けながら導入科目の中から10単位(必修2単位を含む)以上、演習科目から8単位以上、高度専門科目から12単位の合計30単位以上を選択し、修得します。

導入科目における出席の取扱いについては、授業における出席は、通学し対面または遠隔講義システムにより、リアルタイムで受講することを原則とし、対面または遠隔講義システムによる受講ができず、代わりに授業が収録されたe-Learning教材を視聴する場合は、当該授業に関して授業担当教員から与えられる課題を提出することにより、出席とみなします。また、演習科目については、開講する校地に赴き、集中講義にて受講するため、学生が配属校以外の校地に移動するための旅費を支給します。

【カリキュラム・マップ等(カリキュラム・ツリー、履修モデル)】



アドミッション・ポリシー

(入学者受入の方針)

大阪大学及び大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科のアドミッション・ポリシーのもとに、学位プログラム「小児発達学」では、以下のとおりアドミッション・ポリシーを定めています。

【入学前に修得しているべき能力(知識・思考力、技能、意欲・関心・態度等)は何か】

学位プログラム「小児発達学」では、強い学習意欲と優れた学力を有し、かつ、子どものこころの課題の解決に対して強い使命感と真摯な姿勢を持った以下のような人材を求めています。

- (1) 子どものこころの課題に関して、明確な目的意識を持ち、科学的な対処法の発見により我が国の未来に貢献しようという高い志を持つ人。
- (2) 経験則にとらわれず、異なる背景の専門家に対してもオープンな姿勢を保ち、新たな科学的視点を持つことを希求する人。
- (3) 生涯を通じて学習意欲を持続し、自立的・意欲的な問題解決能力を有する人。
- (4) 問題を抱える子どもの支援ネットワークのリーダーになるべく、協調性・柔軟性のある思考ができ、社会性を備え、社会的弱者に対して深い共感性と洞察力をもって接することができる人。

【入学者選抜の方針】

本研究科は後期3年のみの博士課程につき、入学試験の出願資格である修士の学位を取得または取得見込みの者以外の指定する基準に該当する者に対しては、出願に先立ち、個別の出願資格審査面接試験を実施し、修士の学位を有する者と同等以上の学力の有無に関する認定審査を実施し、書類審査及び面接に合格した者が入学試験に出願することができます。また、修士の学位を取得または取得見込みの者についても、出願前に志望する研究領域において、事前面談を受け、十分に話し合う機会を設けています。その後において、入学選抜の基本方針として、統一した入学試験を以下により行います。

(1) 筆記試験

外国語(英語)の筆記試験により、学術論文等を読み解く読解力と、学位論文作成に必要な表現力、論理的思考力等を考查します。

(2) 面接試験

将来、どのような姿勢で子どものこころの課題に取り組むのか、また、同問題に関する意欲、熱意、将来性を評価すると同時に、標準修業年限内での学位論文の作成の可能性についても審査します。